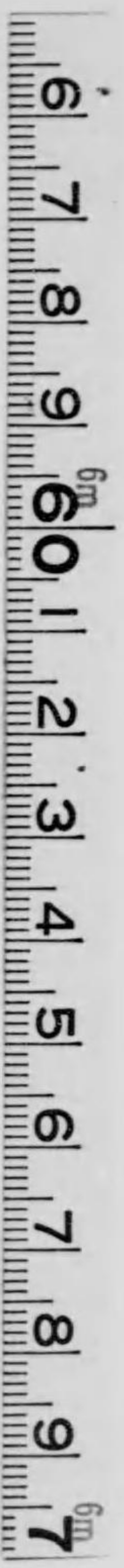


082
K693
(3)



始



13984

~~345-517~~

082
K093
(3)



文學博士
文學博士
文學博士
文學博士

三島毅先生
服部宇治吉先生
高瀬武次郎先生
久保得二先生
校訂

經國

東京

博文館藏版

重改 新添
四書俚諺抄
毛利貞齋
古文孝經國字解
勝田祐義

新編 四書俚諺抄

大正
2. 3. 27
丙交

解題

上

大學を以て、初學徳に入るの門となすは、もとより未だ盡さず、予が鄙見を以てすれば、この書は、實に三代倫理觀の綱要を敘述せしものにして、兼ねて、東洋道徳思想の基礎となすべく、その價値の卓絶なる、殆んど、他に匹儔を見ざるものなり。抑も、支那に於ては、學校の創設、頗る古く、司徒の職、典樂の官、ともに書の舜典に在り、而して、夏には、校といひ、殷には、庠といひ、周には、序といひ、しは、亦人の普ねく知るところなり。孟子、又これを稱して曰く、學は、三代これを共にし、皆人倫を明かにする所以なり、と、而して、教育の精神は、人格を涵養するを第一の趣旨としたるが故に、起居動作より始めて、やがて心法に及ぼさむとせしもの如く、灑掃應對進退の節、禮樂射御書數の文といふもの、校課の全體を包括

して剩すところなし。勿論、その特に主眼とするは、精神上の教育にして、その倫理に關するものは、一に古先聖王の言行を以て模範となし、これを剖析し、敷張して、口授せしもの如く、かの希臘の古代七聖人の格言を誦し、ホメロスの詩篇を以て唯一の聖典となせしと頗る相似たるものあるが如しかく、師弟相傳ふるや、多く年所を経たるの後、必然的に、一定せる無文の倫理教科書は、隨處の學宮に於て、常に之を見るを得べかりしなり。而して、治國平天下は、その理想の極致なりき。次に、孔子に至りて、これ等の思想を集めて大成し、一派の教義を確立せしが、その爲學の工夫、決して、史的觀念の尊重を忘却せざりしが故に、古代倫理説の如きも、その儘に之を傳へたり。大學の書、即ち是れなり。その中、孔子及び其徒の言説を混せしは、偶々筆者の年次、その後、に在るを證するものに過ぎずして、特に疑惑を挾むを要せず。この書の開卷第一に述ぶるところは、實に東洋倫理學説の萌芽にして、翻つて又、その歸宿と稱すべく、古代諸聖人の言行

は、ここに概括せられて、新に抽象的法則を確立し得たりといふべく、その餘は、すべて、之を説明し、演繹したるものに外ならず。

大學の論ずるところは、修身を以て中心となし、これに關する實行的方法とその効果とを詳述せしものなり。而して、修身の基礎を以て格物致知に在りとなすは、少くとも、知行合一の傾向を表彰し、且つ、性理の考察に入らむとするものなり。孔孟以下の學者は、即ちこの方面に就いて、その研鑽を著け、新創の見を出し、如上の提言をして、獨斷的ならず、必ず合理的ならしめむと勉めしものなり。儒教の由つて來るところ、洵に遠しといふべく、而して、大學の書たるや、遂に之を闢却するを得ざるなり。

大學は、その初、禮記の中に収録せられ、もと何人の著作なるかを知らず、鄭玄の禮記注にも、著者の氏名を載せず、後人或は、七十子の徒、相與に聞けるところを撰すとなし、宋の黎立武は、全然これを曾子に歸し、朱子は、己が臆斷を以て、經

一章傳十章に分ち、經は孔子の意にして、曾子、これを述べ、傳は曾子の意にして門人、これを述ぶといへり。然れども、この説は論據薄弱なるが上に、道統の觀念より之を曾子の傳となすの必要を感じ、強ひて、之が説を爲せしものにして、何等の史的考證あるに非ず。次に、明の譚貞默、清の毛奇齡は、子思の作となせしが、なほ遽に左袒し難きものあり。要するに、この書が孔門の遺書たることは、疑を挾むの餘地なく、曾子の徒の漸を以て附益し大成せしものとなせば、幸に謬なきに庶幾からむか。但し、明の陳道永、わが伊藤仁齋の如く、戰國時代無名氏の作にして、決して論孟と伍すべきものに非ずといふは、その獨斷に果なる、斷じて信すべからず。

この書は、昔時單行せざりしが故に、久しく、その價值を認むるものあらず。韓愈が原道を作つて、佛老の害を痛論するに際し、傳曰の二字を下し、本書の主眼といふべき古之欲明明德於天下者云々の數句を引抄せしは、聊か稱異すべし。

その後、宋の仁宗の天聖八年、この書を以て王拱辰に賜はりしことあり。次に、司馬光は、之を禮記中より抽いて廣義を作り、以て他書に比すべきに非ずとなし。程子は、初學入徳の門として特に之を表章し、中庸論孟に配し、以て子弟の教科となし。朱子に至つては、これが章句を作り、天下後世復た異議なきに至れり。わが國に於ては、清原賴業、高倉帝に侍讀し、この書及び中庸を讀みて、聖學の主要となし。特に之に抽出して講筵に用ひしことあり。その時、程朱と略は相若き、東西海を隔てて、その事偶ま符節を合するに似たるが故に、後人これを稱すること、嘖嘖として今に衰へず。但し、この事は、康富記の載するところに於て、賴業と相距ること二百數十年、他に傍證なきが上に、承應遺事、すでに之を否定したれば、遽に之を信すべからずと雖も、ここに、しばらく舊説を存せむのみ。次いで五山の頃、朱學の傳來とともに、この書亦た世に行はれて、伊藤仁齋が孔子の遺書に非ざるを辨せしことありと雖も、何等の反響をも與へず。長しへに、初學誦習

の用に供せられ、以て今日に至れりき。

禮記に收めたる大學は、全篇一貫して章段の分割なし。然れども、程子は禮記中の大學には錯簡あげとして、之を改刪し、次いで、朱熹、董槐、葉夢鼎、程敏政、薛清、鄭濟、崔銑、及び我が邦の伊藤仁齋、太田錦城等、亦た之に倣ひ、各私意を以て改刪するところあり。然れども、普通に行はるるは、禮記中の古本大學と朱熹の改補本とにして、前者は古學派、陽明學派、後者は朱子學派、主として之を用ふ。

大學は、上に述べたるが如く、宋以前に在りては、單行本なかりしが故に、その注釋としては、禮記注を取る外なし。抑も、禮記の注は、漢に高誘、鄭玄、盧植あり、三國に王肅あり、梁に皇侃の義疏あり、隋に熊安生の義疏あり、王肅は鄭玄に服せず、禮を説いて之を破すること多く、その後、北人は多く鄭説を奉じ、南人は大抵王説に従へり。義疏は、皇熊二氏、獨り盛行はれ、その他は、微微として振はず。唐に至りて、孔穎達等、敕を奉じて、禮記正義を撰し、鄭注を本とし、兼ねて、皇侃の義

疏に據り、その備はらざるものは、熊氏を以て補足せり。かくて、孔氏の正義、一たび傳はつてより、鄭説、ひとり學界を風靡し、王肅の説、復た行はれず、その注書、今亡びて傳ふるものなし。次に、皇熊二氏の義疏も、孔氏正義の中に没せられて、その書、亦た亡びたり。されば、大學の注として、今に存するものは、鄭玄を以て、最も古しとなす。朱子に至りては、鄭注を取らず、おのが意を以て、之が章句を作り、前に述べたる如く、全篇を析きて、經一章、傳十章となし、全く舊本の面目を一新せり。これに次いで、眞德秀の大學衍義、金履祥の大學疏義、丘濬の大學衍義補等、皆朱子の説を闡明せしものなり。然れども、朱子の大學章句に就いては、同派の學者中にも、之に服せざるものあり、董槐、葉夢鼎、王柏等は、傳に錯簡あるのみにて、脫文なしと主張し、各、これが章句を作り、王陽明は、經傳を分つべからず、脫文錯簡、ともに之なしといひ、因つて大學問を著せり。なほ、清朝に入りては、胡渭の大學翼眞、毛奇齡の大學證文、大學知本圖說、大學問、宋翔鳳の大學古義等あり。次に

我が邦にては、中江藤樹の大學解、伊藤仁齋の大學定本、物徂徠の大學解、淺見綱齋の大學物說、大學明德說、皆川淇園の大學釋解、龜田鵬齋の大學私衡、佐藤一齋の古本大學旁解、大學摘說、大鹽中齋の古本大學旁註、古本大學知目、太田錦城の大學原解、海保漁村の學庸鄭氏義、安井息軒の大學說等あり。

本書は、毛利貞齋の重改四書俚諺鈔より抽出せしものにして、貞齋の傳は、前卷に詳述したれば、重ねてこゝに贅せず、讀者諒焉。

中

中庸は、子思の作るところ、子思、名は伋、鯉の子、孔子の孫なり、但し、その行事閱歷に至りては、逸話の數條、諸書に散見するのみにて、今その詳を考ふるに由なし、子思は、學を曾參に受け、特に精微を極むと稱せらる。當時、孔子を去ること、すでに遠く、種種の學說並び起りて、殆んど統率すべからず、儒家の道、將に正傳を

失はむとせり、子思、諸侯に遊說して用ひられず、道の衰を憂ふるの餘、平生師友より傳へ聞きたるところを蒐め、天人一貫の眞理を説き、主として形而上の立脚地より儒學の決して淺薄庸拙ならざるを論證し、因つて、この書を作れりといふこと、一般の通説なり。

史記の孔子世家に曰く、孔子生鯉、字伯魚、鯉年五十、先孔子死、伯魚生伋、字子思、年六十二、嘗困於宋、作中庸と、然れども、ここに六十二といふは、孟子に魯の穆公が子思を敬すること云へると一致し難きものあり、穆公は、史記に據れば、孔子の死後七十二年にして位に即きしものなり、今、孟子を信すれば、史記の六十二は、少くとも八十二となし、父の晩年に生まれて、穆公の初年に及びしものとせざるべからず、しかるに、孔子の喪に、子思、喪主となり、四方より來つて禮を觀たりといへば、孔子の卒したる時、子思、なほ幼兒なりとすべからず、又、子思、衛に在りし時、穆公卒すといふ說に従へば、穆公に後れて死したるものとせざるべ

からず。ここに於て、子思の年壽は、百歳を下るを得ざることとなる。今諸説を折衷して、子思は、其父の晩年に生まれ、魯の穆公の初年に及び、壽八十を超えて死したるものと斷せむとす。孔子の卒したる時、子思、未だ成人たらず故に、親しく孔子に事ふるに及ばず、長じて曾子に學びたり。孔叢子に見えたる孔子が子思に告ぐるの語は、勿論、傳者の假托なれども、禮記の檀弓に見えたる曾子が子思に答へたる語は、もとより信すべく、又學說の上よりいふも、子思が曾子を繼承して、向内的傾向ありしことは、疑を容れざるところなればなり。

次に中庸を作りし年代は、史記、これを明言せず、嘗困於宋、作中庸と云ふと雖も、その事情の委曲は、之を知るべからず。孔叢子には、子思年十六、宋に遊び、大夫樂朔と學を言ふや、樂朔、悦ばず、憤つて、孺子、我を辱むとなし、その徒、乃ち子思を攻めて之を困む、宋君、これを聞き、倉皇往いて救ふ、子思、すでに免れ、困つて、以爲へらく、文王は、牖里に困みて周易を作り、仲尼は、陳蔡に畏して春秋を作る、吾、今

宋に困む、亦た作るところなかるべからず、と、乃ち中庸四十九篇を作れりとあり。然れども、この説、未だ驟に信すべからず。蓋し、孔子が陳蔡の厄と春秋を作りしとは、自ら其時を異にしたるが上に、文王が囚中に易を演じたと一例に觀るべからず、これを子思の語となさむは、その繆戾、特に甚しきを病む。又年十六といふこと、尤も疑ふべし、要するに、こは強ひて其説を爲せしものに過ぎざるべく、中庸著作の年代、及び遭厄の事情は、今得て知るべからず。

なほ孔叢子には、中庸之書四十九篇とあり、然れども、今の中庸は、古人分つて三十三節となし、朱子、亦た三十三章となしたれども、未だ之を析つて四十九節となせしことあるを聞かず、且つその論述に整然たる次第系統あるを見れば、原書四十九篇ありしを、漢儒、要を刪つて、之を禮記に收めたりとも思はれず。孔叢子の説は、遂にその據るところを知らず。孔子家語の後序に、中庸之書四十七篇といへるも、亦た同じ。但し、漢書藝文志に、中庸說二篇の外、儒家に子思二十三

篇とあり、文獻通考は子思子七卷とあるを見れば、子思の著作、頗る多かりしは事實なり。唯だ夫れ、散佚すでに久しく、子思子の現存するものは、全然僞托のみ。ここに至りて、子思の學說を觀るべきは、ひとり中庸に限られ、從つて、この書の愈よ貴重すべきこと知るべきのみ。若し夫れ、中庸を以て子思の手に成らず、子貢、もしくは曾子に出でしとなすものの如きは、その獨斷の甚しき、措いて論せざるも、亦た可ならむのみ。

現存する中庸が、子思の作りし其儘の物にして、些の攙入なきは、もとより論なければ、後人時に疑義を著けしものなきに非ず。邦儒伊藤仁齋は、首章の結、喜怒哀樂之未發、謂之中、發而皆中節、謂之和、中也者、天下之大本也、和也者、天下之達道也、致中和、天地位焉、萬物育焉の四十七字を以て、樂經の脱簡、誤つて混入せしものとなし、因つて、十證を擧げ、これに次いで第十六章、鬼神の德を論ずるは、儒家の書に似ざるの嫌ありとなし、第十七十八の兩章、大舜文王を稱するに、專

ら孝を以てしたるは、語勢自ら孝經に頗し、中庸の眞義に於て相關せざるものとなし、第十九章、修其祖廟、陳其宗器以下の一段を以て、漢儒の雜記に過ぎずとなし、因つて、陳善の説を引き、第二十章、哀公問政の一段は、家語に、哀公問政、篇として出でしものなれば、もと一篇の書なりしを誤つて附益せしならむといひ、その下二十一章以下は、王魯齋が嘗て定めて、誠明書となしたる其卓見を稱すべしといひ、特に第二十四章、禎祥妖孽を論ずるの一段は、怪力亂神を語らざる孔子の主義と相背くの嫌ありとなせり。然りと雖も、中庸の書たるや、前後一貫して、その論理、毫も紊れざれば、これ等の言も、唯だ新奇の異說として見るべく、未だ遽に左袒するを得ざるに似たり。

中庸てふ名は、篇中に中庸云々の語あるに因るなり。鄭玄は、庸を用と解し、中庸を中和の用と説き、程子は、不偏を中といひ、不易を庸といふと説き、朱子は、中とは不偏不倚にして過不及なきの名、庸とは平常なりと解せり。蓋し、中庸の達

徳たることに就いては、堯舜の如きも、早く既に之に道及したることあり、實に漢族倫理思想の中心精髓たるに負かず、されば、子思は、専ら之に就いて研鑽し、道徳の本原に溯つて其論を立てしものにして、自然の勢、形而上學的考察に入り、自ら高遠の趣致あり、明より以前、四書の中、最も意義深邃なるものとして、これを最終に置きたること、亦た自ら其理なくむばあらざるなり。

この書、舊と専行せしことは、漢書藝文志を見て知るべし。後には、大學と同じく、禮記の中に收めしが、宋の戴顛、これを表章して中庸傳を撰し、梁の武帝も、中庸講疏、私記制旨、中庸義を著し、降つて、唐の李翱には中庸說あり、今皆傳はらず。ただ李翱の復性論三篇は、まことに歐陽修の言へる如く、同じく中庸の義疏と見るべきものにして、今、文集中に存せり。されば、中庸の古注は、大學と同じく、禮記の鄭注と孔穎達の疏とを擧ぐる外なし。宋に至りて、胡瑗、陳襄、余象、喬執中、司馬光、張方平、姚子張、范祖禹等、各講解もしくは論說を作り、范仲淹は、又この書を

以て張橫渠に授けたりといふ。程子に至りては、大學とともに禮記より抽出し、論孟に配して四書となし、舊本の三十三節に分ちたるを妥當を缺くとして、改めて三十七節となし、朱子は、古本と同じく三十三章に分ちしが、章の分合は、毫も舊本に據らず、故に自らその注本に題して、大學と同じく章句といへり。その後、晁説之、黎立武、王栢、楊守陳、管志道、周從龍の諸家、各意を以て之を分截したれども、普通に行はるるは、禮記中の古本と朱注の新本と、唯だ二種に限らるること、亦た大學と同じ。元代以後、中庸に就いて、注解の新警なるもの、殆んど亦た闕くところあらず。わが邦に在りては、山崎闇齋の中和集說、中江藤樹の中庸解、伊藤仁齋の中庸發揮、伊藤東涯の中庸發揮標準、物徂徠の中庸解、皆川淇園の中庸釋解、太田錦城の中庸原解、中庸考、中庸說、伊藤一齋の中庸欄外書、海保漁村の學庸、鄭氏義、安井息軒の中庸說等あり。

本書は、毛利貞齋の重改四書俚諺鈔より抽出したるものにして、四書全部、乃

ち之を以て完結するなり。

下

孝經の作者に就いては、古來異說甚だ多し第一に、史記、白虎通、孔子家語には、孔子の作となし、劉歆、何休、鄭玄、王肅等、皆これを賛し、第二に、僞孔安國序には、曾子の作となし、第三に、宋の司馬光、胡寅、晁公武は、孔子と曾子との孝道に關する問答を弟子の筆記したるものとなし、第四に、宋の馮椅は、子思の作となし、第五に、宋の胡宏、汪應辰、朱熹等は、斷じて、後世の僞作となせり。今按するに、戰國の時、魏の文侯に孝經傳あり、呂氏春秋察微篇及び孝覽篇に、孝經の語を引き、尋いで漢の文帝の時、博士を置きたりといへば、先秦の書たるは、もとより疑ふべからず。且つ首章に仲尼居、曾子侍とあるを見れば、斷じて孔子曾子の作には、非ず、おもふに、司馬光等の言の如く、二聖の問答を曾子の門人が編著したるものなる

べし。宋書符瑞志には、魯の哀公十四年に、孔子春秋を作り、孝經を制すと明記したれども、すでに、孔子を作者とする説を否定すれば、これ亦た信じ難し。但し、この時、孔子が曾子の爲に孝道を述べたりとするは、或は可なるべきも、今驟に之を決し難し。

孝經は、戰國を経て、秦火の難に遇ひしが、河間の顔芝、これを藏するによりて、幸に亡佚せず。漢初、挾書の律、除かれしとき、芝の子貞、これを河間の獻王に獻じ、因つて、はじめて世に出づるを得たり。尋いで、武帝の時、魯の共王、孔子の舊宅を懷ち、科斗古文の孝經をその壁中に得たり。ここに於て、孝經に二本あり、顔氏の本は、漢代通用の隸書を以て寫されたるが故に、今文と稱し、孔壁の本は、古文と稱し、前者より四章増多せりといふ。今文は、西漢の時、長孫氏、江翁、后蒼、翼、奉、張、禹等、これを傳へ、又鄭氏注ありといふ。晉の孝武帝大元元年、荀昶、諸説を撰集し、乃ち鄭注を以て宗となせり。而して、古文孝經は、漢の武帝、孔安國に命じて之を讀

ましめしが、巫蠱の亂に遭うて、未だ上るに及ばず、その後昭帝の時、魯國の三老これを獻じ、後漢光武の時、衛宏これを校せしと雖も、爾後久しく之を口にすものなし、その後、梁に至り、古文今文、ともに學官に立てられしが、梁末の亂に、古文孔傳亡佚し、陳及び周齊の間には、今文鄭注、ひとり存せり、但し鄭玄が孝經に注したることは、後漢書本傳に見ゆと雖も、鄭志に其目を載せざるのみならず、その注文の意義用辭、他經の鄭注と異なるものあるを以て、學者時に疑を挾むものあり、次に、孔傳は、隋に至りて、王劭、京師に於て偶然に采訪し、これを劉炫に送るや、炫乃ちその得失を序し、義疏を作りて、生徒に教授せしが、この事、朝廷に聞こえ、遂に鄭注とともに再び學官に立てられたり、但し劉炫は、僞作者として有名なるものなれば、この注も亦た孔安國に托して僞作せしものならむとて、これを疑ふもの、決して少からず、かくの如く、今古の二注、ともに信疑一定せざるを以て、唐の玄宗は、開元七年、群儒を召して是非を質さしめしに、劉知幾は、十

二驗を立てて、鄭注の僞を論じ、劉炫所校の孔傳を用ひむことを主張し、司馬貞は、全然これと相反し、劉炫所校の孔傳を以て僞作となし、議論遂に決せず、ここに於て、玄宗は、自ら今文を基とし、韋昭、虞翻等、六家の説を取り、傍ら孔鄭二注を參酌して、孝經注を作り、元行沖に詔し、これが疏を作らしめて天下に頒布せり、これを御注孝經といふ、時に開元十年なり、次いで、天寶二年五月、玄宗、再び孝經に注し、これを天下に頒ち、四年九月、これを石に刻して大學に建つ、所謂石臺孝經、即ち是れなり、こゝに於て、今文盛に行はれて、古文は全く用ひられず、五代の亂に至りて、忽ち亡佚せり、降つて、宋の眞宗に至り、邢昺等、敕を奉じ、御注及び元行沖の疏に據つて、孝經正義を作り、今、十三經疏中に收む、仁宗の時、司馬光、古文孝經指解を上り、これを祕閣に收めしことあり、范祖禹も亦た古文を尊んで、古文孝經説を上れり、かつて、古文復た世に顯はれ、今文を駁するもの、漸く多く、その後、朱子は、前部の七章を合せて經一章となし、その後部を傳十四章となし、舊

文二百二十三字を刪去し、名づけて孝經刊といふ、亦た實に古文に準據せしものなり。元の吳隆、これに倣うて、孝經定本を著せしが、その基とするところは、今文に在るを異とするのみ。爾後、古今文の二家、各門戸を持して相譲らず、しかも、その説、遂に歸著するところあらず。

わが國に於ては、何時頃、孝經を傳へしや明かならざれども、繼體天皇七年、五經博士段楊爾、百濟より來りしといへば、この時、或は始めて傳へしならむか。次に孝謙天皇天平寶字元年、詔して曰く、孝は百行の本と、因つて、家家に孝經一本を藏し、精勤誦習せしむ。淳和天皇天長十年、皇太子の御讀書始に孝經を進め、爾後、久しく此制に従ふ。而して、この時は、鄭孔二本、並に學官に立てられしが、清和天皇貞觀二年、孔鄭の二注を廢し、御注今文を用ふ。然れども、孔鄭二注は、決して亡佚せず、圓融天皇の永觀中、僧裔然、鄭注を齎して入宋し、これを太宗に獻せしに、太宗、大に悦びて、祕府に藏せしが、世に出さざりしが爲に、彼土に於ては、復た

亡佚せりといふ。わが邦にても、鄭注は、その後、久しく世に出でざりしが、寶曆の初、良野華陰、裔然の遺本を南都に得、校刊して、はじめて世に行はれ、寛政中、岡田新川、亦た之を群書治要中より抄出して、世に公にせり。この書、清國に傳はり、鮑廷博は、これを知不足齋叢書に採録せり。次に、孔傳も久しく故家に藏せしが、享保中、太宰春臺、足利學校の本に据り、諸本を參酌して之を刊刻し、これ亦た清國に傳はり、鮑廷博は、同叢書中に收たり。御注孝經は、鎌倉時代にも、將軍の讀書始に用ひられて、長しへに廢せず、而して、御注二種の中、開元本は、早く彼に亡びたるに、却つて、わが邦に存せしこと、愈よ珍とすべく、孝經の古注本は、すべて、我に頼つて、幸に湮滅を免れたるなり。

孝經に今文と古文とありて、その傳統を異にすること、大抵前に述べたるが如し、然れども、その差異の主要なるは、古文に闡門章二十餘字を衍出したる外、單に章數の分合及び次第の相違に過ぎず。即ち今文に庶人章となすを古文は

分つて庶人孝平の二章となし、今文の聖治章を古文は聖治父母生績孝優秀の三章となし、通じて、今文は十八章、古文は二十二章なり。また章の次第に於て、今文は廣至德廣揚名諫諍應感事君となすを、古文は廣至德應感廣揚名閨門諫諍事君となせり。然れども、古今兩本、その經文に於て、閨門章を除けば、いづれを用ふるも妨なく、その究極は、傳來の確否に在らむのみ。蓋し、今文は、漢初早く世に出で、その傳統極めて正しく、鄭氏注あつて學官に立てられ、玄宗の御注、亦た之に據り、未だ嘗て亡佚せざるに反し、古文は漢の孔安國、その傳を作りしと稱するも、梁末すでに亡び、隋に至りて、劉炫の手を借りて世に出で、甚だ憑據に甚しく、加ふるに、その注、時に六朝の習氣を帯びて、漢代の文字に似ず、その説、亦た淺陋、漢儒の喜に非ざるを思はしむ。然らば、今文の古文に勝ること、復た特に贅するを要せざるべし。

孝經の注釋として、上に述べたる鄭注、孔傳、御注及び正義、刊誤、定本の外、董鼎

の大義、朱甲の句解、毛奇齡の孝經問等あり。わが邦に於ては、山崎闇齋の孝經外傳、物徂徠の孝經識、大鹽中齋の孝經彙註、朝川善庵の孝經證註、古文孝經私記、津阪東陽の孝經發揮、東條弘の古文孝經、鄭氏解補證、古文孝經辨僞、孝經孔傳辨僞、孝經兩造簡孚等、その特に重要なものと稱せらる。

本書は、勝田正義の撰著に係り、解説平易、用意周匝、初學に便なるが故に採る。但し、著者の年次經歷等は、未だ考へず、敢て大方の教を乞ふと云爾。

大正二年癸丑二月下澣

久保天隨識

重改大學章句俚諺鈔卷之一

毛利貞齋述

大學章句序

●古註、我が朝傳へ來ルコト、人皇第二十七主、繼體天皇即位三年、異朝南梁ノ武帝、天監八年ニ相當リテ、百濟國ヨリ、五經文書等、吾ガ朝ニ渡ルト日本紀ニ見エタリ、コノ時、二書禮記ノ中ニ籠レリ●朱子新註傳並讀傳人皇第一百一主、後小松院御宇、應永十年癸未、南渡歸船、載三四書集註與詩經集傳來、同年八月三日達ニ洛陽、於是東福寺、不ニ岐陽和尚、始講此書、然是開ニ其端而已、舉レ世知ニ讀ニ朱註者、實惺窩藤先生林道春等師林道春倡レ之也●按我朝文書諸讀分ニ吳漢兩音、如ニ大學二字、清音爲ニ漢音、濁音爲ニ吳音、或說曰、文德天皇三年、自ニ百濟國、法明尼トイフ者、來談ニ於維摩經、是吾朝吳音流布最初也、又清家說、日本近ニ吳國、故用ニ吳音也、又聖武天皇御宇、吉備公入唐歸朝之後、孝謙天皇御宇、奉レ授ニ十三經、是吾朝漢音之始也、又吾朝儒家讀レ書、專用ニ漢音、不レ用ニ吳音、故者、是桓武天皇延曆十七年戊寅唐德宗貞元十四年二月十四日大政官宣云、諸讀書出身等、皆令レ讀ニ漢音、勿レ用ニ吳音、

●大學中庸ノ兩書、素ト禮記雜篇ノ中ニアリテ、累世諸儒ノ氣ノ付カヌトコロヲ、宋朝ニ到ツテ道學盛ニナリ、程明道、程伊川ノ兄弟、出生ナサレテヨリ、禮記ノ中ノ二篇ヲ御覽ナサレテ、聖人ノ蘊奧ハ、此篇ニ超エタルハナシ、疑フトコロモナク、コノ大學ノ一篇ハ、古シヘ三代ノ盛ナリシ時、行ハレシ法式ヲ書キ遺シタル書ナリ、多クノ中ニ、入

レ置イテハ、學者眼ヲ早ク付ケマジキカト思召シ、別ニ拔萃シテ、二三子ニ教ヘ授ケ玉フ、又我が朝ニモ、程氏ト同意ノ人アリ、人皇八十代高倉院ノ御宇、清原頼業ト云フ人、博識多才ノ人ナリ、今ノ清家ハ、コノ餘流ナリ、彼ノ頼業、時ノ天子、學問好マセ玉フ故ニ、日ニ經筵ニ侍讀セラレ、アル時、奏問アルハ、禮記ノ中ノ大學・中庸兩篇ハ、聖人ノ道ノ微妙ヲ説キ盡シ、殊ニ秀逸ナル篇ナリ、コレヲ平生觀覽ナサル、様ニ、別ニ拔萃出シ、書イテ觀覽ニ具ヘンヤト言ス、主上御許容アリ、即チ寫シテ献上セラル、天子、歡感ナサレ、平生講學ノ助トナサル、コノ事、時代ヲ按ズルニ、大略兩程氏ト同時ナリ、頼業ノ心、程氏ト符節ヲ合セタルガ如シ、コレ清原ノ面目ヲ輝スノミナラズ、日本國中ノ規模ナリ、ムカシ范史ハ我が國ヲ君子國ト云ヒシモ誠ナリ、

●大學ヲ氣ヲ付ケテ聖人ノ蘊奧ヲ具ヘタル書ト見ル人、兩程子ヨリ以前ニハ無レドモ、又全ク無キニアラズ、韓文卷十一、原道ニ佛老ノ道ノ吾ガ儒道ヲ害スルコトヲ論ジテ、ソノ次ニ今其書曰、曷、不レ爲太古之無事、是亦責ニ冬裘者、曰、曷、不レ爲葛之易也、責ニ飢之食者、曰、曷、不レ爲飲之易也、傳曰、古之欲明明德於天下者、先治其國、欲治其國者、先齊其家、欲齊其家者、先修其身、欲修其身者、先正其心、欲正其心者、先誠其意、ト云ヒテ、此所ニ格物致知ヲ脫漏セリト云ヒテ、退之ヲ先儒貶スレドモ、ソノ義、却ツテ非ナランカ、韓退之ナラズンバ、誰カ能ク禮記ノ大學ノ篇ヲ引イテ證明サンヤ、且ツ按ズルニ、退之ガ心ハ、佛氏ニハ明心見性、老氏ニハ修心煉性ト云ヒテ、皆心ヲ主トシテ、工夫スレドモ、皆天下國家ヲ外ニシ、父子君臣夫婦兄弟朋友ノ五倫天常ヲ滅シ、子トシテハ父ヲ無ミシ、臣トシテハ君ヲ棄テ違ク、古シヘノ謂ユル正心誠意ト云フモノハ、心ト理ト事ト一軌ニ合シテ、天下國家ヲ治ムルノ要、人倫日用ノ行フ事ヲスルナリ、心ダニ靜ナレバ、別事ナシト云ヒテ、空シク方寸ノ虛ヲ守ルニハアラズ、吾ガ謂ユル先王ノ法ハ、天下國家ヲ外ニセズト云フコトヲ言ハシ爲ニ、八條目ヲ引イテ證明ス、然ルトキハ、大學ニ於テハ、致知格物が根本ナレドモ、原道ニ於テハ、無クテモ苦シカラズ、先づ退之ハ、聖人ノ蘊奧ハ大學ニ歸ス

シタル事ヲ見出シタリ、然レドモ、別ニ拔萃出ス程ノ見識ハナシ、

●明朝ノ李臨淄ガ曰ク、仁宗、禮記中庸ヲ書シテ王堯臣ニ賜ヒ、大學ヲ書シテ、呂疎ニ賜フ、亦タ及第ニ寵賜ス、偶然ノ事ノミ、宋儒、程子拔萃出シテ、朱子元晦ニ至ツテ、更ニ改削取シ、論語孟子ニ合セテ、名ヅケテ四書ト云フ、●四書ノ次第ハ、時代ノ前後ヲ以テ言フ時ハ、論語大學中庸孟子ナリ、書中理ノ深淺ヲ以テ言フ時ハ、學論孟庸ナリコノ説、四書●大學ニ簡編錯亂アル所以ハ、ムカシ秦ノ始皇三十四年、李斯ガ勸メニ依ツテ、書ヲ焚キ、儒ヲ坑ニセラレシ時、古シヘノ孔子ノ禮記絶エタルヲ、前漢ノ儒者戴聖・戴德等ガ彼此集メテ、今ノ禮記ニ編集セリ、ソノ中ニ大學ヲモ、一篇トシテ連ネタリ、漢儒、道學明カナラヌ者ドモナレバ、不吟味ニシテ註シ、盡ク雜駁ナリシヲ、程子能ク考ヘテ編ミ直シ玉フ、去リナガラ、傳ノ五章闕ケ、或ハ傳ノ首章ヲ三章目ノ下ニ置ク、コレハ程子暇ナクシテ、ソノ儘置キ玉フナラン、朱子ニ至ツテ、章句詳ニ備ハリ、傳ノ五章ヲ補ヒ、章句或問等マデヲ述べ、論語孟子ニ集註ヲ編ミ合セテ、四書ト名ヅケ玉フ、

【大學】大學ト云フニ三ツアリ、一ツハ學ノ道ヲ指シ、一ツハ學校ヲ指シ、一ツハ書ヲ指ス、コ、ニテ、コノ書一部、經一傳十傳章共ニ籠メテ云フ【章句】經傳トモニ兼ネテ看ル、章句ノ二字、異説アレドモ、註トイハン、異名ト見テ可ナリ、コノ義例アリ、魏ノ何晏ガ論語集解序ニ曰ク、周氏包氏章句出焉トアリ、スレバ、註ノ義ニ章句ノ字ヲ用ヒタリ、或ハ曰ク、然ラバ、論孟ニモ集註トアル程ニ、大學中庸ニモ集註トアルベキ筈ヲ、章句トアルハ如何、愚言ク、少シハ異義アレドモ、大抵ハ、皆朱子謙退ノ辭ナリ、大學ハ、聖經孔子賢子傳、深奥ノ書ニ、直ニ我註スルト云フコトヲ憚リテナラン、然レドモ、一ツ様子アリ、論語孟子ハ、一章ヅ、ニテ意變ルニ依ツテ、紛ル、コトナク、ソノ一章一句、自ラ定マレリ、然ルニ、大學中庸ハ、血脈貫通シテ、只ダコレ一篇ノ文字ナリ、殊ニ大學ニハ、古來衍文簡編錯亂アレバ、章段句讀ヲ分ケネバ、ソノ義分明ニ曉シ難キユヘニ、章句ト名ヅケ玉フナランカ、朱子自嘯ノ辭ト見ル説アレド

モ、取ルニ足ラズ【序】爾雅卷ノ一釋詁ニ緒也トアリ、正義ニ、ソノ綱要ヲ舉グルコト、爾ノ緒ヲ抽ンズルガ如クナリ、言フハ、絲ハ口ヨリ纏リ出セバ、千尋萬尋ノ絲モ亂レズ出ヅルナリ、ソノ如ク、一部ノ大綱ヲ卷頭ニ條條書イテ、全編ヲ意得差ヘサセヌヤウニシテ置ク、コレヲ讀ミテ奥ヘ入レバ、始終疑ヒ惑フコトナク明キラムルニ依ツテ序ト云フ●凡ソ書ニ序ヲ書クコトノ濫觴ハ、書經五子之歌ノ篇ノ始ニ、時ノ史官ガ、今コノ五人ノ歌ハ、兄ノ太康ヲ諫メノ爲ニ作リ玉フト云フコトヲ知レドモ、後世疑ヲ起サンコトヲ慮リテ、歌ノ所以ヲ前書ニシテ置キシヲ、後人見テ尤ナル事ト思ヒテ、今ニ至ルマデ、一部ノ始末ヲ舉ゲテ序ヲ書クコト例トナレリ、

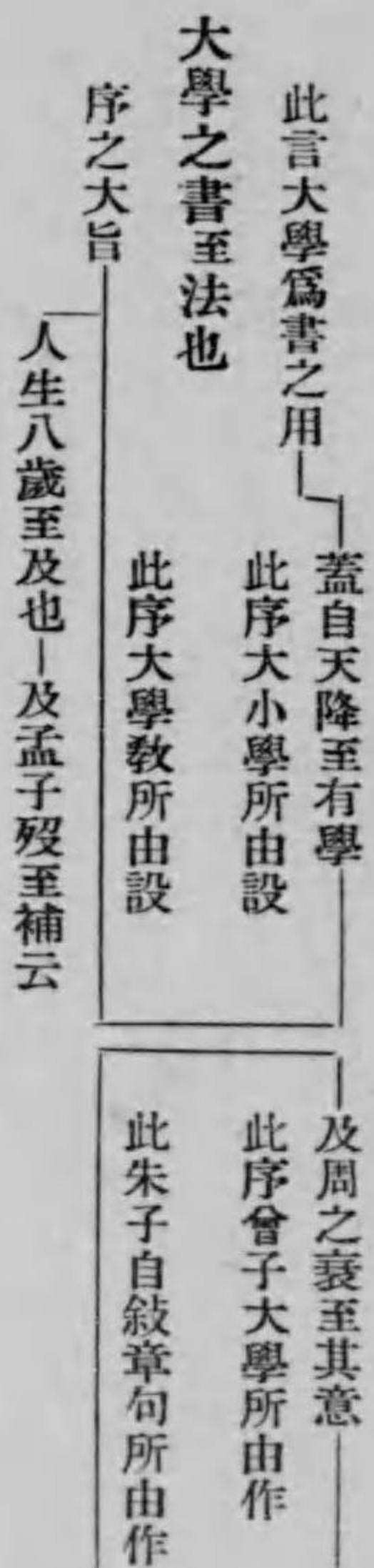
大學之書。古之大學所以教人之法也。

訓讀 大學の書は、古しへの大學の人を教へし所以の法なり、

【大學……也】コノ序、分段諸說繁多ナレドモ、蔡虛齋ガ蒙引ニ、四節トシテ見ル、今、コノ說ニ循フテ、コノ三句ヲ第一節ト見ル、序中、皆コノ三句ヲ反復シテ說キ玉フニ依ツテ、コノ一節ヲ序中ノ序ト云フ【大學之書】書ヲ指ス、下ノ【大學】ハ學校ヲ指ス【古】トハ、夏殷周、三代ノ道教盛ナリシ時ヲ指ス【法】トハ、即チ三綱領八條目ナリ、言フハ、コノ大學ノ書ハ、何様ノ事ヲ書キ載セタモノゾト云ヘバ、古シヘ、三代ノ盛ナリシ時、大學校ニテ、十五已上ノ諸人ヲ教ヘ導キタルトコロノ法式ヲ書キ遺シタルナリ●三代ノ道、盛ニ行ハル、時ハ、此書ハナシ、此法ヲ教フレバ、諸人學ンデ行フタルバカリナリ、後ニ世衰ヘ道微ニシテ、棄タレタルヲ、孔子聖人ナレバ、明キラメテ居玉フ故、三千ノ弟子ヘ咄シ玉フヲ、中ニモ、曾子一人徹シテ明キラメサセラレテ、再釋シテ傳十章又門人ニ聞カサセラレタルヲ、子思書キ付ケテ、コノ書ニ遺レリ●子思ト見ルハ、明ノ潘煥文ガ四書微言大學卷之一ニ大學之道ノ章ニ此子思述聖經以垂訓也トアリ、カクノ如ク云フニ依ツテ、子思ノ筆跡疑フベカラズ●蒙引曰、上大學字指經傳、下大學字指學校、

古之一字、疑、只是指三代也、此古字指三代、意居多、不必泥以爲兼義、農堯舜、言上●章圖、王松塢曰、此二句、言大學之用、括此書一篇之要、而約言之也●王氏曰、教字一篇骨子●吳草廬曰、學、學房也、學字從交、象兩手、周象學房、言學字拱、手學房、以教學也、

大學序圖



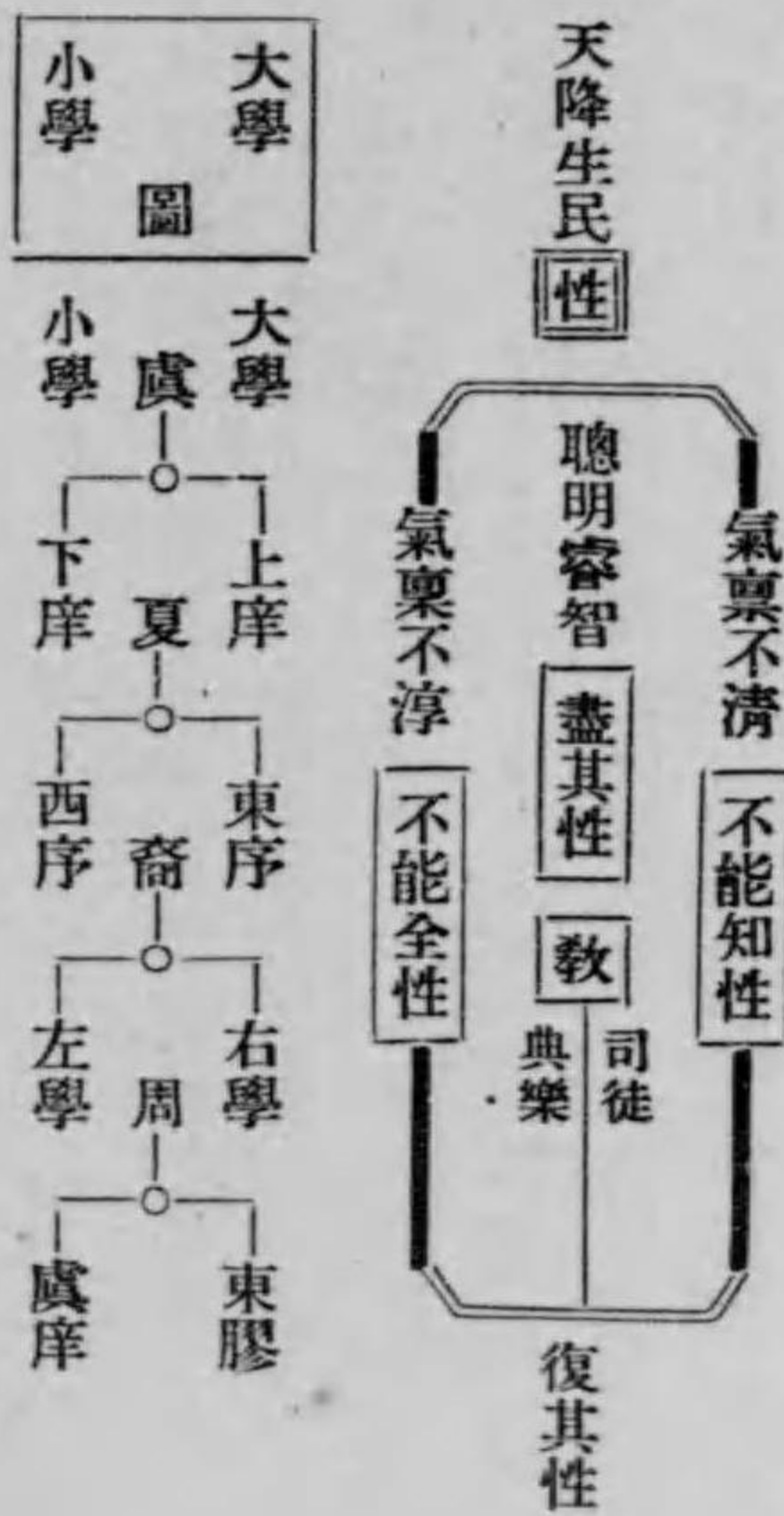
太極動而生陽、爲三元亨、誠之通靜而生陰、爲三利貞、誠之復其理賦稟於人、則元亨爲仁禮之性、利貞爲義智之性、不言信者、其誠通誠復之誠、而爲太極之定體者即信也、

氣質之稟

氣是天地間陰陽五行之氣、其賦於人、而稟於人之身者、則爲質、蓋陰陽五行之氣、常流行於天地之間、而太極之理、即寓於其中、然是氣之流行、或有清純時、或有駁雜時、或有陽勝陰時、而太極之理、亦隨其氣之有偏勝、故人於稟受胎元之初、間值得陰陽五行之完氣、參和不偏、又清而且純者、則得太極之全體、而爲聖人、如堯舜禹湯文武周

公孔子是也、得其氣之駁雜乖戾者、則爲榮紂之暴也、若得木氣之盛者、多慈而少斷、得金氣之盛者、多斷而少慈、得火之盛者、多禮、文、得水氣盛者、則多智識、其人之智愚賢不肖、皆分于此、但氣質之清純者、則其理亦完、自然見理而不見欲、不爲物欲所蔽、駁雜者、則其理爲氣所困、便爲物欲所蔽、必須窮理盡性、克其氣稟之偏、然後以理制欲、不爲所蔽、可以爲賢爲聖、此大學所謂明德、中庸所謂修道之教者、皆謂此也、

以復其性圖



蓋自天降生民。則既莫不與之以仁義禮智之性矣。

蓋し天より生民を降すとときは、既に之に與ふるに仁義禮智の性を以てせざることなし、

此處ヨリ後世非所能及也ト云マデ、第二節トス【蓋】ノ字ハ發語ノ辭、又ハ疑辭ト字書ニ註ス、愚按ニ、疑ノ辭ト見テ可ナラン乎、ソノ子細ハ、朱子謙退ノ意ナルベシ、ケダシト云フ訓ノ意ハ、氣出ト云フ義ナリ、キトケト、カ

キクケコ五音相通ノ假名ナリ、疑辭、發語ノ詞、何ニテモ事ノ分明ナラヌコトニ用フ、早朝ハ日氣出ヅル時、必ズ暗クシテ物分明ニ見エズ、又人ノ一語云ヒ出スモ、後ヨリ何ヲ云ハンモ知レズ、總ジテ一氣出ヅルトコロハ、疑ハシキモノナルニ依ツテ、蓋ノ字ニ和訓氣出ト訓ヲ付ケテ、疑ノ辭ニ用フ【自天降……之性】コレマデ、書經尚書湯誥篇、惟皇上帝、降衷于下民、若有恆性ト云フ語ニ本ヅケリ、此處凡ソ人タルモノ學問ヲセイデ止ムベカラザルコトヲ云フ、天ノ與フル性ハ、即チ仁義禮智、コレヲ人々ノ心上ニ具ヘテ、生マル、ト直ニ説カセラレタトコロガ、朱先生ノ見ドコロ定マリシトコロナレドモ、却ツテ謙退シテ、蓋ノ字ヲ用ヒ玉フナルベシ【生民】詩經ト孟子ニ出ヅ、詩ノ大雅ニ厥初生民、時維姜嫄トハ、民ヲ生ズルノ意ナリ、孟子ニ自生民以來トアルハ、コ、ニ合ヘリ、孟子ヲ出處ニ引クベシ、萬民ヲ總ベテ云フ、生命アルノ民ト云フ義ナリ、蒸民ナドト云ハズシテ、生民ト書キ玉フニモ、意味アラシカ、天ハ生物ヲ以テ心トス、故ニ人ハソノ生物ノ理ヲ受ケテ心トスル故ニ、ソノ心發動スルト、ソノ儘、四端萬善トナルヲ、程子ノ謂ユル滿腔子惻隱ノ心ト云ヘル是レナリ、人コレヲ具ヘテハ生ジ、コレヲ失フ時ハ死ス、生ノ字、仁義禮智ノ性ノ字ト應ジテ看ヨ、蒙引曰、即孟子所謂天下之生久矣、以其生生不絕也、コノ末文ニ、民生日用彝倫ト云フ、ソノ民生トコノ生民トハ、意各別ナリ、生民ハ有生ノ始ヲ以テ云フ、民生ハ有生ノ後ヲ以テ云フ、コノ意ヲ以テ引キ合セテ合點スベシ【天】ト云ヘバ、地ハ其中ニコモル、陽ハ陰ヲスブル道理ナリ【天降】トハ、易云天地之大德曰生トアリ、人物ヲ生タスルガ天地ノ職ナリ、生生ノ外ニ、別ノ事ナシ【降】トハ、天ハ上ニアリ、生民ハ下ニアリ、故ニ云フ【則既】ノ二字、カアリ、ソノ子細ハ、昨日降シテ、今日コノ性ヲ與フルニアラズ、降スニ於テハ與フルナリ、降スヤイナヤト云フ【義莫不】ノ二字、又カアリ、天地ノ間ニ生命アル人、一人モ殘サズ、貴賤賢愚ノ隔ナク、悉ク與ヘズト云フコトナシトナリ【仁義禮智】元亨利貞ハ、天ノ四德ナリ、理ナリ、仁義禮智ハ、人ノ四德ナリ、性ナリ●仁ハ大全、朱子曰、溫和慈愛底道理也、ヤハラギウラ、カニシテ、人ヲ親愛スル心ナリ、喻ヘバ、孺子ノ井ニ入ラントスル

ヲ見テハ、惻隱ノ心起ルハ、他人ニ慈悲ナ人ト譽メラレントニアラズ、又ソノ子ガ父母ト交ヲ結ビテ、最貞ト云フニモ非ズ、本心ノ忍ビザル誠ナリ、四季ニ於テハ春ニ屬シ、五行ニ於テハ木ニ屬ス、春ハ草木ハ花サキメグミ、鳥獸ハツルミス、コレ元ノ理ノ見ハル、トコロナリ、人ニ在ツテハ仁ナリ【義】ハ、大全、朱子曰、斷制裁割底道理、萬事萬物ノ上ヲ宜シク執リ行ヒ、分明ニスルヲ云フ、秋ニ屬シ、金ニ屬ス、秋ハ草木ハ實リ、鳥獸ハ毛生ヒト、ノホル、人モ收斂シテ利成ス、コレ利ノ理ノ見ハル、ナリ、人ニ在ツテハ義ナリ【禮】ハ、大全、朱子曰、恭敬尊節底道理、長者ヲ恭敬シ、萬事ホドヨク文章アルヲ云フ、夏ニ屬シ、火ニ屬ス、夏ハ草木ハ枝葉茂リ、鳥獸ハ子、ステニ生長ス、コレ亨ノ理ノ見ハル、ナリ、人ニ在ツテハ禮ナリ【智】ハ、大全、朱子曰、分別是非底道理、善キモノヲ善ト知り、惡シキヲ惡ト知り、分明ニ萬事ヲ辨ヘ、衆理ニ妙ニシテ、萬物ヲ宰スルモノハ、智ノ德ナリ、冬ニ屬シ、水ニ屬ス、冬ハ萬物悉ク收マル、草木ハ根ニ歸リ、鳥獸ハ毛深クナル、コレ貞ノ理ノ見ハル、ナリ、人ニ在ツテハ智ナリ、コノ四德ニ信ヲ加ヘテ五常ト云フ、然レドモ、信ノ一字ヲ出サザルコトハ、信ハ五行ニ於テハ、土ニ屬ス、土ノ位ハ、常ニ六月ノ季ナレドモ、四時共ニ十八日、或ハ十九日ノ土用アルガ如ク、仁義禮智、四ツナガラ信ヲ離レテハ仁ニモ非ズ、義ニモアラズ、サルニ依ツテ、信ノ一ツハ言ハズシテ四ノ中ニ包ムナリ、コレ性ノ本體ナリ、朱子曰、天之生レ民、各與以レ性、性非レ有レ物、只是一個道理在レ我者耳、仁義禮智ヲ總ベテ云ハバ性ト云フ、一分ケテ云ハバ、仁義禮智ト云フ、喻ヘバ、動かザレバ水ト云ヒ、動ケバ波ト云フガ如シ【蓋】通義、許白雲曰、蓋發語辭【語】里仁爲美、蓋有レ之矣、朱註蓋疑辭【自天降】楚辭天問篇、朱註、言天而不以地對者、以理言也、獨言天則地在其中矣、蓋天包乎地、地之下皆天也、陽全而陰半也、形亦是如此、凡地之所生、無非是得於天之所施【蒙引曰、生民二字相帶連、如所謂下民烝民是也、謂之生民者、即孟子所謂天下之生久矣、以其生生不絕也、所謂生、物亦然、謂之降者、天在上、生民在下、故取降義也、此本三書所謂天降下民云】天降生民【四字、出揚子法言一學行篇】則既【蒙引曰、孟子曰、惻隱之心、仁也、羞惡之心、義也、

恭敬之心、禮也、是非之心、智也、周子曰、德愛曰仁、宜曰義、理曰禮、通曰智、守曰信【又曰、四性不言信者、仁義禮智之實處即信也、使仁而不實、則仁非其仁、義而不實、則義非其義、禮智亦然、中庸論智仁勇而必曰所以行之者一也、亦是此理】薛文清曰、水能鑑物、故智屬之、金能斷物、故義屬之、木有生意、故仁屬之、火有文明、故禮屬之、土則質實、故信屬之【性理大全三十七、朱子曰、人之爲性、雖有仁義禮智之殊、然其曰仁義、則大端已舉、禮者仁之餘、智者義之歸、信亦無不在也、

然其氣質之稟、或不能齊。

訓讀 然れども、その氣質の稟、或は齊しきと能はず、

【然】ハ、反語ノ詞、又字彙ニ如是也、カクノ如クデハアレドモト云フニ同ジ【或】ノ字、不定ノ辭、易ノ乾ノ九四ノ爻ニ或躍トアルト意同ジ【齊】ハ、ト、ノフ、又ソロフトモ訓ズ、上ニ云フガ如クニ、人々仁義禮智ノ性ヲ受クルナラバ、皆押シ竝ベテ、聖人ノ筭ナレドモ、然レドモ、愚不肖ハ多ク、聖賢ハ少キハ何ゾヤ、夫レ天カラ與フルノ理ハ、人物貴賤、隔ナシ、サレドモ、コノ方ノ氣質ノ稟ケヤウガ或ハ齊シクナイニ依ツテ、ソノ易アルトナリ【氣】ハ、陰陽五行ノ氣ナリ【質】ハ、人ニアル五臟百骸ノ質ナリ【氣質之稟】ト云フハ、天ノ氣、地ノ質ガ凝リ堅マツテ、形體ニナリ、理、即チ其中ニ賦ス、故ニ氣アレバ、必ズ理アリ、理アレバ必ズ氣アリ、氣ヲ離レテハ理モナク、理ヲ離レテハ氣モナシ、又氣ト質トハ、素ヨリ離レタルモノニ非ズ、又一箇ニ渾雜スルニ非ズ、氣アレバ質アリ、質アレバ氣アリ、サルニ依ツテ、蒙引三モ、炭ノ火ノチコリタルトコロガ質ナリ、ソノ熱キトコロガ氣ナリ、大抵、氣質實行ト立テ、見ルベシ、氣ハ陽ニシテ輕シ、故ニ物ヲ知ル、質ハ陰ニシテ重シ、故ニ事ヲ行フナリ、理ハ人物貴賤一同ニシテ、毎々易ラザレドモ、氣ニハ人物相分レテ、清濁ノ異ナルアリ、ソノ故ハ、理ニハ形モナク、聲モナク、又色モ味モナシ、

故ニ善惡ノ體見エズ、氣ハ形色聲味ニ見ハレタルニ依ツテ、天ニ在ツテハ、暖熱涼寒、草木ニ於テハ長短曲直ニ見ハル、ナリ、コレ氣ニハ善惡アルガ故ナリ、一日ノ中ニモ、風雨陰晴ノ變アリ、然ルニ依ツテ、氣質共ニ純粹ナルヲ受クレバ、一段聖人ナリ、主マレナガラニシテ知り、安ジテ行フ、コレナリ、又氣ハ純粹ニテモ、質ノ雜駁ナルヲ受クレバ、知ルコトハ能ク知レドモ、無調法ニシテ、行フコトガナラズ、質ノ純粹ナルト氣ノ濁レルトヲ受クレバ、行フコトハ、自然ト聖賢ノ格式ニ合フコトモアレドモ、物ヲ何遍教ヘテモ、覺ユルコトガナラズ、鈍ナリ、然ルニ、北溪陳氏ガ性理字義ニ云ク、水ノ清キヲ奇麗ナル銀盃ナドニ入レタ時ハ、見テモスキトホルヤウニ見エ、物ヲ煮レバ、ソレマデモ味能ク旨シ、何如ホド清潔ナル水モ、不淨ナ器ニ入ルレバ、先ヅ見テ濁リテ惡シ、飲ンデモ、尙ホ味ナシ、物ヲ煮レバ、ソレマデ味惡シ、喻ヘバ、仁義禮智ハ水ナリ、何如ニ清キ仁義禮智ヲ與フレドモ、稟ケヤウガ惡シケレバ、諸事法ニ背ク●真西山曰、性之不能離乎氣、猶下水之不能離乎土也、性惟不能離乎氣、而氣汨之則不能不惡矣、水惟不能離乎土、而土汨之則不能不濁矣●上ニ段々述ブルガ如クナレバ、氣質ノ稟ケヤウニ依ツテ、聖賢愚不肖ト分レテ定マルヤウニ見ユレドモ、左ニ非ズ、コ、ガ學問セデ叶ハヌ道理ナリ、凡ソ學問ニハ、氣質ヲ變ズルノ理アリ、聖人ノ教モ此處ナリ、水火木金土ノ氣ヲ受ケ、形體ヲ成就ス、ソノ受ケヤウニ依ツテ、聖賢トナリ、愚不肖トナルコト、千萬ニカハル、喻ヘバ、凡ソ物ノ色、青黃赤白黒ノ五色ニ過ギズ、然レドモ、ソノ合セ加減ニ依ツテ、千萬ノ模様、出來タルガ如シ、去リナガラ、元來ノ性ハ善ナル故ニ、學問シテ、智ヲ研キ、行ヲ勵マセバ、氣質ヲ變ズルコト、ソノ人ノ力量次第ナリ、喻ヘバ、我が形ニ載セテ、物ヲ習フ、藝能ハ今日マデ下手ナル者ガ、俄ニ上手ナルコトハナラヌモノナリ、然ルニ、人心ハ、只今マデ、惡念ニ凝リ固マリタル人モ、或ハ他ノ諫ヲ聞キ、或ハ自己ノ發得ナドニテ、忽チ善念ニ變ズルハ、常ノ習ナリ、コレ性善明德ヲ具ヘタルコロ、疑ナカルベシ●四書詳說云、然轉語辭●蒙引曰、性與氣質一時齊有、氣質所以載是性者也、故能爲性之明晦通塞●又曰、氣陽而質陰也、氣載於質、

而理寓於氣也●又曰、以理對氣質而言、則氣質實而理虛、以氣對質而言、則質實而氣虛、虛者常托乎實者、蓋理與氣質元不相離、而氣之與質、尤不相離、氣質者理之所合、而質者又氣之所凝也●通義云、此言因氣之昏、牽引物欲、故失其善者也●薛文清讀書錄五云、性譬如一源水、引去清渠中、則水亦清、亦猶氣清而性明也、引去濁渠中、則水亦濁、亦猶氣昏而性昏也、是水有三清濁者、渠使之然、而水則本清、性有三昏明者、氣使之然、而性本明、此先儒之說、予特述以明己意耳、

是以不能皆有以知其性之所有而全之也。

これを以て、皆以て其性のあるところを知つて、之を全うすることある能はず、

コノ句ハ、先ヅ知行ニ分ケテ見ルニ、ソノノ性所有スル理ヲ知ラザルモノアリ、又ソノ行ニ缺クルコトナク、行フコトナラヌト云フ意ナリ、然レドモ、コノ文法ヲ能ク見レバ、又兩意ヲ兼ネタリ、ソノ理ノ固有ヲ知ラザルガ故ニ、行ヲ全ウスルコトナラヌモノアリ、又知ツテ行ハヌモノアリ【是以】トハ、上ヲ受ケテ云フ辭、カウシタ道理ジャヲ以テ、皆押シ並ベテ、ソノ本性ニ仁義禮智ノ四徳ヲ固有シタルトコロヲ知ツテ、逐一全ク行ヒ遂グルコトナラヌトナリ【全】ノ字、行ニ系ル、少シモ缺カズ、本性ノ通リニ逐一行フヲ云フ、

一有聰明叡智能盡其性者。出於其間。則天必命之。以爲億兆之君師。使之治而教之以復其性。

一も聰明叡智、能く其性を盡すものあつて、その間に出づるときは、天必ず之に命じて、以て億兆の君師と爲して、之をして治めて之に教へ、以て其性に復へらしむ、

生民多キ中ニ、一人ナリトモ、聰明叡智ノ聖人ニシテ、能クソノ本性ノ本性タルトコロヲ知リテ、行ヒ盡セル人、ソノ生民ノ間ニ生マレ出ヅルコトアレバ、天ヨリ必定コノ人ニ命ジテ、萬民億兆ノ中ノ君トナシ、師トナシテ、萬民ヲ治メ教ヘテ、ソノ明德ヲ人欲ニ蔽ハレテ居ルヲ打ハラヒ、本性ノ明德ノ地ニ再ビ立チ復ラシムルナリ【聰】ハ、ミ、トシト訓ジ、耳ニ屬シ、天下ノ理ニ於テ、一ツモ蔽ハル、コトナク、聞クヤ否ヤ心ニ通ズルヲ云フ【明】ハ、アキラカ、目ニ屬ス、視ルコトニ於テ、蔽ハル、トコロナク、ソノ儘見分ケ、理ニ達スルヲ云フ【叡】ハ、サトシト訓ズ【智】ハ、照ラサズト云フコトナク、衆理ノ微妙ナルトコロマデモ、通徹スルヲ云フ、叡智ノ二字ハ、本心ノ明鏡止水ノ如ク、明カニサトキヲ云フ、皆生知安行ノ聖人ヲ云フ、中庸三十一章曰、唯天下至聖、爲能聰明叡智、足以有臨也、朱註、聰明叡智、生知之質トアリ、千萬ノ人ヲモ、下ニスル程ニナケレバ、臨ムトハ云ハレズ、仁義禮智ノ智ト叡智ノ智ト、兩種ニアラズ、元來一箇ノ智ナレドモ、禮智ハ、聖人モ、衆人我々モ、同ジク得ル故ニ、上下ニ通ジテ云フ、固有ノ智ナリ、叡智ハ、仁義禮智ヲ擴充シテ、大ニナシタル智ヲ云フ、朱子曰、爐中底便是那禮智、如二叡智、則是那照天燭地底トアリ【能盡其性】中庸二十章云、唯天下之至誠、能盡其性、盡ノ字、知行ヲ兼ネタリ、本性ノマ、ニ全クスルヲ云フ【其間】生民ノ間ナリ、古抄ニ、天地之間ト云ヒ、又一説ニ、孟子公孫丑下篇ヲ引イテ、五百年必有王者興、其間必有名世者、ソノ間ノ字、コレヨリ出デタリ、ソノ時ト云フナリト見レドモ、愚按ズルニ、前ノ文ノ生民ニ系ケテ見テ可ナランカ【天命之謂道】天言ハズ、何如ゾ命ズトセンヤ、書經泰誓中曰、天視、自我民視、天聽、自我民聽、民ノ義ニ都合スルト思フコトハ、天モ善ト感ジ玉フ、ソノ故ハ、聖人アル時ハ、四方ヨリ仰ギ尊ブ、ムカシ堯ノ舜ヲシテ、祭ヲ司ラシメ玉ヘバ、天コレヲ享ケ、民ニアラハシ玉ヘバ、民コレヲ受ク、コレ、理ヲ以テ命ズルト云フ、詳ニ孟子ニ論アリ、語類、問、天命之謂道、以爲億兆之君師、天如何命之、曰、人心歸之、便是命、問孔子如何不得命、曰、中庸云、大德必得其位、孔子却不得、氣數之差至此極、故不能反、問何處見得天命處、曰、此也如何得知、

只是才生一箇恁地底人、定是爲億兆之君師、便是天命之也、他既有許多氣魄才德、決不自己、統御億兆之衆、人亦自是歸他、如三代已前聖人、都是如此、及孔子、方不然、然雖不爲帝王也、閑、他不得、也做出許多事來、以教天下後世、是亦天命也【億兆】十萬曰億、十億曰兆、古數也、詩三百億兮、鄭立註、十萬曰億、孔穎達疏曰、今九章算術皆以萬々爲億、鄭以古數言之、韋昭楚辭註云、十萬曰億、古數也、秦時改制始以萬萬爲億、畢竟民ノ多キヲ籠メテ億兆ト云フ【君師】一人ニテ治教ヲ兼ネタリ、治ノ字ハ君ノ字ニ系ケ、教ノ字ハ師ノ字ニ系ツテ看○蒙引曰、治而教之者、程子曰、天之生民、必有出類之才、起而君長之、治之而爭奪息、導之而生養遂、教之之倫理明ナリ、是亦以教次治也【復其性】トハ、コノ工夫、大學ノ干要ナリ、萬民ハ我が本性ヲ忘レテ、旅ニ居ルガ如ク、然ルテ聖人治教ヲ以テ導キ、本性ノ故郷ヘ再ビ歸住セシムルナリ、コノ三字、朱子ノ學ノ家法ナリ、陳樸曰、朱子論學必以復性初爲綱領要歸、論語首註、學字、曰、人性皆善、曰、明善而復其初、小學題辭曰、仁義禮智人性之綱、曰、德崇業廣、乃復其初、此書首釋、明德、亦曰、遂明之、以復其初、與此序凡四致意焉、心ヲ潛シテ必ズ味フベシ、

此伏羲神農黃帝堯舜所以繼天立極而司徒之職典樂之官所由設也。

此伏羲神農黃帝堯舜の、天に繼いで極を立てし所以にして、司徒の職、典樂の官、由つて設けたることなり、【此】トハ、上ノ文ヲ受ケテ、聰明叡智ノ聖人、天命ヲ受ケテ、治教ヲ司リ、生民ノ君師トナリ玉フ、古昔ヲ舉ゲテ證據トス、天地開クルトイヘドモ、カクノ如キ聖人出生ナケレバ、諸事ノ埒明カズ、段々時ニ應ジテ、制作ナサレテ、民用ヲ教ヘ玉フ、伏羲・神農・黃帝・堯・舜ト次第ヲ述ベ玉フハ、易ノ繫辭ナリ、下繫辭第二章、其略云、包犧氏之王天下、又曰、包犧氏沒、神農氏作、又曰、神農氏沒、黃帝堯舜氏作、又孔安國ハ伏羲・神農・黃帝ヲ三皇トナシ、胡五峰ハ繫辭ニ本ヰイテ伏羲ヲ五帝ノ始トナス、愚按ニ、常ニハ伏羲・神農・黃帝ヲ三皇ト爲ス、少昊・顓頊・高辛・唐堯・虞舜ヲ五帝

トス、朱子、伏羲神農・黃帝・堯舜ヲ取り玉フ意ハ、コノ五聖ハ、別シテ功德盛ニシテ、君師ノ位ヲ兼ネ備ヘ玉フニ依ツテナリ、ソノ意モ、繫辭ニ本ヅキテナリ、三皇五帝ノ説ニハ泥ムベカラズ【伏羲】史記三皇本紀ニ詳ナリ、近クハ、予ガ集ムル歴代參考ヲ見ルベシ、蛇ノ身、人ノ首、聖德アリ、始メテ八卦ヲ作り、書契ヲ造リテ、結繩ノ政ニ代ヘ、網罟ヲ結ビテ、獸ヲ取り、肉ヲ食シ、皮ヲ衣ルコトヲ教ヘ、又二ツノ皮ヲ禮トシテ、夫婦ノ道ヲ教フ、今ノ類ト云フモ、コレヨリ起レリ、帝位一十一年ニシテ崩ズ、一説ニ、在位一十年ト云フ、史記ト反ス、評林曰、按通鑑前編諸史會編、皆作一百一十五年、疑ハフラクハ、刊者ノ誤ナラント云ヘリ【神農】史記ニ詳ナリ、人ノ身、牛ノ首、木ヲ斲ツテ耜トシ、木ヲ揉メテ耒トシテ、始メテ田地ヲ耕スコトヲ民ニ教ヘ、草木ヲ嘗メテ醫藥ヲ教フ、日中ニ市ヲナシ、交易シテ退クコトヲサセ、在位一百二十年ニシテ崩ズ、一説ニ、在位一百四十年ト云フ、史記ト反ス【黃帝】史記五帝本紀ニ詳ナリ、舟車ヲ作り、十二律呂、又ハ支干曆數ヲ始メ、又百穀草木ヲ播シ、宮室衣服軍旅ノ法ヲ作り、德ヲ修メ、兵ヲ振ヘ、萬民ヲ撫デ、四方ヲ度ル、皇甫謐曰ク、在位百年而崩、年百一十一歳【堯舜】史記ニ詳ナリ【所似……所由設也】【繼天】トハ、生知安行ノ聖人ハ、天ニ法リ繼ギ玉フ、天ヲ父トシ、地ヲ母トシ、生民ハ子ナリ、ソノ中、天子ハ宗領ナリ、故ニ萬事天理ノ如クニ執リ行ヒ、少シモ違ハズ、親ノ跡ヲ子繼イデ行フ如クナサル、ナリ【立極】トハ、極ノ字、德ト位トヲ兼ネテ見ルベシ、書經洪範ニ、皇建ニ其有極ト云フヨリ出デタリ、極ノ字義ハ、至極ノ標準トテ、天下ノ的ト云フ義、極ノ字、朱子ノ説ニハ、中庸ノ中ノ字ノ意ナリ、又陸象山ハ、直ニ中ノ字ト云ヘリ、畢竟、過不及ナキ至極ノ義ナリ、子トシテハ孝、臣トシテハ忠、コレ極ナリ【立】トハ、柱ナドヲ立テ、四方ヨリ見ルヤウニ、天子ノ身ニ之ヲ行フテ、萬民ニ示スナリ、繼天立極トハ、先ヅ天ハ理ヲ以テ與ヘ施ストイヘドモ、人ヲ制スルコトナラズ、然ルテ、聖人天ノ心ヲ量リテ、理ニ從ハザルモノヲ已ムコトヲ得ズ誅シテ戒トス、又雨露ノ恩ノミニテ、五穀桑麻ハ生ゼズ、然ルテ聖人今ハ耕シ、今ハ耘リ、今ハ蒔リ收メヨト教ヘ玉フ、故ニ咸ク生ズ、天ノ惠バカリニテナラヌトコロヲ贊ク

ル故ニ、繼天立極ト云フ、則チ中庸ニ謂ユル天地ノ化育ヲ贊クルト云ヒ、身ヲ修ムルトキハ道立ツ、又ハ天下ノ大經ヲ經綸スト云ヘルモノナリ、三代已上、君師ノ道ノ一ナルハ、カクノ如シ●朱子皇極辨曰、人君以ニ眇然之身、履ニ至尊之位、四方輻湊、面レ内而環觀之、自レ東而望者、不_レ過_レ此_レ而西_レ也、自レ南而望者、不_レ過_レ此_レ而北_レ也、此天下之至中也、既居_レ天下之至中、則必有_レ天下之純德、而後可_レ以_レ立_レ至極之標準、●語類、問_レ繼天立極、曰、天只生_レ得_レ許_レ多_レ人物、與_レ備_レ許_レ多_レ道理、然天却自_レ做_レ不_レ得_レ、所以立_レ得_レ聖人、爲_レ之_レ修_レ道立_レ教、以_レ教_レ化_レ百姓、所謂裁_レ成_レ天地之道、輔_レ相_レ天地之宜、是也、蓋天做_レ不_レ得_レ底、却須_レ聖人、爲_レ他_レ做_レ也【司徒……】コレハ、堯舜ノ時ノ事、伏羲神農黃帝、皆君師ノ道アリ、上ニ述ブルガ如ク八卦ヲ畫シ、婚姻ヲ制スル類、コレナリ、サレドモ、盡クハ文字ニ書カレヌニ依ツテ、下、堯舜ノ時ノ事ノミヲ舉ゲテ合セテ云フ、司徒典樂ノ官職ヲ拵ヘ設ケ置イテ、人民ヲ教ヘ玉フトナリ【司徒】ハ、書經舜典曰、帝曰、契百姓不_レ親、五品不_レ遜、汝作_レ司徒、敬_レ敷_レ五_レ教_レ在_レ寬、五教ハ五倫ナリ【典樂】舜典曰、夔命_レ汝、典_レ樂_レ教_レ冑子、樂ハ人心ヲ和グルモノナリ、和ギテ後、萬事ガナル故ニ、先ヅ樂ヲ教ヘテ心和ス、冑子ハ長子ナリ【職官】ノ二字ハ、文ヲ互ニスルマデナリ【所由設也】トハ、萬人ヲ教ヘテ、ソノ性ニ復ラシメンタメ、コレニ由ツテト云フ意ナリ、

三代之隆。其法寔備。然後王宮國都。以及閭巷。莫_レ不_レ有_レ學。

訓讀 三代之隆、その法寔や備はれり、然して後、王宮國都より、以て閭巷に及ぶまで、學あらざるはなし、

三代ハ夏殷周ナリ、三代已前ヨリ教フルノ道アリ、殊ニ唐虞ノ世ニ、司徒典樂ノ官人ヲ立テ、教ヲ施シ玉フトイヘドモ、ソノ法モ未ダ明カナラズ、學校モ立タザルニ、三代ニ至ツテハ、漸々段々ニ、ソノ法式モ備ハルナリ【隆】ノ字ヲ以テ見レバ、夏ノ世ニハ、禹王、ソノ子啓、殷ニハ湯王・外丙・仲壬・太甲、周ニハ武王・成王・康王ナドヲ隆ナル世ト云フベシ、偕テ又夏殷ノ世ニモ、未ダ備ハラズ、周ニ至リテ悉ク備ハレリ

コノ説蒙引ニ詳ニ見エタリ【王宮】天子居玉フ邦畿千里、王

朝ノ内ナリ、大戴禮保傅篇注、大學在王宮之東、朱子蓋本於此【國都】諸侯ノ都スルトコロ、地方百里、コレナリ【閭巷】周禮、五比爲閭、又云、曲而小者曰巷、家數二十五家アルトコロヲ比ト云フ、然レバ、閭ハ家數百二十五家アルト云フ、閭ハコザト訓ズ、巷ハチマタト訓ズ、横小路ナドナリ、畢竟小村小里マデト云フ義ナリ【學】ハ、大學校小學校ナリ、今日本ニテ、佛道盛ニシテ、在々所々マデ寺院ヲ建テ廣メタルガ如クト見エタリ、閭巷ナドニハ、其所ノ奉行代官、或ハ士大夫ノ致仕シタルモノ師トナルナリ、大夫ヲバ父師ト云フ、士ヲバ少師ト云フ、尙書ノ大傳ニ見エタリ、言フハ、三代禹湯文武、盛ニ法度式目ヲ制作アツテヨリ後、上ハ王宮國都ヨリ、下ハ閭巷ノ小里辻子小路マデ、學校ヲ建立セズト云フコトナシトナリ、

人生八歲。則自王公以下。至於庶人之子弟。皆入小學。

訓讀 人生まれて八歲、王公より以下、庶人の子弟に至るまで、皆小學に入る、

【王】ハ、天子【公】ハ、三公ナリ【以下】ト云ヘバ、諸侯卿大夫士マデ兼ヌ、尙書大傳曰、公卿之太子、元士之嫡子、年十二入小學、二十入大學トアリ、白虎通曰、八歲入小學、十五入大學トアリ、書ニ依ツテ年數ノ不同アリ、然レドモ、朱子ハ、白虎通ニ本ヅケリト云ヒ傳フ、然レドモ、八歲ニシテ小學ニ入ル、朱子、漢書ノ食貨志ニ本ヅク、十五ニシテ大學ニ入ル、論語ニ本ヅクナランカ、八歲十五歲ノ論ハ、丘瓊山ノ說アリ、コレナリ、丘瓊山曰、八歲至十三、皆可入小學、十五至二十、皆可入大學、大約言レ之耳、非ニ截然立レ此以テ期限也【子弟】子ハ宗領、弟ハ庶子ヲ云フ、言フハ、上段ノ如ク、王宮ヨリ閭巷ニ至ルマデ、學校ヲ建立スルハ、何故ナレバ、凡ソ人生マレテ、八歲ニナレバ、上ハ王公カラ、下ハ庶人ノ子ヤ、弟ニ至ルマデ、貴賤ノ隔ナク、一人モ殘サズ皆小學校ヘ入ル、トナリ【按ズルニ、小學校大學校ノアルトコロニ付イテ、諸書ニ種々ノ說アレドモ、大抵コノ序ニ依ツテ見レバ、小學校ハ京師ニモ

アリ、尤モ閭巷ノ田舎ニモアリト見エタリ、

而教之以灑掃應對進退之節。禮樂射御書數之文。

訓讀 而して之に教ふるに、灑掃應對進退の節、禮樂射御書數の文を以てす、

【灑】ハ、ソ、グト訓ズ、地ニ水ヲソ、イデ塵土ノ立タヌヤウニスルヲ云フ【掃】ハ、ハラフト訓ズ、帚ヲ以テ、塵ヲ掃クヲ云フ、中華ニハ、堂室ノ内モ、瓦ヲ敷ク、家ノ内ノ模様、我が朝ト變レバナリ、ソノ文ハ、禮記内則篇曲禮篇等ニ見エタリ【應對】共ニコトフルト訓ズ、某ト呼ブ時ニ、急ニコトフルヲ應ト云フ、事ヲ問ハル、時ニ、長クソノ子細ヲイフヲ對ト云フ、皆君子長者ニ仕フルノ禮ナリ、君父ノ前ニテハ、位高キ人ナリトモ、臣子タル職、カクノ如シ【進退】禮記内則篇ニ、謂ユル進退周旋慎齊トアリ、進ムニ時アリ、退クニ時アリ【節】ハ、儀節ナリ、ソノクサリクサリノホドヒヤウシヲ云フ、コレ皆小年ノ時ノ習ナリ、幼少ノ時ヨリ、カクノ如キヲ教ヘ入ルレバ、放心セズ、自然ニ禮敬ノ心ニナルナリ、今時ノ風俗ハ、微賤ノ者マデモ下人ヲ使フト計リ覺エテ、長者ニ仕フルノ作法ヲ知ラザル故ニ、心ヲゴリ、不敬ニナル【禮樂射御書數】詳ニ大全并ニ蒙引ニ見エタリ【禮】ニ五禮ト云フアリ、吉、凶、賓、軍、嘉、六【吉禮】ハ、祭祀ノ禮ナリ、昊天上帝日月星辰社稷五祀山川川澤、又ハ四時先祖ヲ祭ルノ屬コレナリ、ソノ條目十二アリ、大全并ニ蒙引ニ詳ナリ、今略シテ云フ、一、禋祀、二、實柴、三、禋燎、四、血祭、五、狸沈、六、禴辜、七、肆獻、八、饋食、九、祠、十、禴、十一、嘗、十二、蒸【凶禮】條目五アリ、コレハ邦國ノ憂ヲ哀シムノ禮ナリ、死亡民病禍福寇亂等ヲ云フ、皆ソレゾレニ補ヒ救フナリ、一、喪禮、二、荒禮、三、弔禮、四、贈禮、五、恤禮【賓禮】條目八アリ、コレハ賓客ヲ待遇スル禮ナリ、四時或ハ事アツテ、諸侯ノ參會シテ、王事ヲ行フ、ソノ賓主ノ禮ナリ、一、一朝、春見ユルヲ【宗】夏見ユルヲ【三】秋見ユルヲ【四】冬見ユルヲ【五】會ユルヲ【會】六ニ同、同ト云フ、七、二問、時ニ聘スル、八、二視、殷類ルヲ【軍禮】條目五ツアリ、コレハ軍ノ時、鼓鐸鉦ナドヲ以テ、坐

而教之以窮理正心修己治人之道。

而して之に教ふるに、理を窮め心を正しうし、己を修め人を治むるの道を以てす。

【窮理】ハ、格物致知ナリ、萬事萬物ソレゾレニ備ハル道理ヲ窮メ知リ【正心】ハ、誠意正心ナリ、正心ト云ヘバ、誠意モ兼ヌルナリ、心ハ本ナリ、意ハ心ノ發ナリ、學ハ、畢竟、心ト理トノミ、コレヲ以テ、己ガ身ヲ修メ、ソノ餘ヲ以テ他人ニ推シ及ボシテ、人ヲモ治ムルノ眞實ノ道ヲ以テ教フルトナリ、己ヲ修ムルハ明德ヲ明カニスルナリ、人ヲ治ムルハ民ヲ新ニスルナシ、コレ則チ大學ノ道ナリ、

此又學校之教。大小之節所以分也。

これ又學校の教、大小の節、分るゝ所以なり、

愚按ニ、此段ハ三代ノ法ノ寔ヤ備ハルト云フヲ結ビタル文ナリ【此】ト云フ字、前ノ此伏羲神農ト云フ文ノ此ト云フ字ニ相照ラシテ見ルベシ、皆上ノ文ヲ受ケタル文法ナリ、偕テ又、小學ハ聖賢ニナル地位ナリ、小學校ニテ其事ヲ習フト云ヘドモ、知見未ダ開ケズ、大學校ニ入ツテ、ソノ事理ヲ究メテ、聖賢ノ知見ヲ開キ、ソノ行モ篤クナル筈ナリ、頓速ニハ成ヲザルモノナリ、次第カクノ如ク教ヘ玉ハデ叶ハザル義ナリ、所以分也トハ、此意ナルベシ、コレ教法ノ殘ルトコロモナク備ハリタルモノナリ、大小之節ノ節ハ、節次ノ義ニシテ、ナリメ、キリメノ次第アルヲ云フナリ、此又ノ又ノ字ニモ、心ヲ附ケテ讀ムベシ、只ダ教ト云フバカリニテモナシ、大小ノ次第ヲ定メ玉フハ、備ハリタルトナリ●學ハ三代共ニ國學トテ、皆大學ナリ、小學ハ三代名ヲ異ニス、コノ校ト云フハ、周ノ小學ノ名ナリ、故ニ學ハ大學ナリ、校ハ小學ナリ【大小】ハ、大人小人ナリ、

夫以學校之設。其廣如此。教之之術。其次弟節目之詳又如此。

夫れ以みれば、學校の設、その廣きこと、此の如し、之を教ふるの術、その次第節目の詳なること、又此の如し、

【夫以】朱子ツクツク思惟スルニト云フ義ナリ【其廣】トハ、王宮國都ヨリ闕巷ニ至ルマデ、學校ノアルコトヲ云フ【教之之術】トハ、大學校小學校ニ入りテ勤メシムル學者ヲ教フル法ナリ【廣】ノ字ハ、上ノ王宮國都以及闕巷莫不有レ學ノ語ヲ承ケテ括ル、大全ニ【術】ハ、法也【次第節目】トハ、八歳ヨリ小學校ニ入レ、十五歳ヨリハ大學校ニ入ルハ次第ナリ、小學校ニテ洒掃應對等、大學校ニテ窮理正心等ハ節目ナリ【詳又如此】コノ四字ニテ、上ノ大小學、二ツノ教ヘテ説キタルヲコ、ニテ括ル、言フハ、熟ラ思惟シテ見レバ、學校ヲ建テ設ケテ置ク廣サ、カクノ如ク、偕テソノ大學校小學校ニ入レテ勤ムル學者ヲ教フル法式、ソノ大學校小學校ノ次第節目マデ、詳ニ丁寧ナルコト、又カクノ如シトナリ、

而其所以爲教。則又皆本之人君躬行心得之餘。不待求之民生日用彝倫之外。

而してその教たる所以は、又皆之を人君の躬行心得之餘に本づけて、之を民生日用彝倫の外に求むるを待たず、

愚按ニ、此處ノ文法、別シテ義理微妙ナリ、味フベシ【又皆】ハ、大學小學ノ教共ニ皆ナリ【其所以爲教】其教ノ様子ハト云フ意、總ジテ、何事ニテモ、他人ニ教フルト云フハ、吾ガ得タルトコロヲ推シ及ボスヲ云フ、コレ教ノ教タル所以ナリ、人君ノ身ハ教ヲ立ツルノ本ナリ、謂ユル爲「億兆之君師、繼天立極者ナリ、然レバ、人君タル人ノ仁義ヲ我が身ニ行ヒ、心ニ其理ヲ會得シテ上ニ、人ヲ教フレバ、民自然ニ感化シテ、從ヒ易キナリ、命令言語バカリニテハ從ハザルモノナリ、喩ヘバ、日ヲ度ルニ、表正シケレバ影正シキノ道理ナリ、心ニ得躬ニ行フトアルベキ句ヲ、躬ニ行ヒ心ニ得ルト書キ玉フハ、別シテ、面白キ義理、味フベキトコロナリ、コレ實ニ自得ノ道理ナリ、心ニ得ルハ、勿論知ノコトナレバ、先ナレドモ、喩ヘバ、吾ガ身ニ孝ヲ行ヒテ、ソノ孝ノ義理ヲ曉ト會得シタルハ、眞實ノ孝ノ理ナリ、吾ガ身ニ弟ヲ行フテ、ソノ弟ノ理ヲ篤ト合點シタルハ、眞實ノ弟ノ理ナリ、ソコヲ他人ニモ、コレ孝ナリ、弟ナリト教

フル時ハ、人モ感ジテ、ソノ教ニ從フナリ、旨キヲ食ヒテ味ヲ知り、人ニモ與ヘルト同ジ【餘】トハ、吾ガ身ニ足レルノ溢ルルヲ云フ、餘ハワケトモ訓ズ、食ノ喫ヒ殘シナリ、或ハ吾ガ身ニ物ヲ多ク持テバ、人ニ配分シテ遣ル、食モ吾ガ身ニ飽滿シテ、他人ニ分ケテモ與ヘルナリ、吾ガ身飢エテハ、施シ難キガ如ク、人君ノ身ニ十分行ヒ得タル心ヲ以テ、他人ヲ教フルガ大學ノ道ナリ【不待求】トハ、コノ句ノ意ハ、教ヲ受クル民ハ、何事ヲ習フゾト云ヘバ、人倫日用ノ事ナリ【不待】ノ二字ハ、教ヲ爲ス人ヘ系ル【求】ハ、セムルトモ訓ズ、人君ノ教フルコトハ、彝倫日用ノ事ヲ求ムルナリ、コノ道ヲ習フコトヲ求ムルヨリ外ハナシ【待】トハ、心期ニスル意、喻ヘバ、佛者ノ後世ヲ願フテ佛ニナリ、極樂ヘ往カント願フガ如キ意ナリ【外】ハ、天理常道ニ異ナルヲ云フ、大全、韓氏古遺曰、言レ外便有佛老【日用】ハ、易ノ繫辭ニ、百姓日用不知ト云フニ出ヅ【彝倫】ハ、書經洪範曰、我不知、其彝倫、攸、斂、注、彝、常、倫、理、也トアリ、即チ五倫五常ナリ、

是以當世之人無不學。

訓讀 これを以て當世の人學ばざるはなし、

【是以】ノ二字、上ヲ受ケテ云フ【當世】ハ、ソノ時世ニ當ツテナリ、三代ヲ指ス、言フハ、若シ父母ヲ弑セ、主君ヲ踏セヨトナドト教ヘバ、何如ナル人モ、難題ニ思ヒ肯フマジケレドモ、君臣父子夫婦兄弟朋友ノ日用彝倫ノ人々心ニ固有シテ、會得シタルコトヲ教フルニ依ツテ、コレヲ以テ、三代ノ世ニ當ル人、皆喜んで學バズト云フコトナシ、

其學焉者無不有以知其性分之所固有職分之所當爲而各俛焉以盡其力。

訓讀 そのこれを學ぶものは、以てその性分の固有するところ、職分の當に爲すべきところを知つて、各俛焉として以て其力を盡すことあらざるはなし、

上ノ文ノ無不學ハ、小學大學ヲ合セテ説ク【其學焉者】ハ、専ラ大學ノ學者ヲ指スト、大全ニ吳氏程ノ説アリ、然レドモ、竊ニ按ズルニ【學焉】ト云フハ、専ラ大學ヲ指スベカラズ、上下ノ文ヲ考フルニ、此處ニテ俄ニ大學ノ學者ノ事バカリ出スベカラズ【知其性】ト有【ハ】、大學ナリ【知職分】ト爲【ハ】、小學ナリ、故ニ【學焉】ノ二字ハ、大小ヲ兼ネテ見ルベシ【性分固有】ハ、仁義禮智、コレ理ノ體ナリ、本ニ就イテ云フ【職分當爲】ハ、五倫ヲ云フ、子ノ職分ハ孝、臣ノ職分ハ忠ノ類ナリ、コレ事コレ用ノ上ニ就イテ云フ、知性分職分ハ知ノ察【俛焉盡力】ハ、行ノ事ナリ、前ノ知ニ性之所固有而全之ト相照ラシテ見ルベシ、性分職分ノ分ノ字、共ニ分際分上ノ義ナリ【固有】易ノ益、卦象云、益用凶事固有之也トアリ【俛焉】ハ、禮記表記、俛焉日有孳々ト、朱子語類ニ俛刺、著頭、只管做將去底意思トアリ、小補韻會ニ抵頭也トアリ、俗ニ小首傾ト云フニ同ジ、言フハ、當時大學校小學校ノ教ヲ學ブ者共ハ、ソノ本性ノ外ニ求メズ、性分固有ノ仁義禮智ノ理、又面々行フベキ職分ハ、道理ニ當ツテ行ハネバ叶ハヌト云フコトヲ明カニ知ルニ依ツテ、我モ我モト俛焉ト小首傾ケテ餘念ナク勢力ヲ盡サヌト云フコトナク勉ムルナリ●愚按ズルニ、此段皆學力ノ致ストコロナリ、

此古昔盛時所以治隆於上俗美於下而非後世之所能及也。

訓讀 これ古昔盛時、治、上に隆に、俗、下に美しくして、後世の能く及ぶところにあらざる所以なり、

【此】ハ、上ノ文ヲ受ケテ云フ【古昔】ハ、三代ヲ指ス【盛】ハ全盛ナリ、上ノ三代之隆ノ語ニ映ス【治】去聲、政ノ字ト同意【隆】ハザカリト訓ズレドモ、隆汚ト相對シテ用フル字ナリ、高ク清キ意ナリ【俗】ハ、ナラハシト訓ズ、上ノ行フトコロ、下ニ習フテ見ハル、ヲ云フ、言フハ、上ニ云フトコロ、コレ古昔三代ノ盛ニ道行ハレシ時、治ハ上ニ隆ク清潔ニ行ハル、ニ依ツテ、萬民ノ風俗マデガ、下ニ美シク厚シ、右レ學問ノ進ミ長ズルガ故ナリ、カクノ如クナルハ、後世衰亂ノ世ノ中々及ビ届クトコラニアザル所以ナリ 後世ハ學問廢レタルニ依ツテ、終ニ君臣上下亂ル ●愚按ニ、小學校ニ入ツテ、下愚ナル者ハ皆

工商農、ソレゾレノ業ニ歸ス、然レドモ、皆小學校ノ教ヲ經テ來ル者ナル故ニ、凡民ナレドモ、風俗ヨキト見テ可ナ
ランカ、蒙引曰、治隆ニ於上、應ニ前段說ニ上之所ニ以爲教、所謂本ニ之人君躬行心得、餘ニ俗美ニ於下、應ニ前段說ニ下之所ニ以
爲學、所謂當世之人無レ不學、云々其學ニ焉者上有ニ是教、治所ニ以隆ニ於上、下有ニ是學、俗所ニ以美ニ於下、

及周之衰。賢聖君不作。學校之政不修。教化陵夷。風俗頹敗。

周の衰ふるに及んで、賢聖の君作らず、學校の政修まらず、教化陵夷し、風俗頹敗す、

コレヨリ發ス其意ト云フマデ、第三節ナリ【周之衰】按ズルニ、周ノ第十三主幽王子ナリ襄嬪ト云フ美人ヲ愛シテ后ト
シ、太子宜臼、ソノ母ノ妻申后ヲ廢ス、去ルニ依ツテ、申后ノ父申伯怒ツテ、犬戎ト云フ夷ト力ヲ合セ、亂ヲ起シ、驪山ノ
下ニテ、幽王ヲ弑シ、太子宜臼ヲ取り立テ天子トシ、コレヲ周ノ平王ト云フ、コノ時、中國ハ夷ノ住家トナリタル
ニ依ツテ、古シヘノ岐周ニ居ラレズシテ、東方洛邑ニ都ヲ遷シテ、諸侯ノ如ク威勢衰フ、コレヲ周ノ東遷ノ代ト云フ【教】
ハ、學校ノ教ナリ【化】ハ、聖人ノ德ヲ以テ、惡人モ善人ニ自然ニ變化スルヲ云フ、喻ヘバ、四時ノ移リ易ハルガ如
シ、唯ダ今春ニナスゾト云フ觸レモ沙汰モナケレドモ、春ニナルト、柳ハ自ラ綠、花ハ自ラ紅ニ、百鳥ハ好音ヲ自然
ト出ス、カクノ如クナルヲ化トハ云フナリ【陵夷】前漢書成帝紀曰、帝王之道、日以陵夷、注、師古曰、陵丘也、夷平也、言
其類替行ニ丘陵之漸平也、又曰、陵遲、亦言、如丘陵透遲稍卑下也、言フハ、聖人ノ教化ハ、小山ノ如ク高キガ漸々ニ崩
レテ、程ナク平地ニナリタルガ如シ【風俗】字彙ニ上所レ化曰風、下所レ習曰俗、民ノナラハシナリ、風ハ物ヲ動カス物
ナリ、上ノ德風ノ下ニ及ブハ、風ノ吹イテ物ヲ動カスガ如クナル故ニ、風ト云フ、俗ハ下ノソレニ遷ルヲ云フ【頹敗】ハ
クヅレヤブル、言フ心ハ、周ノ代モ衰ヘタルニ代ツテ、上ニ賢聖帝モ作り玉ハズ、サルニ依ツテ、學校ノ政モ、懈怠
シテ修マラズ、散々ノ底ニナルガ故ニ、教化モ漸々ニ陵夷スルナリ、カクノ如クナレバ、下萬民ノ俗モ頹レ敗ル、ナ

リ、此段、周之衰ト云フヨリ風俗頹敗スト云フマデ、次第シテ見ルベシ●教化陵夷、治不隆ニ於上也、風俗頹敗、俗不
美ニ於下也【學校之政】蒙引云、學國學也、校、鄉學也、政、指學校之設之廣、及所教次第節目之詳者、言、

時則有若孔子之聖。而不得君師之位。以行其政教。

時には孔子の若きの聖あれども、しかも君師の位を得て、以てその政教を行はず、

【政教】君師之位ハ、即チ天子ノ事ナリ、上ニ云フガ如ク、二人ナラズ、一人シテ執リ行フコトナリ、コノ文法惡シク
見ルベカラズ、君師ノ位ヲ得ルコトハ得玉フタレドモ、ソノ政教ヲ行ヒ玉ハヌト云フ文義ニ非ズ、間ニ以ノ字アリ、又
不得ノ字、上ニアル故、不得君師之位ニ不得以行其政教トノ文法ナリ、言フハ、上ニハ賢聖ノ君ナクトモ、下ニ
ハ天命ジ玉フベキ聖人ハナカッタカト云ヘバ、カカル時節ニ、孔子ノ如キ聰明睿智ノ大聖人、御出生ナサレタレドモ、
是非モナイ仕合カナ、時運惡シキ故ニ、君師ノ位ヲ得ザレバ、萬機ノ政ヲ行ヒ、教ヲ施スコトヲ得玉ハズトナリ【時
則有若孔子】書周書君奭篇、時則有若伊尹、格于皇天、蔡註、時則有若者、言當其時有如此人也●蒙引云、孔子
之聖、亦所謂聰明睿智、能盡其性者也、

於是獨取先王之法。誦而傳之以詔後世。

於是に於て、獨り先王の法を取り、誦して之を傳へて以て後世に詔ぐ、

【於是】トハ、上ヲ受ケテ云フ、カクノ如クナルニ依ツテトナリ【獨】トハ、獨善其身ノ意ナリ【先王之法】ハ、大學小
學ヲ兼ネテ云フ【傳之】之ノ字ハ、大學小學ノ法ヲ指ス、言フハ、上ニ述ブル如クナルニ依ツテ、孔子ノ道、當時天下
ニ行ハレマジキヲ知り玉ヒテ、退イテ、獨り三代先王ノ教ノ行ハレタリシ法ヲ取ツテ、口ヅカラ誦ミ説イテ、三千七十子

ノ御門弟ニ之ヲ傳ヘ玉フハ、後世ヘ遺シ置キテ、諸人ニ詔ゲ知ラシメンガ爲ナリ、コレ大學ノ書ノ起リヲ述ブ【誦】ト云フヲ暗ニ唱ヘテ聽カセ玉フト云フ説アリ、又講説ノ事ト云フ説モアリ、誰カ是ナラン、ソノ事迹知ルベカラズ、
若曲禮少儀内則弟子職諸篇固小學之支流餘裔。

【曲禮】ハ、禮記首篇ノ名、ソノ禮、飲食起居進退等ノ委曲ナルコトヲ盡ク記ス、故ニ曲禮ト名ヅク【少儀】モ、禮記第十七篇ニアリ、洒掃應對ノ瑣少ナル行儀ヲ記スニ依ツテ、少儀ト名ク【内則】モ、禮記第十二篇ニアリ、ソノ禮、婦ノ姑ニツカヘ、子タル者ノ父母ニ事フルノ儀式ヲ記ス、皆門内一家ノ法則ヲ記シタルト云フ意ニテ、内則ノ篇ト名ヅク【弟子職】ハ、管子ト云フ書ノ卷五十九ニアリ、ソノ禮、弟子ノ師ニ事フル儀式ヲ記ス、管子ハ、齊ノ桓公ノ臣管仲ナリ、管仲ガ著セル書ナリト云ヒ傳フレドモ、朱子ハ、彼ナドガ作ルベキ書ニ非ズ、イカサマ、別人ノ作ナルベシトノタマヘリ【支流餘裔】支流ハ、本ト大川ノ直流ナラヌ支川ノ流ナリ、餘裔ハ、アマルモスソナリ、又四ツニ分ケテ辯ズル説アレドモ用フベカラズ、何ニ見テモ、物ノ端少ノ義ナリ、言フハ、コノ曲禮・少儀・内則・弟子職ノ諸篇ノ如キハ、皆古シヘ小學校ニテ學ビシ事ドモナリ、然レドモ、孔子ノ御説キナサレタヲ殘ラズ記述シタラバ、結構ナル事ドモ多カラシケレドモ、聖代ノハ、秦火ニ燒亡シテ、ヤウヤウ今ノ世ニ、コノ諸篇ガ殘リタルハ、聖人小學ノ教ノ支流餘裔ナリ、畢竟、小學ハカクノ如クナレドモ、大學ハ左アラズト云ハン爲ナリ、諸テ今傳フルトコロノ小學ノ書ハ、朱子推量ニシテ、古シヘノ書ニ擬シテ作り玉フナリ、

而此篇者。則因小學之成功。以著大學之明法。外有以極其規模之大。而內有以盡其節目之詳者也。

訓讀 しかるに此篇は、小學の成功に因つて以て大學の明法を著し、外には以てその規模の大きを極むることあり、内には以てその節目の詳を盡すことあるものなり、

【此篇】トハ、孔子ノ説キ玉フ經文一章ヲ指ス【規】ハ、所以爲圓者也引俗ニ云フブンマハシ、圓キモノノ定規ナリ【模】ハ、鑄金之模、イガタト訓ズ、二字共ニ法度正シキヲ云フ【節】ハ、竹ノ節【目】ハ、網ノ目ナリ、コレ皆段々フシブシ文アルヲ云フ、愚按ニ、コノ文義、能ク見分ケテ解クベシ、此篇ト云フ語ヲ節目之詳者也ト云フ文マデ通ジテ見ルベシ、大學ハ、小學ヲ基トシテ教ヲ立テ玉フ、小學ニテ、聖賢ノ基ヲ立テ、足バテ定ムルトコロナリ、然ルニ、小學ノ書、多クハ失セテ殘ルトテモ、僅ナルヲ惜ム意ヲ述ベ玉フ故ニ、支流餘裔ノ句ノ下ニ而ノ字アルハ、下文ノ此篇ト云フ字ヘ受ケテ見レバ、連續スルナリ、諸テコノ大學ト云フモ、小學ノ功成ルニ因ツテコソ、大學ノ明法ヲモ、聖人ノ著述ナサレタルモノナリト云フ義ナリ、著ノ字ハ、此篇ト云フニ相照ラシテ看ヨ、行ヒ著ハスト見ルハ非ナルベシ、但シ成功ノ字ニ對シテ、著ノ字、行ト見タルモノナラン、然レドモ、此篇ト云フ字ハ、書ニ系リテ云ヒタルモノナレバ、著ノ字ハ、著述ノ義ニ見テ可ナラン歟、平天下ト云フハ、規模ノ大ナルナリ、節目ト云フハ、格物致知誠意正心修身ノ工夫ノ次第詳ナルナリ●愚按ニ、明法ハ、明德ヲ明カニスルハ大學第一ノ綱領ナリ、故ニ明カニスル法ト云ナリ、又云フ、大極メ詳ヲ盡スハ、コレ至善ナリ、規模節目、共ニ大詳悉ク殘ラザルトコロガ至善ノ極ナリ、又云フ、外トハ、家國天下ヲ指シ、内トハ、身ヲ指シテ云フナリ、規模ハ、ブンマハシ、イカタ、大學ヲ學ブ者ハ、伊尹ノ志ストコロヲ志シ、顔子ノ學ブトコロヲ學ブト、朱子ノ説キ玉フハ、規模ヲ大ニ立ツルトコロ、又至善ノ學ナリ、此篇ト指スハ、大學經文ト先ヅ心得ベシ、經文ハ、畢竟工夫ノ目錄ナリ、然レドモ、ソノ旨ヲ究ムレバ、規模大ニシテ、節目又詳ニ備リタル教ナリ【成功】論語泰伯篇云、巍巍乎其有成功也、朱註、成功、事業也●書太甲中篇曰、臣罔以寵利居成切【節目】學記云、後其節目、方氏曰、節則木理之剛、目則木理之精、

三千之徒。蓋莫不聞其說。而曾氏之傳。獨得其宗。於是作為傳義。以發其意。

【訓】 三千の徒、蓋、その説を聞かざるはなし、しかも曾氏の傳、獨り其宗を得たり、ここに於て、傳義を作為して、以て其意を發す。

【三千之徒】トハ、史記卷四十七、世家第十七、弟子蓋三千焉、身通三六藝者七十二人ト記ス、ソノ中、學業絶レテ、二姓名知レタル者七十二人ナリ、三千トハ、司馬遷世ニ云ヒ傳フル通りヲ記ス、故ニ、史記ニテモ、蓋シ三千ト記ス、蓋ノ字、史記ト此序ト意別ナランカ【其説】トハ、上文ニ云フ此篇ト云フヘ系ケテ、大學ノ説ト見ルベシ【曾氏之傳】トハ、此處ニハ、直ニ曾子一人ノ如ク見レドモ、氏ノ字ニ心ヲ用フベシ、氏ト云ヘバ、某ノ家ト云フ意ニテ、子孫門弟マデモ通ジタル義ナリ、傳十章ハ、直ニ曾子ノ筆ニハ非ズ、曾子ノ意ヲ傳ヘ得タル門人ノ筆ナリ、故ニ曾子ト言ハズシテ、曾氏ト書キ玉フハ、斟酌アル文法ナリ、ソノ證據ニハ、末ニモ其傳十章則曾子之意而門人記之也トアリ【宗】ハ、正也ト、大全黃洵饒ガ説アリ、然レドモ、宗ノ字ヲ正ト訓ズルニハ非ズ、正シキ意ナリ、又小補韻會ニハ、流派之所出トアレバ、流水ノ源ヲ云フ、此處ニテハ、道ノ根本ヲ傳ヘ得タリト云フ意ナリ、言フハ、太史公ハ、身通三六藝者七十二人ト傳ヘ聞ケル通りヲ記サレタレドモ、三千ノ徒モ、サスガ孔子ノ門下ニ居ラレタレバ、大學ノ説ヲ聞カレヌト云フコトハ有ルマジキト推量シテ、朱子書キ玉フニ依ツテ、蓋ト疑ノ詞ヲ用フト見エタリ、中ニモ、曾氏ノ傳、ソノ宗ヲホロビタリ、サルニ依ツテ、傳賢人ノ書ヲ義十章ヲ作為シテ、孔子ノ思召人ノ意ヲ發明スルナリ、

及孟子没而其傳泯焉。則其書雖存。而知者鮮矣。

【訓】 孟子没するに及びて、その傳泯ひたり、則ちその書存せりと雖も、知れるもの鮮し、

コノトコロヨリ末ニ至ルマデ、第四節ナリ、言フハ、曾子ヨリ子思孟子ト傳來シテ孟子マデハ傳ヘタレドモ、孟子没

シ玉ヒテヨリハ、ソノ傳泯絶セリトナリ孟子ノ門人ニ道統ヲ續ベキモノナキ故ナリ【其書】トハ、大學經傳、合セテ、コレハ亡ビズシテ、禮記ノ中ニ存在ストイヘドモ、カクノ如ク世教ニアヅカル大功ノ書ト云フコトヲ知ル者ナシトナリ【知】蒙引曰、謂レ知ニ其書之有ニ關シ世教【鮮矣】トハ、或ハ曰ク、孟子以來ニ會テ無キトハ云ハレズ、ソノ間ニ前漢ノ董仲舒ヤ、唐ノ韓退之ナドガ類アル故ニ、鮮矣ト、朱子書キ玉ヘリト云フ、コノ説、不可ナリ、カクノ如キ文法、例多シ、論語學而篇曰、鮮矣仁、朱子注、專言鮮則絶無、可レ知トアリ、鮮ト云フハ、迫切ナラヌ辭ナリ、畢竟ハ無シト云フ義ナリ【及孟子没】聽雨紀談云、史記孟子列傳、不レ書其生卒歲月、予嘗觀孟子譜ニ云、孟子周定王三十七年四月二日生、即今二月二日、赧王二十六年正月十五日卒、即今之十一月十五日、壽八十四、郟邑里人至今、遇冬至日廢賀節之禮、蓋有自來矣、

自是以來。俗儒記誦詞章之習。其功倍於小學而無用。

【訓】 これより以來、俗儒の記誦、詞章の習、その功、小學に倍すれども、しかも用なし、

【自是】トハ、孟子没シテヨリ以來ナリ【俗儒】塵世ノ風俗ニ從ヒテ、飾ヲナシ、道ニ志ヲ立テザル者ヲ云フ【記誦】ハ、記憶物覺強キヲ記ト云フ、文字ニ背キテ暗ニ讀ムヲ誦ト云フ、後漢ノ代ノ鄭康成・馬融、趙宋ノ代ノ劉原父ガ流【詞章】ハ、詞華言葉ニ念ヲ潛クシテ、詩ヲ作り、文章ナドヲ書イテ、ソノ功ニホコル者ヲ云フ、前漢ノ代ノ司馬相如・司馬遷、李唐ノ代ノ柳宗元・劉禹錫ガ輩【習】ハ、講習ナリ、言フハ、孟子滅没以後、先ヅ儒者ト名乗ル中ニモ、カクノ如キ惡キモノアリ、コレ等ノ如キハ、皆本ヲ失ヒテ、末ニノミ拘ハル、故ニ儒ト云フ、最モ氣力ヲ盡シ、骨ヲ折ルコトハ、夜ヲ日ニ繼イデモ學ブ程ニ、小學ニハ千萬倍スル様ナレドモ、却ツテ、心術ノ妨トナリテ、吾ガ身ノ用ニ立タズ、人倫日用ノ益ナシ、小學ニテ習フコトハ、今日一事習ヒ得レバ、早ヤ今日ノ益ニナリ、人倫ノ用ニ立ツナリ、

異端虛無。寂滅之教。其高過於大學而無實。

異端の虛無、寂滅の教、その高きこと大學に過ぎたれども、しかも實なし、

羅山道春曰、俗儒記誦、異端虛無、清家ノ古點ニハ、俗儒ニモ、異端ニモ、ノノ假字ヲ付ス、今代ニノ、假字ヲ付ケテ讀ム、古點ヨリ勝レリト云ヘリ、又寂滅ヲ漢音ト作シテ讀ムハ、即チ清原ノ類業ナリ、近代、三條ノ稱名院頭陀寺ノ碑銘ヲ、トウダ寺ト讀メリ、五山ノ諸長老、竝ビ諸儒聞イテ之ヲ感ズ【異端】論語爲政篇云、子曰、攻乎異端、斯害也已、注范氏曰、異端、非聖人之道、而別爲二端、如楊墨是也、孔子ノ異端ト曰ヒ玉フハ、誰ヲ指シ玉フヤチ知レズ、兎角、堯舜先王ノ道ニ反シタルヲ、皆異端ト云フナリ、堯舜先王ノ道ハ、天道ニ法リ、教ヲ垂レ玉フ伏義易道ノ義ナリ、カクノ如キ道ニ背イテ教ヲ立テタルハ、皆私ノ意ナリ、コレ別ニ一端立テタルニ依ツテ、先聖ノ教ノ外ハ皆異端ト、儒家ヨリ指ス、異端ノ字、異ナル端ト云フ、端ヲ異ニストモ訓ズ、例シテ云ハ、論語ニ載スル長沮・桀溺・晨門・荷蓀丈人・齊ノ管仲ヲ始トシテ、後世ニ行ハル、申不害・韓非子ガ刑名法術、楊朱ガ爲我、墨翟ガ兼愛、老子釋氏ニ至ルマデ、何レモ、堯舜禹湯文武ノ教ニ違フ、皆異端ナリ【虛無】ハ、老子ノ道ヲ指ス、老子、經五千餘言ノ中ニ虛無ノ二字ハ無ケレドモ、ソノ書ノ中ニ虛無自然ノ旨ヲ一向説ク、纔ニ言語ニ渡リ、道理ニ渡ルハ、第二義トシテ嫌フ、羅山曰、老子ノ虛無自然ハ俗ニ云フ成リ次第ト云フガ如シト【寂滅】佛氏ヲ指ス、涅槃經曰、諸行無常、是生滅法、生滅滅已、寂滅爲樂、法華經一卷ニ諸法從本來、常自寂滅相、コレハ教ノ意ヲ高ク説キタル文ナレドモ、空空寂寂ノ旨ハ、禪家ニモ同ジ、ソレヲ極意ニ立ツルナリ、老子ノ虛無モ、釋氏ノ寂滅ト云フモ、畢竟見所似タルコトナモ、皆空虚寂寂ヲ旨トシテ、道理ヲ立テズ文字言句ヲモ立テズシテ、乾坤ヲ塵芥ト見、人間ノ事ヲ夢幻ト見、山河大地ヲモ空無ト見テ、悟道ノ至極トナスナリ、カクノ如クノ所見ナル故、天理ヲ滅シ、人倫ヲ害ス、皆コレ道體根元カラ大ニ違ヘリ、カクノ如クナレバ、何底ヲ見タト云フモノゾ、コレハ是レ高キ様ナレドモ、皆虛偽ニテ、眞實ト云ハレズ、一事ヲ以テ喻フレバ、人ノ子トシテハ孝、人ノ父トシテハ慈ナドアルハ、大學ニ於テハ、至善ノ大目ナルニ、釋氏ハ愛著ヲ離ルルガ悟道ト云フ

ハ、ソノ高キコト、大學ヨリモ拔群過ギテ高キニ似タレドモ、不易ノ實理ヲ滅スナリ●無實ト云フニ三義ヲ付ケテ見ルベシ、理ニ對スルニ實アリ、事實コレナリ、例セバ、儒家ニテ、仁ノ理ヲ云フハ、先ヅ親ニ事フルノ實ナリ、忠ノ理ヲ云ヘバ、君ニ事フルノ實ナリ、然ルニ、佛家ニハ理ヲ立テザル故、親ニ事ヘ君ニ事フル事實ナシ、又名ニ對スルノ實アリ、コレヲ名實ト云フ、儒ニハ父ト名ヅケレバ、眞ノ父ナリ、子ト名ヅケレバ眞ノ子ナリ、兄弟ト名ヅケレバ、眞ノ兄弟ナリ、佛氏ニハ師ヲ父ト名ヅケテ拜シ、弟子ヲ子ト名ヅケテ慈ミ、長者ヲ師兄ト名ヅケ、少者ヲ師弟ト名ヅケレドモ、名アツテ實ナシ、彼ハ眞ノ父子兄弟ニ非ズ、コレモ天地ノ間ニ生ズルカラハ、五倫ノ道ヲ逃ル、コトハ能ハズ、又華ニ對スル實アリ、儒ニハ書ヲ讀ミ言語ヲ聞ケバ、ソレゾレニ其實アリ、佛氏ニ山河大地ヲ空虚ト云ヒ、乾坤ヲ塵芥ト云ヘドモ、大山ハ今モ大山、天地ハ今モ天地ナレバ、言語ヲ飾リテ、華ヲサカセテモ實ハナシ、カクノ如ク見テモ、佛氏ハ實ナキナリ、凡ソ異端ノ道ハ、己一人ノ心法ヲ立テントテ、天地萬物ヲ絶滅スル故ニ、或ハ無ト云ヒ或ハ有ト云ヒ、皆私見ヲ以テ鑿スルナリ【俗儒……】【異端……】雙關ノ文法ニ説イテ、其功倍ニ小學而無用、其高過ニ大學而無實ノ二語ニ抑揚アリ【虛無】老子十六章云、致虛極、守靜篤●第三章云、虛其心、實其腹●第五章云、虛而不屈●第一章云、常無欲以觀其妙●第十一章云、當其無、有車之用、

其他權謀術數。一切以就功名之說。與夫百家衆技之流。所以惑世誣民充塞仁義者。又紛然雜出乎其間。

【其他】トハ、ソノ外ニモト云フ義ナリ、前ノ異端儒俗ノ外ヲ云フ【權謀】トハ、詐ヲ以テ利ヲ謀ルコトヲ第一トスルヲ云

フ、商鞅張儀ガ僞ナリ、必ズシモ管仲ヲ兼テ言ハズ、蒙引ニ管仲是孟子前人也ト云ヘリ【術數】ハ、聖人ノ易ヲ惡ク見違テ、道義ヲ本トセズ、一向ニ術ヲ以テ數ヲ立テ、吉凶禍福ヲ占フヲ云フ、焦贛・京房・李淳風ガ屬【一切】ハ、和訓ニツヤツヤト讀ム、ヲシナメテト云フ意【以就】ハ、右ノ輩ハ、功ヲ彰ハシ、名ヲ成就スル事ノミナリ【說】トハ、當時口ニテ云フノミナラズ、ソノ功利名聞ノ術ヲ面々書ニ著シテ、世ニ傳ヘ廣ムルヲ云フ、吳子孫臆鬼谷子ガ屬、皆書ヲ著セリ【夫百家】蒙引云、如九流等是也、九流ハ儒家ノ外ナリ、漢書、一曰道家者流、二曰陰陽家者流、三曰法家者流、四曰名家者流、五曰墨家者流、六曰雜家者流、七曰縱橫家者流、八曰農家者流、九曰小説家者流ナドアリ、詳ニ蒙引ニ説アリ、百家トアレバ、コノ外ニモ、ソレゾレ一分ノ家ノ流ヲ立テ廣ムルナリ【衆技】モロモロノ技藝ナリ、コノ類多ク世俗ニ嗜キ好ムニ依ツテ夫ト指ス【所以】右ノ如クナル邪道ヲ以テ、世ヲ惑ハシ、萬民ヲ欺キ昏マシテ、仁義王道ノ四海ニ流行スベキヲ充テ塞ギ、妨ヲナス者ドモ、異端俗儒ノ外ニ、又紛然トミダリガハシク出ヅルナリ【其間】蒙引云、謂衆民之間也、上文出於其間問字亦同矣●愚按ズルニ、孟子滅後已後ヨリ、宋以前マデヲ指ス、

使其君子不幸而不得聞大道之要。其小人不幸而不得蒙至治之澤。

【君子】ハ、在位ノ君子ナリ、小人モ下民ヲ云フ【大道之要】ハ、聖人大道ノ肝要大學ノ道ヲ云フ【不幸】ハ、俗ニ云フ不仕合ナリ【至治之澤】ハ、至極結構ナル政治ノ君ノ御恩澤ナリ【使】ノ字眼ナリ、最前ノ異端俗儒權謀等ノ輩ニ系ケテ見ルベシ、言フハ、道ヲ知ル者アリテ、時ノ人君ニ勸メ説クモノナキ故、人君モ不仕合ニシテ、聖人大道ノ要ヲ聞キ玉フ事ナキ故ニ、下、小人萬民モ不仕合ニシテ、善政ノ恩澤ヲ蒙ルコトヲ得ヌハ、上下共ニ不幸ナリ、コレハ誰ガカクサスルゾト云ヘバ、前ノ輩ドモガ妨トナルナリ、大道暗キ時ハ、種々ノ邪説ガハヤリ、世ニ行ハル、モノナリ、

晦盲否塞。反覆沈痼。以及五季之衰。而壞亂極矣。

【晦盲】ニ、二字共ニクラシト訓ズ、但シ日月ノクラキヲ晦ト云ヒ、兩眼ノクラキヲ盲ト云フ、コノ二字ハ道ノ明カナラザルヲ云フ【否塞】共ニフサガルト訓ズ、但シ氣ノフサガルト否ト云フ、河ノ流ノフサガルト塞ト云フ、二字道ノ行ハレザルヲ云フ【反覆】ハ、カヘリクツガヘルト訓ズ【沈痼】ハ、二字合シテ、何程療治シテモ、本復ナラヌ病ヲ云フ、蒙引ニ分ケテ説ケドモ、上ノ反復ニ連綿ノ文字ナレバ、必ズニツニ分ケテ辨ズベカラズ、文選卷二十三、劉公幹贈五官中郎將詩云、余嬰沈痼疾、竄身清漳濱【五季】ハ、李唐ノ後、趙宋ノ前ニ後梁・後唐・後晉・後漢・後周ノ五代アリテ、暫ク一年二年ヅツ天下ヲ保ツニ依ツテ、スベテ五代ト云フ、季ノ字ハ世ノ季ト云フ意、或抄ニ、皆古シヘノ天子ノ末孫出デ、保ツ故ニ、季ト云フト云ヘリ、愚按ズルニ、然ラズ、多クハ夷狄又ハ帝系ノ者ナラズ、然ルヲ何ゾ天子ノ末孫出デ世ヲ保ツト云ハン【壞亂】…禮記雜記ノ篇ニ出デタリ、ヤブレミダ、ト訓ズ【極】ノ字、筆端鼓舞ノトコロナリ、コノ上ハ惡クセントテモ、惡クナルベキ様ノナキ體ヲ極ト云フ、コノ文勢ヲ見レバ、亂極マリテ治マルベキ機ガ見ユルナリ●丘瓊ノ正史世綱五季世史ノ下ニ曰、唐亡之後、相繼而起者五姓、所謂梁唐漢晉周是也、自宋人作五代史、世因稱之爲五代、夫謂之代者、必繼世之長、歷二十數世也、五姓僭亂、歛起忽滅、甚至繼世止有三主、歷年僅見四稔、較之有周一代八百年之長、如何哉、同以代稱、似非其倫、今因朱子大學章句序中語、改稱五季云●丘瓊山ノ語ニ因ツテ見レバ、序文ハ春秋ノ筆法ナリ、通鑑并ニ綱目ニ五代ト書セルハ、シバラク舊史ニ從ツテ未ダ正サザルノミ、

天運循環。無往不復。宋德隆盛。治教休明。

【訓】天運循環、往いて復らざることなし、宋德隆盛、治教休明なり、

【循】ハ、メグル【環】ハ、タマキナリ、天ノ運氣ハ、環ノ端ナキガ如ク、一タビ住イテ本ノトコロヘ立チ復ラヌト云フコトナシ【宋德】ハ、宋ノ開基ハ、太祖皇帝、諱ハ匡胤、姓ハ趙、コレヨリ、太宗・眞宗・仁宗、イヅレモ明天子ナリ、言フハ、壞亂極マル時ハ、人間世ハコノ分ニテハ行末何トヤラント思ヒシニ、宋ノ代起ツテ帝德隆ク盛ニ、政治教化、廣大ニ及ブトナリ【隆】ハ、蒙引云、高起也、與盛義、亦差別【隆盛】淮南子卷二十一要略訓云、褒先聖之隆盛、而貶末世之曲政【休明】休美也、治ノ字ニ系ケテ見ルベシ、明ハ教ノ字ニ系ケテ見ルベシ、左傳宣公三年云、鼎遷于周、武王伐紂而德之休明、美光明之時、雖小、重也、有德則重、已上林堯叟註【天運循環】四字見、尙書大傳、蒙引云、環圓物也、以其過而復始、旋轉不、故曰循環、類書纂要三云、循環運也、言四時流行不息、如圓環轉運、也【無往不復】四字、見、易泰卦爻三、【宋德隆盛】詳説云、我宋之德、太祖太宗眞宗仁宗、可謂極其隆盛、矣、蒙引云、隆高起也、與盛義、亦差別、

於是河南程氏兩夫子出而有以接乎孟氏之傳。

【訓】こゝに於て、河南の程氏兩夫子、出でて以て孟子の傳を接ぐあり、

【河南】ハ、郡ノ名、大明一統志卷ノ二十九ニ見ユ【程氏兩夫子】トハ、程氏兄弟ヲ指シテ云フ【夫子】ハ、林希逸ガ莊子口義ニ有道者尊稱トアリ、尊ンデ云フ辭、程氏、兄ノ諱ハ頤、字ハ伯淳、明道先生ト號ス、文公ト諡ス、弟ノ諱ハ頤、字ハ正叔、伊川先生ト號ス、正公ト諡ス、傳ハ、宋史卷四百二十七列傳、第一百八十六道學傳一ニ兄弟共ニ載ス、又伊洛淵源錄卷第二第三明道先生ヲ載セ、第四ニ伊川先生ヲ載ス、言フハ、右ノ如ク、代モ治マレル時ニ、河南郡ニ程氏御兄弟出生ナサレテ、孟氏以來、混絶シタル道統ノ傳ヲ接ギ玉フナリ、二程ハ濬溪周茂叔ヨリ道ヲ傳フ、周子ハ、千載不

傳ノ緒ヲ繼グトアレバ、孟氏ノ道ヲバ周氏ノ接ガレタルヲ、コノ序ニ二程孟子ノ傳ヲ接グトアルニ、先輩モ疑アリ、周子ハ、易道ヲ發明シテ、太極ノ圖ヲ説イテ、程子ニ授ケラレタレバ、道統ノ傳ニハ、周子程子ト受ケ來タルハ、餘義ナキコトナリ、然レドモ、大學中庸ノ沙汰ハ、周子ノ説ニ見エズ、二程ハ學庸ノ二篇ヲ表章セラレタレバ、周子ヨリ受クルト云ハズシテ、孟子ノ傳ヲ接グトアルハ、書ヲ主トシテノコトト見エタリ、朱子ノ周子ノ祠堂ノ記ニ上接、洙泗千載之統、下啓、河洛百世之傳ト書キ玉ヘバ、周子ヨリ程子ヘ道統ノ傳ハルコトハ明白ナリ、

實始尊信此篇而表章之。既又爲之次其簡編發其歸趣。

【訓】實に始めて此篇を尊信して之を表章し、既に又之が爲にその簡編を次いでて、その歸趣を發す、

【實】ノ字、愚按ズルニ意アリ、唐ノ韓退之ナドモ、奇特ニ、大學ノ條目ヲ唱ヘ、原道ノ篇ニ著述セラレタレドモ、程子ノ如クニ、見識具ハラヌ故ニ、格物致知ヲ殘シ、只ダ唱ヘ出シタルバカリナリ、程子深ク尊ミ信仰ナサレタル故ニ、非常ノ書ナルヲ知リテ、雜篇ノ中ヨリ抜き出シテ表章ス【表章】二字、共ニアラハスナリ、コレノミナラズ、簡編ヲ整頓シ、ソノ道理ヲモ發明ナサレタルトコロガ【實始】ト云フモノナリ【爲之】コノ書ノ爲ニナリ【次其簡編】簡編ハ書ノ異名ナリ、經傳共ニ兼ネテ見ルベシ、楚國先賢傳、孫敬編葉爲簡書、經史、韓文卷六、韓符讀書城南詩、燈火稍可親、簡編可卷舒、簡ハフダ、編ハアム、古シヘ紙ナカリシ時ハ、竹ヲ破リテ、火ニテ炙リ、油ヲ取り、小刀ニテ、文字ヲ彫リテ革ヲ以テ編ミテ置キシ故、簡編ト云フ、禮記ノ中ニテ、簡編亂レテアリシヲ次第ヲ置キ直シテ教ヘ玉フ【發其歸趣】發ハ、發明、其ハ、大學一書ヲ指シテ云フ、歸趣ハ、一字共ニナモムキ、ソノ中ニ趣ハ始ヲ云フ、歸ハ終ヲ云フ、左傳杜預ガ序ニ出ヅ【前文ニ自孟子没而其傳混焉、則其書雖存而知者鮮トアル、コノ段、引キ合セテ見ルベシ、

然後古書大學教人之法。聖經賢傳之指。粲然復明於世。

【訓讀】然る後古しへの大學人を教ふるの法、聖經賢傳の指、燦然として復た世に明かなり、

【古者】ト云フヨリ【之法】ト云フマデハ、コノ序ノ始ニアルヲ、又此處ニ再ビ受ケテ云フコトハ、カクノ如ク長ク書ク序ハ、始ニ云フ干要ノ辭ヲ又呼ビ出ス法ナリ【聖經】ハ孔子ノ經一章【賢傳】ハ、曾子ノ傳十章ヲ指スナリ【燦然】ハ、明白ナル貌、文選四十陳孔璋答東阿王牋曰、披覽燦然、李周翰註、燦然明白貌、言フハ程子ノ御手ヲ觸レテヨリ、古シヘノ大學校ノ法式經傳ノ指趣ガ、今マデ暗カリシガ、燦然ト夜ノ明ケタ様ニ復タ世ニ明ニナツタトナリ、

雖以熹之不敏亦幸私淑而與有聞焉。

【訓讀】熹の不敏を以てすと雖も、亦た幸に私淑して聞くことあるに與れり、

【熹】ハ、朱夫子ノ名ナリ、名ヲ書キ玉フハ、千載マデモ、殘リ傳ハル書ナレバ、書ヲ尊ンデナリ【不敏】ハ、謙退ノ辭ナリ、敏ハ達也ト注シテ、トシ、ハヤシト訓ズ、論語顔淵篇ニ、回不敏、雍不敏トアリ、愚鈍ナル生質ヲ云フ【私淑】トハ、孟子離婁下篇、予未得爲孔子徒也、予私淑於人也、注、私猶竊也、淑善也ト私淑トハ、師匠ヨリ直傳スルニ非ズ、或ハ人傳ニ物ヲ聞クヲ云フ方言ナリト云ヘリ、方ハ、ソノ時、方土ノ郷談、ハヤリ辭ナリ、孟子ノ時分ニ云ヒ習ハシタル詞ト見エタリ、孟子モ、孔子ヨリ直ニ道ヲ傳ヘタルニ非ズ、再傳ノ子思ヨリ傳ヘ玉フ、朱夫子モ、程先生トハ時代隔レリ、程子ヨリ楊龜山・羅仲素・李延平・朱子ト傳ハレリ、故ニカクノ如クノ玉フナリ、

顧其爲書猶頗放失。

【訓讀】その書たることを顧れば、猶ほ頗る放失せり、

【顧】ハ、猶レ念ト史記漢書ノ注ニモアリ【頗】ハ、少ノ義ニ見ルベシ、此處ニテ過半ノ義ニ用フベカラズ【放】ハ、散

也、前後次第ノ亂レタルヲ云フ、康誥曰、克明德ト云フヨリ止ニ於信ト云マデノ三章ヲ没レ世不レ忘ト云フノ下ニ置クガ如キコレ放ナリ【失】ハ、絶エ亡ビタルヲ云フ、格物致知ノ章ニ傳ナキヲ云フ、言フハ、熟ラソノ程子ノ次第ヲ正シ玉ヘル大學ノ書ヲ顧ルニ、猶ホモ頗ル放失ノトコロトモアリ、

是以忘其固陋采而輯之。間亦竊附己意補其闕略。以俟後之君子。極知僭踰無所逃罪。

【訓讀】これを以てその固陋を忘れ、采つて之を輯め、間ま亦た竊に己が意を附して、その闕略を補ひ、以て後の君子を俟つ、極めて僭踰にして罪を逃るゝところなきを知る、

【固陋】ハ、禮記學記篇曰、獨學而無レ友、則孤陋而寡聞、孤ハ固ト通ズ、學問ノ狭クイヤシキヲ云フ【采】ハ、程子ノ説ノ意ヲ采ルナリ【輯】ハ、章句ヲ指シテ云フ【間】ハ、ソノ間ナリ【闕略】蒙引云、闕不レ完也、略不レ詳也、指補傳、應上句失字、愚按ズルニ、闕ハ第五章ヲ指シ、略ハ六章、七章ノトコロニ略ノ補アリ【俟後君子】コレハ謙退ノ辭ナリ、論語先進篇ニ如其禮樂以俟君子トアリ【僭】ハ、ヒトゴロフトテ、我が分ヲ犯シタルヲ云フ【踰】ハ、コユル、言フハ、放失シタルニ依ツテ、コレヲ歎キテ、予ガ學問ノ卑陋ヲモ打忘レテ、程子ノ説ノ意ヲ采リテ、章句ヲ輯メ綴ルトナリ、ソレノミナラズ、間ニ己ガ一分ノ意ヲ附ケテ、闕略ノトコロヲ補フ、然レドモ、自分ノ見識ナレバ、定メテ惡シカラシ程ニ、後來ノ君子ノ正サンコトヲ相待チ申ストナリ、箇様ノ一分ノ見處ヲ以テスル事トモハ、我が分際ニ過ギタレバ罪ヲ逃ルベキ様モナシト云フコトヲ至極明カニ知リタルトナリ【僭踰】前漢書貨殖傳云、小不レ僭大、賤不レ得レ論貴【無所逃罪】蒙引云、雖僭踰無所逃罪、然實有レ補於國家之化、民成、民、學者之修、己治、人、亦孔子知我者其惟春秋乎、罪我者其

惟春秋乎之意、

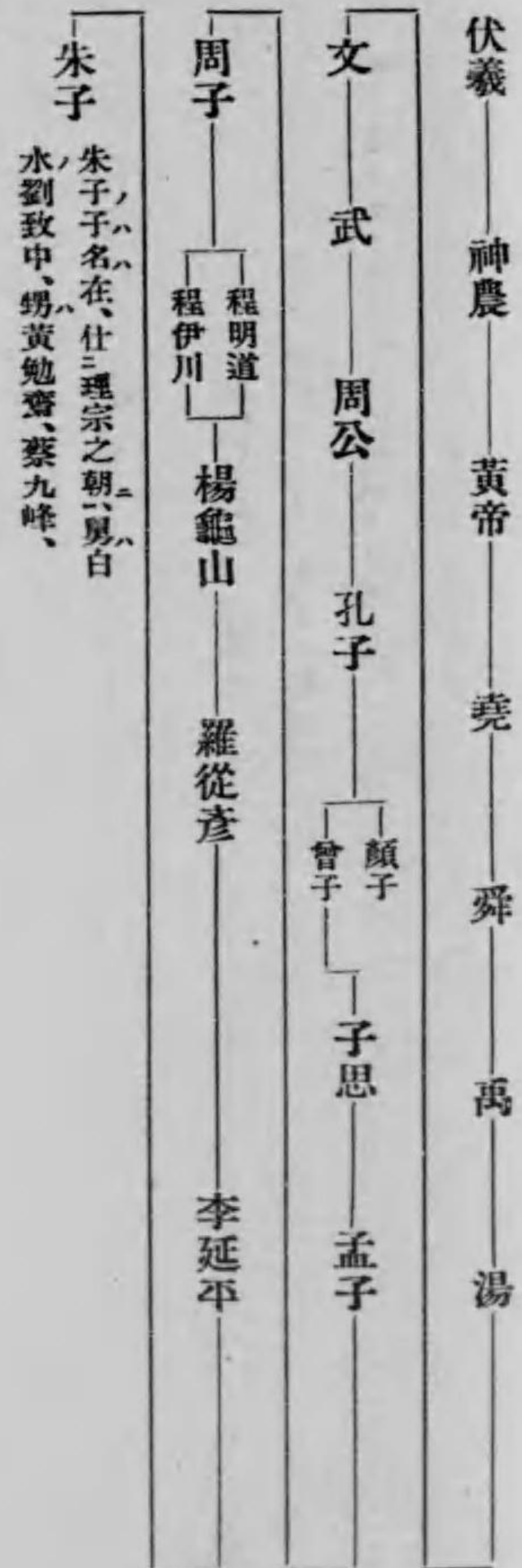
然於國家化民成俗之意。學者修己治人之方。則未必無小補云。

然れども、國家民を化し俗を成すの意、學者己を修め人を治むるの方に於て、未だ必ずしも小補なくむばあらずといふ、
【國家】ハ、天子ハ四海國家ヲ保ツガ故ニ朝廷ヲ指シテ云フ【化民成俗】禮記學記篇曰、君子如欲化民成俗、其必由レ
學乎、言フハ、尤モ僭踰ナ事ヲ致シタレドモ、去リナガラ、又朝廷ノ萬民ヲ教化シ、風俗ヲ成就スルノ意、又ハ、下、學者
ノ己ガ身ヲ修メ、推シテ、他人マデモ教ヘ治ムルノ方術ニ於テハ、必ズ何ノ役ニモ立タヌトハ申サレマイカ、少シノ
補ニハナラフカトナリ【化民】トハ、教フレバ惡ヲ變ジテ善ニ改マルヲ云フ【成俗】トハ、學問繁昌ナレバ、イツトナ
ク、風俗モ宜シクナルナリ、民ヲ化スハ、教ヲ受ケタルヲ云フ、成レ俗ハ必ズ學校ニ入りテ學問セネドモ、見ナレ聞
キナレテ人ノ風儀ガヨクナルヲ云フ●化民成俗ハ、誠意正心修身ニアタル、又化レ民成レ俗ノ意、程子本有「關雎麟趾之
意」ト云ヘリ、

淳熙己酉二月甲子新安朱熹序。

【淳熙】ハ、南趙宋ノ第二主孝宗ノ年號【己酉】ハ、淳熙十六年、朱先生、六十歳ナリ、本朝人皇八十二代後鳥羽院ノ文
治五年ニ當ル【新安】ハ、郡ノ名、徽州ニアリ、朱子ハ婺源縣ノ生マレナリ、然レドモ、新安郡ハ、天下ノ人普ク知リ
タル郡ナレバ、縣ヲ書カズ、愚按ズルニ謙退ノ文法ナラン、朱熹宋史卷四百二十九列傳一百八十八、道學傳三ニ云、宋
熹、字元晦、一字仲晦、徽州婺源人、父松、字喬年、熹幼穎悟、甫能言、父指レ天示レ之曰、天也熹、問曰、天之上何物、松異レ之、
就レ傳授、以レ孝經、一闕題、其上、曰、不レ若レ是非レ人也、嘗從レ群兒、戲ニ沙上、獨端坐、以レ指畫レ沙、視レ之八卦也、

【宋儒道統之圖】



卷之一終

重改大學章句俚諺鈔卷之二

大學

大舊音泰、今讀如レ字、

朱熹章句

詳ニ序ニ解ス、集註トアル本ハ誤レリ、用フベカラズ、

【大學】朱子經筵講義云、大學者大人之學也、古之爲教者、有小子之學、有大人之學、洒掃應退之節、詩書禮樂射御書數之文是也、大人之學、窮理修身齊家治國平天下之道是也、此節所記、皆大人之學、故以大學名之、●知新日錄、徐匡嶽曰、學何以曰大、唯天爲大、唯性爲大、學盡性也、所以事天也、●湛甘泉曰、大學者學其大者也、物我同體故曰大也、●張侗初四書演云、說者曰、子思居衛、作大學以經之、中庸以緯之、則近之矣、然二書在禮記篇目中、先中庸十一而後大學十二、而中庸最後之語、即大學最初之語、愚聞之、即云大學繼中庸而作、非孔子之筆、意者子思述其遺文乎、●婁江管志道大學測義云、虞松引賈逵之言、乃子思居宋時所作、俱述大學中教人之道、故以爲名、朱子以小學配之、讀爲大字、稽古但有大人大道之稱、而無大學之稱、還從舊讀爲正、

【大舊音……】トハ、舊ハ、コノ大學禮記四十九篇アル中ノ第四十二篇目ニアリシ時、後漢ノ鄭玄ガ註セラレシ時ヲ指ス、泰ハ通也、大也、極也、太極太玄太一太初ノ類、高上至極ノ美稱、蓋シ漢儒鄭康成ガ説ニ、讀ンデ太極太虛等ノ太ノ字ノ義ト爲ス、音泰トスレバ、意モ泰ノ字ノ義ニ見ル、泰ハ太ト通ジテ、ハナハダト訓ズ、尊ブ義ナリ、ハナハダ尊キ學ト云フ意ナラン、●或説ニ云ク、泰一泰筮ナドノ類ニシテ、尊ミタル名ナリ、昔ハ文字少カリシ故ニ、通用シテ使フタルモノナリ、●書ノ泰誓正義云、泰者大之極也、猶如下天子諸侯之子曰太子、天子之卿曰太宰、●左傳隱公元年疏云、

大音泰、舊泰字、皆作大、後大字做此。何楷立周易訂詁云、古文有太字、有太字、太字象人形、以天大地大人亦大、故象人也、太字音同泰、凡經史中大讀爲泰音者、其義訓極、禮記疏云、極大曰太、當即古太字、今文譌作太、或謂加點以別于大。今讀如字。今朱子自謂當時、即依其本義、爲大小之大、此對小字之學言之。今朱熹ハ、其儘常用フル文字ノ如ク、大小ノ大ノ字ノ義ニ用ヒ、小學ニ對シテ大學ト云フ、十五歳已上、大人生長者ノ學ブトコロト見ルトナリ、

子程子曰。大學孔氏之遺書。而初學入德之門也。

【訓讀】 子程子曰く、大學は孔子の遺書にして、初學徳に入るの門なり、

【子程子……】伊川先生ノ語ニシテ、一程全書卷八、小學外篇然レドモ、少近思錄等之ヲ載ス、愚按ズルニ、朱夫子、程子ノ語ヲ載スルコト、學者ニ示スニ、非常廣大ノ書ニシテ、尤モ翫味スベキコトヲ以テス。程子ハ兄弟アリ、ハジメハ明道、伊川ノ別ヲナセドモ、後ハソノ道學相同ジキガ故ニ、兄弟ヲ分タズ、俱ニ程子トノミ稱ス、二ツノ【子】ノ字意別ナリ、上ハ師ノ字ノ意ニテ、後學ヨリ先覺ヲ崇メテ稱ス、ソノ例、公年傳隱公十一年ノ註ニ見エタリ、ソノ外、莊子讓王篇ニ、子列子ト記セリ、カクノ如ク例多シ、下ハ男子ノ嘉稱ナリ、朱夫子ノ序ニアル通り、コノ大學ハ、ジメハ禮記ノ中ニ混雜シ、編ミ入レテアリシヲ、程子始メテ之ヲ尊信シ之ヲ表章シ、且ツ簡編錯亂シテアリシヲ正シテ、カクノ如ク一部ノ書トシテ、世ニ廣ク流行サセ玉フハ、大學中興ノ人ト云フベシ、故ニ子程子ト稱シ、尊ンデ大字ニ書イテ卷頭ニ置キ玉フハ、深意アリ、小分ナレドモ、序ノ意ト見ルベシ【子】韻會、上聲紙韻、又男子之通稱、又師古曰、子者人之嘉稱、又成德謂之君子、禮記註疏、孔穎達曰、君子有爵有德者之通稱【大學孔氏……】伊川先生ノ仰セラル、ハ、大學ハ今我が拔萃表章シテモ、纔ノ小冊ノモノナリトシテ、疎ニスベカラズ、コレ孔子ノ遺書ニシテ、初メテ明徳ヲ明カ

ニセントスル學業ニ志ヲ發起スル徒ヲ明徳ノ本トニ復ヘシ入レンガ爲ノ門戸ナルトナリ【孔氏】氏ノ字ヲ用ヒ玉フハ、曾子ヲモ籠メンガ爲ナリ、孔門ト云フ意ナリ、例セバ、佛ノ流ヲ續グ徒ヲ釋氏ト云フガ如シ【遺書】トハ、ソノ人ハ没シテ、在マサザレドモ、ソノ書ハ跡ニ遺レルヲ云フ、コレ孔門末世マデノ信ノ書ト云フ義ナリ、コノ一經ハ、朱文公ノ序ニアル如ク、古シヘ三代ノ盛ナル時、大學校ニテ十五已上ノ人々ヲ先王ヨリ教ヘ玉ヘル法ヲ、孔子誦ヘテ曾子ニ傳ヘ玉フ書ナリ【門】ハ、譬ノ辭ナリ、人ノ家ニ到ルニ、門ヨリスルガ如ク、道ニ進ミ、徳ニ通ズルノ第一ノ楷梯ト云フ義ナリ【入徳】ノ字ハ中庸第三十三章ニ出ヅ【徳之門】ノ三字ハ、屈原ガ離騷ノ遠遊ノ篇ニ出デタリ。蒙引云、此書乃孔子誦而傳之、以詔後世者也、故曰孔氏之遺書、凡言遺者、氣其人既往、而其物猶存之謂也、此孔氏字、當兼孔子曾子二說、如云老氏釋氏、亦非專指老聘釋迦也、凡爲其學者皆是也、

於今可見古人爲學次第者。獨賴此篇之存。

【訓讀】 今に於て古人學を爲す次第を見るべきもの、獨り此篇の存するに頼れり、

【於今】趙宋程子ノ時ヲ指ス【古人】トハ、古先ノ聖賢ヲ指ス、言フハ、只今趙宋ノ代ニ及ンデ、古シヘノ聖賢ノ書六經ヲ首トシテ、多ク世ニ流傳スレドモ、學者ノ源ヲ原ネテ、古シヘ三代聖人ノ御世ニ學問ヲ勤メタル次第階級ヲ、末世ニ錯ラズシテ、考ヘ見ルベキハ、コノ大學一篇ノ斷絶セズ、今ニ存在セルニ頼リテ、覺シ明キラムルハ、誠ニ幸ナルカナトナリ【獨】ハ、專也ノ註ニ看テ、勿論他書ニモ古人學問ノ次第アレドモ、專ラ頼ルベキハ、コノ大學ノ一篇トナリ【次第】ハ、八條目ナリ【此篇】トハ、今一部小冊ノ書トスレドモ、ムカシ禮記ノ中ニ裏ミテ、大學ノ篇トセル舊キニ依ツテ云ヘリ【存】ハ、ナガラヘル、ウセズトモ訓ズ、亡ノ字ノ裏ナリ、素ト存亡ト熟スル字ナリ、

而論孟次之。學者必由是而學焉。則庶乎其不差矣。

訓讀 而して論孟之に次ぐ、學者必ずこれに由つて學ば、その差はざるに庶からむ、

今十三經ノ中ヨリ論語孟子ヲ抜き出シ、又禮記ヨリ中庸ノ篇ヲ抜きテ、合セテ四書トナセドモ、猶ホ學ブトコロノ次第ヲ告ゲバ、大學ノ教ヲ曉シテヨリ、論語又孟子ト次第ヲ經歷スベシ、學者トシテ、必定コノ大學ノ一篇ニ由ツテ學問スルゾナラバ、ソノ聖人ノ道ニ差ハザルニ近カラントナリ●此處ニ中庸ヲ云ハザルコトハ、聖門傳授極致ノ言ニシテ、初學ノ明キラメ易キ者ニアラザレバナリ【由是】是トハ、大學ヲ指ス、異説アレドモ用フベカラズ【庶乎……】コレ謙退ノ辭ナリ、如何トナレバ、ソノ至極ナルハ聖ナリ、聖ニハ卒易ニ至リ難シ、コノ書ヲ楷梯ニシテ學ババ、虛無寂滅權謀術數ノ如キ差ハアルマジトナリ、顔子ノ如キモ、未ダ十分ナラザレバ、三月ノ後ニ差アリ●大學中庸ト並ベ稱スレドモ、讀ムニ心得アリ、中庸ハ思量ヲ以テ得ベシ、大學ハ工夫ヲ以テ得ベシト、朱子ノ説アリ、ソノ思量トハ、中庸ノ卷頭ニ天ノ命性トアル、コレハ何タル物ゾト、ソノ義理ヲ深ク思案シテ得ルナリ、大學ニハムツカシキ義理モナク、取りニクキ文義モナケレバ、思量ヲ費スコトモナシ、只管明德ト云フカラ打立ツテ自己ノ心ニ立チ返リ、體認シ得ルヲ工夫ト云フ、故ニ大學ヲ讀ムニ、朱子ノ葉ヲ喫スル喩アリ、文字モ讀ミ易ク、文義モ曉リ易ケレバ、初學ノ者モ大抵説クナリ、然レドモ、工夫深キ故ニ、ソノ味窮マリナシ、菓子ニテ云ハバ、蜜柑柿栗ナドヲ喫スルニ、青ク未熟ナル時モ蜜柑ナリ、柿ナリ、栗ナリ、然レドモ十分熟シテ後ニ喫スレバ、同ジ菓子ナレドモ、ソノ味各別ナリト云フ意ナリ、故ニ聖賢ニハ、聖賢底ノ大學アリ、朱子底ガ大學アリ、朱子ガ如キノ工夫ヲ用ヒザルハ朱子底ガ大學ニハ及ブマジト云ヘリ、血脈貫通ノ書ニシテ、他ノ書トハソノ體各別ナリ、一部ト云フモ、經文傳文僅ナレバ、熟讀反覆シテ、諳ニ覺エ、常ニ一丸ニシテ、胸中ニ會得セバ、萬事ノ用ニ應ジテ、重寶ナルベシ、故ニ、一部ノ大學胸中ニ在リト云フ●大全、朱子曰、大學首尾貫通、都無所疑、然後可レ及語孟、又無所疑、然後可レ及中庸●其要下人先讀大學、以定其規模、次讀論語、以立其根本、次讀孟子、以觀其發趣、次讀中庸、以求古人之微妙●蒙引云、謂大學最見古人

爲學次第、其次則論語孟亦可見古人爲學次第、耳、論語志於道、章、與於詩、章、孟子盡心知性章、人有二慎言、章、亦皆有、次第、但不如大學之規模全備而節目詳明、故云次之●或問云、程子之先是書、而後論語孟、又且不及乎中庸、何也、曰、是書垂世立教之大典、通爲天下後世而言者也、論孟應機接物之微言、或因一時一事而發者也、是以是書之規模雖大、然其首尾該備、而綱領可尋、而節目分明、而工夫有序、無非切於學者之日用、論孟爲人、人雖切、然而問者非一人、記者非一手、或先後淺深之無序、或抑揚進退之不齊、其間蓋有非初學日用之所及者、此程子所以先是書、後論語孟、蓋以其難易緩急、言之、而非以聖人之言、爲有優劣也、至中庸、則又聖門傳授極致之言、尤非後學之所易得而聞者、故程子之教未遽及之、豈不又以爲論孟既通、然後可以及乎此乎、

●大學之道在明明德、在新民、在止於至善。

訓讀 大學の道は明德を明かにするにあり、民を新にするにあり、至善に止るにあり、

コノ本文、簡條三ツアル故ニ、イツノホドヨリカ、朱文公ノ註語ニ依ツテ、三綱領ト不圖言ヒ初メシヨリ、今ニ三綱領ト云ヘリ、コノ大學ノ字ハ、書ノ名ニモアラズ、學校ノ名ニモアラズ、直ニ大人十五歳以上、成長ノ人ノ學ブ法ナレバ、大學ノ道ト云フ【道】ノ字ハ、法ト云フ字ノ意ニ輕ク見ルベシ、若シ重ク見レバ、空虚底ニ陥ル害アリ、道ハ猶ホ方法ト言ハンガゴトシナドト云フ、道ノ字ノ意ニシテ、大學ノ工夫方術ヲ云フ●蔡虛齋蒙引云、道者事物當然之理也、如在二大學、則明德新民止至善、即其理之當然也、故章句有三箇當字、道字前輩訓作二方法、一說道以理言、非二方法、此蓋但知其所以異、而不所知、所同、蓋方法即道也、孟子君子行法以俟、命條集註曰、法者天理之當然也、天理之當然、獨非道乎、又大學序文云、古之大學、所以教人之法也、大學所以教人之法、非即大學之道乎●章圖云、道猶二方法、也、序所謂大學教人之法是也、此道字與二以理言者不同、如下孟子所謂君子深造之以道、之道、許白雲曰、凡言道有二

意、天理氣化運行不息者謂之道、人由義理而行亦謂之道、聖人贊易多言天道、餘經中所言皆是言人所行之道也、此大學之道、又非二者之謂、却是言大學中教人修爲之方、爾通義、松塲王先生曰、先師堯谷洪先生、聞鄒陽朱先生言、大學之道言大學之方法、三箇「在」字、蓋指其方法所在而言、使人知此、此以爲用功之地也、故在字之義最爲緊切而有「力」明德ハ、凡ソ血氣ヲ具ヘテ生マル、物ハ、禽獸トテモ、コノ理ハ方寸ノ異名ニアリテ、徳トスルコトハ同ジケレドモ、禽獸ハ偏塞ノ氣ヲ受ケテ生マル、故ニ、ソノ形カラ正シカラズ、横ニ飛ビ、横ニ走り、飲食男女ノ欲、或ハ生ヲ好ミ死ヲ惡ミ害ヲ避ケ利ヲ趨ルノ知惠アルノミニテ、龍虎ノ如キ、形大ニ勢強キ物モ、義理ノ當然ヲ辨ヘ知ルコトハ毛頭ナシ、然ルニ、凡ソ人ハ萬物ノ靈ト云ヒテ、天地人ノ三才ニ比ビ列リタル故ニ、コノ明德ト云フ物ヲ書經ニ天命ト云フ、中庸ニ天命之性ト云フモ同シ天ヨリ全ク受ケ得テ、ソノ徳ヲ保チ、ソノ智ヲ研ケバ、堯舜トモ一體ニナリ、天地ノ化育ヲモ贊クベキ驗ヲ遂グルナリ、然レドモ、人ニモ有生ノ始ニ、ソノ受クルトコロノ氣ニ清濁美惡ノ變アル故ニ、智愚賢不肖ノ品々アリ、コレ朱文公ノ序文ニ氣質ノ齊シカラズト云ヘルトコロナリ、ソノウヘ有生ノ後ハ、口鼻耳目ニ牽カレテ、常ニ多クハ人欲生ズルガ故ニ、コノ明德ヲ自ラ昏マヌ者多シ、然レドモ、本來ノ光明ハ更ニ減スルコトナシ、喻ヘバ、日月ノ光ヲ一旦雲霧ヲコリテ掩フト云ヘドモ、ソノ間斷アレバ、光即チ漏レ出ヅルガ如シ、然レバ、惻隱羞惡辭讓是非ノ四端、自然ト時々ニソノ發見スルヲ慥ニ覺エテ、工夫ヲ添ヘ、或ハ推シ廣メ、或ハ間斷ナク相續スルヤウニ務ムレバ、ソノ人ノ分々力量次第ニ本來ノ光明ニ復ルコトハ決定セリ「徳」ハ、得也ト説イテ、禮記ニモアレバ、貴賤高下隔ナク、人々天ヨリ受ケ得タル物ナリ、天ヨリ受ケ得タル物ナレバ、素ト光明ナリ、實ニ明珠ノ如キ至寶ナリ、コノ明德ヲ愈ヨ明カニシテ有ツトキハ、先ヅ我が身自ラ修マリ、他人ヲモ治メ、家ヲ齊ヘ國ヲ治メ天下ヲ平ニスルコトマデモ、苦勞セズシテ、意ノ如ク成就ス、又コノ明德ヲ昏マシテ、全ク我ニ有ツコト能ハザレバ、身ヲ亡シ、家ヲ敗リ、國ヲ有チ天下ヲ有チテモ、禍絶エズ、獄逆ノ大亂起ルコト必セリ、故ニ、コノ明珠ノ明德ヲ喻シテ云フ塵垢ヲ常

住拂ヒ拭フベシ、コレマデ、先ヅ本文明德二字ノ義ヲ解ス、サテ今日ヨリ志ヲ發起シ、明德ヲ明カニセント欲セバ、先ヅ平生我が心ヲ屹ト喚ビ醒シ、雜念雜慮ヲ除ヒ、種々ノ人欲分ニ外レタル願好ヲ熄シ、真心ヲ專一ニ養フベシ、只管醉狂人ノ如ク、ウカウカトシテ居レバ、我が心ヨリ二六時中向フニ從ツテ、明德ノ光明ハ、擊石火閃電光ノ如ク、發見スルコトアレドモ、我ナガラ、ソノ覺エモ更ニナケレバ、明カニスル工夫ヲ用ヒンヤウモナクテ、一生ヲ徒ニ暮ラス、然レバ、人面獸心ニシテ、形ハ人ニシテモ、心ハ禽獸ニ異ナラズ、サテ明カニスル工夫ノ下シヤウハ、朱文公ノ章句ノトコロニテ解スベシ、大學經傳ノ全篇ヲ血脈貫通ノ書ナリト云フモ、コノ明明徳ノ一句ニテ、自身ヲ修ムルヨリ、家國天下ヲ治ムル道理ヲ述ベタレバ、書ノ體モ、血脈貫通ノ筈ナリ、又明明徳ノ一句ハ、ドコカラ、ドコマデモ己ガ爲ニスルノ學ト覺悟スベシ、新民ト云フモ己ガ爲ニスルコトガ根本ナリ●下明字連著徳字、上明字是用レ工字、然上明字亦因下明字ニ而生、蓋徳本自明而或爲物欲所蔽、今則從而明之、使不蔽於物欲而已、所以謂之復其初也、徳者得也、此箇明德實得之天之明命、所謂天命之謂性、故曰人之所得乎天、蒙引通義、許白雲曰、凡言レ徳、亦有三意、得、天理、而存於心者徳也、行道有得於心亦徳也、此明明徳字就三得處、言、則是上一意及下加二明レ之功、而有得於天、已、然後有下一意●陳紫峰曰、夫徳而謂之明者、以下其虛而且靈、具仁義禮智之性於中、而足以及レ之者氣也●覺路、周季侯曰、徳即仁義禮智之總名也●林希元存疑云、人之所得乎天、所得者理也、所以得之者氣也、故明德兼二理氣●蔡濟云、大學之明德即中庸天命之性也、但中庸性字兼二人物、而明德則專指人、非二物所二得而同二矣「在親民」天下ノ民ノ明德ヲ各明カニナラシムルヲ云フ「民」泛ク言フ辭ナリ、人民ノ上ヨリ云ヘバ、諸人士農工商咸ナ範レリ、又勢位ナクテモ、凡ソ我が身ヲ外レテハ、皆民ナリ、例セバ、忠臣ガ君ヲ諫メテ堯舜ノ如クニ致スモ、民ヲ新ニスルナリ、聖賢ノ道ニテ、人ヲ化スルモ、民ヲ新ニスルナリ、新ノ字ノ意ハ、舊ク垢染ミタル汚レヲ洗グニ同ジ、上ノ明カニスルト云フ明ノ字ト云フ意遠カラズ、我が明德ノ昏キモ汚レタルナリ、民ヲモ、我が明カニ磨キタテタル如ク、明カナラ

シムルハ新ナリ、新ノ字、明ノ字ハ自他通用シテ看ルベシ、明德ト呼ブ語ノ移リニ依ツテ、明カニスルト云ヒ、重複ヲ厭フテ新ニスト云フナリ、又治國平天下ニ推シ廣メテ味ヘバ、別シテ、新ノ字ガ最モナリ、桀紂ガ時ノ天下ノ民ハ、惡政ニ穢サレテ、風俗マデモ惡シク、塵埃染ミ著ケルヲ新ニセズシテ置カレズ、然レドモ、新民ハ必ズ治國平天下ノ上ニノミ泥ムベカラズ、一兩輩ヲ教ヘ治ムルモ、新民ナリ、サテコノ明德ハ、貴賤高下ニ隔ナク、智愚不肖異ナラズ、人々一等ニ天ヨリ受ケ得ルトコロノ物ナレバ、我先ツテ明カニナル時ハ、他人ハ昏クトモ儘ヨト廢ツルニモアラズ、我モ先ニハ物欲ニ蔽ハレテ、今ノ他人ニ較ベテ、懸隔ナルコトモアラザリシニ、今我ハ幸ニコノ明德ヲ明カニ致シ遂ゲタルカラハ、他人ノ明德ノ塵垢ニ汚レタルヲ憐マズシテ、他ノ世上ノ人ヲ白眼ニシテ看、我ノミ足レリト安ンズルハ、甚ダ不仁ナリ、人ノ道ニアラズ、何トゾシテ、彼等ヲモ一致ニ救ハント思フ心ノ深キハ、聖賢ノ心ナレバ、我が明ラカニシタルヲ推シ廣メテ、他人ニモ及ボスナリ、我獨リ善クスルハ、大學ノ道ニアラズ●蒙引云、新民二字、固是就教化上說、然非制田里、教樹畜、立法制、以定其生、則亦無以爲教化之地也、故使民樂其樂、則其利者、正爲新民之事、而理財用人、皆明明德於天下者之大節目也、孟子論王道、亦必先之以五畝之宅、百畝之雞豚狗彘之畜、然後及庠序孝弟之教、可見聖賢元不迂濶也●微言、馬漢宗曰、民者對己之稱、即家之父子兄弟皆民也●通義、許白雲曰、人之生同得此理、與我無異、既自明其明德、又當推以及之、使亦如我之用功明其德、此新民之意【止於至善】明德ヲ明カニスルモ、善、民ヲ新ニスルモ善ナレドモ、カクバカリニテハ、ソノ理未ダ盡キズ、ソノ道理ノ至極ノ地ニ至リ課ホセテ止マラザレバ、明德新民ノ全體、未ダ具足セズ、ソノ至當ト云フハ、大綱ヲ以テ云ヘバ、過不及ナキ中ノ理ナリ、萬事萬物ノ上ニ具ハル理ナリ、ソノ理ニ齟齬ヘバ、明德トモ、新民トモ名ヅケ難シ、大抵字面ヲ云ヘバ、善ノ至極ト云フバカリノ様ナレドモ、コレニハ、深密ノ道理アルガ故ニ、程子モ不其義理精微之極、有不可得而名者、故姑以三善、目之ト仰セラレタリ、明德ヲ明カニス、民ヲ新ニスト僅ニ一通ノミノ様ナ

レドモ、天下萬事ノ理、コノ外ニ漏ルルコトナシ、スベテ、ソレヲ包ミ貫クハ、コノ至善ナリ【止トハ、譬ヘバ道ヲ往ク者ガ、當ニ往クベキトコロマデ往カズシテ、半途ニ滯ルハ、止マルト云フニアラズ、往クベキ地マデ往キテモ、又間モナク、他所ニ遷リ去ルモ、止マルト云フニナラズ、ソノ志往クベキ地マデ、必ズ至リテ、駝カト居處ヲトメタルガ如キヲ、止マルト云フナリ、コノ至善ノ理ハ、衆人ノ心ニモ本來具足スレドモ、多分ハ辨ヘ知ラズ、又學者ハ我ニ在リトハ知レドモ、至極知ルコトヲ得ズ、又能ク知レドモ、守ルコトヲ遂ゲザルニ依ツテ、己ヲ修メ人ヲ治ムルノ道ヲ盡スコトヲ得ザルガ故ニ、聖人ノ教ニ止ニ於至善ト説キ玉ヘルヲ、明德新民ノ標的ト云フ、ソノ標的ト云フハ、譬ヘバ、射ル者ノ的中ラザレバ、射ルトハ、許サザルガ如ク、標示ヲ建テテ、コレマデ行カザレバ、至ラズトスルガ如ク、明德ヲ明カニシ民ヲ新ニスルトハ、全ク許サズ、コレ大學ノ法ナリ●薛文清公讀書錄云、至善即明德之極處、非下明德之外別有二理、爲至善也●蔡虛齋蒙引云、至善者事理當然之極致、舉其目之大者而言、則君之仁、臣之敬、父之慈、子之孝、與國人交之信、各有箇所當止之地是也、以此自盡者、明明德之止至善也、使三人皆有以盡乎此者、新民之止至善也●合喙云、至善ハ天理精微之極、堯舜所謂中、孔所謂矩是也、止者堯之所謂不踰也●四書甲第云、至善是明新極處●林子全書云、至善也者渾然、在中、粹然至善也、止也者止之也、止之者敬之也、敬也、者心之主乎中、主一無適者也、故大學之道、又在止於至善●盧未人講述云、明德是體、新民是用、止至善是體用之極、綱領在止此三者、要之明德以新民、爲全功、而不止至善、亦非所以明德而新民也●合喙云、三個在字、提醒世人、語、不得、不、喫緊、耳●張宣城曰、在猶當也、章句以當因又當皆當、釋三在字、工夫則有明新止三者、義●林希元曰、本文三在字、皆承大學之道、說來、第三句當云、在明德新民止於至善、不可說明德新民在止於至善、疑●然犀解云、在道所在也●存疑云、明明德、治己新、民治人也、天地間、只是己與人更無別物、吾人當爲之事、只是治民與治人、更無別事、所以大學之教、只說明德新民、中庸只言成己成物止至善、只是明明德、新民、到極至處

也●許白雲日、二句固是大學之綱、分而推之、則上一句、爲三下兩句之總綱、下一句、爲三上兩句之標的、明德新民雖二兩事對舉、而新民亦是明德中事●王觀濤曰、三綱領、實非有三也、止至善、不外乎明德、新民、民又不外乎明德、三者實一、二者實一也已上●蔡虛齋曰、大抵聖人設教、只是教人爲人而已、學者之學亦只是學箇爲人而已、人之所以爲人者明德也、故首以明之明德、然人人各得下是所以爲人之理也、故次之以新民、而人道自有箇至中至正至精至當之所、在、加之毫釐、則太過、減之毫釐、則不及者也、故又終之以止至善、至於止至善、則所謂成人而學之、能事畢矣、此固聖人立教之本意、聖經立言之本旨也●蒙引●コノ一節、明德新民ノ二ニハ上ヘ復シテ【在】ノ字ヲ用ヒ、止至善ノ句ニノミ於ノ字ヲ加フルコトハ、上ニ云フガ如ク、明德新民、トモニ、コノ至善ニ包ネ盡スノ理ハ見エタリ、

【章句】親當作新【コレ程伊川先生ノ語ナリ、二程全書卷五十二、程明道先生校正ノ大學ト、程伊川先生ノ校正ノ大學ト、二通載セタルヲ一覽スレバ、全ク伊川先生ノ本ニ朱夫子モ從ヒ玉ヘリ、傳文ニ、康誥曰、作新民、又湯ノ盤銘ニ、苟日新、日日新、又日新トアレドモ、親ノ字ナシ、コレヲ證據トナサレ改メ玉ヘリト見エタリ、然レドモ、聖經ノ文字ヲ押シテ改ムルハ、後世ヘノ憚アリテ、註ニ著シ玉ヘリ、ソノ義ニ、朱夫子モ同意ナルガ故ニ、引キ入レ玉ヘリト見ルベシ、然ルニ、王陽明ガ經翼ニハ、新ニ作レバ下文ニ證據ナシト云ヒテ、第三章ノ賢親其親ヲ引イテ、改メズシテ、ソノ儘、親ノ字ヲ用ヒタリ、然ルヲ、林希元ガ存疑ニ大ニ難ズ、

○大學者大人之學也

【大學……】蒙引云、大人成人也トアレバ、十五已上生長ノ者ノ學ブトコロノ學ビ様ハトナリ、明明之也、德者人之所得乎天、而虛靈不昧、以具衆理、而應萬事者也、

【明明……】トハ、下ノ明ノ字ハ、明德ト熟シタレバ、本來明カナル物ト知ラセタルモノナリ、上ノ明ノ字ハ、二天ヲ用ヒテコノ方ヨリ磨キ瑩イテ明カニスルコトナレバ、明之也ト云ヘリ之トハ明德ヲ指ス徳ハ得ナリノ字訓ニテ、天ヨリ受ケ得

テ、我々ガ方寸ノ中ニ眞ヘタル物ナリ、天ハ光明正大ナリ、ソノ理ヲ賦リ與ヘルヲ受ケ得タル物ナレバ、我々ガ身ナガラモ、明德ト云フハ、至極尊キモノナリ、故ニ中庸第二十七章ニモ尊徳性ト云ヘリ【虛靈不昧】トハ、明ノ一字ヲ釋シ玉ヘリ、古來鏡ヲ以テ心ニ比喩セルハ好キ喩ナリ、元ト形象ナキガ、虚ナルニヨリテ、物向ヒ來レバ、ソレゾレノ影ヲ還ス、ソノ奇妙ナルトコロヲ靈ト云フ、今ヨリ千載以前モ、又千載以後ノ事モ、思惟スレバ、ソノ儘、ソノ理現ハレ來ル、又萬里ノ遠キモ、咫尺ノ近キモ、滯ナク思惟スレバ、忽チ眼前ニ見ルガ如クニ到ル様ナル心地トコロガ、奇妙不思議ナリ、ソコヲ靈ト名ヅク、コレヲ神ノ體ニモ取ル、靈ノ字ヲ、和ニ、クシヒト訓ズ、コレ既ニ光明ノ義ガ靈ノ字ニ自然ト具ハレリ、然レバ、虚ハ洞ニトホル虚靈ニ光明ノ義ヲ具フ、不昧ハソノ意ヲ申ネ説イテ分明ニ云ヒ迫メタリ【具衆理】ハ、心ノ體【應萬事】ハ、心ノ用ナリ、衆理ヲ一ニ總ベテ具ハル故ニ、萬事ニ應ズルナリ、コレ實ニシテ虚ナラサルトコロナリ、明德ト云フニハ、心性情ヲ統ベタリ、具衆理ハ性ナリ、應萬事ハ情ナリ俱ニ徳ノ一字ヲ釋ス【以具】ト云フ以ノ字意ヲ付ケテ見ルベシ、コレヲ以ト云フ義、虚靈不昧ナルヲ以テ、具衆理應萬事ト云フ義ニ見エタリ、カクノ如ク味ヘバ、明德ノ本意ニ親切ニ協ヒテ聞コユルナリ、

但爲氣稟所拘、人欲所蔽、則有時而昏、然其本體之明、則有未嘗息者、

【氣稟】ハ、朱文公ノ序ニ見エタル氣質之稟トアル義ト同ジ、天地ノ中間ニ出生スレバ、人モ、禽獸モ、一同ニ陰陽五行ノ氣ヲ稟ケ、陰陽五行ノ理ヲ得ルト云ヘドモ、ソノ氣ニ正通偏塞ノ差別アリ、ソノ正シウシテ通ズル氣ヲ稟クレバ人ト爲リ、ソノ偏ニシテ塞ガル氣ヲ得テハ、禽獸トナル物ト爲ルモノハ、形氣ノ偏塞ニ桎梏セラレテ、以テソノ本體全キヲ充ツルコトナク、只大人ハソノ氣ノ正ト通トヲ稟ケ得ルニ據リテ最モ貴シ、故ニコノ方寸ノ間ニ虚靈洞徹シテ、萬理咸ク備ハリテ、禽獸ニ異ナルハ、此處ニシテ、堯舜トモナリ、天地人ノ三才ニ列リ、天地ノ化育ヲ贊クベキハ、コノ明德アルガ故ナリ、然レドモ、通ニモ清濁ノ品アリ、正ニモ美惡ノ異アリ、故ニ天ヨリ賦スルトコロノ質清

メル者ハ智ニシテ、濁レル者ハ愚トナル、美ナルハ賢トナリ、惡ナルハ不肖トナリテ、一同ナラズ、必ズ上智大賢ノ資ハ、能クソノ本體ヲ全クシテ、少シモ不明ナルコトナシ、コレニ及バザル者ハ、明德刻々發見スレドモ、既ニ蔽ハルトコロアリテ、ソノ全キヲ失フ、況ンヤ、氣質ノ蔽アル心ヲ以テ、事々物々、無窮ノ變ニ相接ハル時ハ、口鼻耳目四肢ニ就イテ、私欲生ジテ、ソノ德ヲ害スルコト限ナシ、程伊川モ、身アレバ私アリ、宜ナルカナ、道ト一ナラザルコトノ玉ヘリ、氣稟ハ有生ノ初、人欲ハ有生ノ後ナリ、氣稟ト物欲ト、二者相因リ、反覆深固ス、コレヲ以テ、コノ德ノ光明日々ニ昏シテ、コノ心ノ靈モ、ソノ知ルトコロハ、情欲利害ノ私ノミニシテ、徒ニ光陰ヲ過ゴス、然レバ、人ノ四體面目ヲ具スト云ヘドモ、何ヲ以テカ禽獸ニ遠カラシヤ、彼ノ堯舜トモ成ルベク、天地ノ化育ヲモ贊クベキモノモ、自ラ充ツルコトナラズ、然レドモ、本體ノ明ハ天ヨリ得タルモノナレバ、終ニ滅息スルコト更ニナシトナリ【氣稟】ハ、凡ソ人生マレテ幼キ時ハ、智愚賢不肖ノ差別モナク、同ジク見ユレドモ、漸ク成長スルニ隨ツテ、善惡頓ニ見ハル【人欲】ハ、形體ニ付イテ、見聞等ニ私ノ念ノ生ズルヲ云フ、朱文公モ、初メ經傳ニ筆ヲ下シ註ヲシ玉フニ、人欲物欲トノミシ玉ヘリ、然レドモ、彼ニ氣稟ノ二字ヲ添ヘ玉ヘリ、ソノ故如何トナレバ、人欲物欲ニ引カレテ生ズルト云フニテハナケレドモ、氣癖ト云フモノニテ、咎ナキ者ヲ見テモ怒リ惡ミ、或ハ朋友ノ苟且ノ交ニモ齒ヲ劓ギ、或ハ急シキ者アリ、或ハ氣ノ長キ者アリ、カクノ如キガ氣稟ナリ、前ニ氣稟ト物欲ト二物相因リ、反覆深固ト云フハ、コノ二ツガ更ル起ル事物無窮ノ變化ハ多シ、明德ヲ昏マスコトノ多キハ宜ナラズヤ、然レドモ、明德ノ發見ハ、日夜ノ事ナリ、極惡ノ人ト云ヘドモ、事ニ應ジ物ニ接スル日用ノ間ニ、四端少シモ安排ナク、自然ト心中ニ生ズルハ、皆コレ明德ノ發見ト云フモノナリ●按ズルニ、氣稟ニ拘ノ字、人欲ニハ蔽ノ字ヲ用ヒ玉フハ、精シキ義ナリ、如何トナレド、拘ノ字ハ、醫書ニ手足ノヒキヅリ、協ハザルヲ拘擗ト使ヘリ、然レバ、生質ニ協ハザルトコロアル故ニ、言フベキ事ヲ言ハズシテ、言フマジキ事ヲ言ヒ、或ハ爲スベキ事ヲ爲サズシテ、爲スマジキ事ヲ爲スガ如シ、喻ヘバ、右ノ手ノ協ハザル故ニ、

左ノ手ヲ使ヘバ、當リトコロ違フガ如シ、故ニ向フトコロニハ大ナル害出ツルト云ヘドヒ、我が身ニテ云ヘバ、氣稟ニハ大抵限アリ、コノ故ニ、先儒モ氣稟ニハ分數アリト云ヘリ、人欲ニハ限ナシ、人欲深深クナレバ、黑雲日月ノ光明ヲベツタリト掩ヘルガ如クニナレバ、人欲盛ニ成リ來ツテ、君父ヲモ弑スル様ニナル、故ニ先儒モ人欲所蔽則全遮而昏ト云ヘリ、近ゴロ人欲ハ畏ロシキ物ナリ【有時而昏】ト云フ一句ヲ見レバ、邂逅ニ昏マスト云フ如クニ聞コエテ不審アルベシ、愚不肖ノ者ハ、常住昏キ管ナルニ、如何ト疑生ゼン、然レドモ、コノ一句ハ、心得アルベシ、コノ明德ハ、時々刻々ニ、凡人タリトモ、發見スレドモ、ソノ覺エナケレバナリ、サリナガラ明德ハ本來具ヘタレバ、發見スルコトハ度々ナリト云フ意アリ、

故學者當下因其所發、而遂明之、以復其初也、

【故學】トハ、前ニモ云ヘル如ク、明德ノ發見ハ、時々刻々ニアリト云ヘドモ、衆人ハ曾テ覺エザルモノナリ、若シ我ニ明德アリト聞ケドモ、知ラズト患フル人ナラバ、ソノ心、即チ明德ノ發見ト認ムベシ、又我が明德ノ昏キヲ覺エテカクト云フ人モ、又コレ發見スルトコロナリ、然ルニ、學者ト云フカラハ、ソノ發見ヲバ知ルベシ、然ラバ、因其所發而遂明之ノ工夫ヲ下スベシ、サテ明德ノ發ハ、孟子ノ喻ヘ玉フ、孺子ノ井ニ入ル時、怵惕惻隱ノ生ズル如クトバカリ心得テ居ルゾナラバ、一生ニ一度カ二度ノ事ナルベシ、井ニ入ルノ喻ハ、明德發見ノ眞實端のヲ示シタルモノナリ、惻隱羞惡辭讓是非ノ心、或ハソノ外事ニ應ジ物ニ接ハル有用ノ間、萬事萬端ニ附ケテ發見ス、讀書ノ上ニハ、猶ホアル事ナリ、故ニ朱文公曰、明德也、就一切近見易處、理會、又曰、理會明德是我身上甚麼物事ト、カクノ如ク説キ玉ヘルナドヲ以テ、我が身ニ體認シテ見ズンバ、幾遍大學ヲ讀ムトモ、更ニ益アルマジ、タトヒ至惡ノ人タリトモ、時トシテ、善念ノ發セズト云フコトナシ、コレ學者之ヲ知ツテ、ソノ明カナルトコロニ因ツテ工夫ヲ下シ、只管一心不亂ニ明カニシテ去ルベシ【復其初】トハ、有生ノ初ニ再ビ歸ルナリ、朱文公ノ序ニ復其性トアルモ同ジ、コノ教ノ如クスレバ、ソノ

人ノ力量次第ニ氣質ヲ變シ、本來ノ光明ニ再ビ復ヘルハ必定ナリ、コノ明德イツマデモ昏クバ、學問モ入ラザルモノナリ、先ヅ格物致知ガ肝要ノ工夫トナリト求ムベシ、

新者革其舊之謂也、言既自明其明德、又當推以及人、使_レ之亦有_レ所以去_レ其舊染之汚也、

【新者……】コレヨリ新民ノ註ナリ【革其舊】トハ、古ク垢ヅキ汚レタル物ヲ水ヲ以テ洗ヒソ、ギナドスルガ如クスルヲ云フ、新字ト舊ノ字ト相對ス、元來明カナル物ヲ、久々昏クナシテ置キタルハ舊ト云フモノナリ、言フハ、既ニ_{俗ニ}前_{方ト}同シ我ガ明德ノ汚ヲ瑳イテ明カニシテ、最早可シト云ヒテ、白眼ニシテ、他ヲ見ルハ、明カナルニハアラズ、天下ノ人ノ明德ハ、元ト我ト一體ナレバ、天下ノ人ヲ我ト一同ニ明カニナラシメネバ、明カナルトハ云ハレズ、然レバ、又我ガ徳ヲ推シ廣メテ、他ノ天下ノ人ニ施キ及ボシテ、他人ヲモ亦タ其人ノ舊ク染ツイテアル汚レテ成ク離シ去ラシムルヲ新レ民ト云フ【亦】字味アリ●書經胤征篇、舊染汚俗咸與惟新、

止者必至於是而不遷之意、

【止者……】必ノ字ハ至ランコトヲ期スル意アリ、未ダ至ラザルトキハ、標的トス、ソノ標的トハ、射ヲ習フ者ノ目當ナリ、不_レ遷之意ト云フ語ノ中ニ、ソノトコロヲ往キ過ギザル意アリ【是】トハ、至善ヲ指ス、至善ノ場ニ至リ止マツテ、毛頭他ニ遷ラザルナリ、

至善則事物當然之極也、言明明德新レ民、皆當止於至善之地而不遷、

【至善……】トハ、事理當然之極也ノ七字ハ、タヤスク言語ニ述ベ難シ、初學一旦ニ會得シ難カラシ、面々自己ニ工夫シ見ルベシ、先儒ノ說ニ、至善ハ明德ノ本體ナリト云ヘリ、又朱文公ノ或問云、所_レ以_レ得_レ之於天_ニ而見_レ於日用之間_者、固_レ已莫_レ不_レ各有_レ一本然一定之則トアリ、先ヅコレ等ノ語ヲ曉スベシ、明德ハ人ノ所_レ得_レ乎天ト云ヒ、又至善モ天ヨリ得ルトコロト云フ、明德ノ外ニ、又別ニ至善ト名ヅクル物アル如クニ思ヘドモ、更ニ一ツハナキナリ、明德ノ本體

ト云フハ衆理ヲ具フルト云フヲ指シテ云ヒ、天命性ノ性ハ理ナリ、天下無_レ性外ノ物ノ義ナリ、心ノ寂然不動未發ノ時、一理渾然ノ體ヲ云フ、コレヲ天ヨリ得ルト云フ、ソコガ人心ノ統體太極ナリ、コレ則チ本然一定之則ト云フモノナリ、日用ノ間ニ見ル、ハ、萬事ニ應ズルトコロノ用ニシテ、已發感通ナリ、コレ各具ノ太極已發ノ中ナリ、明德ヲ明カニシ、民ヲ新ニスルノトコロナル故ニ、日用ニ現ル、理ヲ以テ、事理當然ノ極ト註シ玉ヘリ【當然】ハ、當ニ然ルベシト云フ義ナリ、人ノ子ハ孝ナルベク、人ノ臣ハ忠ナルベキノ類ナリ、大ナル者ヲ以テ云ヘバ、五倫、小ナル者ヲ云ヘバ、起居動靜著衣喫飯ノ上ニモ當然ノ極アリ、皆本然一定ノ則ヨリ出デタリコレヲ大學ニ聖人掲ゲ出シテ、至善ト開示シ玉フ、コレガ善ノ至極ナリ、凡ソ學者コノ至善ノ理アリト知ルト云ヘドモ、コノ理ヲ徹シテ、曉シ知ラズンバ、胡椒丸飲ナラン、コレヲ標的ニシテ、己ヲ修ムルニモ人ヲ治ムルニモ進ムベシ、善ニ必ズ至ラン事ヲ求メテ、止善ニ至ル、ゾナラバ、ソコニ安住シテ、能ク守ツテ他所_レ又遷ルベカラズトナリ、止善ノ理ヲ知リテモ、能ク守リ行ハザルハ止マルニアラズ、又行ウテモ退轉セバ止フルニアラズ、能ク知り、能ク行フテ退轉セザルヲ止_レ於至善トハ云フナリ、蓋_レ必_レ其_レ有_レ以_レ盡_レ夫_レ天_レ理_之極_而無_レ一_レ毫_レ人_レ欲_之私_也

【蓋】ノ字、詳ニ序文ニ鈔ス、朱文公ノ謙退ナリ【必其……】トハ、ココノ二句、先儒、至善ノ律令ト評セリ、カクノ如クセヨト法ヲ立ツルハ令ナリ、天理ノ極ヲ盡セト令ス、カクノ如ク爲スベカラズト法ヲ立ツルハ律ナリ、律ハ禁ナリ、賞罰アリ、一毫モ人欲ノ私ナシト云フハ律ナリ、カクノ如ク律令ニ背ケバ、至善ト許サレズ、凡ソ天理ト人欲トハ、消長ノ分數アリト、先儒ノ說アリ、ソノ分數トハ、積物ナリ、十分ノ數ニシテ、人欲ガ一分生ズレバ、天理ガ一分減ス、天理ガ一分長ズレバ、人欲ガ一分消ス、ココハ大事ノ註ナル故ニ、蓋シト謙退シ、裏ヲ反シ、念ヲ入レテシ玉ヘリ、日用事物ノ上ニ於テ、粗ボ理ニ合フトモ、苟且當座ヤカナヒニテハ、天理ノ極トハ言フベカラズ、天理ノ極ハ、本然ノ理マデ、悉ク推シ窮ムルヲ云フ、至善ニ止マラザレバ、畢竟明德ノ體モ立タズ【一毫】トハ、毫ハウノケト訓ズ、兎

ノ毛ハ細シ、別シテ秋ニ至ツテ毛替ハリシタル時ハ、猶ホ細シ、兔ノ毛一筋ホドモ、人欲ノ私ナシトナリ、此三者大學之綱領也、

【此三……】トハ、明德新民至善ナリ【綱】ハ、網ノ大ヅナ【領】ハ、衣ノエリト訓ズ、綱ヲ舉グレバ、千尋ノ網モ、衆目盡ク舉ガル、領ヲ舉グレバ袖モ裳モ残ラズ舉ガルモノナリ、實ニソノ如ク、大學ノ第一肝要ハ、コノ本文ナリ、畢竟八條目モ、傳十章モ、コレヲ説キ廣メタルモノナリ、ソノ綱領ト云フハ、條目ヲ統アルニ依ツテ云フ、條目ト云フハ、綱領ニ隸ケテ以テ云ヘリ●以上ハ、大全新安陳氏ガ説、蒙引蔡虛齋ガ説ヲ以テ辨ズ、

知止而后有定。定而后能靜。靜而后能安。安而后能慮。慮而后能得。

后與後同、【后與後後放此、……】ト

ハ古シヘハ、后後通用シテ一同ニ用ヒタルモノナル程ニ、以後モ此所ノ例ニ倣フテ看ヨトナリ、

止まることを知つて后に定まることあり、定まつて后に能く靜なり、靜にして后に能く安くし、安くして后に能く慮る、慮つて后に能く得、

上ノ至善ハ、明德新民ノ至極ニシテ、學者ノ肝要ノ標的ナルニ依ツテ、上ノ止ニ於至善ノ語ヲ承ケテ、コノ一節ヲ重ネテ説キ玉フ、コレヲ三綱領ノ餘段ト稱ス、コノ一節ハ、大抵ソノ效驗ノ次第ハ、カクノ如クナリト告ゲ示シテ、右ノ三綱領ハ、最モ緊切肝要ノ工夫ヲ用フルトコロナリ、今コノ一節ハ效驗ヲ示シ玉フバカリニテ、強ヒテ工夫ナキコトナレドモ、上ヲ説イテ、亦タコレニ到ツテ、聖人カクノ如クト説カズシテ默セラレヌコトナリ、至善ハ上ニ詳ニ解ス、ソノ【止】マルト云フ止處ヲ分明ニ知ルハ、第一肝要ニシテ、八條目ノ最初ニアル格物致知ノ張本ナルニ依ツテ、コノ一節ノ本意ヲ委細ニ明キラムベシ、學者大ニ利益ヲ得ルトコロナリ、疎略ニ看過スベカラズ、強ヒテ工夫ナキ様ナレドモ知レ止ト云フニハ工夫ヲ用ヒズシテ措クベキコトナラズ、コレヨリ下、五ツノ定靜安慮得ハ、ソノ驗ノ次第自然ト順

道ニ現ハシタリ、先ヅ句面ノ大抵ヲ説ケバ、萬事萬物ノ上ニ自然ト至善ノ妙理具足セリ、ソノ妙理ヲ能ク明キラメ知ツテ、ソコニ當ニ止マルベシ、能ク識リ得タル時ハ、事々物々ノ上ニ決シテ、ソノ妙理具ハルコトヲ見出スガ故ニ、即チ我が志ノ向フトコロ、コレカ彼カト云フコトナクシテ、一心ニ徹シテ趣クヲ知レ止ト云フ、コレヨリ、ソノ妙理ヲ見定メテ、少シモ危氣ナキヲ知レ止而后有レ定ト説キ玉フ、既ニカクノ如ク定理ヲ見達ゲテカラ、漸々ニ心モ靜マリテ、猥リニ動カズ、コレヨリ段々アリ、先ヅ定ト云フハ、志ノ物ニ趣キ向フ時、狼狽ヌコトヲ云フ、コレ用ヲ云フ、靜ハ本心ノ體ヲ云フ、定ニ比スレバ、靜ハ又深シ、心ハ身ノ主宰ナリ、心ガ靜マレバ、身ヲ居エルトコロヲ擇バズシテ、富貴貧賤患難夷狄ニテモ、樹下石上麻衣草坐市中繁華ニ於テモ、コノ身、左右源ニ逢フテ、理ニ純ニ、無欲ニシテ、自然ニ舒泰ニナルヲ安シト云フ、コレ又靜ヨリ深シ、カクノ如ク、心身内外、共ニ齊フテ靜安ニナリテカラハ、凡ソ一切ノ物ニ觸レ事ニ臨ンデ思慮スル時ハ、勝レタル思案ガ出ルナリ、平生、凡人ノ上ニモ合點アルコトナリ、聡ト我が心ヲ靜メテ、物サビシキトコロニ籠リ居、一夜モ思惟ヲ積メバ、己ガ長程ノ分別ナレドモ、例ニ變リテ超エタル思慮モ浮ブ者ナリ、サテ事物ニ應ジ接ハリテ、事ヲ行フトキ、皆的當ノ理ニ契フヲ能ク得ルト云フ、コノ節ハ、能ク體認シテ見ザレバ、親切ニ受用スルコト難シ、又第一ニ何箇ヲ置イテ知レ止ト云フトコロガ一大事ナリ、凡人ノ私欲ノ雜心ヲ用ヒテ知ラレヌコトナリ、然レドモ、人々本ト明德ヲ内ニ具足シテ居ルカラハ、強ヒテ知ラレズトシテ、棄ツベキコトニモアラズ、コノ格物至知ノ學力弛ブルコトノナラヌトコロナリ、コノ大學ノ教ニ就イテ悟ルベシ【而后】ノ二字、定靜安慮得ニ從ツテ五箇アレドモ、必ず間ヲ隔テタルコトニハアラズ、一字ハ輕ク、カクアリテハ即チト云フ意ニ見ルベシ、段々次第見ハル、コトナルニ依ツテ、カクノ如ク説キ玉フ、又【能】ノ字、靜定安慮得ノ上ニ從ツテ、四ツアルコトハ、我が心法ノ上ニテ云フニ依ツテ、能ノ字ヲ用フ【定】ノ一ツニハ能ノ字ヲ用ヒズシテ【有】ト云フハ、理ノ現ハレタル上ニテ云フガ故ナリ、理ハ本ヨリ定マリテアルガ故ニ、能一字ヲ用フルマデモナキコトナリ、今コノ一節ヲ下ノ

八條目へ配ハセテ見ルベル、定靜安慮ハ、格物致知ニ當ル【得】ノ一ツハ、誠意正心修身齊家治國平天下ニ當ツテ見ルベシ、コノ見分様、第一肝要ナリ●蒙引、蔡虛齋曰、止於之止以工夫言、知止之止以實理言、即傳之三章所云安レ所レ止也、不レ曰至善ニ而曰止者、正以見至善在所當止也●燃犀解云【而后】字當即字看【有】者若昔無而今有也【章句】止者所當止之地、即至善之所レ在也、

【止者……】トハ、上經文ニ止ニ於至善ト云フヲ受クルト云ヘドモ、此段ニハ、止ノ字ヲ直ニ至善ノ在所ヲ指シタレバ、別シテ深意アリ●大全小註云、此止字、即接上文在レ止ニ於至善ニ之止字ト説下來、知レ止則志有レ定向、

【知之……】或問ニハ、能知レ所レ止則方寸之間事々物々皆有レ定理ト云ヒ、章句ニハ志有レ定向ト云ヒ、兩般ノ如ク思ハルレドモ、然レドモ、一般ナリト語類ニモ見エタリ、理ノ定マリタルトコロヲ見ル、故ニ志モ定マルト云フ意ナリ【之】トハ、至善ノ有ルトコロヲ指ス【知】ハ、眞實ニ曉リ知ルナリ【知之則】講意云、要全重在知止上、故朱傳提起知字ニ而以則字轉下【志有定向】林次崖曰、定以知其理而不疑於所レ住也、靜謂心不妄動、

【靜謂……】トハ、靜トハ寂然不動ノ謂ニアラズ、應機接物ノ上ニテ、妄リニ動カザルナリ、妄ノ字ニ眼ヲ附クベシ、如何トナレバ、心ハ本ト動ク物ナリ、禮記樂記ノ篇云、人生而靜、天之性也、感於物而動性之欲也トアレバナリ、ソレヲ強ヒテ動カザル様ニト工夫スルハ、孟子ノ難破シ玉ヘル告子ガ學ナリ、只ダ動クベキニ當ツテ動クハ正ナリ、或ハ時トシテ外物ニ引カレテ入欲ニ誘カレテ動クヲ妄動ト云フ、正動ハ却ツテ靜ナリ●朱子曰、知ニ其理之確然如此一定則不可移易、任レ是千動萬動也動搖、他レ不得●又曰、定亦自有淺深、如學者思慮凝定、亦是定、如道理都見得徹、各止其所、亦是定只此地位已高●林次崖曰、靜以三其理既定而不他求也●定解曰【不妄】二字可味、只說不動、便是

槁木死灰、所謂不妄者何也、念之所起、只在至善一是也、安謂所レ處而安、

【安謂……】トハ、我が身ヲ居ヘ處クトコロトシテ、氣遣ナク、心緩リト安穩ナルヲ云フ、心ト身トハ、不離不雜ナリ、心ハ理ヲ主ルモノナレバ、一箇ノ形體ナシ、理氣合シテ一身ノ中ニ宿ル、然レバ離ル、モノニアラズ、又一ツニ混雜シタルモノニモアラズ●林次崖曰、安以心無他求而身得レ以安隱無事也●明唐士雅四書微言、陳筭堂曰、安謂所レ處而安、雖所レ處屬身、隨所レ處而安者則心也、慮謂處レ事精詳、

【慮謂……】トハ、萬事能クソレゾレニ精シク、詳ニ分別シテ行フヲ云フ●或問云、能定則日用之間、從容間暇、事至物來、有以撥之而能慮●蒙引云、慮只是平日所レ知者再審一審、得謂得レ其所レ止、

【得謂……】トハ、ソノ止マラデ協ハザルトコロノ至善ノアルトコロノ場ヲ得ルヲ云フ●或問云、能慮則隨レ事觀レ理、極レ深研レ幾、無レ不各得レ其所レ止之地而止●知止ヨリ能ク慮マデハ知ナリ、得ト云フハ行ナリ、知ノ筋ニテ、詳ニセズンバ、行ニナツテ違フコトアラン●定靜安三字、雖分節次、其實知レ止後皆容易進、安而后能慮、慮而后能得、此最是難レ進處、多是至安處、住了、安而后能慮、非顔子不能レ之、去得字地位、雖甚近、然只是難レ進、挽レ弓、到臨滿時、分外難レ開、

物有本末、事有終始、知所先後、則近道矣。

訓讀 物に本末あり、事に終始あり、先後するところを知らば道に近し、

【物有……】トハ、明德ハ我ニ具ヘタル物ヲ明カニス、新民ハ他ニ具ヘタル物ヲ新ニス、然レドモ、皆性中ノ物ナレバ、自他共ニ物トス、止マルコトヲ知ツテ能ク得ルハ、自己一分ノ事ト業ナレバ事ト云フ、必ズ先ヅ我ガ明德ヲ明ニシタルヲ推シ廣メテ民ヲ新ニスルガ故ニ、明德ハ本ニシテ、新民ハ末ナリ、又至善ノ理ヲ能ク知ラザレバ、至善ニ止マルコトヲ得ザルガ故ニ、止マルニ始終アリ、知ハ事業ノ最初ニシテ、能ク得ルハ功ヲ遂ゲタル終ナレバ、本ト始ヲ先ニシ、末ト終トヲ後ニスベシトナリ、進ミ爲スコト、次第ヲ調ヘテ、自然ニ本ヨリ末ニ及ビ、自他合一ノ理、コレヨリ漸々ソノ全キヲ會メ、始ヨリ終ニ至リテ、知行兼至ルノ功現ハレテ、ソノ極ニ馴致ス次第ヲ重ネテ、高尚深遠ナルトコロニ進ムヲ馴致ト云フカクノ如クシテ、大學ノ道ニ於テ遠カラズトスルナリ【道】ハ、聖人大學ノ道ナリ、孟子謂ユル如ク大路然ト云ヒテ、ソノ次第ヲ失ラザルハ、往還ノ道條ヲ心得テ進ムガ如シ、然レドモ、道ノ上ニ耽ト未ダ行キ至ラザルガ故ニ道ニ近シト云フ、コノ一節、又肝要ノ教ナリ、コレ古人學ヲ爲ルノ次第ナリ、等ヲ躐ユルノ病ヲ治ス●コノ一節ハ、上ノ兩節ノ意ヲ承ケテ、結束セリ、コノ節ノ【先】ノ字ニテ、下文六箇ノ先、字ヲ起シ、又【後】ノ字ヲ用ヒテ下文七箇ノ后ノ字ヲ起ス、然レバ、コレ結前生後ノ文法ニ似タリ●蘇紫溪曰、物以形體言、事以作爲言、

【章句】明德爲本新民爲末、

【明德……】トハ、凡ソ規矩ナクテハ、物ノ曲直ハ正サレズ、故ニ先ヅ我ガ明德ヲ明カニスルハ、コレ根本ノ規矩ナリ、我ガ明ナルトコロヲ他ニ推シ及ボシテ、我ト一體ニ新ニサスルハ末ナリ、知レ止爲レ始、能得爲レ終、

【知止……】トハ、我ガ止マルコトヲ徹ミテ、知ラズシテ、能ク得ルト云フコト更ニナシ、故ニ止マルコトヲ知ルハコレ始、能ク得ハコレ終ナリ、

本始所先、末終所後、

【本始……】トハ、自己ノ明德ヲ明カニセズシテ、先ヅ他人ヲ教ヘテ、徳ノ昏キヲ新ニセントスルハ、本ヲ末ニスルナリ、又止マルトコロヲ知ツテコソ、至善ノ地ニモ至ルベケレ、ソノ道理ヲモ辨ヘ知ラズシテ暗ニ事ヲ爲スハ、終ヲ始ニスルナリ、故ニ本ト始トハ、先ニスベキトコロナリ、末ト終トハ後ニスベキナリ、カクノ如キハ事ノ次第調フルト云フモノナリ、

此結上文兩節之意、

【此結……】トハ、大學之道ノ節ト知レ止ノ節ト兩節ナリ【結】ハ、結束ナリ、絲ヲ以テ物ヲ結ビ束ネタル如ク合スルナリ、

古之欲明明德於天下者先治其國。欲治其國者先齊其家。欲齊其家者先修其身。欲修其身者先正其心。欲正其心者先誠其意。欲誠其意者先致其知。致知在格物。治平聲、後放此、

古しへの明德を天下に明かにせむと欲する者は、先づ其國を治む、其國を治めむと欲する者は、先づ其家を齊ふ、其家を齊へむと欲する者は、先づ其身を修む、其身を修めむと欲するものは、先づ其心を正しくす、其心を正しくせむと欲する者は、先づ其意を誠にする、其意を誠にせむと欲する者は、先づ其知を致す、知を致すは物を格すにあり、

【古之……】コノ節ヲ逆推ノ八條目ト云フ、上ノ結文ヲ示スコロノ先後ト云フヲ承ケテ、ソノ條目ヲ伸ベ玉フ、最初ニ、三綱領ヲ説キテ、止ニ於至善ヲ承ケテ、知レ止、能得ノ一節ヲ説イテ、至善ニ進ムノ效驗ヲ示シ、ソノ次ニ本末先後ヲ説イテ、首ノ明德新民ヲ句中ニ括リ、コレニ至ツテ明德新民ヲ廣メテ説キ、ソノ中ニ至善ヲ衷ム、平天下治國齊家修身已下、皆至善ニ止マラズンバ、大學ニハアラス、首ノ三綱領ハ大目錄ナリ、コノ節ハ小目錄ニ、八ツニ分チ

テ、ソノ工夫ノ次第ヲ丁寧ニ示シ玉ヘリ【古之】トハ、三代ノ德治盛ナルヲ指シテ仰セラレ、先王、大學校ヲ設ケテ教ヘサセラル、ノ法ナリ●蔡虛齋蒙引云、此舉古人爲學次第、以善綱領之條目也、此古字、孔子指三代之隆時言也●又云、不曰古之欲平天下、而必曰古之欲明明德於天下者、正以見己一理、其治人者不過推吾所以自治者、以及之耳、問此處明德二字、畢竟是在己之明德耶、抑天下之明德耶、曰畢竟是己之明德也、明德二字、豈可屬人、但云明明於天下、則是使天下之人、皆有以明、其明德矣【欲明明德於天下者】ト説キ玉フニ、深キ意アルコトヲ朱子ノ或問ニ沙汰シ玉ヘリ、ソノ子細ヲ語レバ、下ノ八條目ニハ、天下平ナリト説キ終リ玉ヘバ、ココニテモ、欲平於天下者ト有ルベキヲ欲明明德於天下者ト説キ玉フハ、如何ナレバ、明德一ノ一ツハ、三ツノ中ノ又第一ノ綱領ナルニ依ツテ、コノ三字ヲコノ節ノ首ニ仰セラレ、相並ベテ云ヘバ、明明德ト新レ民トハ、一、明明德ハ體、新レ民ハ用ナリ、今コ、ニ合セテ、説キ玉フコトハ極其體用之全而一言一句ト云フニ同ジ以舉レ之ト舉トハ兼ミ籠ム或問ニ斷レリ、我が明德ヲ明カニシテ後ハ、他人ヲ棄テ置クト云フノ道理ナキガ故ニ、平天下ハ本ト明明德ヨリ定マレル役ナレバ、平天下ト云ハズシテ、明明德於天下ト泛ク説キ玉ヘリ、畢竟ハ、天下ノ人ノ明德ヲ感ナ推シ並ベテ明カニセントノ意ナリ、明德ト唱フル點ニテ我が明德ヲ明カニシテ、ソレヨリ後ニハト云フ意アリ、天下ノ明德感ナ明ラカニナルハ、新民ノ至善ナリ、盜賊兵亂ノ發ラザルバカリヲ平天下ト得心スベカラズ、大學ノ上ニテハ、カ、ル事ヲ肝要トスルニハアラズ●眼評云、非能使天下盡明其明德也、只欲明明德于天下耳、不然民可使由之、不可使知之、豈誑語也哉、亦要體貼他一於字、所以下面只用天下平收之、不説天下之德明也、至誠盡其性、能盡人物之性、亦如此看【先治其國】天下ヲ平明ニセント願ハ、國ハ天下ノ本ニシテ、天下ハ國ト比レバ、國ハ近シ、遠キハ近キニ由ルガ故ニ、先ヅ其國ヲ治メテ、其國ノ明德明カニナルナリ、ソノ國ノ明德明カナラズシテ天下ヲ平治スルノ道理ハ、決定シテナキコトナリ、國ハ先ヅ王都ノ内、朝廷能ク治マルヨリ、天下ノ廣キニ推シ行

ヘバ、天下モ平ニナルナリ●蒙引云、先治其國、則内而朝廷、外而四境、人々皆欲有以明其明德也、齊治平皆新民之事、家曰齊、國曰治、天下曰平、字各有當宜細玩也【欲治其國者先齊其家】トハ、然レドモ、其國ヲ治メント願フニハ、速ニ國ニ求メズシテ、必ズ先ヅ其家ヲ齊ヘテ、參差ナシ、コレ國ハ家ニ視ブルニ、疎キハ親シキニ由レバナリ、家齊ラズシテハ國人ニ教ヲ遂ゲ難シ、家ト國ハ事ノ差、別アルガ如クナレドモ、ソノ理ハ二ツナラズ、一家ニハ大小長幼尊卑集マレリ、而々ソノ分ヲ安ンジ、ソノ情普ク和合シテ、式法差ハザルヲ齊ト云フ、カクノ如キノ後ハ、國ニ教フル號令モ、行ハレ易ク、人民モ心ニ觀感ジテ治マルガ故ニ、先齊其家トハ云ヘリ●蒙引云、齊其家之道、必篤恩義、使父子兄弟夫婦、皆歡然有恩以相愛、必正倫理、使父子兄弟夫婦皆燦然有文以相接、男正位乎外、女正位乎内、是之謂齊【欲齊其家者先修其身】トハ、然レドモ、家ノ本ハ身ニ在リ、身ハ他人ニ對シテ、分ケテ我ヲ云フ、我が身能ク修マリテハ、家人視效フトコロノ手本トナル、一家ニハ、骨肉ノ親ミ會マルニ依ツテ、國天下トハ、些シ異ナリ、國天下ハ、刑罰政令ヲ用ヒテ、權威ニテモ、一旦治ムレドモ、骨肉ノ親ハタトヘ惡人アリトモ、棄テ難キガ故ニ、權ヲ用ヒテ、理不盡ニスルコトヲ得ズ、我が身ヲ能ク修ムレバ、視效フテ自然ト家人和樂シ、諸事ノ作法正シクナリテ、齊フルニ依ツテ先ヅ修其身ト云ヘリ●存疑云、修身須兼一身之所具所接、傳中視聽食是就所具說、孝弟慈是就所接說●微言、王觀濤曰【修】、如修屋之修、舉動應接間、少有過差、便修補之、使完全無缺陷也【欲修其身先正其心】トハ、然レドモ、一身ノ主宰ハ心ナリ、心ハ本ト正シキ物ナレドモ、平生工夫ヲ加ヘテ、心ノ存没ヲ審ニ察セザル時ハ、私欲動キ、情勝ツテ放心トナルガ故ニ、本然ノ正シキヲ喪ヒテ、心ニ從ツテ働ク、身モ修マラザレバ身ヲ修メント願フ者ハ、先正其心ト云ヘリ●蒙引云、心體要虛正、心敬以直内也【欲正其心先誠其意】トハ、心ノ事物ニ觸レテ發動スルヲ意ト云フ、寂然ト靜ナル時ハ、意ト名ヅクベキ稱モナシ、ソノ意發スル時ニ、一毫モ、私意ソノ中ニ雜ハレバ善ナシ、惡ヲ去ルコト、若シ未ダ實ナラザレバ天理本然ト差フヲ云フ本心モ私意ニ累ハ

サレテ、水源ノ清メルモ、下流塞ガリ濁レバ、源モ共ニ濁ルガ如クナルニ依ツテ、ソノ心ヲ正シウセント願フ者ハ必先
 誠ニ其意ト云ヘリ●蔡虛齋曰、人心之所_レ以_レ不正者、大槩皆妄念有_レ以_レ撓_レ之也、去_レ妄然後可_レ以_レ存_レ其真、故曰、欲_レ正_レ其
 心者先誠_レ其意、看來、心只是存主處、意則心之苗也、若不_レ先誠_レ其意、則惡念尙不_レ除、欲_レ正_レ其心、得_レ乎、意有_レ善有_レ
 惡、意既誠_レ則善惡關已透了、其或心不正身不_レ修者、只是不_レ免_レ有_レ所_レ偏滯而已、却非_レ惡、正所謂正路上差_レ了脚、故曰
 意誠則真無_レ惡而實有_レ善矣【欲誠其意者先致其知】トハ、然レドモ、善ノ善ナルコトヲ能ク知り、惡ノ惡ナルコトヲ味
 カラズシテこそ、誠意ノ工夫ヲモ下ス、善惡ノ差別ヲ精シク辨別セザル時ハ、惡ヲ善ト執リ違へ、善ヲ惡ト錯マリテ、
 誠意ノ功徒ニナルガ故ニ、知ルコトヲ推シ窮メテ明カニナサイデハ益ナシ、コノ知ハ、各具足スルコロノ心ヲ神明ニ
 シテ、衆理ヲ照シ、萬物ヲ宰制スル物ナリ、コノ知ハ、元來有_レテドモ、萬殊ノ廣キヲ逐一表裏洞然トシテ、明鏡ノ曇ナ
 キガ如クニ持チ課セタル者ガ稀ナル故ニ、隱微曲折ナルコロニ於テハ、誠意ノ成就シ難キニ依ツテ、先ヅソノ知ヲ
 明カニ磨クヲ先致_レ其知ト云ヘリ●蒙引云、誠意者實_レ於_レ善去_レ惡也、然不能_レ致_レ知、則何者爲_レ善、何者爲_レ惡、蓋有_レ
 不_レ辨而錯認者矣、或問謂天下之道一、善與惡而已【致知在格物】トハ、ソノ知ヲ致スニハ、天下ノ一事一物ノ上ノ理ヲ
 究ムレバ、即チ我が知ヲ推シ究ムルト云フニナルナリ、畢竟シテハ、致知格物ハ、只ダコレ一ノ事ナレドモ、致知ハ
 我が心ヲ用フルヲ云フ、格物ハソノ物々ノ理ヲ尋ネ遂グルヲ云フ、心ハ衆理ヲ具ヘタル物ナレドモ、形モ影モナキ物ナ
 レバ、心ニ待チ迎ヘテ後ニ、理ヲ窮メントシテハソノ功徒ナルガ故ニ、窮理ト仰セラレズシテ、格物ト説キ玉フ、知ヲ致
 スハ火ノ熱キ水ノ冷ナル、物ノ大小高下ヲ辨ヘルガ如キノ類、物ニ格ルハ火ニ觸レテ熱ヲ覺エ、水ニ没リテ寒ヲ覺ユル
 ガ如キヲ云フ、一例ヲ以テ示サバ、山椒胡椒ハ味辛シ、密砂糖ハ甘シト、一心ニ知ルハ致知ナリ、口ニ味ヘバ、山椒
 胡椒ハ辛キガ中ニ、又味少シ別アルヲ覺へ、密砂糖ハ、共ニ甘ケレドモ、又少シ差アルヲ覺ユルハ格物ナリ●蔡虛齋
 曰、自_レ誠意以下、一件自爲_レ一件、惟致_レ知格物通爲_レ一件、故曰在_レ格物、言_レ致_レ知更無_レ他術、只在_レ格物而已、然既

如_レ此、則只言致_レ物或格_レ物足矣、又必兼言_レ之者、蓋格物是積漸工夫、致知是求到_レ那一且豁然貫通處●又云、格物是逐
 件事、致知是全體事、聖人蓋恐_レ人於_レ物不能_レ盡格、故又爲_レ致知_レ之目、以要_レ其成也、苟欲_レ致_レ知而不_レ先_レ於_レ格物、則又
 無_レ以爲_レ之_レ地矣、故兼以爲_レ教、如_レ正心誠意、亦必兼舉者●格物工夫、要_レ不出_レ博學審問慎思明辨四者●コノ一條目
 ノミ、上ノ段々ト比ベテ、句法異ナリ、ソノ義、味フベシ、致知モ格物モ、窮理ノ一端ナレバ、先ヅト説カズシテ順道ニ
 在リト説キ玉ヘリ、

【音義】治平聲、後放_レ此、

【治平……】トハ、ヲサムルト訓ズル時ハ、平聲支韻ナリ、ヲサムルト訓ズレバ、去聲真韻ナルコトヲ知ラセン爲ナリ

【後放此】トハ、己下モ、コノ例ニ倣ウテ、音韻ヲ曉シテ唱フベシトナリ、

【章句】明_レ明德於天下者、使_レ天下之人皆有_レ以_レ明_レ其明德也、

【明明……】トハ、凡ソ天下ノ人、皆一人モ、コレ明德ヲ具足セザルハナシ、然レドモ、人欲ニ蔽ハレテ、時トシテ、明
 カナラザル者多シ、ソレ等ヲ押シ竝ベテ、皆明カニサスルヲ云フ【其】ノ字ハ天下ノ人ヲ指ス●或曰、堯舜ノ如キ聖人
 モ、四海八隅一人モ殘ラザルヤウニ治ムルコトハ成リ難シ、然レバ、朱文公ノ章句不_レ審ナリト、愚今按ズルニ、コレ
 ハ、使_レノ字眼ナリ、先ヅ吾ガ徳ヲ明ニシテ、ソノ明カナルトコロヨリ法度ヲ建テ、カクノ如クセヨト云ヒ付ケ、ソノ中
 ニモ別シテ、惡逆ナル者ハ、一人ヲ誅罰シテ、衆人ヲ助ケ導ク聖人ノ指_レス世ニモ、四凶ヲ誅シ玉ヘルハ、私ニハアラ
 ズ、天下ノ人ノ明德ヲ面目自ラ明カニセシメン爲ナリ、

心者身之所_レ主也、

【心者……】トハ、面々ノ本心ハ、身ノ主宰ナリ、家ニ亭主ノアルガ如シ、視聽言動、共ニ非禮ヲ戒ムルモノハ本心ナリ
 ●大全、黃氏洵儻曰、心爲_レ身之主、敬爲_レ心之主●通義、程復心云、心則人之所_レ以_レ主_レ於_レ身、而具_レ是理者也、其主伊何、

神變不測、發揮萬變、立此人極者也。●北溪陳氏曰、人之四肢運動、手持足履、與夫飢思食、渴思飲、夏思葛、冬思裘、皆是此心爲之主宰。●朱子曰、心者人之神明、所以下以具衆理、而應萬事者也。●愚按、耳目口鼻、各專一事、而心無不通、視其色、在在目、而知其色之理、在心、聽其聲、在在耳、而知其聲之理、在心、食其味、在在口、而知其味之理、在在心、聞其香、在在鼻、而知其香之理、在心、此心所以爲一身之主宰也。錄書

【誠實……】コノ註、詳ニ味フベシ、眞信二字ノ類ニアラズ、虛ニ對スルノ實ナリ、誠意ニハ虛實ノ分アリ、菜實ノ實アリ、充實ノ義アリ、少シモ充タザレバ、ミノルトハ云ヒ難シ、少シモ僞雜リテハ、誠意ニテハナシ、コノ義ヲ以テ曉シ味フベシ、

意者心之所發也、實其心之所發、欲其必自慊而無自欺也、

【意者……】トハ、心之發也ト云ハズシテ、所ト云フハ念頭ノ義ナリ【自慊】ハ、誠意ノ工夫ナリ、善ヲ好ミ惡ヲ惡ムノトコロニ毫髮モ僞ノ雜ハラザルナリ、カクノ如クナルガ意ヲ誠ニスト云フ者ナリ【自欺】ハ、自慊ノ裏ナリ、欺ハ俗ニダマスト云フニ同ジ【無自欺】誠意ノ禁制ナリ、詳ニ第六章ノ下ニ鈔スベシ、意ト云フハ念頭ナリ、コノ註ノ必自慊ノ三字ヲ、朱文公モ、素ハ一ニ於善トシ玉ヘリ、然ルニ、没シ玉フ三日前、辛酉ノ日ニ、嫡孫朱鑑ニ命ジテ、傳文ノ必自慊ノ三字ニ改メ玉ヘリ、尤モ一ニ於善トアレバ、惡ハ微塵毛頭モナシ、然レドモ、自慊ト云ヘバ、自己ノ工夫ニ味アリ、朱文公章句ニ御苦勞ナサレシコト察スベシ、卒日ハ南趙宋第四主寧宗ノ慶元六年庚子三月甲子、年七十一歳ニシテ没シ玉ヘリ●愚按ニ、意ト志トハ別ナリ、心ノ之クトコロノ志ト曰フ、之ハ不斷ナリ、發スルハ、ソノ一念ノ始ナリ、發シテ後ハ、意ト云フベカラズ、不圖ヲ初意ト名ヅク●明海盡編云、此心猶水也、意猶氷、水體常流、而一結爲氷、則失其常流之性矣、心體本正、而一發爲意、則失其本正之體矣、然全氷是水、捨水而不見

氷、全意是心、豈斷意以正心、故欲復水體、惟在融其氷、欲復心體、惟在誠其意、意識則雖曰已發、不離未發、雖第二機一則一機也●逢憲日錄卷六曰、伊川先生云、意從心從音、猶擊鼓也、音不離出於鼓也、意不離心、已是心之發處、

致推極、

【致推……】トハ、喻ヘバ、物ノ初ヨリ終ニ到ルマデ、次第一ヨリ十マデ、至極ノトコロヘ推シ尋ネ、極ムルナリ、知猶識也、

【知猶……】トハ、識ハシルス、サトルト訓ズ、知識二字、同事ノ如クナレドモ、知ハ輕ク、識ハ重シ、ココハ知ノ字ヲ重ク深ク知ル意ヲ示シテナリ、如何トナレバ、火ハ熱ク、水ハ冷シト知ルハ知ナリ、熱キ所以、冷キ所以ヲ覺スヲ識ト云フ、人ハ知識ノ一ツヲ兼ヌ、鳥獸ハ知ノミニシテ、識ハ更ニナシ、

推極 吾之知識欲其所知無不盡也、

【推極……】コノ註、正眼ヲ用ヒテ觀ルベシ、點モカクノ如クニシテ、文法ニモ合ヒ、義モ能ク通ズ【推極吾之知識】コノ句ハ致知ノ本義ナリ【欲其所知無不盡也】コノ句ハ、本文致知ノ致ノ字ノ義ナリ、サテ後段ノ八條目ノ知至ト云フ句ノ效驗ヲココヘ取り越シテ説ク、故ニ欲ノ字アリ、コレ逆推ノ條目ハ、工夫ノ事ナリ、工夫ハ彼ノ效驗ヲ得ンコトヲ要ス、格至也、物猶事也、窮至事物之理、欲其極處無不到也、

【格至……】コノ註、文法モ、義理モ、上文ノ註ニ對スルトコロナリ、見合セテ讀ムベシ【物猶……】トハ、物ニ事アリ、ソノ事ニ付イテ、ソノ理ヲ窮ムルナリ、喻ヘバ、刀ハ物ナリ、切ル、切レザルハ事ナリ、コレソノ事ニ付イテ、ソノ理ヲ窮ムルナリ、又人ハ物ナリ、人ニ付イテ事業アリ、事業ニ付イテ、ソノ人ノ理ヲ窮ムルナリ、故ニ物ノ字ヲ事ト唱フベカラズ【窮至……】コノ句、格物ノ本義ナリ【欲其……】コノ句、後段ノ八條目ノ物格ルノ效驗ヲ、ココヘ取り越シ

テ説ク、故ニ欲ノ字アリ、逆推ノ八條目ハ工夫ナリ、工夫シテハ、彼ノ效驗ニ至ランコトヲ要ス、欲ニ其極處可到トモ云フベキヲ無レ不到トアル句法モ、思慮スベシ、愈相ニ見ルベカラズ、可レ到ナドト云ヘバ、義理淺シ、無レ不到ト云ヘバ、窮メ到ラネバ叶ハズト、コレモ嚴シク説キタル註ナリ、コレ本文格物ノ格ノ字ノ義ナリ、此八者大學之條目也、

【此八……トハ、條ハ木ノ枝ナリ、目ハ網ノ目ナリ、二字皆數多クシテ、次第アルヲ云フ、目錄式目ナドノ義ナリ、コレモ朱文公ノ定ムルトコロナリ、

物格而后知至。知至而后意誠。意誠而后心正。心正而后身修。身修而后家齊。家齊而后國治。國治而后天下平。
治去聲、後放此。

【訓】物格つて后知至る、知至つて后意誠あり、意誠あつて后心正し、心正しくして后身修まる、身修まつて后家齊ふ、家齊ふて后國治まる、國治まつて后天下平なり、

コノ一節ハ、上ノ文ヲ打チ反シテ、説キ玉ヘリ、上ニハカクノ如クナランコトヲ欲セバ、必ズ先ヅカクノ如クセヨト、段段説キ上セテ、今コノ節ニハ、ソノ後ハ、當ニカクノ如クナルベシト開示シ玉フ、上文ハ工夫ノ次第、コノ文ハ上ノ如ク勤メ學ビテ後ノ效驗ノ次第ヲ顯ハシ玉フ、上ヲ逆推ノ條目ト稱シ、コレヲ順推ノ條目ト號ス、順ハ此方ヨリ、彼方ヘ進ミ往クハ順、彼方ヨリ此方ヘ逆フテ來ルハ逆ナリ、上ニハ工夫ヲナサシメン爲ニ逆ニ説キ、コ、ニハ、ソノ驗ヲ告ゲテ學者ニ勇ヲ加ヘンガ爲ナリ、

【物格……】サテ字面ノ意ハ、一事一物ノ理ヲ逐一ソノ至極ニ到リテ、脱ナキヲ物格ト云フ、理ノ事物ニ徧滿スルトコロノソノ至極ニ達シテ漏ル、コトナケレバ、我ニ在ル知モ、事物ノ極ニ符節ヲ合セタルガ如クニシテ、盡サザルコトナシ、

知盡サザルコトナキゾナレバ、心ノ物ニ應ジテ發動スルニ、能ク理ニ純ニシテ、眞妄ノ一ツ混雜スル疵、更ニナシ、心ノ本體發動スルコト、カクノ如クナレバ、物ノ爲ニ動カシ擾サレズシテ常住正シ、心、ソノ正シキヲ得ル時ハ、コノ身ノ物ニ相對シ、相接ハルトコロニ於テ、偏ナル氣癖、少シモ無クシテ、身能ク修マル、身能ク修マル時ハ、天下國家ニ至リテモ、コノ理ヲ時々物々ニ推シ廣メ及ボシテ齊、ホラザルコトナク、治マラズト云フコトナク、平カナラズト云フコトナシ、天下國家ヲ聖人ノ治メ玉フコトハ、皆コノ一理ヲ萬境萬物ニ推シ及ボスヨリ外ナルコトハナシ、若シコノ理ヲ用ヒズシテ功利智謀ヲ第一肝要トスルハ、彼ノ嚮者ノ術ナリ、格物致知ハ明德ヲ明カニスルガ爲ノ端ナリ、意誠心正身修ハ、明德ヲ明ニスルノ實事ナリ、家齊フルハ明德一家ニ明カナルノ驗、國治マルハ明德一國ニ明ナルノ驗、天下平カナルハ明德天下ニ明カナルノ驗ナリ【物格】ノ下ノ【而后】文林貫旨云、這而后字、作「即」字、看、下數而后字皆作「可」字、看、治去聲、後放此、

【治去……】ヲサマルハ、去聲眞韻ニナル、以後モ、コノ例ニ倣フテ曉スベシトナリ、

【章句】物格者、物理之極處無レ不到也、知至者、吾心之所知無レ不盡也、

【物格……】トハ、前ノ註ニ出タル物猶事トアリシテ、能ク曉スベシ、理ヲ窮ムルハ事ノ理ヲ究ム、然ラバ格物ト言ハズシテ格事ト云フベキヲ、前ニモ云フ如ク、物ト云フハ實體ナリ、然レバ、物ニハ必ズ事ガ無クシテ叶ハズ、喻ヘバ、父ト云ヒ君ト云フハ物ナリ、ソレニ孝ト云フ事アリ、忠ト云フ事アリ、コノ事ニコソ、種々ノ道理アルニ依ツテ、物ト書イテ事ノ意ニ用ヒタリ、上文本經ノ中ニ物有ニ本末、事有ニ終始ト云フハ、事ハ自ラ事、物ハ自ラ物ニシテ、二ツナリ、八條目ノ章句ニハ、物猶事トアルハ、一物アレバ一事アリ、一事アレバ一理アルノ義ニシテ、物ト云フハ、理ヲ空虛ニ見セマジキ爲ナリ、コレ大學ノ教ナリ●事物ノ上ノ至極ノトコロ、吾ガ知到リ盡サズト云フコトナク、吾ガ胸中ニ落在シテ、吾ガ物ニナルナリ【知至……】トハ、吾ガ本心ノ知慮スルトコロナリ、毫釐モ差ハズ、理ノ至極ヲ夜ノ明ケタル如

ク、知り盡サズト云フコトナキナリ、
知既盡則意可_レ得_レ而實_一矣、意既實則心可_レ得_レ而正_一矣、

コノ註ノ中ニ【可得】ノ二字ヲ用ヒタルハ、甚深ノ義理アリ、知至レバ、誠意ノ工夫ヲ用ヒザレドモ、自ラ意ガ誠ニナリ、
意サヘ誠ニナレバ、正心ノ工夫ヲ用ヒザレドモ、自ラ心ガ正シクナルト云フニハアラズ、若シソノ通りナラバ、一ツ
ノ格物ニテ、大學ノ教ハ濟ムベキ管ナレドモ、節目ノ品々アルハ、ソノトコロドコロニ工夫ガアル故ナリ、物格リ知至
レバ、ソノ力ヲ得テ意ヲ誠ニスベシ、意ヲ誠ニスレバ、ソノ力ヲ得テ心ヲ正スベシト云フ義ナリ。●大全、雲峰胡氏曰、
章句可得二字、蓋謂_レ下知_レ此理_一既盡_レ然後可_レ得_レ而實_一非_レ謂_レ知_レ已_レ至_レ則_レ不_レ必_レ加_レ誠_一意之功_一也、意既誠_レ則心之用可_レ得_レ
而正_一非_レ謂_レ意既誠_レ則不_レ必_レ加_レ正_レ心之功_一也、然_レ不_レ曰_レ知_レ既盡_レ然後實_レ其意_一意既實_レ而後_レ正_レ其心_一者、蓋知行_レ二者_一貴_レ
於_レ並_レ進_一但_レ略_レ分_レ先後_一非_レ必_レ了_レ一_レ節_一無_レ餘_レ然後又_レ了_レ一_レ節_一是_レ當_レ會_レ於_レ言_レ意_レ之_レ表_一也、
修_レ身_レ以上_一、明_レ明德_レ之事_一也、濟_レ家_レ以下_一、新_レ民_レ之事_一也、

【修身……】トハ、身ヲ修ムヨリ以上ハ、事物ノ理ニ至ルモ、知ルコト至ルモ、意誠アルモ、皆明德ヲ明ニスル事ナリ、
又家ヲ齊フルヨリ以下ハ、國治マルモ、天下平ナルモ、皆外ニ及ボシテ、民ヲ新ニスルノ事ナリ、コレハ、八條目ノ理ハ
皆三綱領ノ中ニアリ、外事ニアラザルコトヲ知ラシムルナリ。●大全、此四句包括_レ上一_レ節_一、
物格知至_レ則知_レ所_レ止_一、

【物格……】トハ、萬物ノ理ニ格リ、吾ガ知慧開クレバ、吾ガ止マル居ルベキトコロヲ能ク知ルナリ、
意誠_レ以下_一、則皆得_レ所_レ止_レ之_レ序_一也、

【意誠……】意誠ト云フヨリ以下ハ、心正シキモ、身修マルモ、皆吾ガ止所ヲ得ルノ次第ナリ、畢竟、皆止所ヲ得_レ
ガ爲_レノ執行ナリ。●大全、新安陳氏曰、意誠心正、身修、明_レ明德_レ、所_レ以_レ得_レ止_レ至_レ善_一之_レ次第_一、家齊、國治、天下平、新_レ民_レ、所_レ

以_レ得_レ止_レ至_レ善_一之_レ次第_一也、皆之一_レ字_一、包_レ明_レ明德_レ、新_レ民_レ、而_レ言_レ此_レ四_レ句_一包_レ括_レ此_レ一_レ節_一也、是_レ二_レ節_一可_レ見_レ三_レ綱_一之_レ統_一、八_レ目_一、而_レ
八_レ目_一之_レ、隸_レ三_レ綱_一矣、

自天子以至於庶人、壹是皆以修身爲本。

天子より以て庶人に至るまで、壹是に皆身を修むるを以て本となす、

前ノ逆推順推ノ兩節ハ、詳ニ八條目ヲ示シ玉フ、コノ節ニハ、約ニ八條目ノ中ヨリ、ソノ肝要ナル一ツヲ擧ゲテ括リ
玉フ、格致誠正モ、身ヲ修ムルガ爲ニシテ設ケタリ、齊治平モ、皆身ノ修マルヨリシテ、推シ廣ムルコトナレバ
身ハソノ肝要ナルガ故ニ、上天子ノ尊キヨリ、等アリテ、遙ニ、下、庶人ノ卑シキニ至ルマデ、凡ベテ大學ノ中ニア
リ、貴賤殊ナレドモ、自己ニ足レルヲ用ヒテ、外、他人ニ及ボスノ理ハ、一ナリ、故ニ壹是_一 俗ニ押並ベテ_一 身ヲ修ム
ルノ一ツヲ用ヒテ、根本トスルナリ【以至】二字ノ中ニ、諸侯大夫士マデモ籠レリ、乃至ト云フニ同ジ【庶人】揚明ニ、序ニ
アルハ、凡民ノ俊秀ナルヲ云フト、コノ說非ナリ。●コノ一節ハ、下ノ一節ヲ合セテ人々先ズルトコロヲ知ランコト
ヲ教ヘテ、又人々明德ヲ明カニスルコトハ身ヲ修ムルヲ本トスルノ一語ハ、一章ノ意ヲ包ネ盡スコトヲ教ヘ玉フ、一
章ハ通ジテ、コレ一箇ノ明德ヲ明カニスルナリ、精シク云ヘバ、明德ヲ明カニスト云フ、約ニシテ云ヘバ、身ヲ修ム
ルトス、本ト明德ヲ明カニスト云フモ、身ヲ修ムルトス、本ト明德ヲ明カニスト云フモ、身ヲ修ムルニ歸ス、コノ【本】
ノ字、上ノ物有_レ本末_一ノ本ノ字ト相應ズ、正ニ明德ヲ明カニスルヲ本トスルコトヲ見ル、上面ノ許多ノ格至誠正、總
ベ完ウシテ、身ヲ修ムルコトヲ得テ後、齊治平、皆コレヨリ起ル、信ナルカナ、物ニ本末アツテ、身ヲ修ムルハ、正
ニソノ本ナルコトヲ、コレ朱文公ノ章句ニ、結_レ上文_レ兩節_レ之意_一ト仰セラレシトコロナリ、

【章句】壹是一切也、

【壹是……】前漢書平帝紀ニ、一切滿秩古註猶以刀切物苴取其整齊、不長短縱橫、故曰一切、物ヲ切リテ、高下出入ナキヤウニ殘ラズキト揃フヲ云フ、押シ竝ベテト云フ義ナリ、和ニツヤツヤト訓ズ、

正レ、心以上皆所以修身也、齊、家以下、則舉此而錯之耳、

【正心……】トハ、上ノ謂ユル正心ヨリ上ハ、知至モ、意誠モ、身ヲ修メンガ爲ノ事ナレバ身ガ本ナリ【齊家……】ヨリ以下ハ、コノ身ヲ修ムルノ一ヲ舉ゲテ、國天下ニ措キ施スナリ【舉此措之】易繫辭云、舉措之天下之民、○禮記、仲尼燕居篇云、舉而措之而已、陳氏註、措猶施行、

其本亂而未治者否矣。其所厚者薄而其所薄者厚未之有也。

訓讀 その本亂れて未治まることはあらず、その厚くするところのものは薄くして、その薄くするところのものは厚きことは、未だ之あらざるなり、

凡ソ聖門ノ學ノ肝要ハ、本ヲ務ムルニ在リ、コノ段、本ト云フハ、身ヲ家國天下ニ比ベテ云ヘバ、身ハ本ナリ、家國天下ハ末ナリ、本ト正シウシテ、末隨ツテ治マルハ、理ノ必然ナリ、若シ格致誠正ノ功ヲ徒シクシテ、ソノ身ヲ修メザルトキハ、ソノ本亂ル、カクノ如クニテモ、猶ホ家齊リ國治マリ天下平カニシテ、末治マルコトハアラジ凡ソノ辭迫切ナラズシテ否ト仰セラル 家ヲ國ト天下ニ對シテ云ヘバ、一家ノ親ハ、厚ウスルトコロニ在リテ、國ト天下ハ、遠クシテ薄クスルトコロニ在リ、ソノ厚ウスルトコロヲ厚クシテ、ソノ薄クスルトコロニモ施キ及ボスハ理ナリ、若シ身修マラズシテ、親ヲ親ミ長ヲ長トスルノ道ヲ失ウテ、ソノ家ヲ齊フルコトヲ得ザルトキハ、ソノ厚ウスルトコロハ薄シ、カクノ如クニシテ、能ク國治マリ天下平カニシテ、ソノ薄ウスルトコロノ反ツテ厚キコトハ、決シテ未ダ之アラズトナリ、信ナルカナ、身ヲ修メテヨリ、ソノ徳ヲ明カニスルコトハ、民ヲ新ニスルノ本ナルコトヲ、大學ノ道ハ、ソノ規模至

大ソノ次序至明、ソノ功、夫レ至ツテ詳ナリ、究竟シテ、之ヲ總ブレバ、一箇ノ明德ヲ明カニスルニテ之ヲ盡スニ足レリ、大人ノ學ニ志ス人ハ、當ニ務ムベキトコロヲ知ルベキコトナリ、

【章句】本謂修身也、所厚謂家也、

【本謂……】トハ、本ト吾ガ身ヲ云フ【所厚】トハ、丁寧ニスルヲ云フ、國ニ對シテ見ルニ、家ニハ父兄弟アリ、厚ウセズシテ叶ハザルナリ○按ズルニ、家ヲ以テ國ニ對シ、國ヲ以テ天下ニ對シ、厚薄ノ理ヲ推スベシ、然レドモ、章句ニハ家トバカリアルハ、本ノ字ヨリ承ケ來レバ、本文ノ通ニ章句アリ、コノ理ヲ以テ推サバ、國ヘモ系ルベシ、

此兩節結上文兩節之意、

【此兩節】トハ、自天子以至於庶人ノ節ト、其本亂ノ節トヲ云フ【上文兩節】トハ、古之明德ノ節ト物格而后ノ節トナリ、逆推ト順推トノ八條目ナリ○或鈔云、厚クスベキ家ヲ薄クシテ、薄クスベキ國天下ヲ厚クスルトハアラジト云フ義ニアラズ、厚クスベキトコロヲ厚クスレバ、薄クスルトコロノ末マデ、自ラ厚クナルナリ、去ル程ニ、先ヅ家ヲ厚クシテコソ、國モ天下モ厚クナルベケレ、本ヲ取り失ツテ末ノ厚クナルコトハナシトナリ、

右經一章。蓋孔子之言而曾子述之。凡一百五字

訓讀 右經一章は、蓋し、孔子の言にして曾子之を述ぶ、

コレヨリ下ハ、朱文公ノ辭ナリ【右】ハ、上文ヲ指シテ云フ、異朝ニハ上ヲ右ト云ヒ、下ヲ左ト云フ、本朝ニモ、文ニ臨ンデハ同ジ、我が朝ニハ、官位ニハ左ヲ重ンジ、右ヲ下トス【蓋】トハ、大全ニ疑辭ナリトアリ、朱文公以爲ヘラク、正經ハ辭約ニシテ、理備ハリ、言近クシテ指遠シ、孔子ニアラズンバ、カクノ如ク説キ玉フコトハナルマジ、然レドモ、體ナル證據ナキニ依ツテ、又以爲ヘラク、三代ノ時ノ古人ノ説イテ傳ヘラレタカトモ思召ス故ニ、蓋ト云ヒテ疑ヲナシ玉ヘリ、然レ

ドモ、孔子之言而述之ト書イテアレバ、十二八九ハ、孔子ノ作ト思召ストコロ見エタリ、序ニモ、取先王之法、誦而傳之トアリ、明明德、新民止於至善ト、兩言ノ八條目ハ、共四十三字アリテ、先王ノ學ヲ立テ人ヲ教フルノ法ナルヲ、孔子言ヲ加ヘ、發明シ玉フモノナルベシ、三ツノ在ノ字、及ビ古ノ字ヲ看テ見ルベシト、東陽ノ許氏モ云ヘリ、大全ニ見エタリ、然レバ、孔子ノ言ト云フモ尤ナリ、又取先王之法、誦而傳之ト云フニモ矛盾セズ、述ノ字ハ、作ニ對シタル字ナリ、分ケテ云ヘバ、古人稱ハザルコトヲ初メテ説クヲ作ト云フ、述ハ傳舊ト註シテ、先輩ノ説キ置キ辭ヲ承ケテ唱フルニハ、述ノ字ヲ用フ、又禮記ニモ、作者之謂聖、述者之謂明トアレバ、ココノ筆勢ハ、大抵作者ヲ孔子ト定メ、述者ヲ曾子ト見立テ玉ヘル辭ナリ、大學ノ法ヲ孔子ヨリ傳ヘ受ケテ、曾子ノ述ベサセラレテ、又曾子ノ門人ヘ傳ヘ玉フト云フ意ナリ、コレマデハ、經文ノ沙汰ナリ●愚謂ヘラク、經一章ハ孔子ノ言ナルコト紛レナシ、如何トナレバ、文王周公ノ後ニ、孔子ヨリ外ニ聖人ナシ、周公ノ時分ナレバ、當時學校アリテ教行ハル、然レバ、古之明徳於天下ト古シヘテ稱スベカラズ、コレ孔子ノ詞ニ疑ナキナリ、然レドモ、經書ニ孔子ノ言ト云フ證據ナシ、仍ツテ蓋ト云ヘリ、

其傳十章。則曾子之意而門人記之也。

訓 其の傳十章は、曾子の意にして門人之を記すなり、コレヨリ傳文十章ノ詮議ナリ、傳ノ文ハ、曾子ノ意ヲ得テ、曾氏門人ノ記セルナリ【則】ノ字ハ、大全ニ決辭トアリ、ソノ故ハ、傳文ノ中ニモ、曾子曰ト記シテ、曾子ノ語ヲ舉ゲ引キタリ、又傳文ニ言フ語ガ中庸及ビ孟子ニモ出デテ、多クコノ書ノ意ト都合スルヲ、思ヒ合ハスレバ、曾子ヨリ子思ニ傳ヘテ、孟子ニ傳ハルナラン 序ニモ、曾氏之傳ト氏ノ字ヲ用ヒテ、書キ玉ヘリ、然レバ、傳文ノ筆者ハ、定メテ、子思ナラン、樂正子春モ、曾子ノ弟子ナレドモ、カクノ如クニ綴ル器量

ニハ未ダ至ラズ、子思ヨリ外ニハアルマジト思ヘリ、

舊本頗有錯簡。今因程子所定。

訓 舊本頗る錯簡あり、今程子の定むるところに因つて、【舊本】トハ、素ト大學ノ篇ト云ヒテ、禮記第四十二篇目ニアリシ時、後漢代ノ鄭玄ガ註セラレシ本ヲ指シテ云フ【頗】ハ、十八史略ノ註ニ、略也、今韻會差多日頗多、良久日頗久、多有日頗有アリ、今ハ過半ノ義ニ見ルナリ、時ニ依ツテ、少シノ意ニモ用フルコトアリ、鄭玄ガ古註ニハ、行文ヤ、誤字ヤ、又脱落モアリ、前後顛倒モアレドモ、改メズシテ、簡編ノ次第錯亂アルヲ、ソノ通ニシテ、註ヲ下シタルニ依ツテ、義理モ分明ナラズ、然ルヲ、趙宋ノ代、程氏ノ表章ノ上ニ見分ケテ正シ玉ヒテ、理ガ能ク通曉セリ、今某モ大略ハ程子ノ改メ定メ玉フ本ニ據ツテ章句ヲモ作ルトナリ●愚按ズルニ、コノ程子ハ伊川先生ヲ指スナラン、二程全書卷五十二、明道先生、伊川先生、兩人ノ改正ノ大學アレドモ、朱子ノ意ト大ニ同ジカラズ、伊川先生ノ改正ハ、大略朱子モ與シ玉フト多シ、朱子ヨリ以前ニハ、經一章傳十章ノ別モナク、一連ニ記シテ、然カモ二程ノ改正ニモ錯亂セルコト多シ、

而更考經文。別爲序次如左。

訓 更に經文を考へて、別つて序次を爲すこと、左の如し、【更】大學通考、張氏師會曰、更互也、即或問所謂以經統傳、以傳附經、別分也、即或問所謂則其次第可知、コノ語ノ中ニ、ソレト分明ニ云ハズシテ、二程ノ改正ニモ、強チ從ハザルノ意籠レリ、已前ノ本ハ、經傳共ニ一連ニシテ、然カモ前後錯亂ト見ユルトコロアルガ故ニ、經ト傳トノ文ヲ更互ニ考ヘ見合セテ、舊來ノ本トハ違ヘテ、別ニ經一章傳首章ヨリ、末ノ六章ニ至ルマデ、ソノ次第ヲ分チ爲スト下ニ斷ルガ如シトナリ【序次】ハ、次第ト云フニ同ジ、次序トモ、書クコト

淮南子ニ出デタリ【左】ハ、下ヲ指ス、上ノ右ノ下ニ鈔スルガ如シ、按ズルニ、而更ト云フヨリ如シ左ト云フマデノ語ハ、分明ニ云ハザレドモ、段章ヲ別ケテ次第ヲ正シ玉フコト、朱子モ、我カクノ如クスルコトヲ大功ト思召ス意アリ、僅ニ今因ニ程子所定ルト云フノミ、先輩程子ヲ重ンズル意アリテ、早ク而更考ニ經文ニ而別爲ニ序次ニ如シ左トアレバ、朱子モ、他人ノ正スコトヲ得ザルヲ、今我初學ノ助ニ、カクノ如シト云フ意句中ニ全ク具ハレリ、カクノ如キトコロニ意ヲ認メテ明朝ノ鍾伯敬ハ、大中ノ註ヲ章句ト名ヅケ玉フヲ、朱子ノ公言ナリト云ヘドモ、用フベカラズ、
凡千五百四十六字、

【凡】トハ、愚按ズルニ、經ノ字數ト、傳ノ字數トヲ凡ト云フテ、シメテ置ク、コノ書ニハ、古來ヨリ行文錯簡脱落アリシヲ、朱子ノ細ニ改定シテ、念ヲ入レテカクノ如シトメテ置キ玉フハ、一字モ増減スベカラズトナリ、ソレサヘ朱子以後、何角ト云ヒ紛カス人アリ、

凡傳文雜ニ引經傳、若無統紀、然文理接續、血脈貫通、

【凡傳……】トハ、コノ細註モ、前ニ經ト傳トノ大抵ヲ、朱子曰ニ依ツテ、又傳ノ首章ヘカ、ルトコロナレバ、傳文作爲ノ體妙ナルコトヲ演ベテ、疎略ニ傳文ヲ讀マセマジキ爲ノ學者ニ指南ノ御意ト味フベシ【經傳】トハ、書經詩經國語等ナリ【統紀】ハ、シメク、リノ事ナリ、韻瑞云、統他綜切、說文、紀也、一曰攝理也、廣韻、綱也緒也、又曰、紀苟起切、說文、絲引也、一曰理也、又經紀也【文理接續】文理ハ、文字ノ義理ト云フニハアラス、蒙引云、文如云、鳥獸之文、理是玉之理也、其勢皆相接續、文理接續、只就一章之内、言其逐節意義之相承、非通言二十傳相承也、又云【血脈貫通】者、人之四脈百骸、雖各自爲一體、然惟血與脈則實相貫通、故朱子借此以形容之、又云、連文理接續、都是假借形容字樣、中庸所謂支分節解、脈絡貫通、者亦然【文理……】喻ヘバ、木石ニモ、骨角羽毛ニモ、絹布ニモアルコトナリ、文ハアヤ、理モ多スチメナリ【血脈】人ノ身ニ四肢百骸アレドモ、十二經十四經等ト云ヒテ、血筋ガ一貫ニツラヌキ通ジテ、カラ

ゲテアルガ如ク、經傳ノ切端ヲ、取り難ゼ引イテ碎々シク見ユレドモ、能ク續イテ、指意ガ一貫シタルトナリ、深淺始終、至爲精密、熟讀詳味、久當見レ之、今不盡釋也、

【深淺……】トハ、コレモ傳文作爲ノ體極妙ナルコトヲ云ヘリ、深キヨリ淺ク云ヒタルトコロモアリ、又淺キヨリ深ク云ヒタルトコロモアリ、始アリ、終アリ、カクノ如キ事、傳文ノ中ニテ能ク能ク心得ベシ、ココニテ、詳ニ言ヒ難シ、カクノ如キ作爲ノ體ガ至極精粹嚴密ナリ、大學ノ傳ハ、繰リ返シテ、何遍モ食ヲ炊イデ熟スガ如ク、詳ニ玩味セバ、久シウシテ、文理接續、深淺始終、至極精密ナルトコロノ妙ヲ見付クベシトナリ、コノ類ハ、今註語ニ盡ク釋シ難キ故ニ、ソノ肝要バカリヲ約ニ註スル程ニ、ソノ餘ハ、學者ノ分量ニ隨ツテ、會得スベシトナリ、按ズルニ結語ノ體ハ、孟子盡心上篇ニアル、君子引而不發トアルガ如シ、●大全文考、韓氏古遺曰、格致爲誠之始、誠爲格致之終、誠爲正之始、正爲誠之終、正爲修之始、修爲正之終、齊爲治之始、治爲齊之終、平爲平之始、平爲治之終、合而言之、自格物至平天下、爲大始終、觀經文六箇欲字、一箇在字、六箇先字、七箇后字、傳文六箇在字、一箇極字、則終始不盡釋者、又觀若無統紀、深淺始終處、即是文理接續、血脈貫通處、●陳新安曰、傳十章、朱子有下不盡釋處、然其不可不知者、未嘗不釋也、學者於其所釋者、熟讀精思、則其不盡釋者、自當得之矣【附纂】韓氏古遺曰、人讀大學、而不

知血脈貫通深淺始終至爲精密、未爲之讀、大學、故今一一附以以示學者、

卷之二終

重改大學章句俚諺鈔卷之二

●康誥曰。克明徳。

訓讀 康誥に曰く、克く徳を明にかすと、

コノ本文ヨリ以下ヲ賢傳ト云フ 傳トハ註解ノ別名ナリ、 コノ一章ハ明^ニ明德^ト云フ句ノ解釋ナリ【康】ハ、周ノ文王ノ子、
 武王ノ弟康叔^{名ハ}封^{ナリ}【誥】ハ、ツグルト訓ズ、説文告也、除^カ曰^ク、以^テ文言^ヲ告^グ曉^ス之^也トアリ、文章ヲ用ヒテ、人ニ致ヘ
 告^グ曉^スサシムルヲ誥ト云フ、書經卷四、康誥篇ト云フヲ載セタリ【克】ハ、カアル字ナリ、文王ハ、生知ノ聖人ナレバ、
 苦ミ勤メテ明カニシ玉フニハアラス、衆人ハ疎略ニスルコトヲ、文王ハ生知安行ノ聖人ナルガ故ニ、克ク明カニシ玉
 ヘリト稱美シテ、今康叔ニモ、トテモ我ガ徳ハ今ニ至ルマデ昏キヲ明カニハ成リ難カルベシト自棄サセマジキ爲ノ
 教ナリ、本來ノ徳ハ、衆人同ジウスルトコロナレバ、廢テ置クベキ事ナラズトナリ、今曾子ノコ、ニ引キ玉フ意ハ、經
 文ニ夫子ノ大學之道在^レ明^ニ明德^トト仰セラレシハ、何ヲカノ玉フトナラバ、コノ言、夫子ヨリ始マレルニアラス、古
 シヘヲ考フルニ、書經康誥ノ篇ニテ見付ケ得タリ、周ノ武王ハ、弟ノ康叔ヲ衛ノ國ノ諸侯ニ封ジ玉フ時、教ヘ告ゲテ
 仰セラレ、ハ、人人明德ヲ具ヘザルハナケレドモ、久シク氣稟ノ偏ニ拘ハサレ、物欲ニ蔽ハル、ニ依ツテ昏シ、我ガ
 先考文王ハ、克クコノ明德ヲ明カニシテ、早ク氣稟ノ偏ニ妨ゲラレ玉ハズ、物欲ノ蔽ハレニ牽カレ玉フコトナクシテ、
 虛靈ノ本體ヲ全ウシ玉ヘリ、コレ文王ノ文タル所以ナリト、コノ一節ハ、三綱領ノ第一在^レ明^ニノ上ノ明ノ字ニ就イテ
 説キ玉フ、曾子、コノ文ヲ引イテ後學ノ志ヲ興シ玉ヘリ、

【章句】康誥周書、克能也、

【康誥】トハ、書經ハ虞夏商周四代ノ事ヲ載セタリ、故ニ史官別ナリ、康誥ノ篇ハ、周代ノ史官ガ記シタル故ニ、周書ノ部ニ入りタリ、凡ソ書經ハ、典謨訓命令ノ六典トテ、書經ノ一體文ノ法ナリ【克能也】此克字雖レ訓能字、然克字重、是他人不能而文王獨能之、若只作能明徳、語意便都弱了凡字有文義一般而聲響頓異、如下云克宅心明德之類、唯文王無氣稟物欲之偏蔽、故能有以勝之而無疑、

太甲曰、願諶天之明命、

大讀作泰、諶古是字、

【訓讀】太甲に曰く、この天の明命を願ると、

【太甲】ハ、書經卷三ニ載セタル篇ノ名ニシテ、三篇アリ、今引クトコロハ上篇ニ見エタリ、モト太甲ハ殷ノ湯王ノ孫ノ名ナリ太丁湯王崩御ノ後ニ、太子ノ太丁ハ、湯王ヨリ先ツテ卒リ玉フニ依ツテ、嫡孫太甲ヲ帝位ニ即カシメタレバ、無徳ニ在マシテ、ソノ治正シカラザルガ故ニ、湯王ヨリノ聖臣伊尹ガ湯王ノ御遺骸ヲ葬リタル墓所桐ト云フ地ニ、カリニ宮ヲ建テ、ココニ移シ居キテ、空位ノ間ハ、伊尹攝政シテ、訓戒ヲ告ゲタル辭ヲ、時ノ史官ガ記シ認メテ太甲篇ト云フ、伊尹ガ太甲ニ教訓シ戒ムル意バ、天ヨリ我ニ與ヘ玉フ物ヲ明命ト云フ、然レドモ、人知ラズシテ、忽ニシ忘ルルモノ多シ、獨リ成湯ニハ、コノ心恆ニ存シ玉ヒテ、コノ明命ヲ願ミテ一時モ怠慢ナカリシ、コレ湯ノ聖域ニ入り玉フ所以ナリ【願】トハ、靜存觀察ヲ兼ネテ云フ【命】ハ、理ヲ指ス、本ト明ナリ明徳ノ本ヲ知ラセン爲ナリ、明徳ヲ明カニシ遂グルノ工夫モ、引クトコロノ句中ニ籠レリ、先ヅ明徳トハ、何ヲ指スゾナレバ、人ハ天地人ノ三才ト呼バレテ、萬物ノ内ニテモ靈妙ナル物ナリ、形ハ天地ノ正氣ヲ受ケテ生ズルコトナレバ、ソノ理モ亦タ天地ノ理ニシテ、天ト人トハ本ト一致ナリ、天ヨリ我ニ與ヘ玉フトコロヲ、天ハ萬物ノ主ナレバ、上

君ヨリ、下ノ賤シキニ下知アルヲ命ト云フ、ソノ義ヲ借リテ命ト云フ、我ニ受ケ得テ性ト具ヘタルトコロヲ徳ト云フ、コノ徳ハ、本ト光明ニシテ、一點ノ曇ナク、至善ノ理ヲ具ヘテ、日用動靜語默ノ間、二六時中、物ニ應ジテ現ルル物ヲ【天之明命】トハ云ヘリ、然レドモ、衆人ハ知ラズ、察セズ、一生ヲ徒ニ暮スガ故ニ、人欲ニ溺レテ明命ヲ明カニ磨クコトヲ辨ヘザルヲ嘆キ玉ヒテ、明カニスルノ工夫ヲ示シ玉ヘリ【蒙引】云、願字有惟恐失之之意【日用之間、或一息一事之微、才少放過、便不是願諶、故曰、常目在之、則無時而不明矣、不然將墜天之休命、而失其付與之初矣】存疑云【願諶】ハ、兼動靜、戒慎乎其所、不睹、恐、懼乎其所、不聞、此願諶也、九容九思、皆願諶之目也【覺路云、願諶非以目願、以心願也、非見在天、天乃見在心、在天也】微言、黃貞甫曰、如慈母願子、又如弱兒願母、直是念念相依、

【訓讀】大讀作泰、諶古是字、

【大讀……】トハ、大ノ字ハ讀ミ替ヘテ、今朱子ノ時分用フル泰ノ字ノ義ニシテ、太ト通ジ用フ【諶古……】トハ、諶ノ字ハ、古シヘノ是ノ字ノ義ニシテ用フ、今朱子モ、ソレニ從ヒ玉フトナリ、

【章句】太甲商書、願諶常目在之也、

【太甲商書】トハ、商ノ代ノ史官ガ筆記セル故ニ、書經卷三商書ノ部ニ編ミ入レタリ【常目在之】ノ四字ハ、古註ノ語ナリ、極メテ好シ、故ニ章句ニモ引キ用ヒタリ、目在トアレバ、コノ物常ニ目前ニアリト云フ意ニナリテ親切ナリ、論語ニ衛靈公篇立則見其參於前也、在輿則見其倚於側也ト云フノ意ナリ、間斷ナク思ヘバ、常ニ這物我ガ目前ニ附イテ廻ル如キモノナリ【大全、朱子曰、常日在之、古註吾極好、如下物在此、惟恐人偷去、兩眼常常觀在此相似、諶猶此也或曰、審也、

【諶猶……】大全云、從古是字之說【或曰……】大全云、摩韻註也、今不必從トアリ、カヘリミ、ツマビラカニスト訓

ズルモ、義理ガ聞コエ易キニ依ツテ、一説ニ備ヘ玉フト云ヘドモ、前説可ナリ、天之明命、即天之所_レ以_レ與_レ我、而_レ我之所_レ以_レ爲_レ德者也、

【天之……】トハ、人々ニ天ヨリ與ヘ玉フトコロニ依ツテハ、明命ト云フ、コノ方ヘ受ケ留メテハ明德ト云フ、畢竟ニツニアラズ、一ツナリ、常自在_レ之則無_レ時不_レ明矣、

【常目……】トハ、暫時モ目ヲ離セバ、人欲ガ來リテ盜ミ去ル、然レバ、明カナルモノガ昏昧ニナルナリ●按ズルニ、經ノ明德ノ章句ニ人之所得_レ乎天ト云フ、今ココニハ天之所_レ以_レ與_レ我ト云フ、彼ノ明德ハ人ヲ主トス、故ニ先ヅ人ヲ註ス、コノ明命ハ天ヲ主トス、故ニ先ヅ天ヲ註ス、

帝典曰。克明峻德。

峻、書作俊。

訓讀 帝典に曰く、克く峻徳を明かにす、

【帝典曰……】帝典ナリ曰ク、史臣ガ堯帝ノ德ヲ贊美シテ云フ、德ノ人ニ在ル、ソノ體ニ衆理ヲ具ヘテ、ソノ用ハ、外、萬事ニ應ジテ、本ト峻大ナリ、然レドモ、衆理ハ恆ニ私欲ニ牽カレテ、コノ德ヲ狭ク小ニス、然ルニ、獨リ堯ハコノ峻德ヲ明カニシ玉ヒテ、巨細精粗ニ至ルマデ、毫髮モ察シ_レ由ルコトヲ_レ行フテ云フ_レ盡サザルコトナシ、コレ堯ノ大タル所以ナリ【峻德】ハ、廣大ノ德ト云フ意ナリ、明德ト云フハ、コノ德ノ本體ノ明カナルヲ云フ、峻德ハ、コノ德ノ全體ノ大ナルヲ云フ、ソノ實ハ一ナリ【克明峻德】ハ、書經ニテハ、只ダ堯ノ身上ニ就イテ言フ、コレニ引イテハ、凡ソ人々ノ德ハ本ト明カナリ、ソノ本體ノ明ハ少々ニアラズ、堯ニハ兎テモ及ベカラスト云ヒテ恐ルベキナラズ、我モ文王ノ如ク克明カニセント志ヲ決シテ、サテ湯ノ如ク顧ミル時ハ、末世ノ人モ天ト同ジキ堯ノ德、一體ニ至ルベシ

トノ教ナリ【峻德】即是明德、但自_レ其全體無_レ限量_レ謂_レ之峻_レ耳_レ●存疑云、德一也、自_レ其虛靈不昧_レ言_レ、則曰_レ明、自_レ其具_レ衆理_レ應_レ萬事_レ上言_レ、則曰_レ峻、非_レ於_レ明德之外_レ有_レ所_レ加_レ●蒙引云、即所謂惟天下至誠、爲_レ能_レ盡_レ其性_レ、於_レ天命之在_レ我者、察_レ之、由_レ之巨細精粗、無_レ毫髮之不_レ盡也●峻德亦非_レ常帝堯所_レ獨_レ、萬物皆備_レ於_レ我、堯舜與_レ人同耳、惟聖性者、浩浩其天、不_レ加_レ毫末_レ、萬善足焉、

音義 峻書作俊、

【峻書……】書經堯典ニハ俊ニ作ツテアリト知ラセ玉ヘリ、

【章句】帝典堯典、虞書峻大也、

【帝典】トハ、書經卷一、虞書ノ部、帝舜ノ時ノ史臣ガ堯ノ事ヲ記セルニ依ツテ、虞書ノ中ニ編ミ入レタリ【峻大也】トハ、峻德トハ廣大ノ德ト云フ義ナリ●三書ヲ引ケル時代ヲ云ハバ、初ニ堯典、次ニ太甲、終ニ康誥ナルベシ、然レドモ、時代ノ次第ハ拘ハラズ、コレヲ以テ傳者ノ主意アルコトヲ知ルベシ、以下詩經書經等ヲ引クモ、コノ例ヲ以テ曉スベシ●初ニ文王ノ克ク德ヲ明カニシ玉フヲ引イテ、人々克ク力ヲ用ヒテ、ソノ德ヲ明カニスベシトナリ、次ニ太甲ヲ引イテ、上文ヲ承ケテ、德ヲ明カニスル工夫ヲ示ス、コノ段、肝要ノトコロナリ、人ト天ト一致ナルヲ發明ス、コトヲ能ク知リ能ク信スベシ●朱子曰、只是言_レ人性本無_レ不善_レ、而其日用之間、莫_レ不_レ有_レ當_レ然_レ之則_レ、所謂天理也、人若每事做得是、則便合_レ天理_レ、天人本_レ一理_レ、若理_レ會_レ得_レ此意_レ、則天何嘗_レ大_レ、大何嘗_レ小_レ也●又曰、天即_レ人_レ、人即_レ天_レ、人之始生_レ得_レ於_レ天_レ也既生_レ此_レ人_レ則_レ天_レ、又在_レ人_レ矣、凡語言動作視聽皆_レ天也、顧諟當_レ要_レ看_レ得_レ光明燦爛_レ照_レ在_レ目前_レ、

皆自明也。

訓讀 皆自ら明かにするなり、

【皆自明】コノ四字會子ノ詞ナリ【皆】ノ字、上三聖人ニ係ル、上ニ引クトコロノ三節ノ書經ノ語ニ由ツテ觀レバ、ソノ載スルトコロハ不同アレドモ、徳ト云フモ、明命ト云フモ、峻徳ト云フモ、經文ニ夫子ノ仰セラレシ明德ナリ、文王ノ克ク明カニ説テ願ミル、堯ノ克ク明カニスト云フハ、經文ノ明德ヲ明カニスルノ功ヲ云ヒテ、皆自己ノ徳ヲ我ト明カニスルノ意ヲ説キテ、異ナルコトアルニアラズ、民ノ徳ヲ新ニスルコトモ、ソノ本ハコ、ニアリ、古シヘノ帝王ノ明德ヲ身ニ求メ玉フコト、カクノ如シ、大學ニ志アル者、忽ニスベケンヤトナリ●玉溪盧氏曰、自明 是爲仁由己、而由人乎哉之意ノ淵明者、是自明、昏亦是自昏、玩「自」字、使人警省要而言之、克明德是自明之始事、克明峻徳是自明之終事、願「明命」之句、在中間、是自明 工夫、此章雜引三書、而斷以二言、其文理血脉之精密 如此●蒙引曰、著此一句、以別新民、小註以爲「己」釋之、本文似無此意、觀章句「己」字、可見●吳氏季子曰、合三書而論、雖其皆不同、要皆自明其徳耳、蓋天下之理已昏昏者、不能使人之昭昭、而新其民之功、必自吾之明德始、苟反之吾身、獨未能使本心之徳、瑩徹光明、則雖欲使天下之人各明其徳、胡可得哉、故大學之教、必以自明爲先務、自明則能明民矣、傳「大學」者、引三書而斷之、以皆自明之一語、不亦深切而著明矣乎、

【章句】結所引書、皆言自明己徳之意、

【結所】今右ニ引クトコロノ書經ハ、他人ノ事ヲ云ヘルニハアラズ、文王モ、湯王モ、帝堯モ、面々自己ノ本心ノ徳ヲ明カニシ玉フ事ヲ言ヘル意ヲ、コノ四字ニテ結束シ玉ヘリトナリ、

右傳之首章。釋明明徳。

訓讀 右傳之首章は、明德を明かにすることを釋く、

【章句】此通下三章至止於信、舊本誤在「没」世不「忘」之下、

【此通】トハ、舊本ニカクノ如ク錯簡アリシヲ知ラセンガ爲ノ註ナリ、前ニ云ヘル如ク、更考經文別爲序次、如レ左ト云ヘルモ、カクノ如キトコロナリ、ココハ程子ノ定メ玉ヘドモ、朱子ノハ少シ易レリ●或問曰、一章而下、以至三章之半、鄭本元在「没」世不「忘」之下、而程子乃以次於此、謂「知之至」也、之文、子獨何以知其不然、而遂以爲傳之首章也、曰、以經統傳、以傳附經、則其次第可知、而二說之不「然」審矣、

湯之盤銘曰。苟日新。日日新。又日新。

訓讀 湯の盤の銘に曰く、まことに日に新に、日に日に新に、又日に新なり、

【湯之】トハ、經文ニ在「新」民ト仰セラレシハ、何ナルヲカ、又古ヲ考フルニ之ヲ得タリ、殷湯ハ修行ノ功ニ依ツテ、聖域ニ到リ玉フガ故ニ、ハジメ沐浴ノ盤ニ、コノ九字ノ銘ヲ彫リ刻ミテ自己ノ戒トシ玉ヘリ 考フルニ他書人ノ心ヲ洗フコトハ身ヲ洗フガ如シ、眞實堅固ニ、能ク一日ナリトモ、振メ刷ヘテ自ラ私欲ノ汚ヲ除キ、新ニシテ、志意ヲ整ヘルコト、但ダ一日ノミナラズ、必ズ毎日毎日新ニシテ、工夫怠ラズ、又日日ニ新ニシテ、精神ノ末ニ至ルマデ振ヒ奮フテ、私欲ノ垢ヲ蒙ルコトナクシテ可ナリトノ意ナリ、湯ノ自己ニ新ニシ玉フコト、カクノ如シ、我先ツテ、カクノ如クナレバ、民ヲ新ニスルノ本端シ●苟日新ノトコロガ入學ノ干要ナリ、漸々ニ知リテ進ム端トナル程ニ、朱夫子モ、緊要ハ一ノ苟ノ字ニアリトナリ、湯王カクノ如キノ功ヲ以テ、聖ニ至リ給フ、今傳者經文ノ新民ヲ釋スルニ、自己ノ徳ヲ新ニスルコトヲ述ベ玉フハ、新民ノ本ナレバナリ、カクノ如キノトコロガ、大ニ義理ノ預ルトコロナリ、如何トナレバ、我が徳先ツ新ナラネバ、他人ノ法トモ成ラズ、身修マラザレバ、妻子ニモ道行ハレズ、況ンヤ國天下ヲヤ、故ニ新民ト云ヘドモ、自新ニスルノ工夫ヲ先トス、故ニ盤ノ銘ヲ引イテ、第一節ニ述ベタリ●朱子曰、苟日新一句、是爲學入頭處●又曰、苟誠也、緊要在「此」一字、又曰、舊來看大學日新處、以爲重在「後」兩句、今看得重在「前」一句、苟字多

訓誠字一語類云、問、苟日新、日日新、曰、這個道理未見得時、若無頭無面、如何下工夫、才別撥得、有此通處、便須急躡蹤趨鄉去、

【章句】盤沐浴之盤也、

【沐浴】ハ、カミアラヒ、ユアミスルト訓ズ、大全、新定那氏ガ説ニ、禮記内則ノ篇ヲ引イテ、五日ニ浴ヲ請ヒ、三日ニ沐ヲ具フトアレバ、鹽齏トテ、手水ダラヒノ類カト難ジテアレドモ、餘リニ細カナル詮議ナリ、沐浴ノ盤トアレバ、手水盤モ籠ラン、兎角平生用フルトコロノ器ト云フテ正意ニスベシ、

銘名ニ其器、以自警之辭也、

【名】ハ、文字ノ事ナリ、假名眞名ト云フモ文字云フ、刻ミ彫リ付ケルニ依ツテ、金扁ヲ加ヘタルマデナリ、苟誠也、

【苟誠……】論語里仁ノ篇ニ苟志於仁ト云フモ誠ト訓ズ、意重ク見ルベシ、誠確ト熟シ使フテ、眞實ノ堅固ナルヲ云フ、

湯以下人之洗濯其心以去惡、如沐浴其身以去垢、故銘其盤、

【湯】史記卷三、殷ノ本紀ニ詳ナリ、圖史合攷曰、成湯、名履、一名天乙、主癸之子、契之後也、湯王ノ思召ハ、人ノ其心ノ情欲ヲ洗ヒ濯ギテ、スキト惡念ヲ拂ヒ去ルハ、ソノ身ヲ沐浴シテ、垢ヲ落シ去ルガ如シト思ヒテ、故ニ沐浴ゴトニ思ヒ出サン爲ニ、毎日用ヒ玉フ盤ニ、文字ヲ彫リ付ケテ、自身ノ警トナシ玉ヘリ、

言誠能一日有下以滌其舊染之汚、而自新、則當因其已新者、而日日新之、又日新之、不可略有間斷也、

【言誠……】コノ銘ノ意ハ、誠信ニ能ク一日ナリトモ、不圖思ヒ立チテ、舊ク染ミ付イテ居ル人欲ノ汚ヲ滌ギ落シテ、自ラ新ニスルコトアラバ、ソレコソ幸ナレ、ソノ已ニ新ナルトコロニ依リ近ゾイテ、取り失ハズ、毎日毎日新ニシテ【又

日】トハ、末ヲ遂ゲテ、身ヲ終ルマデ、新ニスベシ、暫時モ、間斷アルベカラズトナリ【舊染】書經胤征篇、舊染汚俗、咸與惟新、

康誥曰。作新民。

康誥に曰く、新にする民を作す、

【康誥……】前ニ云フ如ク周ノ武王、弟ノ康叔ヲ衛ノ國ニ封ジ玉フ時ノ辭ナリ、衛ノ地ハ、本ト殷ノ紂ガ都ヲ建テタル國ナレバ、紂ガ惡ニ民モ染ミ付ケラレタルニ依ツテ、カクノ如ク新ニスル民ヲ作スト云フコトヲ誥ゲ玉フ、上ノ節ハ、自ラ新ニスルノ事、コノ節ハ、民ヲ新ニスルニ當ルナリ、然レドモ、新ニスルコト、我ノミニアラズ、我ガ新ナルヲ推シ廣メテ、當ニ民ニ及ボスベシ、如何トナレバ、古シヘ、周ノ武王ハ弟康叔ニ誥ゲテ仰セラル、殷ノ紂ガ下ニ立チタル民ハ、舊ク紂ガ無道ニ汚俗ニ染ミタレドモ、本然ノ善心ハ、嘗テヨリ未ダ息エ滅ビズシテ、亦タ民モ自ラ新ニセントスルノ機動ク時ナレバ、汝、衛ノ國ニ行キテ、ソノ機ヲ迎ヘテ、民ノ徳ヲ當ニ振ヒ作スベシトナリ、上タル人ヨリ、下民ノ心ヲ囑シ立ツルヲ振起ト云フ【作】ノ字ニ化政ノ二ツ籠レリ、化スルニハ學校ヲ建テ、孝悌忠信ノ道ヲ教ヘテ惡ヲ去リ、善ニ遷リ、舊キヲ舍テ、新シキヲ圖ラセテナリ、政ノ字ノ中ニハ、祿ヲ分チ、田ヲ均シクシ、井田ノ養ヲ起シ、民ノ家ヲ富マシナドスルコトアリ、武王ノ新ニセントスル民ヲ作スコト、カクノ如クナルトキハ、民ヲ新ニスルノ道ハ至レリ、盡セリ●蒙引云、新字連三民字、言、自新之民也、蓋商之民染紂之汚俗已深、至武王、布以維新之化、民亦皆有自新之機矣、但在上者、未レ有振起而成就之、則亦未レ能濯然一新耳、故武王於康叔之誥告レ之

【章句】鼓之舞之之謂作、言振起其自新之民也、

【鼓之……】易上繫辭二鼓之舞之之謂神、鼓舞ノ二字ハ、囀シ立テルト云フ意ナリ、作トハ、大鼓ヲ擊チ囀シ立テテ、

ソノ拍子ニ乗ジテ、袖ヲ飄スガ如クニ、仁義ノ鼓ヲ嘯シ立テ教フルヲ作ト云フ【言振……】トハ、他人ヲ頼ムニモアラズ、自身舊染ノ汚ヲ去ツテ、新ニセント思フ結構ナル心ノ起リタル民ナレバ、彌ヨ間斷ナキヤウニ振ヒ起ストナリ●滕文公上篇ニ從而振德之ト云フ意ナリ、

詩曰。周雖舊邦。其命維新。

訓讀 詩に曰く、周は舊邦なりと雖も、その命維れ新なりと、

【詩曰……】然レドモ、又自ラ新ニスル民ヲ作スト云フノミナラズ、詩經ニ詠ゼルコトアリ、ソノ文ニ、我が親周ノ邦ハ、古シヘ后稷ノ時ヨリ、文王マデハ十五世ナリ、年歴千五百年餘ノ後ナリ、然レドモ、代々諸侯ノ舊キ邦ナリ、文王ニ至リテ、聖徳日ニ新ニシテ、民ノ風丕ニ變リテ、始メテ誕ニ上帝眷顧ノ命ヲ受ケテ、先祖ヨリノ邦ハ、舊ク百里四方ノ土地ナレドモ、求メズシテ天下ヲ三分ガニツテ有テ玉フハ、此命維新ト云フトコロナリ、文王ノ命ヲ新ニスルコトカクノ如クナル時ハ、民ヲ新ニスルノ效、彰ハレリ●コノ詩ハ、文王ノ徳ヲ周公且述ベ玉ヒテ、姪ナル成王ニ告ゲ玉フ、詩ノ辭ノ習ニテ、巧ニ言フトテ、國ハ舊リタレドモ、天命ハ新ニナリタルト云ヘリ【其命維新】トハ、徳化大ニ行ハレテ、諸人多ク日日ニ歸服スルヲ以テ云フ、天下ヲ三分ニシテ、ソノ一ヲ有ツノ義ナリ●語類曰、周雖舊邦、其命維新、自新、新民而至、於天命之改易、可レ謂極矣、必如此而後、爲止ニ於至善也●或問云、民之視效在レ君、而天之視德在レ民、君徳既新、則民徳必新、民徳既新、則天命之新、亦不旋日矣●小註云、若一件事、民人皆以爲是、便是天以爲是、若民人皆歸往之、便是天命也、

【章句】詩大雅文王之篇、言周國雖舊、至於文王、能新其德、以及於民、而始受天命、

【詩大……】詩經卷六、大雅ノ部、文王ノ篇ニ出デタリ、言フハ、周ノ國ハ、后稷ヨリ文王ニ至ルマデ、千五百年舊リ

タリト云ヘドモ、文王ニ至リテ、自ラ能クソノ王徳ヲ新ニシテ、自己ノ徳ヲ以テ、下民ニ及ボシテ、始メテ天命ヲ受ケ玉ヘリトナリ【新其……】トハ、本ヲ推シテ説キ玉ヘリ【始】ノ字ハ、新ノ字ニ貼ス●北溪陳氏曰、三節有二次第、盤銘言、新民之本、康誥言、新民之事、文王詩言、新民成效之極、

是故君子無所不用其極。

訓讀 この故に、君子は、その極を用ひざるところなし、

【是故】トハ、上ヲ受クル辭ナリ【君子】ハ、泛ク民ヲ新ニスルノ役アル者ヲ指ス●丘月林摘訓云、是故字承文王詩意、説來、君子泛言、或以爲指湯武文王者非也●蒙引云、用其極、與止至善、何別、蓋用者求以止之也、自新而不其極、則無以爲新、民之本、新レ民而不レ用其極、則無以盡新レ民之道、此貫三節而結之、非只結文王之詩也、コレ會子ノ辭ニシテ、上ノ三節ヲ結シ玉ヘリ、上ノ三節ヲ合セテ觀レバ、自ラ新ニスルコトハ湯王ノ如ク、新ニスルヲ作スコトハ、康誥ニ云ヘル武王ノ如ク、命ヲ新ニスルコトハ文王ノ如キハ、コレ三王各ソノ至極ヲ用ヒ玉ヘリ、コノ故ニ、凡ソ民ヲ新ニスルノ責ヲ受ケタル君子ハ、在位有徳、治マルコトヲ民ニ求メズシテ、専ラ我ヲ徳ニ求メテ、民ヲ自ラ化スベシ、效ヲ天ニ責メズシテ、惟ダ我が治ニ求メテ、自ラ天心ノ感格スルコトヲ得ベシ、自ラ新ニスルハ、固ヨリ至善ニ止マランコトヲ願フ、民ヲ新ニスルコトモ、亦タ至善ニ止マランコトヲ願フテ、ソノ至極ヲ用ヒザルトコロナキコト、コレニ於テ察スベシ、民ヲ新ニスルコトハ、自ラ新ニスルニ本ヅキテ、至極ヲ用フルニ決スル時ハ、明德、新民、止至善、一以テ之ヲ貫クニアラズヤ、大學ニ入ラントスル者ハ、知ラズンバアルベラズカ、

【章句】自新、新民、皆欲止於至善也、

【自新……】吳臨川曰、用其極者、求其止、於是之謂也●大全景氏曰、用其極者、即止於至善也、能止然後能

用、章句皆欲二字、正貼無所不三字、然新民之意、却在作字上、學者宜熟玩之。○胡雲峰曰、上章釋明明德、故此章之首曰、日新又新、所以承上章之意、下章釋止於至善、故此章末曰、無所不用其極、又所以開下之章之端、文理接續、血脈貫通此亦可見、

右傳之二章。釋新民。

右傳之二章は、民を新にすることを釋く、

●詩云。邦畿千里惟民所止。

詩に云ふ、邦畿千里、これ民の止まるところと、

コノ一章ハ、經文ノ止於至善ト云フヲ釋シ玉ヘル傳ナリ、章ノ中ニ、凡ベテ五節アリ、今コノ第一節ハ、經文ノ止ト云フ一字ノ義ヲ釋シ玉ヘリ、止ト云フハ、前ニモ云ヘル如ク、ソノ往クベキトコロニ居ルヲ止ト云フ、然ル時ハ、何事ニモ止マルトコロアルカト云ヘバ、天理本然ノ則ト云ヒテ、一事一物ニ定マリタル道理ノ本來具ハリテアルヲ、止マルトコロト云フ、コノ節ハ、凡ソ事物ノ上ニ止マリドコロノアルト云フヲ、詩經卷八、商頌ノ部、玄鳥篇ノ文ヲ引イテ、述ベ玉ヘリ、國ヲ以テ云ヘバ、四海九州ニ國多シト云ヘドモ、王者ノ郷スルトコロ、千里四方ノ構ノ中コソ、住マバ京師トテ、士農工商ノ四民、共ニ物足り各ソノ業ヲ遂ゲオチ彰ス至善ノ地ナリ、故ニ諸人ノ聚マリドコロ、住宅セント願フトコロナレ、一國ニ取ツテモ、府中ガ國人ノ止マルトコロナリ、ソノ如ク、萬事萬物ノ上ニ、大抵ハ理アル如クナレドモ、至善ノ理ノアルトコロ、人ノ止マリドコロナルゾト云フ喻ナリ、

【章句】詩商頌玄鳥之篇、邦畿王者之都也、止居也、言物各有其所當止之處也、

【詩商……】詩經卷八、商頌ノ部、玄鳥ノ篇ナリ【邦畿……】畿ハ疆也、千里四方ニ疆ヒ限ルノ義ナリ、王者ノ都スルト

コロナリ、詩經ノ辭ノ止ノ字ニ因ツテ止ニ至善ノ一字ニ當テテ、サテソノ止マリドコロヲ云フベキタメニ、居ノ字ヲ以テ註シ玉ヘリ、故ニ【處】ノ字ガ眼ナリ、按ズルニ、註ノ有ノ字ヲ主トス、又【物】ハ萬物ナリ○商頌本賦體、傳文引來、是比體、邦畿王者之邦、京師衆大之區、以比至善人之所止仁山 ○蒙引云、章句物字、所該者、廣自君臣父子、以至於動靜語默之類、皆有下所當止之至善語、其綱、則曰明德新民耳、

詩云。緡蠻黃鳥。止于丘隅。子曰。於止知其所止。可以人而不如鳥乎。

詩に云ふ、緡蠻たる黃鳥、丘隅に止る、子曰く、止まるに於てその止まるところを知る、人を以て鳥にだも如かざるべけむや、

コノ一節ハ、經文ノ知止ト云フ知ノ字ヲ主トシテ、說キ述ベ玉ヘリ、ソノ知ノ字ノ中ニ能ク得ルト云フ意ヲ兼ネタリ、總ジテ、コノ一章ハ、經文ノ至善ヲ釋シナガラ、知止ト云フ一段ヲ兼ネテ釋シ玉ヘリ、コノ節ニ知止ト云フ中ニ、止マリ得タル意アレバナリ、サテ、コ、ヘ引キタル詩經ノ意ハ、緡蠻ト何ノ分モ聞コエザル無智ニシテ、嘯ル鳥タモ、山ノ嶮岨ニシテ、樹木モ茂盛ナルトコロヲ見課セテ、形ヲ安ズル時ニ定メテ止マレトナリ、杜子美ガ詩ニモ、林茂鳥知歸ト作レリ、孔子、コノ詩ヲ評判ナサレテ、カ、ル無智ナル小鳥サヘ己ガ時ヲ求メントシテ、弓矢モ到ラズ、羅網モ張ラズ、少シモ害ナキトコロヲ尋ネテ、求メテ止ルハ、止マルトコロヲ知レルナリ、然ルニ、人ハ萬物ノ中ニテ、靈妙ノ徳ヲ具ヘナガラ、反ツテ、鳥ノ能ク止マリドコロヲ知ルニサヘ及バザランヤト仰セラレテ、人ハ止マルトコロヲ知ラズンバアルベカラズトイフコトヲ警メ教ヘ玉フ、孔子ノ御言ニ依ツテ、後學ノ人、凡ソ物ノ止マルベキトコロヲ皆必ズ自知スベシトナリ、鳥ヲ美メテ、人ヲ貶シ玉フト誤ルベカラズ○通義、金仁山曰、小雅本興體、傳文引來、是比體、以明三人當知所止、夫鳥者羽物之微也、而鳥身之所止處、猶能擇其可止之地而止之、人萬物之靈也、而身之所止處、不能審其當止之理而止之、則是鳥能擇其所止、而人反不能知其所止、是人而鳥之不如

也、孔子説詩之辭、其所以警夫人者切矣、

【章句】詩小雅綿蠻之篇、綿蠻鳥聲、丘隅岑蔚之處、

【詩小……】詩經卷五、小雅ノ部、綿蠻ノ篇ニアリトナリ【綿蠻……】サヘヅルト訓ズ、毛氏曰、綿蠻、小鳥貌、○瑯邪代醉編卷十一云、詩綿蠻黃鳥、韓詩薛君章句云、綿蠻文貌、又皖院黃鳥、王雪山云、皖院黃鳥之色、二字從目、目視文知、其爲色也、今註皆以爲鳥聲、似不逮及古註之爲得、【丘隅……】岑ハ山ノ高キヲ云フ、ミネット訓ズ、蔚ハサカント訓ズ、木ノシゲリタルヲ云フ、○大全小註、岑蔚二字、本古註、○北溪陳氏曰、土高曰丘、隅謂丘之一角峻處、山岑高而木森蔚、所謂林茂鳥知歸也、野詩、○照解云、黃鳥率性而止于丘隅、岑蔚之處、夫至善亦之心之丘隅也、子曰、以下、孔子説詩之辭、言人當知所當止之處也、

【子曰……】トハ、人ハ泛ク云フ、人ト生マレテ、天子ヨリ庶人マデモ、ソノ止マラデ叶ハザル肝要當然ノトコロヲ知ルベシトナリ、知ノ字重ク見ルベシ、

詩云。穆穆文王。於緝熙敬止。爲人君止於仁。爲人臣止於敬。爲人子止於孝。爲人父止於慈。與國人交止於信。

【訓】詩に云ふ、穆穆たる文王、あ、緝いで熙にして敬して止まれりと、人の君としては仁に止まり、人の臣をしては敬に止まり、人の子としては孝に止まり、人の父としては慈に止まり、國人と交るときは信に止まる、

コノ一節ハ、經文ノ能ク得ルノ事ヲ説キ述ベ玉ヘリ、按ズルニ、前ノ第一節第二節ニハ物ニ各止マリドコロアル故ニ、止マルコトヲ知ルベキ事ナリト云フ、コノ節ニハ、聖人ノ止マリ玉フニ因ツテ、至善ノ在所ヲ指シ示シ玉フ、至善ノ

在所ト云フハ、コレ皆天理人倫ノ至極ナリ、然レドモ、外ニ向ツテ強ヒテ求ムル理ニモアラズ、人心ノ自ラ求ムベカラザルモノヨリ發ス、凡ソ人人全ク持ツトコロノ理ナレドモ、衆人ハ大略氣稟物欲ノ爲ニ昏マサル、故ニ、常ニ敬ノ工夫ヲナスコト能ハズシテ、本心ヲ失フテ、至善ノ在ルトコロヲ失フ、故ニ常ノ人ハ、手本ニ言ヒ難シ、ココニテ詩ヲ引イテ、文王ノ常ニ敬アリテ、至善ニ止マリ玉フコトヲ總ベテ説キ玉ヘリ【穆穆……】ハ、フカシト訓ズ、文王聖徳、海ノ深キガ如ク、天ノ遠キガ如クニシテ、他人ヨリ度量ノ及バザルヲ形容シテ云フ【於】ハ、歎美ノ詞、言語ニ系ケテ寫シ難キニ依ツテ於ト云ヘリ【緝熙】ハ、常住ノ義、又ハ絶エザルノ意【緝】ハ、内ノ徳緒ノ愈ヨリ續イテ愈ヨリ長キガ如ク【熙】ハ、徳光外ニ發ハレテ、事物ノ輝カスコト、猛火ノ愈ヨリ熾シキガ如キヲ云フ【敬止】文王ノ心ハ、一毫モ天理ニ外レズト、敬ニ純一ニシテ、各天理ノ至極ニ協フヲ云フ、コノ敬ハ泛ク言フ、下ノ爲人臣止於敬ノ敬トハ殊ナリ○眞西山曰、敬止之敬、舉全體一言、無不敬之敬也、爲人臣止於敬、專指君言、敬之事也、敬止ノ敬ハ、易ニ敬以直内ト云ヒ、又王一無適ナドト註スル字ナリ、止於敬ノ敬ハ、崇敬ノ敬ナリ【止】ノ字、詩經ニテハ、助語ノ辭ナレドモ、大學ニ引用スル時ハ、字眼ナリ、則チ斷章取義ノ法ト云フ、コレナリ、今會子ノ詩經ヲ引イテ重ネテ再釋アル意ハ、然レドモ、ソノ當ニ止マルベキトコロト吾人當ニ止マルコトヲ知ルベキトコロトハ、總ベテ至善ニ越エズ、コレヲ文王ニ驗ヘテ觀ズヤ、大雅文王ノ篇ノ詩ニ穆穆徳容ノ深遠ナル文王ハ、ア、ソノ心光明ノ徳ヲ繼ギ續ケテ、一毫モ私欲ノ蔽ナキガ故ニ、心寸光ノ間モ敬セザルコトナクシテ、凡ソ事ニ見ハル、皆ソノ止マルトコロニ安ンジ玉フト、詩ニ感じテ云フトコロ、カクノ如シ、今文王ノ敬シテ止マルノ大ナルヲ舉ゲテ云ヘバ、君トシテノ道ハ、仁ヨリ上ニ超エタル善ナシ、文王ハ、人ノ君タル時ハ、岐周ト云フ國ヲ治メ玉フ時ヲ指ス、心ヲ用ヒテ仁政ヲ行フコト、天理ノ至極ナラザルコトナクシテ、仁ニ止マリ、孟子ニ文王ハ視民如傷ト云ヒ又仕フル者ハ祿ヲ世スルノ類、コレナリ、臣トシテノ道ハ、上ヲ崇敬スルヨリ勝レタル善ナシ、文王ハ人ノ臣トシテハ、下ヲ以テ上ニ事フルコト、天理ノ至極ナラザルコトナクシテ、敬ニ

止マリ、論語泰伯篇ニ三分天下ニ有其二以服事殷ト云フ、コレナリ、子トシテノ道ハ、孝ヨリ大ナル善ナシ、文王ハ、父ノ王季ニ事ヘテ、愛慕繼ギ承ギテ、天理ノ至極ナラザルコトナクシテ、孝ニ止マリ、禮記文王世子篇ニ文王之爲世子、朝王季日三、鷄初鳴而衣服、至於寢門外、問內豎之御者曰、今日安否何如ノ類、コレナリ、父トシテノ道ハ、慈ヨリ善ナルハナシ、文王ハ、武王周公等ノ父トナリテ、我ニ德ヲ積ムコト昌ニシテ、天理ノ至極ナラザルコトナクシテ、慈ニ止マリ、國人ヲ統ベ御ムルニ至ツテハ、ソノ道、信ヨリ善ナルハナシ、信ハ誠意ノ流通始、終移ラザルノ意文王ハ國人ト交リ接スル時ハ、上ヨリ下ヲ使ヒ下ノ上ニ事フル際、内外ニツアラズ、終始欺カズシテ、天理ノ至極ナラザルコトナクシテ、信ニ止マリ玉フ、コノ五ツハ、文王一ツノ敬ヲ用ヒテ、五間ニ流通シテ、止マルトコロ皆至善ナラザルコトナキコト、カクノ如シ、學者トシテ、文王ノ上ヲ己ニ體メ認ムル時ハ、明德ノ至善ニ止マルナリ、コレヲ人ニ推シ廣ムレバ、民ヲ新ニスルノ至善ニ止マルニシテ、自他共ニ至善ニ止マルコトヲ得ベシトナリ、是皆天理人倫之極致、發於人心之不容己者、而文王之所以下爲法天下、可得於後世者、亦不能加毫末於是、焉、但衆人類爲氣稟物欲之所昏、故不能常敬、而失其所止、唯聖人之心、表裏洞然、無有一毫之蔽、故連續光明、自無不敬、而所止者莫非至善、不待知所止而後得所止也、故傳引此詩、而歷陳所止之實、使天下後世得以取法焉、學者於此誠有以見其發於本心之不容己者、而緝熙之、使其連續光明、無少間斷、則其敬止之功、是亦文王而已、

【章句】詩文王之篇、穆穆深遠之意、於歎美辭、

【穆穆】德容ヲ以テ言フ、○大全吳氏程曰、無淺露迫切之意トアリ、海ノ深キガ如ク、天ノ遠キガ如クニシテ、凡慮ヲ用ヒテ測ラレザルヲ穆穆ト云フ【於歎】サテモサテモト褒メタル辭ナリ、緝、緝、緝也、照光明也、緝、緝也、照光明也、詩ノ註ニハ、緝、緝照明トアリ、今コノ註ニハ繼續也、光明也トイヒ玉ヘルモ、大學ニハ何レモ當リドコロアリテ、義

ガ精シキニ依ツテ、念ヲ入レテ、重ク註シ玉ヘリ、止ノ字ナドノ取りヤウモ、詩經トハ別ナリ、然レバ、ココモ緝照ノ二字、明明德ノ意ヲ含ム故カト思ハル、○大全、緝、不容己之誠也、照、不容己之明也、○蒙引曰、繼續光明言其心常明也、故於敬曰無不敬、於止曰安所止、皆自聖人地位一言也、敬止、言其無不敬而安所止也、

【敬止】文王ハ、何事ニ寄ラズ、敬セズト云フコトナク、然レドモ、止マルベキトコロニ自然ト止マリ玉フ聖人ナレバ、安行ノ氣象ナリ、彼ノ至善ニ何トゾシテ、止マルヤウニト勉メテ敬シテ止マリ玉フニアラズ、ソレハ凡人ノ事ナリ、文王ハ行ハセラル、トコロガ則チ至善ナリ、故ニ安ズルト云フ、學者ハ勉メテ、敬ミ勉メテ止マルベシ、ソレトモニ文王ニ則ルベシトナリ【安】ノ字、眼ナリ、○袁了凡曰、添安字、極是、○又陳新安曰、安字見文王安行之氣象、非勉焉用レカ比、引レ此而言聖人之止、無非至善、五者乃其目之次者也、

【引此】トハ、コノ詩ヲ引イテ傳者言トナリ、コレ以下ノ註ヲ學者熟ラ味ウテ、トクト合點スベキトコロナリ、格物ノ第一肝要ナリ、コノ段、傳文ノ意ヲトクト得心アリテ、擴メテ説キ盡シ玉ヘリ【聖人】聖人ノ止マリ玉フコトハ、假初ニモ至善ニアラズト云フコトハナシ、止マリ玉フトコロハ皆至善ナリ、至善ニ叶フヤウニト勤ムルハ、修行ノ學者ノ事ナリ、聖人ハ然ラズ【五者】トハ、止マルトコロ皆至善ナレバ、コノ仁敬孝慈信ノ五ツハ、乃チソノ目錄ダテノ大ナル事バカリナリ、瑣細ナル事ハ、詳ニ言ヒ盡クサレズトナリ、ソノ常住ノ數多キ中デ大ナル事バカリナ五箇條舉ゲテ、ソノ餘ヲ言外ニ含ンデ言フ、文王ノ至善、五ツバカリニアラズ、學者於此究其精微之蘊、而又推類以盡其餘、則於天下之事、皆有以知其所以止而無疑矣、【學者】學者タル者、コノ仁敬孝慈信ノ五箇條ノ上ニ於テ、ソノ精シク微細ナル道理ヲ究メテ、又類ヲ推シ廣メテ、

ソノ五箇條ノ餘ヲ行ヒ盡ストキハ、一天下ノ事ニ於テ、皆ソノ止マルトコロヲ能ク知ツテ、少シモ不審ナル疑ハシキ事ハアルマジトナリ【精微】ハ、ソノ理ノ精詳ナリ【蘊】ハ、ツ、ムト訓ズ、蘊奧トテ、理ノ蘊マレテ深キヲ云フ、精微ノ内ニツ、マレテアル理ノ餘意ナリ【推類……】トハ、コノ本文ニハ、君臣父子朋友ノ三件バカリ舉ゲテ述ベラレタハ、人ノ不審、必ズアルベキトコロナリ、然レドモ、コレハ大抵凡例バカリヲ舉ゲテ、逐一舉ゲラレヌハ、餘ヲ推シ廣メサセンガ爲ノ作文ト見エヘタリ、ソコヲ先ヅ文公ノ見受ケ玉ヒテノ注ナリ、傳者ノ意察スベシ、コレヨリ推シテ、ソノ夫婦ハ別アルニ止マリ、長幼ハ序アルニ止マリ、君臣ノ仁敬ヲ以テ、凡ソ尊卑大小ノ間ヘ推シ、父子ノ孝慈ヲ以テ、伯父諸姪或ハ姑婦ノ類ニ推シ廣メテ、ソノ止マルトコロヲ求メバ、萬事萬物、悉クソノ止ルベキトコロノナキト云フ事ハアルマジトナリ●朱子語類云、大倫有五、此言其三、蓋不止此、究精微之蘊、是就三者裏面、窮究其蘊、推類以通其餘、是就外面推廣、如夫婦兄弟之類、又曰、此章雖入倫大目、亦只舉得三件、必須下就此上推廣、所以事上、當如何、所以待下、又如何、尊卑大小之間、處之各要如此、此●コレ等ノ説ヲ以テ按ズルニ、推其餘ト云フハ推ストコロ廣カルベシ、故ニ於天下之事、皆有以知其所以止而無疑矣ト云ヘリ、

詩云。瞻彼淇澳。葦竹猗猗。有斐君子。如切如磋。如琢如磨。瑟兮僩兮。赫兮喧兮。有斐君子。終不可諱兮。如切如磋者。道學也。如琢如磨者。自修也。瑟兮僩兮者。恂慄也。赫兮喧兮者。威儀也。有斐君子。終不可諱兮者。道盛德至善。民之不能忘也。

訓讀 詩に云ふ、彼の淇澳を瞻れば葦竹猗々たり、斐たる君子あり、切るが如く磋くが如く、琢つが如く磨くが如し、瑟たり僩たり、赫たり喧たり、斐たる君子あり、終に諱るべからずと、切るが如く磋くが如しとは學をいふなり、琢つが如く磨くが如しとは自ら修むるなり、瑟たり僩たりとは恂慄あるなり、赫たり喧たりとは威儀あるなり、斐たる君子あり終に諱るべからずとは、盛徳至善にして民の忘るること能はざるをいふなり、

上ノ第一第二第三節ニハ、詳ニ至善ニハ必ズ止マラズシテ、叶ハザルヲ備サニ説キ玉ヘリ、然レドモ、至善ニ止マルコトヲ求ムルニ術アリ、又止マリ得タル其驗ヲ言ヒ述ベザル故ニ、今淇澳ノ詩ヲ引イテ、止マルコトヲ求ムルノ意ヲ示シ玉フ、前ニモアル如ク、至善ト云ヒ、一ツ離レテアル物ニアラズ、明德ニモ、新民ニモ、離レザル物ナリ、故ニコノ節ハ明德ヲ明カニスル者ノ至善ニ止マルルヲ發明シ玉フ、先ヅコノ詩ハ、衛ノ國ノ武公ヲ褒メテ、國人作ツテ諡ヘル辭ナリ、武公ヲ修竹ノ青青タルニ喩テ興シテ云フ、衛ノ地、洪水ノ澳ヲ水邊ノ流灣ヲ曲レルトコロヲ云フ眺望セバ、綠竹青青ト美盛ナリ、竹ハ何國ニモアレドモ、洪水ノ澗ハ、天下ノ名物ナリ、コノ竹ニ意ヲ起シタルヤウニ云ヒ系ケテ、下ノ句ヘ云ヒ回セリ、國君ハ世上ニ多ケレドモ、衛ノ武公ハ、勝レタル君子ノ徳ヲ有ツテ、見事ナル人ナリ、カカル斐タル威儀ノ文章訓君子ニ至リ玉フゾトナレバ、生質美ナルモ、ソノ儘ニテハ成就セズ、武公ハ學問ニ志厚ウシテ、理ヲ尋ネ窮ムルコト、譬ヘバ、切ルガ如ク磋クガ如シ、又身ヲ修ムルニ、ソノ理ヲ心ニ明キラメテ身ニ發ハシ行フコトハ、琢ツガ如ク、磨クガ如シ、ソノ心ノ上ヲ云ヘバ、平生敬ヲ屹ト守リ、粗相ニアラザルヲ瑟兮ト云フ、ソノ敬、中ニ存スルガ故ニ、志强クシテ少シモ怠慢ノ事業ナキヲ僩兮ト云フ、カクノ如ク斐ヲ具ヘタル君子ナレバ、民皆ソノ徳ヲ渴仰シテ、終不可諱兮ト云ヘリ●コレマデ詩經ノ辭ニシテ、以下ハ曾子ノ釋ナリ、ソノ詩經ニ【如切】トハ、象牙又角細工ヲ作ル者ハ先ヅ刀鋸ヲ用ヒテ鏤リ切リテ大抵形質ヲ造ルナリ【如磋】トハ、形質ヲ造ラヘテノ上ニ鏤錫ヲ用ヒテ、愈ヨ丁寧ニ磋ギ遂グルナリ、コレハ格物致知ノ喩ナリ、知ヲ盡シ、理ヲ窮ムルコトハ大概ニシテハ、廢テラレズ、精密ニスルノ上ニ又精密ニ勵マスニ比ベテ云フナリ【如琢】トハ、玉石ノ細エテ勤ムル者ハ、先ヅ椎鑿ヲ用ヒテ、ソノ物物ノ恰好ニ大抵形質ヲ造ル【如磨】トハ、金剛砂砥石ニテ磨キテ益ス滑澤ナラシムルナリ、コレハ誠意正心修身ノ譬ナリ、自力ヲ盡シテ

惡ヲ去リ、善ニ遷ルノ修行ナリ、コレハ理ノ窮ムルノ工夫ヨリ、又一等難事ナルガ故ニ、大略ニテハ、安ンジ置カザル事ナリ、内ニ省ミテ警メ、詳ニ察シテ、未ダ善ナラズト思フトコロアルハ、私欲ノ害未ダ消セザルノ驗ナレバ、之ニ克チ之ヲ治メテ、精シキガ上ニモ、益ス精シクスルニ比ス、骨角ハ條理アル物ナレバ、理ニ比ベタリ、理ハ大綱ヲ見明キラメテモ、又愈ヨ精シク究メザレバ、蘊奧ノ理ニハ徹シ難シ、玉石ハ渾淪タル堅確ナル物ニテ、疵アリ易キニ依ツテ、形質大形出來テモ、再三見テ、少シノ疵モ、磨ケバ疵ハ斷エルガ故ニ、窮理ヲ骨角ニ喩ヘ、力行ヲ玉石ニ比ス、コノ切磋琢磨ハ、明明德止至善ノ工夫ナリ【瑟兮】トハ、常ニ敬ノ心一念ノ間モ疎ニセザルヲ云フ【側兮】トハ、一息ノ間モ、勇力怠リナク剛強ナルヲ云フ【恂慄】トハ、戰懼也ト註シテ、物ニ奪ハレズ、退屈セザルヲ云フ【赫兮喧兮】トハ、中ニ有ツ德、自ラ外ニ溢レ出デ、威儀正シクシテ、他人ヨリ感じ見テ、畏レ憚ラレ、他人ノ式法ニナルトコロヲ赫兮ト云フニ依ツテ、二字ヲ合セテ、威儀アルナリト云ヘリ●正シキ威、我ニ具ハリテ、他人畏ルベキトコロアルヲ威ト云フ、儀式見ハレテ、他人感じ移シテ、手本トスベキヲ儀ト云フ、恂慄威儀ハ、裏ノ徳ガ、容貌ノ表ニ見ハル、ヲ云フ、コレ切磋琢磨ノ驗ナリ、身ニ明德ヲ行ヒ得タルヲ盛徳ト云フ、ソノ聖ノ至極ニ達シタルヲ至善ト云フ、カ、ル斐アル君子ナレバ、人皆常ニ渴仰シ、感じ慕フニ依ツテ、終ニ忘ルルコトヲ得ズトナリ、●盛徳至善ノ地位ハ、聖人ノ事ナリ、切磋琢磨ハ學者ノ事ナリトイヘドモ、ソノ效驗ヲ極ムレバ、聖人ノ地位ナリ、ココ、上文ニ文王ノ事ヲ云ヒタルニ連ネテ説クベシ、聖人タリトモ、工夫ナクシテ、臂ヲ振ツテ、コノ極ニ至ルベカラズ、孔子曰、徳之不修、學之不講、聞義不能徙、不善不能改、是吾憂ナリト、ソノ憂ヒ玉フトコロガ、愈ヨ聖ナルトコロナリ、然ルニ、コノ詩ハ、衛ノ武公ヲ褒メテ作りタリ、武公ヲバ、朱文公ノ集傳ニハ、聖賢ノ徒ナラント云ヘリ、然ルテ、何ゾ聖人ノ地位ニ取ルゾト云フニ、詩人ノ習ニテ、褒メ過ゴシタル事多シ、武公薨ジテ後、諡ヲ睿聖武公ト云ヘリ、今大學ニ取り用フルハ、ヤハリ詩人ノ辭ニ就イテ見レバ、聖人ノ位ナルヲ、ソノ儘、聖人ノ事業ニ義ヲ取り用フルガ、傳者子詩ヲ引

クノ活法ナリ、泥ムベカラズ、故ニ章句ノ中ニ直ニ武公ト指サズ、文王ノ詩ハ直ニ文王ト云ヘリ●君子ノ恩澤ヲ被ツテ忘レズト云フコトニハアラズ、民モ見ルニ感じテ、自ラ新ニセント欲スル機作ツテ忘レザルナリ、カクノ如ク説キ續ケテ、新民ノ端ヲ起シ、下ノ前王不忘ト云フニ至ツテ、コノ節ヲ受ケタリ、文理接續味フベシ、●按ズルニ、衛ノ武公ノ國中ニ傲シメテ、諫ヲ受ケ禮ヲ守リ、私意ヲ防ガレタルコト、詳ニ國語卷十七楚語上篇ニ見エタリ●國語云、武公九年十有五、猶箴傲於國、曰、自卿以下、至於師長士、苟在朝者、無謂我老髦、而舍我、必恪恭於朝、以交戒我、遂作箴戒之詩、以自警、而賓之初筵、亦武公悔過之作、則其有文章、而能聽規諫、以禮自防也、可知矣、及其沒也、人謂之睿聖武公、合攷●按此詩本詩人頌美、衛武公之詞、武公未レ知ニ是聖人、否、然詩人推尊、之意極重、有レ曰、睿聖武公、則亦以爲聖人之徒、矣引蒙

【音義】【澳於六反】トハ、入聲屋韻ニシテ、隈也ヲ知センガ爲ナリ、去聲號韻ナレバ、アウノ音ニシテ、フカシト訓ズ【菜詩……】トハ、詩經ニハ綠ノ字ニ作レリトナリ【猗叶……】トハ、平聲支韻ナレドモ、今礎ノ字ト韻ヲ合セテ、平聲歌韻ニ叶ウテ音阿トス【側干……】トハ、上聲潛韻ナルコトヲ示ス【喧詩……】トハ、喧ヲ詩經ニ喧字ニ作レリ【諠詩……】トハ、諠ヲ詩經ニ緩ノ字ニ作ル、竝ニ況晚反ワシク【恂鄭……】禮記ノ中ニ在リシ時、後漢ノ鄭玄ハ、讀ンデ峻ト作ル、ヲホヒニ、ヲソル、意ナリ●大全【通考】吳氏程曰、喧諠竝可晚反、上從レ詩則況晚反、音義竝與レ同、下音董協韻作レ況晚反、

【章句】詩衛風淇澳之篇、淇水名澳隈也、猗猗美盛貌、興也、斐文文貌、
【詩衛……】詩經卷二、衛風ノ部、淇澳ノ篇、淇水……トハ、淇水ト云ヒテ、衛ノ國ニアル水ノ流ノ名、詳ニ大明一統志卷二十八ニ見エタリ、大井川鴨川、
【詩衛……】詩經卷二、衛風ノ部、淇澳ノ篇、淇水……トハ、水ノ曲リテ入江ナドナリ、文林貫旨云、淇是水邊灣曲處、爾雅云、涯內爲淇、外爲隈也【猗猗……】トハ、アヲアヲトノビシゲリ、盛ニ美シキ體ナリ●蒙引云、淇澳之詩、詩經註有、與レ

此不_レ同處、曰猗猗始生柔弱而美盛也、切以刀鋸_ニ作刀斧、瑟矜莊貌、儻威嚴貌、喧宣著貌【興也】トハ、詩經ノ法ニ、賦比興諷雅頌ノ六義アリ、コノ詩ハソノ中ノ興ノ體ナリ、興ノ體ノ詩ト云フハ、何ニテモ先ヅ他事ヲ言ヒテ、ソレニ託ケテ吾ガ思フ事ヲ呼ビ興スヤウニ言ヒ述ブルナリ、コノ詩モ、先ヅ菴竹ヲ言ヒテ、次ニ衛ノ武公ノ有_レ斐君子ナルコトヲ褒ムルナリ●詩經周南關雎、篇朱子註云、興者先言_ニ他物_ニ以_テ引起_レ所_レ詠_ニ之詞_也【斐文…】ハ、アヤツヤアリテ見事ナルヲ云フ、ソノ初、切瑳琢磨アル故ニ、斐然トシテ文美シキヲ云フ、
切以_ニ刀鋸_ニ琢_ニ以_ニ椎鑿_ニ皆裁_レ物_ニ使_レ成_ニ形質_也、礎以_ニ錫錫_ニ磨_ニ以_ニ砂石_ニ皆治_レ物_ニ使_レ其_ニ滑澤_也、治_ニ骨角_者、既切而復磋_レ之、治_ニ玉石_者、既琢而復磨_レ之、皆言_ニ其治_レ之有_レ緒_{而益致_ニ其精_也、}

【刀鋸】ハ、カタナト、ノコギリトナリ【椎鑿】ハ、ツチト、ノミトナリ鑿_ハ失_レ各切、廣韻_ニ鑿_也、古史考孟莊子作_トアリ【皆裁…】トハ、裁ハタツト訓ジテ、衣服ヲ仕立ル時ニ初メニ一疋ヲ切り裁ツ字ナリ、爰ニテモ、骨角玉石ヲソレゾレノ形質ニ大略成サシムルヲ云フ、物トハ骨角玉石ヲ指ス、形質ハ、先ヅ下地ノナリカタチナリ【錫】ハ、カンギト訓ズ【錫】ハ、ヤスリト訓ズ、二ツハ象牙細工ヲスルモノ、用フル器ナリ【砂石】ハ、日本ノ金剛沙ナリ【石】ハ、砥石ナリ【皆治…】トハ、皆トハ切ツタリ、琢イタリシタル物ヲシテナリ、其トハ切琢ヲ指ス、滑澤トハ、ナメラカニ、ウルホフト訓ズ、俗ニスベスベト云フニ同ジ【皆言…】トハ、ソノ之トハ切琢ノ二字ヲ指ス、緒ハ細工ノ次第ヲ云フ、精ハ磋磨ヲ指ス、皆ソノ玉石細工ノ仕様ニ次第アリテ、益スソノ上ニ精シク、ズベズベスルヤウニ致シ窮ムルナリ、切ラザル先ニ礎キモナラズ、又磨キテ後ニ、琢ツコトモナラズ、皆細工ノ作り治メヤウニ次第ガアルナリ●語類問、如_レ切_{如_レ琢_者道_レ學_也、如_レ琢_{如_レ磨_者自_レ修_也、此_レ是_レ聖_人美_武公_之本_旨耶、姑_{借_ニ其詞_{以_テ發_ニ學問自_レ修_之義_耶、曰_武公_大段_{是_レ有_ニ學問_底人_{抑_レ之}一詩_{義理精密}、詩中如_レ此_者甚_{不_レ易_レ得_、瑟嚴密之貌、儻武毅之貌、}}}}}}

【嚴密】ハ、キビシクミソカト訓ズ、心靜マリテ危相ニナキヲ云フ、大全_{不_レ嚴疎_也、按ズルニ、嚴ノ字ハ敬ノ嚴ナルヲ云フ●語類云、瑟矜莊貌、又云問解_レ瑟爲_{嚴密}、是就_レ心言_{、抑就_レ行言、曰_{是就_レ心言、問心如何_{是密處}、曰_{只是不_レ粗疎}、恁地_{鎮密}【儻武…】ハ、武毅ハ、タケクツヨシト訓ズ、物ニ退屈セズ、堪忍ツヨキヲ云フ、大全、不_レ怠弛●語類云、能剛強卓立_{不_レ如此_{、忘情闢_風、又曰_{瑟矜儻}、則誠敬存_ニ於_中、}}}}}

【宣著】ハ、アラハレ、アラハル、ト訓ズ【盛大】ハ、サカンニ、チホヒナリト訓ズ、雙峰_{饒氏}曰、宣著釋_{赫字}、盛大釋_{喧字}●語類云、威儀輝光、著見於外【道言…】トハ、イフト訓ジサセンガ爲ノ註ノ如クナレドモ、輕ク見ルハ惡シ、講習討論ハ道ノ字ノ註ナリ、道ノ字ガ講習討論ニ當ル、武公ノ學ヲ言フヲ指ス、下ノ註ニテ考フベシ●東陽許氏曰、講習討論既<sub>講_之、又重<sub>習_之、復_{討論_之、言_レ之轉密}●講習ハ、書ヲ讀ンデクリカヘシ習フ【討論】ハ、ソノ後後ニ義理ヲ彌ヨ精シク尋ネテ議論ス、格致ニ當ル、講習ノ二字ハ、易ノ離卦ノ象傳ニ出ヅ、討論ノ字ハ論語憲問ノ篇ニ出ヅ、朱子ノ註ニ討尋究也、論講義也トアリ、按ズルニ【之事】ノ二字下ノ註ノ一切ノ二字ニ引キ合セテ見ルベシ、面白キ文字ナリ、
自修者省察克治之切、</sub></sub>

【省察】ハ、カヘリミミルト訓ズ【克治】ハ、惡ニ克チ、善ヲ修シ治ムルナリ、ソノ言行ヲ省察シテ、不正ノ疵アル時ハ、ソノ儘改メ治ムル、コレヲ自ラ修マルトハ云フ●大全東陽許氏曰、省_是內_自警_省、察_是密_察精_詳、此_{求_ニ己_{有_レ未_レ善_也、克_者勝_{去_{、治者}平_レ之}、此_{去_ニ其_不善_{以_テ從_ニ善_也●黃氏洵饒曰、道_學格_物致_知也、自_修誠_意正_心修_身也、又曰、講習討論始_{條理}之事、知也、省察克治、終_{條理}之事、行也、又曰、講習討論言_{格物致知}、省察言_{誠意}、克治言_{正心修身}●按ズルニ、省察克治ノトコロニハ、自修ト云ヒ、格物致知ハ書ヲ讀ミ或ハ師ニ得ル事モアラン、又朋友ト議論シ、或ハ}}}}

他ノ人品ヲ見テ得ル事モアラン、心中ノ善惡ハ我自ラカチ用ヒズンバ協ハザルニ依ツテ、別シテ自修トアリ、切ノ字ハ力行ニ掛ク、

恂慄戰懼也、

【戰懼】ハ、ヲノ、キ、オソル、ト訓ズ●大全、雙峰方氏曰、瑟是工夫細密、惻是工夫強毅、恂慄是兢兢業業、惟其兢兢業業、所以工夫精密而強毅●大全云、戰懼之意、嚴於中●語類問、恂慄何以知爲戰懼、曰莊子云木處則恂慄危懼、威可畏、儀可象也、

【威】ハ、輕シメ易ラレヌヲ云フ【儀】ハ、行義作法ノ正シウシテ、他人手本トモスベキヲ云フ、コレハ、美ノ外ニ現ル、ヲ威儀ト云フ、左傳襄公三十一年云、威而可畏謂之威、有儀而可象謂之儀トアルヲ取ツテ註セリ、引レテ而釋之、以明下明德者之止於至善上、

コレハ傳者ノ指ス 曾子ヲ 發明ヲ註シ玉フトコロナリ【釋之】トハ、如レ切如レ磋者道學也以下ヲ指シテ釋ト云フ【之】トハ、詩經ヲ指ス、

道學自修言下其所以得之由上、

カクノ如ク學問修行ニ因ツテ至善ヲ得タルナリト、ソノ來由ヲ云フトナリ【得之】トハ至善ヲ指ス、

恂慄威儀、言其德容表裏之盛、

【恂慄】ハ裏ニ在ツテ、德ナリ【威儀】ハ、表ニアラハレテ、容ナリ、畢竟、裏、心ニ恂慄シ、外、行ニ威儀アル事ヲ云フソノ德容ノ表裏スキトホル如クニ盛ナルコトナリ、
卒乃指其實而歎美之也、
【其實】トハ、盛德至善ヲ指ス、ソノ餘ノ語ハ、皆嘆美ナリ、サテモサテモ民ノ忘ル、コトヲ得ザルハ、カクノ如クノ事

ナリト云ヒテ、嘆美スルナリ●大全、朱子曰、切而不磋、未至善處、琢而不磨、亦未至善處、瑟兮僴兮、則誠敬存於中矣、未至於赫兮喧兮威儀光輝著見於外、亦未爲至善、至於民之不能忘、若非十分至善、何以使民、久而不能忘●語類云、至善一章、工夫都在一切切磋磨上、又曰、既切而復磋之、既琢而復磨之、方止於至善、不然雖善非至、又曰、傳之三章緊要、只是如切如磋如琢如磨、如切可謂善矣、又須當磋之、方是至善、一章主意、只是說下所以止於至善工夫、爲下不可誼分語、拖帶說到道、盛德至善民不能忘、又因此語、一向引去、大概是反覆嗟咏、其味深長、他經引詩、或未甚切、只大學引得極細察●又魏元壽問一切切磋磨之說、曰、恰似剝了一重、又有中一重、學者做工夫、消磨舊習、幾時便去教盡、須是只管磨教、十方淨潔、最怕如今於二眼前道理、略理會得些、便自以爲足、更不著力向上去、這如何會到至善田地●又曰、骨角却易開解、玉石儘著得磨措工夫●又問、瑟者武毅之貌、恂慄戰懼之貌、不知人當戰懼之時、果有武毅之意否、曰、人而懷戰懼之心、則必齊莊嚴肅、又烏可犯●又民之不能忘也、只是一時不忘、亦不是至善、又曰、瑟兮僴兮赫兮喧兮者、有所主於中、而不能發於外、亦不是至善、務飾於外、而無主於中、亦不是至善●黃氏洵饒曰、道盛德至善、見得新、民在明德中、欲盡人道之當然、必如此、見得言綱領而條目在其中、未又說新、民、此是至爲情密處、德以理之得於心、善以理之見於事●新安吳氏曰、理在事物、則爲至善、身體此理、而有所得、則爲盛德、如君之至善、是仁、能極其仁、即君之盛德、明德是得於稟賦之初者、盛德是得於踐履之後者、亦只一理而已●新安陳氏曰、此章釋止至善、亦有下釋、知止能得之意、於止、知其所止、知止也、引洪漢而釋之、學與自修、言下明德、所以得止至善之由、恂慄威儀盛德至善、指其得止至善之實、民不能忘、已開下新民得止至善之端、上下文方極言之耳、章句所以得之得字、正與經文能得之得字、相照應●按ズルニ、コノ詩ノ中ニ三綱領八條目共ニ籠メテアリ、

詩云。於戲前王不忘。君子賢其賢而親其親。小人樂其樂而利其利。此以沒世不忘也。

於戲音鳴呼、樂音洛、

【訓】詩に云ふ、ああ前王忘れずと、君子は、その賢を賢とし、その親を親とす、小人は、その樂を樂み、その利を利とす、これを以て世を没すれども忘れざるなり、

コノ一節ハ、烈文ノ詩ヲ擧ゲテ、民ヲ新ニスルコトノ至善ニ止マルコトヲ得タルヲ云フ、我が明德ヲ明カニスルノ效ヲ發ハス、上ニ道アルヲ見テハ、民モ同ジク然ルノ德ヲ具フルガ故ニ、仰ギ慕ヒテ忘ル、コト能ハズト云フハ、民モ自ラ新ニセントノ機ナリ、コ、ニハ新民ノ工夫ヲ説カズシテ、只ダ親賢樂利ノ餘澤ノミヲ驗ニ説クコトハ、我が明德己ニ明カナレバ、新民ハ論ズルニ及バザレバ效ノミヲ云フ、淇澳ノ詩ニハ、當世ノ民ガ忘ル、コト能ハザルナリ、コノ節ニハ、後世ノ民モ亦忘ル、コト能ハザルヲ説キテ、新民ノ至極ヲ示スナリ【於戲】ハ、歎美ノ辭【前王】ハ、周ノ文武ヲ指シテ云フ、文王武王、早ク没シ玉ヒテ、ムカシ語ニナリ玉ヘドモ、今ノ末世ニ至リテモ、民皆民ハ貴賤ヲ籠メテ云フ忘ル、コトヲ得ザルナリ【君子】文武ヨリ後ノ賢者、又後王ヲ云フコレヨリ賢子ノ釋ナリ【小人】ハ、後ノ百姓ヲ云フ、下【親賢樂利】ノ四ツハ、共ニ先王ノ貽フトコロ上ノ【親賢樂利】ハ、共ニ後人ガ先王貽フトコロノ澤ヲ被ムルヲ云フ、コノ四ツガ民ヲ新ニスルノ至善ニ止マルト云フニハアラズ、四ノ驗見ハルコトハ、民ヲ新ニスルノ至善ニ止マルガ故ナリト云フ意ナリ、民ヲ新ニスルノ至善ニ止マルトスルトコロハ、全ク【沒世不忘】ノ上ニ就イテ見ルベシ【沒世】ノ字ヲ民ノ身ヲ終ルマデト見ル説ハ誤ナリ【前王】ノ字ニ當ツテ、文武ハ世ヲ没ヘ玉ヘドモト見ルベシ、註ニ既沒レトモトモ世而人思慕之愈久而不忘也ノ語ヲ思ヒ辨フベシ、凡ソ忘レ易キハ已前ノ澤、繋ギ難キハ後人ノ心ナルヲ、前王ハ何ヲ以テカ、カ、ル驗ヲ後民ニ得玉フゾナレバ、前王ニハ、窮ナキ功德ヲ遂ゲテ後世マデ留メ玉フニ依ツテナリ、後賢後王ノ君子ヨリ、前王

ノ功德ヲ、觀レバ、舊章成憲、嘉言懿行ノ如キハ、前王ノ【賢】ナルトコロナリ、後ノ君子之ヲ師トシテ、率ヒ由リテ違ハザレバ【賢其賢】ナリ、前王ノ王業ヲ創メ、歴世ノ統ヲ垂レ、功アルヲ元祖トシ、德アルヲ宗尊シテ、廟ヲ建テ祭ルハ、コレソノ【親】ナリ、後ノ君子、思ヒ慕フテ、續キ承ケテ替ヘザルハ【親其親】ナリ、後民ヨリソノ功德ヲ觀レバ、我が願フトコロハ與ヘ聚メ、惡ムトコロハ施ザズシテ、各太平ヲ享ケサスルハ、コレソノ【樂】ナリ、小人哺ヲ含ミ腹ヲ鼓チテ恬ニ熙ハ【樂其樂】ナリ、井田ヲ分チ、里ヲ制ヒテ、定ムル業ヲ遂ゲサスルハ、コレソノ【利】ナリ、後ノ小人、田ヲ耕シ、樹エ畜ヒテ衣食ヲ足スハ【利其利】ナリ、先王ノ功德、天下横ニ後世マデニ豎ニ及ブコト、カクノ如クナレバ、世ヲ没シ玉フトコト遠クシテモ、後人澤ヲ被ムルガ故ニ、尙ホモ思ヒ慕フテ、忘ル、ニ忍ビザルノ所以ナリ、先王ノ自己ノ德ヲ明カニスルニ本ヅキテ、民マデヲ新ニシテ、至善ニ止マルガ故ニ、能クソノ驗カクノ如シ、コレ民ヲ新ニシテ至善ニ止マルノ實ナリ、大人ノ責ヲ受ケタル、人ハ法トスベキトコロナリ【蒙引】云、此所謂賢其賢、與論語之賢、賢不カ同、此所謂親其親、與中庸九經之親、親不カ同、蓋彼下一賢字指レ人言、而此下一賢字指レ德言、彼下親字亦指レ人言、謂諸父昆弟之屬也、而此下一親字則指レ先王遺恩言、所レ指異也【又云、賢其賢者、先王有ニ是德業之盛、是其賢也、吾則從而賢之、所謂率由舊章者、先王有ニ是覆育之恩、在我身、是其親之所レ在也、吾則從而親之、所謂子子孫孫勿替引レ之者也】樂其樂者、先王於レ民所レ欲與聚、所レ惡勿レ施、而各爲ニ之樂地也【利其利者、先王判田里、教樹畜、而有ニ以利レ之也、

【附】於戲音鳴呼、樂音洛、

【於戲】大南通考、趙氏德曰、大學釋文、戲音義字讀、似有古凶美惡之殊トアリ、然レドモ嗚呼嘆辭也、或嘉其美、或傷其悲、末代文士輒爲體例、若哀誅祭文、即爲嗚呼、封拜冊命、即爲於戲、謂嗚呼爲哀傷、於戲爲嘆美、妄爲穿鑿、不可用、ソノ證但ダ古文尙書ノ字、悉ク於戲ノ字トス、今文尙書ハ、悉ク嗚呼ノ字トス、禮記ハ於戲ノ字トス、詩ニハ於

乎ノ字トス、許氏ガ説文解字云、於即古鳥字、禮記、戲好胡切、與呼同、何以各別爲字也【樂音洛】トハ、樂韻ニシテ、タノシムト訓ジサセンガ爲ナリ、韻會娛也、麻韻、喜樂也、通論小、曰喜、大曰樂、獨曰喜、衆曰樂、喜者主於心、樂者無所不被、增韻無憂也、天理洞達内心油然、

【章句】詩周頌烈文之篇、於戲歎辭、前王謂文武也、君子謂其後賢後王、小人謂後民也、

【詩周……】トハ、詩經卷八、周頌ノ部、烈文ノ篇ニ載ストナリ【於戲……】トハ、サテモサテモト、ウチ歎イテ美メタル辭トナリ【其】トハ、文王武王ヲ指シテ云フ【君子】トハ、文武以後ノ賢人王者ヲ云フ【小人】トハ、又文武ヨリ後ノ民ヲ云フ、本文ノ四ツノソノ字、皆文武ヲ指シテ云フ、

此言前王所以新民者、止於至善、能使天下後世無一物不得其所、

畢竟、コノ節ノ意ハ、文王武王ノ民ヲ新ニナサル、ハ、皆至善ニ止マリ玉フト云フ意ナリ【天下】ハ、横ニ云フ【後世】ハ、豎ニ云フナリ、ソノ至善ニ止マリヤウハ、天下後世ニ至ルマデ、イカヤウナルモノモ、分々相應ノ願ヲ達スルナリ

【物】ハ、人也ノ意ナリ【其】トハ、ソノ人分際相應ノ願フトコロナリ、所以既没世而人思慕之、愈久而不忘也、

愚、コノ註ヲ見レバ【没世】ハ、イヨイヨ前王ニカ、ルナリ【既】トハ、前方ト云フ義ナリ【人】トハ、後世ノ人ナリ、此兩節咏歎淫泆、其味深長、當熟玩之、

上節トコノ節トハ、別シテ面白キ味アルホドニ、疎草ニ讀ムベカラズトナリ【咏歎淫泆】ハ、禮記ノ樂記ニ出デタリ、異朝ニハ詩ヲバウタフテ、節ヲ附クルナリ、又陳皓ガ禮記ノ註モアレドモ、思フヤウニ聞コエズ、樂記ノ語ニ一唱三嘆ト云フ事アリ、コレヲ人ガ誤ツテ一タビ唱ヘテ三タビ嘆息スルト云フ、朱子ノ説ニハ、先づ一人ウタヒ出ス時ニ、傍ヨリ三人ガツケテ歌フヲ云フトアリ、然レバ、コノ咏嘆モ、ソノ辭ヲ讀ムヲ云フニハアラズ、歌ノ習ニテ、歌ニフシテ

附ケテ、歌フ義ナルベシ、淫泆モ聲ヲ引イテ絶エマヤウニ歌フコトナルベシ、餘リ面白サノ儘ニ繰リ返シ、繰リ返シ歌フテ、ソノ音ノ絶エザルヲ云フナルベシ【泆】ノ字ハ、液ノ字ガ正字ナリ、泆ハ俗字ナリト云ヘリ、義ハ同ジ○或云、詩ノ詞意詠淫泆ナリ、○愚、更ニ考フルニ、或人ノ説可ナリ、コレ雙峰饒氏ノ説ナリ、咏歎ハ詩ノ辭ヲ歌フコトナリ、一唱三歎ナドト云フモ歎ハ歌フコトナリ、咏歎淫泆ヲ今日ノ學者カクノ如クセヨト云フニハアルマジ、雙峰饒氏曰ク、咏歎言其詞、淫泆言其義、淫泆者意味淫乎言詞之外也○語類問、前王不忘曰、前王遠矣、盛德至善後人不能忘之、君子賢其賢、如堯舜文武之德、後世尊仰之、豈非賢乎、其所賢乎、親其親、如周后稷之德、子孫宗之、之以爲先祖先父之所自出、豈非親乎、其所親乎、又問、君子賢其賢、而親其親、曰如孔子仰文武之德、是賢、其賢、成康以後、思其恩、而保其基緒、便是親其親、○又問、至善章、曰此章前三節、是說止字、中一節、說至善、後面烈文一節、又是咏歎此至善之意、

右傳之三章。釋止於至善。

訓讀 右傳之三章は、至善に止まることを釋す、此章内自引、淇澳詩以下、舊本誤在、誠意章下、

愚云、程子モ舊本ヲ置キナホストテ、又誤リ玉フ、朱子ハ之ニ從ハズ○或問云、淇澳烈文二節、鄭本元在、誠意章後、而程子置之卒章之中、子獨何以知其不然而屬之此也、曰、一家所繫、文意不屬、故有下得而從者、且以下所謂道盛德至善没世不忘者、推之則知其當屬乎此也、

○子曰。聽訟吾猶人也。必也使無訟乎。無情者不得盡其辭。大畏民志。此謂知本。

子曰く、訟を聴くは、吾猶ほ人のことし、必ずや訟なからしめむかと、情なきものは其辭を盡することを得ず、大に民の志を畏れしむ、これを本を知るといふ、

コノ一章ハ、經本ノ物有ニ本末ト仰セラレシヲ釋シ玉フナリ、孔子、訟ノ事ヲ説キ玉フヲ、曾子ノコ、ニ引イテ德ヲ明カニスルハ、本、民ヲ新ニスルハ末ナルノ義ヲ發ハシ玉フ、コノ孔子ノ語ハ、論語ニモ出デタレドモ、論語ニテハ、訟ヲ聽イテ以後、訟ナキヲ本末トス、コ、ニテハ、我が德明カニシテヨリ、自然ニ民モ新ニナルヲ以テ、本末ヲ分ツ、全ク無訟ナキト訟ナカラシムルトノ上ニテ分別ス、孔子ノ語ノ意ハ、凡ソ訟ハ彼此ノ諍ヲ交ヘ聞イテ、道理正シク、證據ノ勝レル方ヲ理トス、彼此互ニ負ケジト辨舌ヲ募ルコトナレバ、惑ハサレテ、邪正曲直、聽キ明キラメガタキコトナレドモ、カ、ル程ノ事ハ、他人モソノ功ヲ成ス、我が願フトコロハ、始ヨリ民ノ間ニ訟ヘナキ底ニ治メタシト志スナリ コレニ至ルマデ、 民ニ自ラ訟ナキハ新民ノ驗ノ至善ナレバ、孔子ノ必ト期シ玉フコト、當ニカクノ如クナルベシ【無情者……】 コレヨリ會 夫子ノ言ヲ以テ、我ヨリ思量スルニ、凡ソ人ノ争訟ハ、大底己ニ具ヘタル天理情實ニ由ラズシテ、虚誕ノ辭ヲ逞シウス、今夫子ノ仰セラレ、訟ナキトハ、凡ソ民情實ナキ者モ、本然ノ良心正シキハ、昏マシ難キニ依ツテ、自ラ虚誕ノ辭ヲ盡スコトヲ得ズ、コレ民ノ德早ク新ニナルガ故ニ、カクノ如シ、ソノ民ニ訟ナキ底ニ至ラシムルノ本トハ、ハジメ我が明德ノ衆人ニ先立ツテ明カナルニ依ツテナリ、カクノ如クナレバ、我が德ニ他人ノ畏ル、コトハ、刑罰ノ威ヨリモ甚シクシテ、自然ニ、大ニ民ノ心志ヲ畏レシムルコトアリテ、民ノ偽ヲ變化シテ、誠ヲ行ハセテ、復タ虚言ヲ構ヘテ相争フ者ナキガ故ニ、訟ヲ聽タコトヲ待タズシテ、自ラ止ムナリ、コレ訟ナキハ、行ノ德ノ新ナルニ由リテ民ニ、訟ナカラシムルノ本ハ、我が德ノ明カナルナリ、コレ孔子ノ民ニ訟ナカラシムルノ言ハ、我が德ヲ明カニスルハ、民ヲ新ニスルノ本ナリト知ツテ之ヲ先ニシテ、徒ニ民ヲ新ニスルノ末ニ求ムベカラズ、經文ノ物有ニ本末ノ意ハコ、ニ即イテ見ルベカラザランヤトナリ【總評】聖人上位ニ在ス時ハ、民ガ上ヲモ欺カズ、反ツ

テ羞惡ノ心生ズルナリ、聖人ハ、吾ガ明德ヲ明カニシ玉フコト、天下ノ至善ノ理ヲ極メ玉フ故ニ、人人固有ノ明德ナレバ、ソレニ感ゼヌ者ハナシ、虞芮ノ君ノ田ヲ争ヒシモ、文王ノ庭ヲ履マンコトヲ恥ヂテ、互ニ畔ヲ讓リテ歸リ、成ノ民ガ兄死タレドモ、喪服ヲ制セザリシモ、子臯ガ成ノ邑ノ宰トナルヲ聞イテ、遂ニ喪服ヲ作りシハ、訟ヲ聽キ終リテ後、カクノ如クナルニハアラス、民ガソノ德ニ感動スル故ナリ、故ニ訟ヘント思フ者モ、羞惡ノ心生ズ、況ンヤ、無實ノ者、有德ノ君ノ朝ヘ出デ、ソノ辭ヲ思フ儘ニ盡スベキ事ナラネバ、自ラ訟ハ聽クコトヲ待タズシテ止ムナリ、コレハ何故ゾト云フニ、上タル人ノ明德ノ至ツテ明カナルニ依ツテ、民ガ感動シテ、未ダ訟ヘザル已前ヨリ、畏ル、心ガアルナリ、刑ヲ以テ驅リ勢ヲ以テ迫リテ畏ル、ニハ非ズ、刑勢ヲ以テ畏レシムルハ、霸王ノ道ナリ、故ニ小キナリト云フベシ、德ヲ以テ畏レシムルハ、自己ノ發得ニテ、羞惡ノ心出ヅル程ニ大ナリト云フベシ、コレハ王道ナリ、民ノ志ヲ畏レシムル様ニスルハ、上ノ明德明カナル故ニ、カクノ如クナレバ、訟ナカラシメント云ヘリ【使】ノ字、蒙引當ニ玩味ハ是孔子自説也トアリ、使ノ字ガ明德ニアタル、コレ即チ聖人ノ己ニ任ズル責ナリ、本文註文ノ語勢ヲ以テ、ソノ意味フベシ、然ラバ、訟ノナキハ民ノ心ノ正シクナリタルコトナレバ、新民ト云フナリ、然レドモ、ソノ新民ノ本ハ、上タル人ノ明德ヲ明カニスルヨリ出デタレバ、明德ガ本ナリ、民ヲ新ニセント思フバカリニテ、己ガ明德ヲ明カニセズンバ、コノ本末ヲ知ラザルモノナリ、然ルチ況ンヤ、争ヲ分チ、訟ヲ辨ズルバカリニテ、民邪曲ヲ直シテ民ヲ新ニスルノ效ヲ求メントヤ、コレ又彌ヨ末ナリ、コレ傳者、孔子ノ語ヲ引イテ、明德新民本末ノ經ヲ釋スル意ナリ、コノ孔子ノ言ヲ以テ、會得セバ、コレヲ本ヲ知ル人ト云フベシ、本ヲ知ラバ、自ラ末モ知ルベシ、本末ヲ知り分テバ、最モ先後ヲモ知ラズシテ、叶ハザルコトナリ、コレ本文ノ正義ナリ●朱子、訟ノ一節ヲ取ツテ、本末ノ傳ト定メラル、大全ニ、吳氏ノ説ニ、コノ一章ハ所該廣舉レ一、以例ニ其餘トアリ、ソノ意假令ノ様ニ見エタリ、●按ズルニ、左様ニ訟ノ事ヲ輕ク見テハ、明德新民ノ的當ニ非ズ、愚、試ニ之ヲ論ゼン、大抵民ヲ治ムルニ、號令法度ヲ立テ、ソレニ背ク者ヲ

バ刑罰ヲ加フルナリ、カクノ如クノ類ハ、皆口舌ヲ以テ、民ヲ新ニセントナリ、口舌ヲ以テスルニ立ドコロニ曲直ヲ分チ、理非ヲ決スルコトハ、訟ニシクハナシ、口舌ノ上ニテ、民ノ口ヲ屈セシムルモノハ、訟ナレバ、コレハ新民第一ノ如クニ思ヘドモ、コノ分際ハ漸ク民ノ口ヲ屈セシムルノミニテ、心ガトクト屈服セヌ物ナリ、論語ニモ道之以政、齊之以刑、民免而無恥、道之以德、齊之以禮、有恥且格トアルノ意ナリ、然ルトキハ、立ドコロニ民ノ非ヲ正スコトハ、訟ホド切ナルハナケレドモ、コノ章ノ意ヲ以テ見レバ、訟ヲ聞イテ民ヲ新ニセント思フハ、彌ヨ末ナリ、訟ナキハ新民ノ至善ナレドモ、ソレサヘ、己ガ徳明ヲ明カニスルニ對シテ、見レバ、末ナルホドニ、コノ訟ノ一節ヲ本末ノ傳ニ取り玉フコトハ、尤モ親切的當ナリ、舉レ一以例其餘ト云フノ意ニハアルマジ、

【章句】猶人不易於人也、
曲直是非ヲ聽キワケテ決斷スルコトハ衆人ニ異ナルコトナシトナリ、孔子モ衆人モ替ルコトナシ、情實也、

論語子路篇ニ民莫敢不用情トアル情ノ字ノ意ト同ジ、朱註ニ情誠實也トアリ、天理ノマ、ニ發スルヲ情ト云フ、引夫子之言、而言聖人能無實之人、不致盡其虛誕之辭、

論語顏淵篇ニ出デタル夫子ノ言ヲ引イテ傳者言フトナリ【其】トハ、ソノ人ニトナリ【誕】ハ、字彙曰放也、詞妄也、欺也●荀子曰、易言曰誕、

蓋我之明德既明、自然有以畏服民之心志、故訟不待聽、而自無也、觀於此言、可以知本末之先後矣、

【蓋】ノ字、亦タ傳者言外ノ意ヲ、朱子說キ玉フニ依ツテ、謙退シテ用ヒ玉フナリ、コ、ニハ本ヲ推シテ云フ、兎角我が明德ガニ明カナレバ、令セザレドモ、自然ニ民ノ心志ヲ畏服セシムルナリ、故ニ明德ヲ明カニスルガ本ナリト、傳者ノ言外ノ意ヲ述ベ玉ヘリ【自然】ノ二字ハ、本文ノ【大】ノ字ニ附イテ見ルベシ、自己發得ノ意ナリ●語類曰、聖人固

不會錯斷了事、只是他所無訟者、却不在于於善聽訟、在於意誠心正、自然有以薰染漸染、大服民志、故自無訟之可聽耳、如下成人有其見死而不爲哀者、聞子臯將至、遂爲哀、子臯何嘗聽訟、自有以感動人、處耳●又云、使他無訟在、我之志、恁地看、此所以聽訟爲末、又云、無情者不得盡其辭、便是說那無訟之由、然惟先有以服其心志、所以能使之不得盡其虛誕之辭●又云、大畏民志者、大有以畏服、斯民自欺之志●按ズルニ、註ノ中ニ觀於此言ト云フ中ノ於ノ字、如何ト思フニ、只ダ輕シク見ルトバカリ心得ベカラズ、コノ孔子ノ意ヲ能ク觀察スベシ、コノ言ニ觀感シテト云フ義ナルベシ、然ラバ觀於此言ト點ズベシ、深クコノ心ヲ得テ、本末ノ先後ヲ合點スベシトナリ●又按ズルニ【此謂知本】コノ四字ヲラリトシテ說キ難シ、章句ノ觀於此言ト以下ノ意ヲ引キ合セテ見ルベシ、然ラバ【此】ト云フ字ヲ孔子ノ語ノ使無訟乎ト云フマデニ系ケテ見ルベシ、此謂知本ヲモ、傳者、經ノ本末ノ義ヲ釋シタル辭ナリ、故ニ、章句ノ引夫子之言ト云フヨリ可以知本末之先後矣ト云フ迄ヲ、皆傳者ノ意ニシテ一貫ニ見ルベシ、又按ズルニ聽訟吾猶人【吾】ノ字ヲ先ヅ主トシテ說クベシ、吾明カニ聽クト思フトモ、他人モ亦タンレホドノサワギハナルマジトナリ、語意カクノ如ク說クベシ、聖人ノ聽キ玉フ事ナレバ、素ヨリサワギニ誤ハアルマジケレドモ、訟ナキハ訟ヲ能ク聽クト云フニテハナシ、只ダ訟ヲ聽ク人ノ意誠ニ心正シキニアリ、カクノ如クナレバ、自然ニ民ノ心ヲ變化シ、畏服セシメテ、訟ノ聽クベキナキノミ、訟ヲ善ク聽クトテ、訟ノ止ムト云フ事ハナキナリ、民ニ訟ナキハ新民ノ至善ナリ●又云フ、明德ハ、本、新民ハ末ナリ、又云ヘバ善聽訟ハ末ナリ、無訟ハ本ナリ、コレニモ本末ノ義ガアルナリ●又云フ、聖人ノ語ノ様ヲ能ク見テ說クベシ、惡ク說クバ自慢ノヤウニ聞コユルナリ、訟ヲ善ク斷ルトテモ、訟ノ止ムト云フコトハアルマジ【必】トハ、必至ト訟ナキ様ニハ治メラレマジキカトノ玉フ、必ノ字、乎ノ字ニ意ヲ付クベシ、カクノ如クニシテ聖人ノ語ト謂ツベシ、

右傳之四章釋本末

訓讀 右傳の四章は、本末を釋く、

或問ヲ按ズルニ、經文ニハ、本末終始トアリ、朱子、今本末ノ傳ヲ立テ、終始ノ傳ヲ立テザルハ何ゾヤ、朱子ノ答ニ兩義アリ、一義ニハ、古人ノ經ヲ釋スル、ソノ大略ヲ取ル、何ゾ必ズシモ、クダダシクスベキヤトアリ、コノ意ヲ大全ニ玉溪盧氏ガ發明セリ、經文ニ修身爲本トモアリ、又其本亂末治者否トモアリ、終治先後トモアリ、カクノ如キノ類ハ知本ト云フノ中ニソノ義悉クアリト云ヘリ、又朱子ノ一義ニハ、コノ章ノ下ニ闕文アルヲ以テ見レバ、古シヘハ終始ノ傳モアリシヲ、并セテ失ヒタル歟トモ思ハルト云ヘリ、

【章句】此章舊本誤在下止於信下上

或問云、聽訟一章、鄭本元在下止於信之後、正心修身之前、程子又進而實之經文之下、此謂知之至也之上、子不之從、而實之於此、何也、曰、以傳之結語考之、則其爲釋本末之義可知矣、以經之本末乘之、則其當屬於此、可見一家之說有未安者、故不得而從也、

此謂知本

訓讀 これを本を知るといふ、

コノ二句、共ニ明道先生ノ改正アル大學ニハ、經文ノ末、厚未之有也ノ下ニ入ル、伊川先生、改正ノ大學ニハ、上ノ此謂知本ト云フ句ノ續ニ此謂知本ト云フ、此謂知之至也ト重複ニ四字ヲ疊ミ記シテ、伊川ノ自註ニ、四字ハ衍ナリトアリ、四字ヲ衍文ト見玉フハ、伊川先生ナリ、朱子モ、伊川ノ意ニ與シ玉フ●凡ソ經傳文句ヲ錯亂ヲ知ラントナラ

バ、禮記註疏、又二程全書卷五十ヲ案ジ考フベシ、今朱子ノ定ムルトコロトハ格別ナリ、

【章句】程子曰、衍文也、

【程子……】衍ハ、アマルト訓ズ、章圖云、衍去聲、溢也、餘也、亦作羨、

此謂知之至也

訓讀 これを知の至るといふなり、

コノ六字、伊川先生ノ大學ニハ、コノ六字ノ下ニ今、傳文ト朱子ノシ玉フ首章ノ康誥曰克明德ノ文ヲ連續シ玉フ、朱子ノ意ハ、コノ六字ハ格物致知ノ傳ナルガ、闕漏シテ、纔ニ一句ノ結語ノミ殘レリト思フテ、八條目ノ中ニモ、格物致知ノ教ハ深キヲ渡ルノ舟杭ナリトシ玉フカラ、下ノ如ク補傳ヲ書キ玉ヘリ、

【章句】此之上、別有闕文、此特其結語耳、

コノ解、本文ノ下ニ辨ズ、

右傳之五章蓋釋格物致知之義而今亡矣

訓讀 右傳の五章は、蓋し、格物致知の義を釋く、而して今は亡びたり、

【蓋ハ、疑ノ辭、朱文公謙退シテ云ヘリ【今亡】ノ字、論語衛靈公篇ニ、有馬者借人乘之今亡已矣ノ語ヲ取レリ、右六字ノ結語ニ據リテ見レバ、コ、ニ至ツテ、次第シテ、傳ノ五章トスベシ、コレ疑フラクハ、曾子ノ經文、格物致知ノ義ヲ釋シ玉ヘドモ、歷世ノ久シキニ至リテ、今簡編亡失シタルナリ、

【章句】此章舊本通下章、誤在經文之下、

間嘗竊取程子之意以補之曰。所謂致知在格物者。言欲致吾之知。在卽物而窮其理也。

【間嘗竊】トハ、朱文公謙退ノ辭ナラン【嘗】ノ字、カツテト訓ジ來リタレドモ、聞コエ難シ、コ、ロミニト訓ズベシ、莊子内篇應帝王篇ニ、嘗試與來トアリ、又嘗ノ一字ニテモ、毎度コ、ロミト訓ジタリ、又通鑑綱目秦二世三年、先嘗秦軍、註嘗猶試トアリ、今コノ一章ヲ四節ニ分ツテ看ルベシ、言フハ、今亡シタリト云ヘドモ、然レドモ、大學ハ聖門ノ學者、最初ニ功ヲ用フルトコロ、格物致知ハ又大學書中ノ最初ニ功ヲ用フルトコロニシテ、缺クベカラザル者ナレバ、

コノゴロニ至ルマデ、精力ヲ盡シ、思ヲ沈メテ、嘗ニ先輩程子ノ意ヲ汲ミ取ツテ闕ケタルヲ補ヒテ曰ク、經文ニ夫子仰セラレシ致知在格物トハ、吾モ、人モ、共ニ我が心ノ知識ヲ推シ極メテ、一毫モ明カナラザルコトナキ底ニ至ラント願ハバ、事ニ隨ヒ、物ニ隨ツテ、ソノ理ヲ窮メ究ムルヨリ外ナルハナシ、ソノ物事ノ理一處モ致ラザルコトナカラシメテ可ナリ●文林貫旨云【間】近日也【程子】是明道先生●所謂ノ二字、論語先進篇ニ出デテ、上ノ語ヲ再ヒ言フカ、又ハ古語ヲ引クカニ必ズ用フ、今大學ニテ皆經文ノ夫子ノ語ヲ引クニ用フ●大全、卽物如卽事卽景、隨吾所接之事物也、

蓋人心之靈莫不有知。而天下之物莫不有理。惟於理有未窮。故其知有不盡也。

【蓋】蓋し、人心の靈、知あらざるはなく、天下の物、理あらざるはなし、たゞ理に於て未だ窮めざるあり、故にその知盡さざることあるなり、

コレヨリ第二節【蓋】ハ、朱文公謙退ノ辭ナリ、カクノ如ク致知格物ノ修行スル所以ハ何如トナレバ、蓋シ人々ノ本心ハ、至虛至靈ニシテ、皆本然ノ良知アリ、サテ天下ノ萬事萬物、又皆カクノ如クナラズシテハ、叶ハザルノ道理アリ、知ハ心ニ在ツテ、實ハ物ニ周ネク、理ハ物ニ在ツテ、實ハ心ニ具ハル、然レドモ、人惟ダ氣稟ニ拘ハサレ、物欲ニ蔽ハレテ、事物ノ理ニ於テ、逐一ニ未ダ窮メ究メザルアルガ故ニ、ソノ心上ノ知識、闕略シテ、盡サザルトコロアリ●大全、黃氏洵饒曰、莫不有知本然也、莫不有理、一物一太極、理有未窮、物未格也、知有不盡、知未至也●甲第云、靈就虛靈本體言、知是一念良知●蒙引云、蓋人心之靈、莫不有知、如孩提之童、無不知愛其親、及其長也、無不知敬其兄也、渴而知飲、飢而知食、水火皆知不可踏、鳥喙皆知不可食、凡善者皆知其爲美、不レ善者皆知其爲惡、是人心元自有知也、

是以大學始教。必使學者卽凡天下之物。莫不因其已知之理而益窮之。以求至乎其極。

【是以】これを以て、大學の始の教は、必ず學者をして、凡そ天下の物に卽いて、その己に知るの理に因つて益す之を窮め、以て其極に至ることを求めざることならしむ、

コレヨリ、第三節、コレヲ以テ大學ノ始ニ人ヲ教フルニ必ズ學者ニ、凡ソ天下事物ノ理ヲ推シ竝ベテ、小トナク、大トナク、ソノ本心明白ノトコロニ因ツテ、益ス窮メ究ムルノ力ヲ加ヘズトイフコトナカララシム、コレヨリ引イテ伸ベ、類ニ觸レテ、凡ソ理ノ當ニ然ルベキトコロト理ノカクノ如クナル所以トヲ、一事ノ尋ネ窮メザルコトナク、一毫ノ明キラメ盡サザルコトナク、務メテ、ソノ至極ニ至ルコトヲ求メテノ後ニ已ムトナリ【始教】大全、須看始教字、此是大學第一件

下工夫處●甲第云、物泛指事物、窮是研窮、其義理【已知】同云、已知、即上文人心之靈、莫不有知之知、至於用力之久、而一旦豁然貫通焉、則衆物之表裏精粗無不到、而吾心之全體大用無不明矣。此謂物格。此謂知之至也。

訓讀 力を用ふるの久しきに至つて、一旦豁然として貫通するときは、衆物の表裏精粗知らざることなく、吾が心の全體大用、明ならざることなし、これを物格るといひ、これを知の至るといふなり、

コレヨリ第四段、ソノカヲ用フルコトカクノ如クナルニ依ツテ、日ニ積ミ月ニ累ネテ、久シキニ至リテノ後、工夫忽チ一旦豁然トシテ、開悟スルコトヲ覺エタル時ハ、衆物ノ理、或ハ表ニシテ、外ノ總括、或ハ裏ニシテ内ノ節目、或ハ精ニシテ表裏ノ細微、或ハ粗ニシテ表裏ノ淺顯、一ツモ知ラザルナクシテ、我が心ニ衆理ノ全體ヲ具ヘタルト、萬事ノ大用ニ應ズルト、明カニ通ゼザルコトナシ、彼ノ衆物ノ表裏精粗、到ラザルコトナキハコレ物格ルナリ、我が心ノ全體大用、明カナラザルコトナキハ、コレ知至ルナリ、經文ノ物格而后知至ト宣ヘルハ、コレナリ●新安陳氏曰、久字舞二且字相應、用力積累、多時、然後一朝豁然通透、吾心之全體、即釋明德、章句所謂具衆理者、吾心之大用、即所謂應萬事者也●甲第云、用力之久、致知格物之工夫、積累非一朝一夕之力●蒙引云、用力之人、者物格也、豁然貫通、知至也、二句只是貼出此意、以終經文之義●揚明云、豁、是心體開豁【貫通】是義理貫徹通曉【衆物】甲第云、即天下之物也【全體大用】文林貫旨云、全體是良知的本體、大用是良知的發明●蒙引云、全體指性言、即所謂喜怒哀樂之未發謂之中、天下之大本也、大用指情言、即所謂發而皆中節謂之和、天下之達道也●又云、體曰全體、以下其妙衆理而無一之不易具也、用曰大用、以下其宰萬事而無一之不周也、

●所謂誠其意者毋自欺也。如惡惡臭、如好好色。此之謂自謙。故君子必慎其獨也。

也。好惡上字皆去聲、謙讀爲慊、苦却反、

訓讀 謂ゆる其意を誠にするものは、自ら欺くことなからむ惡臭を惡むが如く、好色を好むが如く、これ之を自ら謙しと謂ふ、故に君子は必ず其の獨を慎む、

コノ一章ハ經文ノ誠ニ意ヲ工夫ヲ解釋シ玉フ【毋】ハ、禁止ノ辭、箇様ニハ必ず爲ルコト勿レト云フノ義ナリ、然レドモ、コレニ用ヒテハ、他人ニ對シテ、防ギ禁ムルニハアラズ、我が本心ニ誓ヒテ、カクハ必ずスマジキゾト決定シテ、省ミ傲ムルノ意ニ見ルベシ、古點ニ母ト訓セタルハ、宜シカラズ、愚ガ説ニハ母トナリト點ヲ改ム【自欺】トハ、既ニ格物致知ノ功ニ依ツテ、黑白ヲ知り分ツガ如ク、是ハ是、非ハ非ト知リナガラモ、私欲ニ牽カレテ、コレ式ノ事ハト弛ベルハ、強ヒテ大惡ト云フニハアラズトモ、本ト滅エザル明德、我ニ有ツ信ニハ、何トヤラン、氣味惡キヲモ、押シテ動クヲ我ト我が本心ヲ昧マスニ依ツテ自欺ト云フ【欺】ハ、俗ニ云フダマスト同ジ【謙】ハ、コノ文字ニテハ、謙退ノ義通ゼザルガ故ニ、朱子、慊ノ字ニ振り換ヘテ見玉フ、慊ハ快也、足也、心中ニ些モ思ヒ煩フコトナクシテ、青天白日ノ如ク明カナル底ヲ云フ【獨】ハ、人ニ對シテ云フニアラズ、千萬人ノ中ニ雜ハルトモ、心志ノ幾スハ、我ヨリ外ニ知ル者ナシ、言貌ニ見ハレテハ、誰モ能ク知ルコトナリ、コ、ニテハ心上ニ就イテ云フ、獨ノ字ナリ、下ノ節ノ獨ハ、形ニ就イテ云フ、我一人ニシテ、他人ニ交ハラザル時ナリ、心ノ發動スルニ至ツテ、善惡ノ分ヲ見得シテ、審ニ識ルコトハ知ニ屬ス、然レドモ、能クソノ善ヲ知リ惡ヲ知ルノ明ヲ實ニスルコトハ、仍ホ意ニ存ス、然レバ、經文ニ夫子ノ仰セラレシ誠ニ其意トハ、人トシテ、意念發動ノ時ニ當ツテ、早く正邪見得シ、分チ曉サンコトヲ願フテ、内外ノ如クニシテ自ラ欺クノ心ヲ緊シク禁シメ止ムベシ【毋自欺】トハ、如何トナラバ、惡ヲ惡ムコトハ、惡臭ヲ惡ムガ如クト一般、コレ眞心ニソノ惡ヲ惡ミテ、務メテ決シ去ル、善ヲ好スルコトハ好色ヲ好スルガ如クト一般ナリ、コレ眞心ニソノ善ヲ好シテ、必ず求メ得ントスルコト、カクノ如シ、コレニモ、コレ善ヲ好ミ惡ヲ惡ムノ本心虧ケ缺クルコト

トナクシテ、箇ノ自己ノ心上十分快キコトヲ得タルヲ【自慊】ト云フナリ、無理ニ人ニ褒美セラレンガ爲ニトテ、シバラク刷ラヒテスルノ意ニハアラズ、然レドモ、欺クヲ自欺クト云ヒ、慊ヲ自慊ト云フハ、コレ意ノ實ト不實トハ、他人ノ知ルニ及バズシテ、己ガ心ニ獨リ知ルトコロハ、隱微ナルガ如クナレドモ、實ニ善惡ノ由ルトコロノ分ハ、謹マズンバアルベカラザルガ故ニ、君子ハ、コレニ於テ、必ズ謹ヲ加ヘテ、善惡ノ幾ヲ審ニシテ、一毫モ自ラ欺ク底ニ涉ラントスレバ、便チソノ念頭ニ就イテ禁止シ玉フ、カクノ如クニシテ、便チ慊クシテ、益ス擴メ充チテ、一毫モ怠リテ苟且ナルコトナク、亦タ言貌事業ノ際ヲ待ツテノ後ニ、力ヲ用フルコトアルニアラズ、夫レ能ク獨ヲ謹メバ慊キコトアリ、欺クコトナクシテ後ニ意誠ナリ、夫子ノ誠ニ其意ト教ヘ玉フコトハカクノ如シ【毋自欺】ノ三字ハ、誠意ノ二字ヲ釋ス【自】ノ字ハ、意ノ字ト相應ス【欺】ノ字ハ、聖ノ字ト相反ス【毋】ノ字ハ、力ヲ著クル語、誠ノ字ヲ混ジテ致知トスルコトナカレ、致知ハ平生ニ就イテ云フ【毋自欺】ハ、事アル時ニ省察克治スルヲ云フ、コレヲ不欺ト其知ト云フハ可ナリ、コレヲ致知ト云ハバ不可ナリ【毋自欺】蒙引云、此處工夫極細、如レ有ニ九分義、一分私意便自欺【如惡……】微言、袁了凡曰、見惡臭ニ而惡、見好色ニ而好、不レ假ニ安排、不レ落ニ疑議、與レ見孺子入井景象、一般真切【此之謂自謙】文林貫旨云、此字指ニ好惡二句、說ニ性理大全卷四十七、范陽張氏曰、一念之善、則天神地祇、祥風和氣、皆在子此、一念之惡、則妖厲鬼、凶荒札瘥、皆在子此、是以、君子慎ニ其獨、

【好惡上……】好ノ字、上聲ハヨシト訓ズ、韻會上聲皓韻、許皓切、說文好美也○コノムト訓ズレバ、去聲號韻、虛到切、說文好者好也、本音上聲愛而不釋也、女子之性柔而滯、有所好則愛而文釋、故於文女子爲好【惡】ハ、ニクムト訓ジサセン爲ナリ、去聲遇韻、烏路切、憎惡也、アシ、ト訓ズレバ、入聲藥韻、於各切、不善也【謙讀……】本文、謙ノ字ニテハ謙退ノ義ニシテ通ゼズ、故ニ朱文公慊ノ意ニ讀ミ換ヘテ註シ玉ヘリ、

致知格物ヲ自修之首ト云フベキニ、誠意ヲ首ト云フハ、知ハ頼ムニ力ナシ、唯ダ一念ノ存スルトコロヲ屹ト建立スルガ、コレ首ナリ○大全、雙峰饒氏曰、心之正下正、身之修不修、只判ニ於意之誠、不誠、所以中庸十章孟子ニハ上篇只說レ誠レ身、便貫ニ了誠意正心修身此章雖專釋誠意、而所以正心修身之惡、實在於此、故下二章、第言ニ心不正、身不修之病、而不レ言、所以治病之方、以具於此章、故也○按、修身必自格物致知始、而此以誠意爲自修之首也、何歟、蓋此自修專以力行言、本ニ上章如琢如磨者自修也、自修對道學包誠意正心修身、故此爲之首、彼格物致知、特以啓其自修之端耳、自修之實、却在於此蒙引

【章句】誠ニ其意者、自修之首也、

【禁】ハ、禁制【止】ハ、停止ナリ、コノ本文ハ、他ニ對シテ、誠ムルニアラズ、自心ニ禁止シテ爲サザルナリ、蒙引云、非ニ戒令之詞、禁止以ニ自己、禁止不爲而言、如再、不敬辭、自欺云者、知爲善以去、惡、而心之所發、有未實也、

【自欺云者】コノ云ノ字ヲ下ニ用フルハ、タ、一字二字ノ註ニテ理ヲ盡シ難キ故ニ、云云ナドノ意ヲ含ミタル句法ト見エタリ、又コノ【知】ノ字ハ、上章致知ノ知ノ字ヨリ帶ビ來ルナリ、又【心】ハ發動ノ時ニ善惡現ハル、物ニ感ジテ發動スルトコロニ未ダ十分情實ナラザルコトアルハ、自欺ト云フモノナリ【所發】ノ二字、即チ意ナリ、謙快也足也、

快ノ字バカリニテハ、意味不足ナル故ニ、足ノ字ヲ添ヘテ解キ玉ヘリ、獨者人所不知、而已所獨知之地也、心上ニ就イテ見ルベシ、千萬人ト同ジク交リ居ルトイヘドモ、我が心中ニ發ルトコロハ他人ハ知ラザルトコロニシテ、

自己ノミ、獨リ明カニ、善カ惡カハ曉シ知レル場ナリ【地】ハ、場處ノ意、言欲^ツ自修^ス者、知^ル爲^レ善^ニ以^テ去^ル其^ノ惡^ヲ、則^チ當^ニ實^ニ用^テ其^ノ力^ヲ而^テ禁^ム止^ム其^ノ自^ラ欺^ム、使^シ其^ノ惡^レ則^チ如^ク惡^ニ惡^ニ臭^ク、好^ム善^ニ則^チ如^ク好^ム好^ニ好^ニ色^ヲ、皆^ク務^ク決^シ去^ル而^テ求^ム必^ズ得^ル之^ヲ、以^テ自^ラ快^ム足^ル於^テ己^ニ、不^レ可^ク徒^ニ苟^ニ且^ニ以^テ狗^ノ外^ニ而^テ爲^ル人^也、

自ラ身ヲ修メント欲スル者、善ヲ爲シ惡ヲ去ルコトヲ知ラザル者ハ、是非ニ及バズ、若シ知ラバ眞實ニ精力ヲ出シテ本心ヲ自ラ欺クコトヲ強ク禁止シテ、ソノ心ニ惡ヲ惡ムコトハ惡臭ヲ嫌フガ如ク、善ヲ好ムコトハ好色ヲ欲スル如クニ眞實ニスベシトナリ【使其】ノ其字ハ、意ノ字ニ系ケ見ベシ、又【皆務】ノ皆ノ字ハ、大小須臾ノ頃、纖芥ノ微、念念相受ク、又敢テ少シモ間斷アルコトナキナリ、コノ意ヲ以テ見ルベシ【務決去】トハ、如^ク惡^ニ惡^ニ臭^クト云フヲ指ス【決去】トハ、勇猛ニ力ヲ出シテ決グリ棄ツルナリ、再ビ萌サヌヤウニ決シ去ルベシトナリ【求必得之】トハ、如^ク好^ム好^ニ好^ニ色^ヲト云フヲ説ク、善ヲバ求メテ、是非共ト思ウテ之ヲ得、吾ガ物ニスルナリ【以快足於己】トハ、カクノ如ク善ヲ得、惡ヲ去レバ、吾ガ心ノ中、他人ハ知ラザレドモ、快ク饜キ足ツテ、少シモ心ニ繫ルトコロナシ、コノ心、外ニモタレテ、人ノ爲ニスベカラズ【徒】トハ、イタヅラト訓ズ【苟且】ハ、俗語ニ當座ヤカナヒト云フノ類ナリ、又云フ、苟且ハ唾ニテ箭ヲハグト云フノ類ナリ、カリソメニ疎草ニスルヲ云フナリ實用ニ其力ト云フノ裏ナリ【狗外而爲人】トハ、狗^ノ外^ニトハ大抵ヲ云フナリ、ソノ實ヲ推シ究ムレバ、人ノ爲ニスタルモノナリ、喻ヘバ、寒キ時ニ衣ヲ著ント思フハ、我が身ノ寒キ故ニ。衣ヲ求ムルハ眞實ナリ、然ルニ、左ノミ寒キニアラネドモ、薄著スレバ、外ヨリノ見様惡シトテ、衣ヲ饜ヌルハ【狗^ノ外^ニト云フモノナリ、又【爲^レ人^トトハ、我が身ハ寒カラザレドモ、我著サレバ、向ノ人モ辭退シテ著サル程ニ、人ニ著セン爲ニ、我モ著ルヤウナル意ナリ、人ノ爲ニスルモ、畢竟ハ外ニ狗フト云フノ内ノ事ナル故ニ、狗^ノ外^ニト而ノ字アリ、然レドモ、外ニ狗フト人ノ爲ニスルト云フヲ分レバ、又ソノ分ハアルナリ、又飢エタルニ依ツテ食スルハ眞實ナリ、然ルニ、我ハ左ノミ飢エネドモ物ヲ食ハネバ、外ノ見分アシキト思フテ食スルハ、外ニ狗フトナリ、或

ハ我ハ食ノ望ミナケレドモ、客人ニマイラセンタメニ食スルハ人ノ爲ニスルナリ、コノ喻モ前ニ云フ如ク、畢竟外ニ狗フト云フモノナレドモ、ソノ分ヲ云ヘバ、別ナリ、コノ喻ハ、ヒカル、意ナリ、苟且スルハ至善ニアラズ、故ニ或問ニモ、苟且私意トアルナリ【爲人】論語憲問篇ニ出ヅ、

然^レ其實^ト與^テ不^レ實^ト、蓋^シ有^リ他人^ノ所^レ不^レ及^ル知^ル、而^シ己^ノ獨^リ知^ル之^者、故^ニ必^ズ謹^ニ之^於此^ニ、以^テ審^ニ其^ノ幾^ヲ焉、
【然】ハ、反語ノ詞ト註ス、去リ乍ラト云ニ同ジ、ソノ實ト不實トハ、他人ノ知ルトコロニアラズ、吾ガ心ニハ能ク知ルナリ【之】トハ、實ト不實トヲ指ス【此】トハ、獨ヲ指ス、和歌ニ、ナキナドト人ニハ云ヒテアリナマシ心ノトハバイカニ答ヘント讀ミシモ、コノ意ナリ【審其幾】ト云フハ、大事ノ註ナリ、只ダ謹ミトバカリ、サラリト心得ベカラズ【幾】ハ周子ノ説ヨリ出デ、朱子モ幾者動之微、是欲^レ動^レ未^レ動^レ之間トイヘリ、ココニ早ヤ善惡ノ萌シ、趣ガ見ユルモノナリ、工夫シテ知ルベシ、輒クハ見難キモノナリ、ココガ工夫ノ手下スベキトコロナリ、コレ君子ノ學ナリ、後ハ意ノ念頭ナリ、幾ハ機ト同ジ、石弓ノ引キ金ヲ機ト云フ●又按ズルニ、慎獨ト云ヒテ、聞コエタルニ、審^ニ其^ノ幾^トト丁寧ナル註ヲシ玉フハ、如何ニト思フニ、自^ラ謙^ト云フカラ見^ル下^スベシ、カクノ如ク自^ラ謙^トノスツキリトシタル工夫ヲ下^ス程ノ人ナレバ、幾ノトコロニテ、早ヤ吟味ナクテ叶ハズ、コレ至善ナリ●又按ズルニ本文ヲ講ジ終ツテ、後ニ談ズベシ、常人ハ日日自ラ欺クコトノミアレドモ、知ラズ覺エズ、我ニハ自欺ノ病ナシト思ハン、然ラバ、格致ヲ經テ來ル人ヨリ勝ベキ乎、コレ如何ト思フニ、格致ヲ經テ來ル故ニ、自欺ヲ自欺ト覺ルナリ、格致ヲ經ザルモノハ、日日夜夜、自欺ノ事アレドモ、朱子ノ喻ノ如クニ、賊ト共ニ食ヒ、賊ト共ニ眠ルナリ、コノ類ハ、一向格致ノ工夫ナキ故ナリ、然レバ、コノ章モ前ノ章ヲ帶ビテ、格致ノ義ヲ思フベシ、前ノ自欺ヲ自欺ト知ル人モ、ツマリハ、格致ノ不足ナルトコロニ責ヲカクベシ、又自欺ヲ自欺ト知ラズ、覺エザルモノハ、勿論一切格致ノ工夫ナキ故ナリ、然レドモ、コノ章ハ誠意ト云フ事ヲ傳文ニ説キタレバ、コノ本文ニ格致ノ沙汰ヲ再ビ出スベカラズ、コノ故ニ、コノ節ノ章句モ、格致ノ沙汰ナシ、

コレ註解ノ法ナリ、カクノ如クノ事、口講スル者、心得アルベキ義ナリ、然レドモ、格致ノ義ヲ知ラズシテハ、誠意ノ精微知ルベカラザルナリ、故ニ章末ノ註ニ丁寧ニ致知ノ事ヲ經テ引イテ述ベ玉ヘリ、

小人間居爲不善無所不至。見君子而后厭然揜其不善而著其善。人之視己如見其肺肝。然則何益矣。此謂誠於中形於外。故君子必慎其獨也。間音閑厭鄭氏讀然厭

訓讀 小人間居して不善をなす、至らざるところなし、君子を見て后、厭然として、その不善を揜ひて、その善を著はす、人の己を視ること、その肺肝を見るが如し、然らば何の益あらむ、これを中に誠あれば外に形はるといふ、故に君子は、必その獨を慎むなり、

君子ノ必ズ其獨ヲ慎ムノ所以ハ如何トナレバ、試ニ小人ガ獨ヲ慎ムコトヲ得ズシテ、自ラ欺ク者ヲ以テ觀ルニ、小人ハ間居獨處ノ時ハ、他人ヨリ我爲ストコロヲ知ルコトナシト安ンジテ、情ニ任セ、欲ヲ縱ニシテ、不善ヲ行フコト至極ナラザルコトナシ、カ、ルトコロヘ、君子ノ意ヲ誠ニシテ獨ヲ慎ムノ人ヲ指シテ云フ不意ニ來ルヲ見テハ、覺エズ愧チ恥ツルノ心生ジテノ後ニ、厭然トシテ今マテ爲レトコロノ惡事ヲ昏マシ遮リ閉ツルヲ云フ、厭ノ字ノ意ニ、朱子ハ見玉フ俄ニ消沮閉藏ノ態ヲナシテ、ソノ眞實ノ不善ヲ揜フテ、ソノ虚假ノ善ヲ著スニ於テハ、固ヨリ君子ハ欺クベシトシテ揜ヒ著ハシテ、甲斐アリト彼ハ思ヘドモ、ソノ善素ト有ルニアラズ、惡本ト無キニアラザルコトヲ知ラザレバ如何シテカ、矯リ飾ルベケンヤ君子タル人ヨリ之ヲ視レバ、洞カニ、ソノ肺肝マデヲ見ルガ如ク、顯ニ即イテ微ヲ知ルベク、迹ニ由リテソノ心ヲ見ルベシ、カクノ如クナレバ、惡ヲ揜ハントシテモ、卒ニ揜フベカラズ、善ヲスルコトヲ詐ラントシテモ、卒ニ詐ルベカラズ、枉ゲテ心機ヲ費スノミナル時ハ何ノ益アラン、コレヲ實ニ中ニ惡アレバ、必ズ外ニ形ハル、ト云フ、亦タ一念ノ慎マザルニ依ツテ、カクノ如クナルニ至ルガ故ニ、君子ノ獨ヲ慎ムノ功、コレヲ鑒ミテノ後ニ、心ヲ加ワルニハアラザレドモ、獨ヲ慎ムコトノ至極

ナルコトハ、固ヨリ私欲ヲ懲ラシ戒メテ益スカムルナリ●朱子講義云、若小人ノ自欺、則不惟形於念慮不問、而見於事爲之際、此知其爲惡而揜之、則既不足、以自欺、人之視己、如見其肺肝、則又不足、以欺人、亦何益之有哉、此君子所以又以為戒、而必謹其獨也【何益矣】トハ、揜フベカラズシテ、カクノ如クスルハ、迷フコト甚シキナリト云フ意ナリ、益アルトテモ爲スベキニ非ズ●古語ニ云、誠於中形於外アルニ、今コノ小人内ニ不善スルハ實ナリ、外ニ善ヲスルハ僞ナリ、麻ヲ蒔ケバ麻ガ生ジ、麥ヲ蒔ケバ麥ガ生ズ、善惡共ニ其實ガ現ル、モノナリ、然ルニ、不善ヲ爲ストテ、善ヲスル眞似ナスレドモ、却ツテ人ニ見取ラル、ハ、淺間シキ有様ナラズヤ、大學ノ傳ニ此謂トアルハ、皆古來云ヒ傳ヘタル語ナリ、コノ誠ト云フ字ハ、善ニモ惡ニモ附クナリ、吾ガ心ノ發動スルトコロヲ慎マズ、ソノ善惡ノ幾ヲ察セズシテ、慎獨ノトコロニ手ヲ下サヌ故ニ、カクノ如クノ淺マシキ小人トハ成レリ、故ニ君子重ク戒トナシテ、必ズ其獨ヲ謹ムナリ、コレ本文ノ正義ナリ●コノ節及ビ下節ハ、上節ト反復シテ、首節ノ必慎其獨ノ意思ヲ説ク【誠】ノ字ハ、本ト善惡ヲ兼ヌ、ココニハ惡ヲ主トシテ云フ【小人】小人是不慎獨的人、爲不善者、是自欺不愼獨、無所不至極其不善【君子】ハ、君子即誠意慎獨的人、貫旨【人之視己】文林貫旨云【人】即上君子【己】是小心心裏【肺肝】只是見透他心裏的事、

留讀 間音閑、厭鄭氏讀爲厭、

【間音閑】トハ、去聲刪韻ニシテ、シヅカ、イトマノ義ニ見サセン爲ナリ【厭鄭氏】厭ノ字ヲ、後漢ノ鄭玄禮記ノ中ニ大學ノ篇トテアリシ時、讀ミ替ヘテ厭ノ字トシテ註ス、雙峰饒氏曰、厭字有黑暗遮閉之意、大【於簡反】上聲潛韻ニ用フルコトヲ示ス、

【章句】間居獨處也、

【問】ハ、閑ノ字ト同ジ、イタヅラニ居ルヲ、ココニテ閑居ト云フナリ、人ニモ交ラズ、門戸ヲ閉ヂテ居ル體ナリ、コレ

ハ身ノ居ルトコロヲ云フ、上文己獨知ノ獨ノ字ノ意ト異ナリ、故ニ、コノ註ニ獨處ト云フナリ、
厭然銷沮閉藏元貌、

小人ガ君子ヲ見テ、恥ヂ入り遽テ、惡事ヲ隱ス體ヲ能ク形容シタル文字ナリ【銷沮】ハ、攪キ銷シ止ムルナリ【閉藏】ハ、
トヂカクスナリ、

此言小人陰爲不善而陽欲揜之、則是非不知、知善之當爲與惡之當去也、但不能實用其力以至此耳、

コノ本文ノ意ハ、小人陰ニ内證ニテハ不善ヲナシテ、陽ニ表向ニハ、コノ不善ヲ揜ヒ隱クサント欲フ時ハ、コレ善ハ
人倫ノ當然勤メ行ハデ叶ハザルモノ、又惡ハ人倫ノ當然拂ヒ去ラデ叶ハザル物ト云フ事ヲ知ラザルニハアラズ、知レ
ルニ依ツテ、君子ヲ見ルト、ソノ儘惡ヲ隱ス【但不……】然レドモ、惡臭ヲ惡ミ好色ヲ好ムガ學キ、眞實ノ力ヲ用フル
コト能ハザル故ニ、自欺ノ病ガ、漸々ニ重リ、ハジメハ己ヲ欺キシガ、後ニハ人ヲ欺ク、コレ人ヲ欺ク事モ又成ラザ
レバ畢竟自ラ欺クニナルマデナリ【陰】ハ、閑居ノ時ヲ指ス【陽】ハ、君子ヲ見ル時ヲ指ス【至此耳】一生小人ト呼バル、
底ニ至ルトナリ、

然欲揜其惡、而卒不可揜、欲爲善、而卒不可詐、則亦何益之有哉、此君子所以重以爲戒、而必謹其獨也、
去リ乍ラ、ソノ惡ヲ揜ヒ隱サント欲ストモ、始終ヲ遂ゲテ揜フコトナラズ、假令一旦詐リテ善ヲ見ハサント欲ストモ、
中々詐ルベカラズ、眞ノ善トハ思ハズ、善ハ善、惡ハ惡ト明カニ知ル、カラハ、折角骨ヲ折リタルバカリニテ、何ノ益
ニカナル事アラシヤトナリ【此君子……】カクノ如クナルガ故ニ、君子ハ重ク戒トシテ、内證ニ、一人居玉フトコロマ
デモ、心ヲ附ケテ慎ミ玉フ筈ナリ、コレ君子ハ不愧屋漏ト云フトコロナリ●コノ段、小人閑居シテ不善ヲセント、
必ズ巧ミ出スト云フニモアルベカラズ、小人一念ノ發ヲ慎マザル故ニ常々人ヲ瞞クニナルナリ、閑居ノ時ハ、放逸ニシ
テ人前ニ出ル時ハ、善人ノ様ヲシテ慎ムハ、平生ノ事、ソレガ終ニ辭ニナリテ、何トモ思ハズ、一生ソレニテ過ゴス、コ

レ意ヲ誠ニセメモノ、形ナリ、コノ意ヲ以テ、コノ段ヲ見ルベシ●前ノ第一節ハ、格致ヨリ工夫相承ケ來ルニヨリテ、
左夫細カナリ、コノ第二節ハ、常人ノ體ヲ云フニ依ツテ荒々シ、人ヲ欺クモ自ラ欺クカラ起ルトイヘドモ、人ニ對シ
テ云フニ依ツテ、第二節ニハ、人ヲ欺クト云フヲ主トシテ云フナリ、第一節ニハ、吾ガ意ノ中ニテ云フ程ニ自ラ欺クヲ
主トシテ云フナリ、

曾子曰。十目所視。十手所指。其嚴乎。

曾子曰く、十目の視るところ、十手の指すところ、それ嚴なるかな。

コノ節ハ、小人閑居ノ文ノ意ヲ受ク、曾子ノ言ヲ引イテ明カニシ玉ヘリ、小人ハ愚ニシテ、或ハ閑居、或ハ念慮、イ
ヅレトモ人ノ知ラザルトコロノ幽隱ノ地ガ即チ顯明ノハレガマシキトコロナリト知ラズシテ、不善ヲナシテモ苦シ
カラズト思フ、道ヲ知ル君子ハ、常ニ隱微ノトコロガ顯明ノ地ト心得玉フ、中庸ニ莫見乎隱、莫顯乎微ト
云フガ、即チ道體ナレバ、顯微隱見ノ差別ハナキモノナリ、道理カクノ如クナル故ニ、上ノ文ノ小人ガ人ハ知ルマジ
キト思ヘドモ、ソノ肺肝ヲ見ルガ如クナレバ、十目ノ視ルトコロ、十手ノ指ストコロトナリテ隱レモノキコトナリ、寔ニ
畏ルベキコトナリ●コノ節ハ上文如見其肺肝ト云フヲ受ケテ云ヒタル文ナレドモ、道理ノ底意ヲ以テ云ヘバ、隱微
ノトコロガ十目ノ所視十手ノ所指ナリ、子思ハ曾子ノ血脈ヲ繼イデ、中庸ニ顯微ノ理ヲ發明シ玉フト云フコト、カクノ如
ク、知ルベシ、存疑等ノ末書ニハ、傳十章ハ皆曾子ノ意ニテ、門人之ヲ記ストアルニ、コ、ニノミ曾子曰ト傳者ノ云ヘ
ルハ、コノ語、本トコノ書ノ誠意ノ爲ニ玉フ辭ニアラズ、曾子平日ノ語ナルヲ、傳ヲ作ルニ依ツテ引ク、故ニ別シ
テ曾子曰ト云フトアリ●按ズルニ、平日ノ言ニシテモ、何事ニ付ケテ言ヒタルカト、文意ヲ推シテ見レバ、只ダ外人
ノ十目十視ガ畏レト云フ意ノミニテハ意味モナキ語ナリ、平日ノ言ニシテモ、顯微一理ノ事ナルベシ、只ダ平日ノ言

ナルベシトノミハ、コノ語ヲ輕ク見タルモノナリ、曾子ハ、三省守約戰兢ノ工夫ヲ以テ、道ヲ得タル人ナレバ、必ズ顯微一理ヲ以テ、慎獨ノ義ヲ云ヒタル物ナラン、ココノミ、曾子曰ト記シテ、曾子ノ言ヲ引クコト傳者、別シテ心入レアルベシ【十日十手】ハ、諸人ノ視ルトコロ、諸人ノ指サストコロト云フ義ナリ、視指ノ二字ハ、支脂ノ韻、去聲ナリ、古人ノ語ハ、常ニ云フニモ韻ヲ踏ミテ歌フ様ニスルナリ、

【章句】引レ此以明ニ上文之意、言雖ニ幽獨之中、而其善惡之不可レ揜如此、可レ畏之甚也、

【上文】トハ、人之視レ己如レ見其肺肝ト云フノ意ヲ承ケテ云フナリ、人ノ知ラザルトコロト云フベカラズ、曉然トシテ、諸人ノ共ニ見ルコト、カクノ如シト云フ義ナリ、人ハ知ラズト云ヘドモ、我既ニ自ラ知レバ、十日十手視ルトコロ、指ストコロニ何ゾ異ナランヤ、一念ノ善ハ、慶雲和氣、一念ノ惡ハ妖星魔氣ト云ヘバ、自己ノ知ルトコロハ畏ルベキ事ナリ【幽獨】トハ、上文ノ間居ト肺肝トヲ指シテ云フ、居處ト心トヲ兼ネテ云ヒタルホドニ、文ヲ變ジテ幽獨ト云フ、ナリ、

富潤屋。德潤身。心廣體胖。故君子必誠其意。

丹反 胖步

【訓】富は屋を潤ほし、德は身を潤ほす、心廣く體胖かなり、故に君子は必ず其意を誠にする、

コノ第四節ハ、誠意ノ驗ヲ云ヒテ結文トス、小人間居ト云フヨリ以下ハ、欺クモノ、敗レテ云フ、コノ段ガ自慊ノモノ、樂シキトコロナリ、サテ善惡ヲ知り分ケ、ソノ善理ヲ身ニ有スル工夫ヲ以テ、身ニ行ヒ、ソノ理ヲ心ニ得ルヲ德ト云フ、コノ誠意ノ傳ニテ、始メテ德ノ字ヲ説キ出セルハ妙ナリ、人コノ德アレバ、ソノ身ヲ潤スコト、喻ヘバ、人ノ富ミテ財寶アレバ、ソノ財ハ見エザレドモ、ソノ屋ノウルハシキガ如シ、德モ亦タカクノ如シ【潤身】トハ、如何様ノ事ゾト云ヘバ、心ハ素ト廣大ナル物ナレドモ、物欲ニ掩ハレ、天ニ愧ヂ人ニ作ヅルトコロアレバ、卑狹ニナリテ、天

地廣シトイヘドモ、身ヲ容ルベキトコロモナク、跼蹐スル如クニナル、又天ニ愧ヂ人ニ作ヅル事モナキ有德ノ人ハ、ソノ形體モ、安舒ニシテ肩イカル、前ノ小人ノ消沮閉藏ノ見苦シキ舉動ハナキナリ【心廣體胖】ノ句ハ、身ヲ潤スヲ云ヒタレドモ、心ガ主ナル故ニ、心廣ケレバ體モ胖ナルナリ、朱子講義云、有德之人、其身必修、其心廣大、則其體必安舒、又以著理之必然、而見君子所以必誠其意之指也トアリ、尹彥明ニ、程伊川ノ大學ヲ讀シテ如何ト問ヒ玉ヘバ、心廣體胖ノ一句ヲ看得レバ甚ダ好シト、又如何ト問ヘバ、尹氏但ダ心廣體胖ノ一句ヲ長吟ス、尹氏必ズ見得ルトコロアルベシ、カクノ如クナル故ニ、君子ト小人トハ、コノ誠意ノ關ヲ透ラザルトニテ分ル、程ニ、君子ハ必ズソノ意ヲ誠ニスベシ、ソノ意ヲ誠ニスルノ方ハ獨ヲ慎ムニアリ、故ニ前ニ兩處ニ慎獨ヲ説イテ、誠意ヲ以テコノ文ニテ結ブナリ、慎獨ニモ、誠意ニモ、必ノ字ヲ用フルハ、人ニ示スノ親切ナル意ナリ、前ノ小人ハ内ニ不善ガアリテ、外ニ現ハルコノ君子ハ、善ガ内ニアリテ、外ニアラハレタルモノナリ、コノ章ヨリ以下、正心修身ノ工夫、少シツツアリト云ヘドモ、先ヅ誠意ガ大緊要ノ工夫ニテ、許多ノ病ノ抜クルトコロナリ、故ニコノ結文ニ身ヲ説キ心ヲ説キ自修ノ事ヲ殘サズ舉ゲタルモノナリ、誠意ノ關ヲ透リテ過クンバ、正心修身モ餘リ苦勞ニハ成ラザル者ナリ、

【留】 胖步丹反、

【胖步……】トハ、平聲寒韻ナルコトヲ示ス、

胖安舒也、

安樂ニシテ、ノビヤカナリ、

言富則能潤屋矣、德則能潤身矣、故心無愧作、則廣大寬平、而體常舒泰、德之潤身者然也、

孟子曰、仰不_レ愧_ニ於_二天_一、俯不_レ作_ニ於_二人_一、程子曰、人能克己、則仰不_レ愧、俯不_レ作、心廣體胖、其樂可知トアリ、愧作ノ二字、コ、ニ出ヅ【德之潤身者然也】トハ、身ヲ潤スト云フハ、カクノ如クナルヲ云フトナリ、

蓋善之實於中而形於外者、如此故又言此以結之、

前ニアル誠ニ於中ニ形ニ於外ト云フ如ク、善ガ中ニ充チテ外ニ形ハレタルモノナリ、故ニ又之ヲ言ヒテ誠意ノ章ノ終ヲ結ブナリ、

右傳之六章釋誠意。

右傳の六章は、意を誠にするを釋く、

大學ノ條八ツアレドモ、傳者唯ダ六傳トナス、傳ノ本文ノ内ニ見エタリ、朱子モ、ソノ如クニ見分ケテ、章ヲ立テ玉ヘリ、正心ヨリ末ハ、四傳ニシテ、格致ト誠意トハ、別シテ一傳ヅツ立テ玉フ、知ト行ト、各自ニ力ヲ用フベキトコロナル故ナリ●按ズルニ、前後ノ章ト格別ニ、コノ第六章ト次ノ第七章ニハ、自己ノ意ヲ加ヘテ、細釋ナサレテ、初學ヲ引導シ玉ヘリ、自序ニモ仰セラレタル其略ヲ補ヒ玉フトハ、コレ等ノトコロナルベシ●コノ章ニテ、初メテ好惡ノ二字ヲ説キ出シ玉ヘリ、天下ノ理多シト云ヘドモ、善惡ノ二ツナリ、ソノ善ヲ善ト知り、ソノ惡ヲ惡ト知ルハ、格物ノ工夫ナリ、ソノ惡ヲ惡ミ、ソノ善ヲ好メバ、誠意ノ工夫ナリ、コノ心ヲ以テ、身ヲ修メ家ヲ齊ヘ國ヲ治メ天下ヲ平ニスル要ナル故ニ、修身齊家ノトコロニテハ、好而知惡、惡而知美ト云ヘリ、治國平天下ノトコロニテハ、民好好レ之民惡、惡レ之ト云ヘリ、好惡ノ二字、大學ノ始終ヲ貫キタリ、サテ、血脈貫通ノ義ヲモ知ルベシ●コノ章ヲハ、善惡ノ關トモ、又人鬼ノ關トモ云ヘリ、鬼ハ死人ノ事ナリ、生死ノ關ト云フ義カ、又君子小人ノ關トモ云ベシ、コノ關ヲ、朱子又牢關トモ云ヘリ、堅固ニテ透リガタキ關ナレバナリ、

【章句】經曰、欲誠其意、先致其知、又曰、知至而后意誠、蓋心體之明有所未盡、則其所發必有不能實用其力而荷焉以自欺者、

章末ニ朱子コノ註ヲ加ヘ玉フ意ハ、格致ト誠意ト、一傳ヅ、立テタルホドニ、工夫相因ラズト、學者ノ疑アルベキガ、故ニ、工夫ノ次第相承クル義ヲ、經ヲ引イテ發明アリ、肝要ノ心得ナリ、格致誠意ガ條目ノ初ナルニ依ツテ、ココニテ、コノ義ヲ心得レバ、正心修身マデモ、工夫ノ相承ケ相因ル意ガ明カニ知ル、ナリ、格物致知シテ、理ヲ明カニセネバ、善惡ノ理、慥ニ吞ミコマヌ故ニ、心ノ發スル時、不善ノ念ガ起ルモノナリ、善ヲ真ニ善ト知り、惡ヲ真ニ惡ト知レバ、自然ニ念慮モ善ニ起ル、コレ程子ノ虎ニ傷ラル、者ノ喩ノ如ク、真知ト云フモノナリ、故ニ格致ノ條ニテ、知ヲ格シテ盡ス事ヲ説キタリ、誠意ノ工夫アリトテモ、格致ノトコロニテ、ソノ明ヲ盡サレバ、正念萌ストイヘドモ、私意相隨ツテ起ル程ニ、誠意ノ工夫下シテモ、實ニ力ガ用ヒラズシテ當座ヤカナイニナリテ、私意ヲ制スルコトナラザルナリ、喩ヘバ醫者病ノ見立ガ明カナラネバ、心入ガ專一ニナクテ藥ヲ與ヘテモ、ソノ病治セザルガ如シ、病ノ見立ハ格致ナリ、故ニ見立ノトコロニテ、成程工夫アルベキ事ナリ、ソノ工夫ニテ、明ヲ盡セト教ヘズシテ叶ハザルナリ、コレマデハ格致ニテ、明ヲ盡サザレバ、誠意ノ障ニナルト云フ義、肝要第一ノ義ナリ、コノ義、經文ニハ見ヘタレドモ、却ツテ傳文ニハ見エズ、經文ハ言約ナレドモ、流石ニ聖經ホドアルナリ、

然或已明而不謹乎此、則其所明、又非己有、而無以爲進德之基、

コノ段ハ、格致ノ後ニ誠意ノ工夫相承クルヲ云フ、前ニ格致ヲ專一ニ云ヒタレドモ、又誠意ノ工夫相繼イデ無ケレバ、明カナル理ガ實ニ我が物ニナラヌ程ニ、漸々德ニ進ムコトモナラズ、易ノ乾ノ文言ニモ、忠信進德トアリ【基】ハ、地盤土臺等ト云フニ同ジ、物ノ種ヲモ土ニ蒔カネバ、眞實ノ姿見エズ、土ハ誠ト心得ベシ、誠ナケレバ、何チ地形トシテ進ムベキヤ、致知シタ程ニトテ、誠意ノ工夫、疎略ニハ成ラザルナリ、誠意ノ工夫アリトテモ、致知ノ工夫ヲ用フルニ及バズト心得ベカラズ、コレ相因ルノ義ナリ、ソノ所々ニテ、各力ヲ用ヒテ、ソノ功ヲ究ムルヤウニスベシトナリ、コレ聖經ノ意ナリ、

故此章之指、必承上章而通考之、然後有以見其用レカ之始終、其序不可亂而功不可闕、如此云、

格致一傳、誠意一傳ト各ニ立テタルハ、知行ヲ分テ立テタレドモ、ソノ工夫ハ相承相因ナリ、コノ義ヲ知ラシメン爲ニ、朱子コノ註アリ、窮理ニ工夫ヲ盡スハ、カヲ用フルノ始ナリ、誠意ニ工夫ヲ盡スハ、カヲ用フルノ終ナリ、又致知ニヨリテ、能ク誠意スルガ序ノ亂ルベカラザルナリ、致知ナクテ、誠意ノ工夫ヲ下スハ、序ノ亂ルト云フモノナリ、既ニ致知シタリトモ、誠意ノ工夫ナクテハ叶ハザルヲ【功不可闕】ト云フナリ、カクノ如ク義ヲ經文ニハ説キ玉フナリ【云】ノ字ハ、經文ノ云云ト云フ意ナリ●朱子講義曰、考之於經、則所以能誠其意者、乃在夫知至蓋知無不至、則其於是非得失、皆有以剖析於毫釐之間、而心之所發、必無外善內惡之弊、所以有主於中、有二地可據、而致謹於隱微之間也、若知有不至、則其不至之處、惡必藏焉、以爲自欺之主、雖欲致其謹獨之功、亦且無主之能爲、而無地之可據矣、此又傳文之所未發、而其理已具於經者、皆不可以不察也●按ズルニ、傳文章末ノ註ハ、朱子精妙ニシテ大義ノ繫ルトコロヲ、經文ヲ以テ發明シ玉フ、學者、實ニ工夫ヲ下サント思ハム、能ク能ク熟讀體認シテ見ルベシ、輕シク讀ムベカラズ、

卷之二終

重改大學章句俚諺鈔卷之四

●所謂修身在正其心者。身有所忿懣則不得其正。有所恐懼則不得其正。有所好樂則不得其正。有所憂患則不得其正。

忿、弗粉反、懣、救值反、好樂竝去聲

訓讀 謂ゆる身を修むるは其心を正しくするに在りとは、身忿懣するところあらば、その正しきを得ず、恐懼するところあらばその正しきを得ず、好樂するところあらば、その正しきを得ず、憂患するところあらば、その正しきを得ず、

コノ章ハ、正心修身ノ工夫相因ルニ依ツテ、連ネテ一傳ニ釋シ玉ヘリ、サレドモ、本文ノ意ヲ見ルニ、心ヲ正シウスルヲ專ラ釋シテ、身ヲ修ムルノ義ハ、自ラソノ中ニアリ、コレヨリ以下、傳者經文ヲ引クニ文法ヲ少シ變ジ玉ヘリ、箇様ノトコロニモ意アラシ、ココニモ【在】ト云ヒテ、經文ノ先ノ字ニ當テ玉ヘリ●經文ニハ、欲レ修其身者先正其心ト云ヒテ在正其心トハ云ハズ、コ、ニ在ノ字ノ書ク、コレ經文ノ在格物ノ在ノ字ヲ取リテ書キ玉ヘリ、コレ傳文ノ發明ナリ、先ヅ修身ト云フ時ハ緩シ、在格物ト云フハ密シキナリ、經文モ、在ノ字ニテモ云ハル、ナリ、經文ノ妙ナリ、然ルニ、傳文ニ嚴密ナル字ヲ以テ説キ玉ヘリ●コノ章、三節アリ、コノ一節ハ、心ノ正シカラザルヲ云フ、誠意ノ章ハ、意ニ善惡眞僞ノ雜ハリ物アルヲ云ヘリ、コノ章ニハ、惡ヤ僞ヤナドハ無ケレドモ、諸人ノ心ニ無クテ叶ハヌ物ハ、忿懣恐懼好樂憂患ナレドモ、コ、ニ於テ一工夫ナケレバ、又病ト成ツテ本心ヲ動カセバ、正シキモノヲ引キ害フナリ、コノ事ヲコノ條ニ述ブルナリ●經文ニ、夫子ノ修身在正其心ト仰セラレシハ、心ハ一身ノ主

宰ニシテ、心ノ體、至虛至明ニシテ、本ト正シカラザルコトナク、一物ヲ著クルコトヲ得ズ、喜好樂ニ怒忿懣ニ憂懼ニノ四ノ如キハ、心ノ用ニシテ、凡ソ人トシテ、無キコト能ハザルトコロナガラ、但ダ能ク己ガ本心湛然トシテ、虛明ナルコト、鑑ノ空ナルガ如ク、衡ノ平ナルガ如クニシテ、喜怒憂懼、感ズルニ隨ヒテ、節ニ契ウテ應ズル時ハ、心自ラソノ本然ノ正シキコトヲ失ハズ、若シコノ四ツヲ含ミ有テテ、過不及ヲ察スルコトヲ得ザレバ、或ハ心一偏ニ怒ヲ主トシテ、忿懣スルトコロアル時ハ、忿忿ハ怒ノ甚シキナリ怒怒ハ忿ノ留マレナリ心ハ忿懣ノ爲ニ累サレテ、心ノ用、ソノ正シキコトヲ遂グルコトヲ得ズ、心一偏ニ畏ヲ主トシテ、恐懼スルトコロアル時ハ、心恐懼ノ爲ニ累ハサレテ、心ノ用、ソノ正シキコトヲ遂グルコトヲ得ズ、心一偏ニ喜ヲ主トシテ、好樂スルトコロアル時ハ、心好樂ノ爲ニ累サレテ、ソノ正シキコトヲ遂グルコトヲ得ズ、心一偏ニ憂ヲ主トシテ、憂患スルトコロアル時ハ、心憂患ノ爲ニ累サレテ、ソノ正シキコトヲ遂グルコトヲ得ズ、心ノ用ニソノ正ヲ失ハバ、心ノ體、安ンゾ能クソノ正シキコトヲ得ンヤ【有所】トハ、事未ダ來ラザルニ先チテ期テ望ムカ、又事來リテ心ノ用、ソノ事ニ執シテ、事過ギテモ留滯スルトコロアルヲ云フ、忿懣ノ如キ物、當ニ怒ルベカラズシテ怒リ、當ニ怒ルベクシテ怒ルコト太過、或ハ事過ギテ怒リ忘ル、コト能ハズ、便チコレ私意客氣ノ爲ニ使ハレテ、ソノ怒ヲ正スコトヲ得ズシテ心ノ用、ソノ正ヲ得ザルナリ、心ノ用正シカラザレバ、ソノ體如何ゾ正ヲ得ンヤ、コレ用ニ即イテ體ヲ見ハスナリ、恐懼ハ事ニ臨ム時ヲ以テ云フ、中庸ノ戒謹恐懼トハ異ナリ、中庸ニハ事ニ對セザルノ前チ云フ【在】圖解云、在字作先字看【有所】照解云、有所者不從心之虛靈起念、而從心之嗜欲動情也、一有字壞事、四者皆心之用、未便不好、不好處全在有所、一有所則物不化【不得】文林貫旨云、不得猶失、

音義 忿弗粉反、懣救值反、好樂竝去聲、

【忿弗……】トハ、上聲吻韻ナルコトヲ曉ス【懣救……】去聲眞韻ナルコトヲ示ス【好樂……】好ハ、上ニ記ス、樂ハコノ

ム、ネガフノ時ハ、效韻ナルコトヲ示ス、

【章句】程子曰、身有之身當作心、

【程子……】トハ、程伊川先生ナリ【身有……】トハ、身心聲音等シキ故ニ、心ヲ身ニ誤リタルナラン程ニ、道理ニ的當シテ、心ノ字ニ作り替ヘテ看ルベシトナリ、今朱文公モ、尤ト思召ス故ニ、程子ノ釋ヲ引キ入レ玉ヘリ●蒙引云、心有レ所ニ忿懣、則レ不レ得レ其正、本文只是心字、而章句必曰心之用云者、誠以下心之所以爲心者、以下其有是四者之用也、天下無レ有ニ無用之心、無レ其用ニ亦不レ爲レ心矣、心之不レ正、正在用上也、

○忿懣怒也、

【忿……】トハ、忿懣二字、トモニイカリト訓ズ、然レドモ、忿ハ怒ノ甚シキナリ、懣ハ怒ノ留マルナリト註シテ、ソノ事過ギ去リテモ忘レズ、胸ニ幾日モ留マリテアルヲ云フ●大全、雙峯饒氏曰、忿者怒之甚、懣者怒之留、蓋是四者皆心之用、而人所不能無者、

按ズルニ、コ、ヨリ以下ノ註ハ、朱子ノ意ヲ以テ發明シ玉フ故ニ、蓋シト云ヒテ謙退シ、疑ノ辭ヲ以テ端ヲ發シ玉ヘリ、コノ四ノ者ハ、皆本心ノ物ニ感ジテ、發用スルトコロニシテ、人々ナクテ叶ハヌ物ナリ、コレ等ヲ無クセヨト教フルニハアラズ、

然レ一有レ之而不レ能レ察、則レ欲動情勝、而其用之所レ行、或不レ能レ不失レ其正、矣、

本文ニハ、只ダ有所ト云ヒテ、ソノ中ニ工夫ヲ籠メテ見セタリ、然ルニ、朱子ハ【不能察】ノ三字ヲ取り出シテ、學者ヲ教ヘ玉フ、然レドモ、下ノ節ノ心不レ在レ焉ト云フヨリ、發明セラレタト見エタリ、コノ正心修身モ、格物致知ト誠意トヲ經テ來ル條目ナレバ、コノ節ニソノ病ヲ擧ゲテ、ソノ治方ヲ述ベザルハ、皆上ノ二章ニソノ工夫アルコトナリ【一有之】トハ、一タビト訓ズベカラズ、專一ト連續シテ、セツバラノ意ナリ按ズルニ、只ダ察スルトバカリ云フテハ、ソノ工夫

夫ノ手段闕ケタルヤウニ思ヘドモ、察スルハ、理ヲ察スルナリト、大全三山陳氏ガ説アリ、コ、ガ格物致知ノ工夫アルベシ、語類ノ説ナドヲ考フルニ、格物致知ヲ帯ビテ説ケリ、然レバ、理ヲ以テ察セネバナラヌトコロナリ、故ニ放心シテハ、ソノ沙汰ニ及バザル事ナリ【欲動情勝】コノ欲ノ字ハ、私欲ト見ルベカラズ、禮記樂記、人生而靜、天之性也、感物而動性之欲也ト云フ欲ノ字ト同ジ、コノ欲モ性ガアルニ因ツテ、發スル故ニ、性之欲ト云フナリ、又伊川ノ好學論ニモ、形既生矣、外物觸其形而動於中矣、其中動而七情出焉トアルモ同ジ意ナリ、飢エテ食ヲ求メ、寒ウシテ衣ヲ求ムル心ハ、聖人トテモ同ジ事ナリ、然レドモ、常人ハ察ヲ加ヘズ、專一ニコレニ任セテ置ケバ、ソノ欲ガ動キ情ガサカンニナリテ、理ヲ失ヒ、節ニ外ル、ナリ、コノ義ヲトクト合點セネバ、情勝ヲ欲動クトアルベキヤウニ思ハル、ナリ【欲動情勝】ノ四字ハ、通書刑篇三十六ニ見エタリ、

心不在焉。視而不見。聽而不聞。食而不知其味。

心ココに在らざれば、視れども見えず、聽けども聞かえず、食へども其味を知らず、

コノ節ハ身ノ修ラザルヲ云フ、傳者ノ意ハ、心ガ物ニ應ジテ、正シカラザル事ガアル程ニ、槁木死灰ノ如クセヨト云フニハアラズ、心ハ靈ナル物ニテ、一身ノ主宰トナリテ、正シキ事ヲ得テ、吾ガ居ルベキトコロニ居レバ、耳目鼻口、四肢百骸、皆主宰ノ命ヲ聽イテ、ソレゾレニ使ハル、動靜語默、出入起居ニ至ルマデ、道理ニ叶ハズト云フコトナシ、若シカクノ如クナラズシテ、心ガ物ニ馳セテ、物ガ却ツテ内ノ主トナリテ、本然ノ主宰ナキ時ハ、耳目鼻口、四肢百骸ニスルトコロノ事モ、茫然トナリテ吾ガ思フトコロノ節ニバカリ心ガ有ツテソノ餘ノ事ハ、蟬ノ脱殻ニナル、コレヲ放心ト云フ、放心ト云フモ所以モ無クテハセヌモノナリ、何ニテモ、外物ニ一筋ニ思ヒ入レタル事アリテ放心ス【焉】ハ、於也ト註シテ、コ、ニト訓ズ、心ノ在ルベキトコロヲ指シテ云フ、心既ニ喜怒哀懼ニ累ハサレテ、正シカラザルコ

トアルハ亦タ外、喜怒哀懼ニ馳セテ、虛靈ノ含ミニアラズ、心ハ一身ノ主宰ナルニ、心既ニ内ニ存ラヘザル時ハ、ソノ身ヲ檢束スルコト無キガ故ニ、目ハ視レドモ視ルコトヲ主ルノ主宰ナキ時ハ、ソノ色ヲ見ズ、耳ハ聽ケドモ、聽クコトヲ司ル主宰ナキ時ハ、ソノ聲ヲ聞カズ、口ハ食ヘドモ、食フコトヲ司ル主宰ナキ時ハ、ソノ何ノ味ナルコトヲ知ラズ、夫レ心一ニ在ラズシテ、視聽食ノ粗ニシテ見易キコトサヘ、尙ホ檢束スルコトヲ得ズ、況ンヤ出入起居、事ニ應ジ、物ニ接ハルノ際、何ゾ能クソノ理ヲ得ンヤ、心正シカラザル者ハ、身必ズ修マラザルノ害、カクノ如ク、コノ一節放心ノ病ヲ説ク●語類曰、正レ、心却不正、是將此心去正、那心但存、得此心在這裏、所謂念慮恐懼好樂憂患自來、不レ得●又黃文云、舊嘗問、視而不見、聽而不聞、只是說、知覺之心、却不及義理之心、先生曰、才知覺義理便在此、才昏便不見了、又直卿云、舊嘗問、視之不見、聽之不聞、是收、知覺底心、收、拾、義理底心、先生曰、知覺在、義理便在、只是有深淺●雙峰曰、聲色臭味、事物之粗、而易見者耳、心之精神知覺、一不在此、則於粗而易見者、已不能見、況義理之精者乎、傳者之意、蓋借粗以明精耳、

【章句】心有ココ不レ存、則無レ以レ檢レ其身、是以君子必察乎此、而敬以直之、然後此心常存、而身無レ不レ修也、
 【檢】ノ字ハ、檢束、管束ノ義ニテ、タバネ束ヌル意ナリ、修ノ字ニ當テ、見ルベシ、但ダ心ヲ存シテ、ソノ身ヲ檢束スレバ、身修マルト云フベシ【必察】…コノ心ノ存否ヲ察シテ、若シコノ心存セズンバ、敬シテ以テコノ心ヲ存スレバ、心ノ僻ミ直ルナリ、コノ註ハ、上ノ節ヲ總ベテ見ルベシ、上ノ節ノ有ルトコロハ鑑衡ニ曇リ僻ミガ出來タリ、ソレヲ察セズシテ置ケバ、心ガ外ニ馳セデ、コノ節ノ如クニ放心ス、上節ノ註ニハ、唯ダ察スルコト能ハザルノミト云ヒ、コノ節ニテ、正シク敬直ノ藥方ヲ明白ニ云ヘリ、坤ノ文言ニハ、敬以直内、内ノ字ヲ略シタルハ【然後此心常存】ト云フ句ヲ下ニ云フニ、重複スル故カ、然レドモ、外身ニ對シタルトコロナレバ、直内ヲト云フ成句ヲ引キタルコトハ【之】ノ字ノ意アリテ、別シテ面白シ●凡ソ心ハ意馬心猿ナレバ、少シノ間モ、氣ヲ付ケザレバ

失アリ、故ニ孔子ノ謂ユル操則存、舍則亡トアリ、學者深ク念ウテ、時々刻々ニ省ルベシ●コノ正心ノ章ハ、存養ノ工夫ト云フ説ハ不可ナリ、朱子モ、動靜ヲ兼ヌルトノ玉フ程ニ、存養省察、共ニアリ【檢身】ハ、齊整嚴肅ナリ、又云フ【君子必察乎此】トハ、靜處ノ工夫ナリ、又云フ、直ノ字ハ、正ノ字ニ照管ス、又云フ【此心常存】ハ、已發未發、又云フ、正心ハ存心ナリ、然レドモ、存心ハ上下ニ通ズ、正心ハ誠意以上ノ工夫ナリ●存心ハ、格致誠正修ニモ皆アリ、故ニ上下ニ通ズルノ説アリ●朱子曰、敬是常要此心在這裏、直是直上直下、無纖毫委曲●新安陳氏曰、朱子於此又下ニ察字、且曰敬以直之、以足大學本文未言之意、提出正心之要法、以示萬世學者●勿軒熊氏曰、上章知字、雖皆指心言、是就心之知覺處說、意字是就心之發念處說、至此章方直指心之全體、學者必以以此心之全體湛然虛明、無所係累、則其大用流行、自無不得其正、

此謂修身在正其心。

此を身を修むるは其心を正しくするに在りといふ、

心ハ身ニ主タル干要ノ物ナレドモ、心ヲ正シクスルコトヲ得ザレバ、必ズ身ヲ修ムルコトヲ得ベカラズ、經文ニ修身在正其心ト仰セラレシハコレナリ、ソノ心ヲ正シウスルトハ如何トナラバ、喜怒哀懼ニアリ、之ヲ養フニ未發ニ於テシ之ヲ持ツコト已發ニ於テセバ、身既ニ修マリテ、家國天下モ皆コレヨリシテ理マラン、何ゾ特ニ視聽食ノソノ正ヲ得ルノミナランヤ、

右傳之七章。釋正心修身。

右傳の七章は、心を正しくし身を修むることを釋く、

【章句】此亦承上章以起下章、蓋意識則真無惡而實有善矣、所以下以能存是心以檢其身、

コノ註モ、前ノ章ニ云フ如ク、工夫相承クルコトヲ云フ程ニ、上ノ章ヲ承ケテ、又下ノ章ヲ起スト意得ベシ、下ノ章ハ、八章ノ修身齊家ノ事ナリ【此亦】ノ二字見ルベシ【蓋】ト云フ以下ハ、上ノ章ヲ承ケテ、下ノ章ヲ起スノ義ヲ述ベ玉ヘリ、故ニ謙シテ玉ヘリ、意識ナルハ正心ノ本ナリ、誠意ノ功ニ因ツテ正心モ成リ易シ、故ニ經文ノ註ニモ、意既實則心可自得而正矣ト云ヘリ、誠意ノ工夫ナクシテ、ソノ儘、心ヲ正シウシ、身ヲ修ムルコトハナラヌナリ、故ニ經ニ意誠而后心正ト云ヘリ、コレソノ序ノ亂ルベカラザルヲト云フモノナリ【真無惡而實有善】眞實ノ二字ヲ取り分ケテ註ス、善ト云フモ誠ナレバナリ、

然或但知誠意、而不能密察、此心之存否、則又無以直內而修身也、

誠意ノ工夫ニテ、専ラ實不實善不善ヲ察シテモ、正心ノ工夫ガ別シテナケレバ、或ハ放心スルコトアリ、誠意ノ工夫ダニアレバ、心モ自ラ正シク、身モ自ラ修マルト云フニアラズ、然ラバ、一ノ誠意ニテ濟ムベシ、何ゾ別ニ正心修身ノ條目詳ニ立テナヤ、コレソノ功ノ缺クベカラズト云フモノナリ【密察】中庸第三十一章ニ出デタリ【密】ハ、詳細也【察】ハ、明辨也ト中庸章句ニアリ●密察ハ、須臾毫髮ノ間モ存セザルトコロナキナリ●工夫相承クルノ體ヲ朱子ノ一竿竹ニ喩ヘリ、一本ナレドモ、ソノ間ニ許多ノ節ガアリ、節ガ有ツテ別々ノヤウナレドモ、一本ニテ自ラ相連ルナリ、自レ此以下、竝以舊文爲正、

前ノ第六章ニ至ルマデハ、舊本ニ前後錯亂アレドモ、コレヨリ下ハ、舊本ニ從フトナリ、愚按ニ、程伊川先生ノ本ニ從ヒ玉フ、明道先生ノ本ハ、今ノ第十章ノ文句ヲ左邊右邊ニ居エ易ヘテ有リ

或問ヲ見ルベシ

●所謂齊其家在修其身者、人之其所親愛而辟焉、之其所賤惡而辟焉、之其所畏敬而辟焉、之其所哀矜而辟焉、之其所敖惰而辟焉、故好而知其惡、惡而知

其美者。天下鮮矣。

辟讀爲僻、惡而之惡、敖好竝去聲、鮮上聲、

訓讀 謂ゆる其家を齊るは其身を修むるに在りとは、人その親愛するところにおいて辟す、その賤惡するところにおいて辟す、その畏敬するところにおいて辟す、その哀矜するところにおいて辟す、その放惰するところにおいて辟す、故に好めども其惡を知り、惡めども其美を知るものは、天下に鮮し、

コノ章モ、修身齊家ノ工夫相因ルニ依ツテ、一傳ニ連テ釋シ玉フ、然レドモ、先ヅ修身ノ事ヲ專ラ釋シテ、齊家ノ義ハ、自ラソノ中ニアリ、經文ヲ引クニ、經文ノ如クニ、ソノ家ト云ヒ【其】ノ字ヲ加ヘ、又經文ノ先ノ字ヲ、コノ章ニテモ【在】ノ字ニ易ヘタリ、コノ章モ又三節アリ、コレ第一節ハ身修マラザルノ累ヲ云フ、正心ノ章ト、コノ修身ノ章トハ、文モ意モ大略相似タリ、身ト云ヘル程ニトテ、必ズ耳目口鼻四肢百骸ノ事ニテモナシ、心ハ身ノ主宰ナル故ニ、心ヲ離レテ修身ノ工夫アルベカラズ、然ラバ何ゾ正心ノ後ニ、又修身ノ條目ヲ立ツルヤト云フニ、修身ノ後ハ家ヲ齊フルナレバ、物ニ接ハリ人ニ待ツ事多シ、正心ハ、皆一心ノ中ニ於テノ工夫ヲ云ヘリ、但シ一心ヲ正シクシタリトモ、コノ心、又人ニ對シタル時ニ、前方思ヒ濟マシタルト違ヒテ、僻ミガ起ルモノナリ、ソコニテ又一工夫ナクテハ叶ハズ、總ジテ心ヨリ思ヒ設ケタル事ナラネドモ、人ノ氣僻ト云フ事アリ、コレ身ノ修マラザルト云フモノナリ、身ト物ト對スル時ノ心ノヒヅミナリ、然レバ、正心ノ工夫アリトモ、人ニ對スル時ニ、又コレ心ヲ察セネバ、吾ガ心ノヒヅミ僻ガ直ラザルモノナリ、正心ノ後ニ、修身ノ工夫アリテ、サテソレヨリ家ヲ齊ヘ、國天下ヲモ治平ス、コノ工夫ナクシテ、唯ダ我が心ノ愛憎ニ任カセテハ、家ニ處シテ、人ヲ治マル事モ成ラズ、正心修身モ、我が心ノヒヅミヲ直ス事ハ、同ジ理ナレドモ、修身ヨリ後ハ、物ニ接ハリ、人ヲ待ツコト多シ、ソノ工夫ノ模様ヲ説キ出スモ、内ヨリ段々ニ外ヘ向フ意アリ、修身ノ身ノ字ハ、人ト云フ字ヲ立テ、相對シテ看ルベシ、人ニヒガミハナシ、我が身ノヒガミヤリト思

フ工夫ナル故ニ、正心ノ後、齊家ノ前ニ修身ノ條目ヲ立テタリ、然レドモ、本文ニ云フ五種ノ僻疾モ、必ズ事毎ニアルト云フニテハナシ、誠意正心慎獨省察ノ上ナレバ、惡事ト云フホドノ事モ發ラズ、又物ニ接ハリ、人ニ對スル度ゴトニ、コノ僻發ラザレドモ、或ハ不圖偏ナル心ガ發ル故ニ、修身ノ工夫アリテ、愈ヨ砥石ヤ金剛沙チカケテ疵ヲ去ルナリ、琢磨ノ磨ノ義ナリ●經文ニ齊フ其家ヲ在レ修ル其身ヲト仰セラレシハ、我が身ハ、必ズ他人ト相接ハル、情ノ向フトコロ、各當然ノ則アレドモ、常人ハ俗ニ云フ十人並大抵ノ者ヲ云フ己ガ情ニ任セテ、檢察スルコトヲ加ヘザルニ依ツテ、一偏ニ私意ニ徇フノ病アリ、ソノ骨肉ノ間ニ於テハ、親愛スルトコロニ定マレドモ、己ガ情ニ任セヌレバ、愛ノ一偏ニ傾キテ、父母不義アリテモ諫ヲ忘レ、妻子ヲ匡スコトヲモ知ラザル底ニ陥ルヲ親愛ノ僻ト云フ、卑劣ニ汚レ讓レタル人ハ、賤ミ惡ムトコロナレドモ、一向ニソノ情ニ任セヌレバ、賤惡ノ一偏ニ傾キテ、ソノ人ニ偶マ善事見ハレテモ、日頃ノ格デ知レタト云ヒテ、取り用フルコトヲセザルハ賤惡ノ僻ト云フ、尊長ノ人ニ於テハ、畏敬スルトコロナレドモ、一向ニソノ情ニ任セヌレバ、畏敬ノ一偏ニ傾キテ、富貴ノ勢ニ屈メ抑ヘラレテ、君ニテモ又官位ヲ具ヘタル人ニテモ、惡ヲ正シ、善ヲ責ムルコトヲ忘ル、ハ畏敬ノ僻ト云フ、困窮ノ人ヲ哀矜スルハ、仁心ノ發スルトコロニシテ、哀矜スベキコトナレドモ、一向ニソノ情ニ任スレバ、哀矜ノ一偏ニ傾キテ、大奸ノ罪人ヲモ宥免スルハ、哀矜ノ僻ト云フ、言行共ニ壞レタル人ナドニハ、傲情スベキ管ナレドモ、一向ニソノ情ニ任セヌレバ、傲情ノ禮儀ヲ疎略ニスルヲ傲ト云フ、禮儀ヲ行フコトヲ六箇數ガルヲ情ト云一偏ニ傾キテ、ソノ人ヲ辱シメ、迷惑サスル如クニ仕係クルハ、傲情ノ僻ト云フ、彼ノ親愛畏敬哀矜ハ好スルノ類ナレドモ、ソノ中ニモ何ゾ惡シキコトナカラシヤ、賤惡敖情ハ惡ムノ類ナレドモ、ソノ中ニモ何ゾ美スルコトナカラシヤ、然ルニ、皆一偏ニ僻ムコトカクノ如クナレバ、好スル人ニハ、我が好スル心、先ヅ中ニ主トナリテ、ソノ惡アリテモ、積ムトコロノ愛ヲ以テ揅フ、惡ム人ニハ我が惡ム心先ヅ中ニ主トナリテ、ソノ人ノ美キコトアリテモ、過ギテ憎ムガ故ニ、棄ツ、若シ好スルトコロノ人ニテモ、又能クソノ惡シキヲ知り、惡ムトコロノ人ニテモ、又能クソノ美キコトヲ

知ル者ハ、コレソノ身ヲ修メテ能ク好惡ノ正ヲ得ルニアラズンバ能ハズ、カカル人ヲ天下ニ求ムレドモ、亦タソノ人ハ鮮シ【親愛】燃犀解云、親重愛輕、賤惡以下皆然、連看●講述云、親是親近重愛、愛是傲慕喜樂、賤是卑賤、惡是憎疾、畏是嚴憚、敬是加禮、哀憐也、矜恤也、敖者尊己而凌人、情者忽人而肆己、

【辟讀爲僻、惡而之惡、敖好竝去聲、鮮上聲、

【辟讀……】トハ、辟ノ字ニテハ、本文ノ義通ゼズ、故ニ僻ノ字ト讀ミ變ヘテ用フトナリ【惡而……】惡ハニクムノ時ハ、去聲遇韻【敖】ハ、オゴルノ時ハ、去聲號韻【好】ハ、ヨミンズル、コノムハ、去聲號韻ナルコト、上ニ詳ニ解ス【鮮上……】トハ、銑韻ニシテ、蘇典切、集韻ニ少也ト註シテ、スクナシト訓ジサセン爲ナリ、

【章句】人謂衆人、

【人謂……】聖賢ヲ除イテ、ソノ餘ノ者ヲ云フナリ、之猶於也、辟猶僻也、

按ズルニ【之】ノ字ヲ於ノ字ノ義ニ見レバ、通ジ易ク、義モ相違ナキ故ニ、カクノ如ク於ノ字ニシテ註ヲ下セリ、但シ舊註ニハ、往ノ字ニテ有リシガ、今按ズルニ、本文ニテハ、ユイテト讀ミテ佳ナラン、於ノ字ニテハ、ソノ儘聞コエ易キ故ニ、之猶於ト註シ玉フト見エタリ、ユクト云フモ、向フトコロノ人ニ對スル義ナリ【僻】ハ、偏倚ト連綿シテ、カタヨルト讀ムナリ、コノ【辟】ノ字、古註ニハ譬ノ字ニ見テ、音モ、ヒノ音ニ讀セタレドモ、コレニテハ、義理通ゼズ、ソノ上コノ書ノ中ニ僻則爲天下僂矣ノ類モ僻ノ字ニ見タル證據モアリ●語類云、之猶往也、又云之猶於也、之其亦如於其人、即其所向處、

五者在人、本有當然之則、然常人之情、惟其所向而不加察焉、則必陷於一偏而身不修矣、不謹細行、終累大德ト云ハ、孔子以下ハ、顔孟タリトモ、コノ僻アリ、然レドモ、顔孟ノ僻ハ說キ難シ、故ニ衆人

ノ同ジク有ルトコロヲ以テ之ヲ説ク厚薄ノ次第ハアルベシ●コノ註ノ【向】ノ字、入ニ對シテ起ル僻ナリ●コノ章ニモ、朱子又【察】ノ字ヲ以テ、工夫ノ手段トス、上ノ章トコノ章ト、四所ニ察ノ字アリテ、正心修身ノ病ヲ治スルノ方トナセリ、然ルニ、正心修身ノ本文ヲ見ルニ、心ノ正シカラザルト身ノ修マラザルコトヲ言ヒテ、工夫ノ手段ヲ言ハザルコトハ、誠意ノ章ノ慎獨ニ持タセタル意ナリ、慎獨モ、省察ノ工夫ナリ、誠意正心修身モ、一心ノ上ノコトナレバ、慎獨ノ工夫ヲ離ルベカラズ、故ニ程子天徳ト王道トヲ論ズルニ、ソノ要ハ獨ヲ慎ムニ在リト玉フ、天徳トハ、即チ意誠ニ心正ク身修マルノ謂ナリ、王道トハ、即チ齊家治國平天下ノ謂ナリ、故ニ朱子ソノ意ヲ得テ、正心修身ノ本文ノ中ヨリ明カニ【察】ノ字ヲ味ヒ出シテ、工夫ノ爲ニ學者ニ示シ玉フ、コレ雙峰饒氏ノ說ナリ、最モソノ旨ヲ得タリ、コノ意ヲ能ク理會セズシテ、上章トコノ章トノ本文ニハ、病ヲ云ヒテ治法ヲ云ハヌトバカリ心得タラバ、大ニ傳者ノ本意ヲ失フベシ、琢磨ノ磨ニアタリタレハ何ゾ治法ナカラシヤ、

故諺有之曰。人莫知其子之惡。莫知其苗之碩。諺音彦、碩叶韻、時若反、

【訓】故に諺に之あり、曰く、人その子の惡を知ることなく、その苗の碩を知ることなしと、

コノ節モ身ノ修ラザルノ弊ヲ云ヒテ、好惡ノ偏ナル證據ニ諺ヲ引ケリ【故】トハ、上文ノ好惡ノ平ナル者ハ、天下ニ鮮キ故ニ、天下ニ又多キモノヲ引クニヨリテ【故】ニト云ヒテ、上ヲ承ケタリ、凡ソ人情ノ偏ナルコト、カクノ如クナルガ故ニ、諺ニモ之アリ、子ヲ知ルハ父ニ超エタルハナケレドモ、人情愛ニ溺ル、時ハ、明カナラズシテ、ソノ子不肖ナルコトアレドモ、ソノ惡ヲ知ル者ナシ、苗ヲ知ルハ、農人ニ超エタルハナケレドモ、人情得ルコトヲ食ル時ハ、厭クコトナシ、ソノ苗已ニ盛ナルコトアリテモ、ソノ碩ニ茂ルヲ知ル者ナシト云ヘリ、コノ言ニ依ツテ、推シ廣メテ、見ルベシ、人ノ情愛ニ蔽ル、時ハ、父ノ子ヲ知ラザルガ如キモノ多シ、利ニ心ヲ奪ハレテ、昏キ時ハ、農人ノ苗ヲ知

ラザルガ如キ者多シ、偏ノ害ヲ爲スコトハ、一ニカクノ如シ。◎照解云、二知字、不レ曰、三人不知、而曰、三人莫知、正天下鮮矣、意也、學問已過、誠意關頭、正須精察及此。◎苗之碩、苗之至盛也。

音義 諺音彦、碩叶韻、時若反、

【諺音……】トハ、コトワザト訓ジサセン爲ナリ、若シ、ガンノ音ナレバ、タケシト訓ズ【碩叶韻……】トハ、叶音ニシテ、ジャクノ音ナリ、古人ノ語ハ、諺ナレドモ、韻ヲ押ス、惡碩、藥韻ニシテ唱フ、

【章句】諺俗語也、

世俗ニ言ヒ傳ヘ習ハシタル語ナリ、

溺レ愛者不レ明、貪レ得者無レ厭、是則偏之爲害、而家之所レ以不レ齊也、

【溺愛……】トハ、コノ句、本文ノ莫知、其子之惡、ノ句ヲ解ス、言フハ愛ニ溺ル、モノハ、迷ウテ昏シ、故ニ吾ガ子ヲ惡キト思ハヌナリ【貪得……】トハ、コノ句ハ莫知、其苗之碩、ノ句ヲ解ス、言フハ得ルコトヲ貪ルモノハ欲深シ、何ホド物ヲ取リテモ、足ラズト思フテ、遂ニ厭ク期ナシ、コレ欲ニハ頂ナシト云ナリ、語類曰、人莫知云々上面許多偏病不レ除、必至於此【偏之爲害】上ノ節トコノ節ト同意ト云ヒナガラ、淺深アリ、上節ニハ、五種ノ僻バカリテ云フ、コノ節ハ、偏ガ害ヲナス故ニ、惡シキヲモ善ト思ヒ、善ヲモ惡シキト思フハ、既ニ黑白顛倒シタル意アル故ニ、上文ノ註ノ如クニ一偏ニ陥ルト云ハズシテ偏之爲害トハ云ヘルナルベシ、善ヲバ好シ、惡ヲバ惡ム、コレ正シキナリ、然ルニ、好惡トモニ邪ニナルナリ、害ハ邪ナリ、

此謂身不レ修不可以齊其家。

訓讀 これを身修まらざれば以て其家を齊ふべからずといふ、

人情好惡ノ偏ト諺語等ヲ以テ觀レバ、カクノ如キヲ身不レ修ト云フ時ハ、凡ソ偏ニ好ンデ偏ニ惡ムノ及ブトコロハ、尊卑長幼ノ間ニ於テ、必ズソレゾレノ分ヲ得ルコトヲ得ザルガ故ニ必ズ家ノ齊フルナリ、齊フラザルガ如何ト問ハズシテ、我身自ラソノ家ヲ齊フベカラズト説イテ經文ノ欲レ齊其家、必先修其身ト仰セラレシ所以ヲ示シ玉フ◎コノ節ハ、家齊ラザルノ由ヲ云ヒテ結文トス、前ノ第五章ニハ、此謂物格、此謂知之至也、第六章ニハ、故君子必誠其意、第七章ニハ、此謂修身在正其心トアリ、皆コレ經ノ文ニ應ジテ順ニ正シク結シ、コノ章ニハ、反復シテ結ス、諸章ノ結語トハ、語ノ體變ルハ、別ニ意アルナリ、修身ハ明ニ明德ノ終リナリ、又經文ニモ八條目ヲ説キ終リテ、自天子以至庶人、壹是以レ修身爲本ト別シテ、修身ヲ擧ゲテ説キ玉フ、故ニコノ章ニ至リテモ、傳者語ヲ反シテ結スルコトハ、學者ニ叮嚀吃緊ニ示シタルモノナリ、

右傳之八章釋修身齊家。

訓讀 右傳の八章は、身を修め家を齊ふることを釋く、

按ズルニ、誠意ハ格致ノ工夫ヨリ來リ、正心ハ誠意ノ工夫ヨリ來リ、修身ハ正心ノ工夫ヨリ來ルトアリ、學ノ先後、工夫ノ次第ヲ聖人説キ玉フモノナリ、然リトイヘドモ、カクノ如ク工夫ヲ經ズシテ、吾ガ輩ノ如キモ、一條一章ヲ見レバ、ソノ病ノ吾レニアルコトヲ知リテ、修行工夫ハナラズトモ、自ラ愧ヅル心ノ生ズルハ如何、皆コレ吾ガ心上ノ事ナレバ、工夫ノ有無ヲ論ゼズ、ソノ善惡ノ大概ヲ知ルコトモ、コレ自己ノ明德發見ノトコロナリ之ヲ知ラバ務ムベシ、

◎所謂治國必先齊其家者。其家不可教而能教人者無之。故君子不出家而成教於國。孝者所以事君也。弟者所以事長也。慈者所以使衆也。

弟去聲、長土聲、

卷之五十一 一六〇

訓讀 謂ゆる國を治むるは、必ず先づ其家を齊ふとは、其家教ふべからずして能く人を教ふる者は之なし、故に君子は家を出でずして教を國に成す、孝は君に事ふる所以なり、弟は長に事ふる所以なり、慈は衆を使ふ所以なり、

コノ章モ、齊家治國ノ工夫相因ルニ依ツテ、連リテ一傳ニ釋シ玉ヘリ、然レドモ、本文ノ意ハ、齊家ヲ專ラ主トス、コノ章、スベテ九節アリ、コノ一節ハ、身ヲ修メテ、家ヲ教フル時ハ、國ニモ教ガ行ハルベキナリ、家ト國ト一理ナルコトヲ述ベ玉ヘリ、經文ニ、夫子ノ治レ國必先齊其家ト仰セラレシハ、如何トナレバ、家ハ國ノ本ナルガ故ニ、若シ我が身ヲ修ムルコトヲ得ズ、他ヨリ觀テ則トスルノ本ナクシテハ、ソノ家ノ人ヲ我ヨリ教フベカラズシテ、能ク一國ノ人ヲ教訓シテ、感化ノ驗ヲ見ハスコトハ、決シテ、コノ事ナシ、コノ故ニ、國ヲ治ムルノ君子ハ、我が身ヲ修メテ、家ニ教フルノ道ニ超エ出デズシテ自家ノ教ヲ國ニ廣メ、成就シテ、衆人率ヒ從ハザルコトナシ、カクノ如クナルハ何ゾヤ、家ニ教フルト國ニ教フル、本ト一理ナケレバナリ、孝ノ如キハ、君子ノ親ニ事ヘテ家ニ教フルトコロナリ、國ニ君アルハ家ニ親アルニ異ナラズ、コレ家ニ在ツテ親ニ事フルノ理ハ、即チ國ノ臣民ガ大君ニ事フルトコロノ理ナリ、弟ハ君子ノ兄ニ事ヘテ家ニ教フルトコロナリ、國ニ長アルハ、家ノ兄アルニ異ナラズ、コレ家ニ在ツテ兄ニ事フルノ理ハ、即チ國ノ卑賤ナル者、官長ニ事フルトコロノ理アリ、慈ハ君子ノ幼若ナルヲ撫デ育ヒテ家ニ教フルトコロナリ、國ニ衆人アルハ家ニ幼若アルニ異ナラズ、コレ家ニ在ツテ幼若スルノ理ハ、國ノ官司百姓ヲ使トコロノ理ナリ、教ヲ國ニ立ツル本ハ、只ダ家ノ孝弟慈ノ三ツニアリ、コレ家ヲ出デズシテ教ヲ國ニ成スノ所以ナリ【所謂……】講述云、傳上下章皆曰、在、獨此章曰、必先、或文法更レ端、未レ必別有ニ主意、不レ深爲ニ之說【其家……】我無レ可ニ以テ教フ家之具、故云不レ可レ教、非レ謂ニ家人不レ率レ教也、惟修ニ其身、纔可ニ以テ教フ家言【文林貫旨云、不レ可レ教作レ不レ能レ教看、教レ人即治ニ國人ニ蒙引云、其家不レ可レ教者、身不レ修故也、不レ出レ家而成ニ教於國者、身修故也【無之】決言レ沒此理也講】

晉書 弟去聲、長上聲、

然

欠

欠

テ行フテ、彼ノ人々ノ願ヲ遂ゲシムベキコトナリ、コレ至善ノ極ナリ、人々ノ願ノ駁モナク遂グルハ天下ヲ平ニス
云フモノナリ、我が願ノミ叶フテ、人ノ願ノ叶ハヌハ、平ト云フベカラズ、私ナルコトナレバ、不平ト云フベシ、諸
テ矩ハ工匠ノ曲尺ナリ、曲尺ハ不平ヲ平ニスル物ナル程ニ、譬ニ取ツテ云フ、矩ノ字ノ中ニ天下ヲ平カニスルト云フ
意ガ自然ニアリ、曲尺ハ天下ノ曲尺一本ナリ、一本ノ曲尺ニテ、天下ノ不平ヲ平ニスルモノナリ【矩】ハ、ハカルト云
フ義ナリ【矩】ハ、平ニスル意ナリ、コレハ喩ニ借リテ云フ、正意ハ我が孝弟慈ヲ行ヒタク思フラント、我が心ヲ曲尺
トナシテ、人ヲモ絜ルヲ云フ、絜矩ノ模様ハ、下ノ文ニテ説キ出ダセリ、コノ節ニハ、名號ノミヲ先ヅ出セリ、絜矩
ノ道ヲ云フベキ爲ニ、上章ニ云ヒタル孝弟慈ヲ、コノ章ニテ再ビ取り出シテ云ヘリ、コレ本文正義ノ大概ナリ、知新日
録、李九我曰、天下之人、老者欲安、長者欲敬、孤者欲恤、各有三分願、使是各得三分願、便是平、故曰、長短廣狹、彼此如
一、而無不均、蓋長者自長、短者自短、廣者自廣、狹者自狹、各適其適之謂之均、非截長補短之謂、申甫曰、平者上
下四方各均定而無憾之謂、有二人得遂其願、有三人不得其願、便是不平、蒙引云、三民字、指國人言、一說三民
字、通天下之人而言、又云、孤者幼而無父之稱、凡幼皆在所恤、獨言孤、何也、曰、哀此獨、此尤在所宜恤者、
耳、所謂舉重以見輕、或曰、孤者人之不幸者也、亦有幸而無孤者、而此專言孤爲何、曰、有天下國家者、必不
能無孤、周文子孫、塞乎寰宇之内、漢之子孫、光武時、一十二萬、其孤當何可勝計、今人一大族、亦有數十百孤者、
【矩】照解云、矩從木、字、化出當心字看、
【倍與】長上聲、弟去聲、倍與背同、絜胡結反、
【長上聲】トハ、養韻ニ用フルコトヲ示ス【弟去聲】トハ、霽韻ニ用フルコトヲ示ス【倍與】トハ、一倍二倍ノ義ニシ
テ、マスト訓ズルニアラズ、背ノ字ニ通ジテ、ソムクト訓ジサセン爲ナリ【絜胡】トハ、屑韻ナルコトヲ示ス、若シ去
聲霽韻ニ苦計切ナレバ、ケイノ音ニシテ、ヒツサグルト訓ズルヲ分タン爲ナリ、

【章句】老老所謂老吾老也、

【老老……】孟子梁惠王上篇曰ノ老吾老以及人之老トアリ【吾老】トハ、吾ガ父ヤ兄ヲ云フナリ【老】トストハ、隨分父兄ニ事フルノ道ヲ盡シテ、安シズルヤウスニルヲ云フ●按ズルニ、孟子ノ註ニハ、老謂父兄也トアリ、コノ本文ニハ、老ト長ト別々ニ云ヘリ、然レバ、孟子ノ語ヲ、ソノ儘、コノ本文ノ義ニハ取り用ヒラレズ【吾】ト云フ字ノ義ヲ肝要ニ取ツテ、偕テ及二人之老ト云フ、孟子ノ大意ヲ借りテ、コノ本ノ意ヲ解シタルト見エタリ、

【興】トハ、君ノ行ガカクノ如クナレバ、民モコレヲ見ツ聞ツシテ、心ニ感ジテ、コレヲ真似ント念フ心ガ發出ンテ、寢テ居ル者ガ、起キ舉ガル如クナルヲ云フ、人々皆孝弟アルニ依ツテ、見ツ聞ツシテ感ズルナリ、

孤者幼而無父之稱、
孟子梁惠王下篇曰、幼而無父曰孤、ミナシゴト訓ズ、
絜度也矩所以爲方、

【絜】ハ、ハカルト訓ズ、繩カ絲ナドヲ用ヒテハカル意ナリ、朱子ヨリ以前ノ諸儒ハ、コノ字義ヲ曉サズシテ、絜ノ字ノ訓ニ用ヒタリ、然レバ、ヒツサグルト云フ義ニ見タリ、絜ノ字ノ意ニ見テハ、何ノ所詮モナキ義ナリ、朱子ノ父章齊ノ友范如圭ト云フ、人、文字ノ證據ヲ見出シテ、度ノ字ヲ註ニ下シテ、義能ク通ゼリ、朱子モ、ソレヲ用ヒ玉フ、莊子ガ謂ユル絜之百圍トアリ、又賈誼過秦論ニ謂ユル度長絜大トモアリ、コノ故ニ絜ハ度也ト註ヲ下シ玉ヘリ、語類道夫曰、古註絜音戶結反、云レ結也、曰作結字、解亦自得、蓋荀子莊子註云、絜圍束也、是將一物圍束以爲之則也、又曰、某十二三歲時、見范文所言如此、他甚自喜以爲先儒所未嘗到也【矩】ハ、前ニ云フ如ク平ニスル意ガ、コノ章ニ借り用フルトコロノ意ナレドモ、方ヲ爲ルト云フハ、絜矩ノ形ハ、四角四方ニシテ、云ヒタルホドニ、規ハ圓ク、矩

ハ方ナルノ義ヲ正意ニシテ方ヲ爲ルト云ヘリ、コノ絜矩ノ喩ノ中ニ、自然ニ平ナル意モアリ、然ラバ、方ヲ爲ルハトハ喩ヲ主トシテ云ヒタル註ナリ●大全、矩者制方之器、俗呼二曲尺、此借以爲喩●蒙引云、君子之所以爲矩者無他、心而已矣、一人之心千萬人之心也、故推之而無不準、便能使天下平、若不此是心、如何說得所操者約而所及者廣●或云、絜矩ノ訓ハ、ハカリテ、ケタニストヨムナリ、
言此三者上行下效、捷於影響、所謂家齊而國治也、

コノ註ニハ、感應ノ速ナルヲ云フ、前章ニアル孝弟慈ヲ云ヒタルハ、絜矩ヲ云ハン爲ニ、再ビ舉ゲテ云フトノ註ノ意ナリ【所謂】トハ、前章ノ孝弟慈ヲ指ス、故ニコノ次ノ註ニ【亦】トハ、コノ章ニ、孝弟慈ヲ云ヒ、感應ノ速ナルコトヲ云フニ對シテ云ヘリ【影響】ノ二字ハ、書經ノ大禹謨ニ出デタリ、禹曰、惠迪吉、從逆凶、惟影響トアリ、形ニ影ノ從ヒ音ニ響キノアルヲ云フ●按ズルニ、如影響トアリテモ聞コエタルニ、何故ニ捷ニ於影響トハ註シ玉フゾヤ、熟ラ思フニ、朱子ノ註ニハ、一毫モ浮誇ナル義ハ無カルベシ、影ト響トハ、形ト音トヨリ生ズルモノナレバ、本末アリ、明德ハ人々固有ノ者ナレバ、彼ト我トニ本末モナキ程ニ、感應ノ速ナルハ、影響ヨリ捷シト註シ玉フナルベシ、コノ義、孰レノ説ニモ、未ダ見ユズ、愚臆見カクノ如シ、

亦可以見人心之所同而不可使有二夫之不獲矣、
コノ註ヨリ下ハ、コノ章ノ本意ヲ云フ、民ノ感發興起シ易キヲ以テ、人心ハ我モ人モ同ジキコトヲ知ルベシ、人心ノ同ジキコトヲ知ラバ、匹夫ノ賤シキモノナリトモ、コノ心ヲ得セシメズシテ叶ハザルコトナリト云フ義ガ、上老ト老ト云フ以下ノ三句ノ中ニ自ラ見エタリト云フ註ナリ【不可使有一夫……】トハ、一夫ナリトモ、コノ理ヲ獲ザルヤウニスベキ事ニハアラズトナリ、一夫之獲ト云フヲ、上ノ恩澤ヲ獲ルト見レバ、下ノ註ヘナリテ、重複スルナリ、ココニテ、絜矩ノ施シテ説クベカラズ、世上ノ講ニモ、諸鈔ニモ、コ、ヲ見誤レリ、語類云、不使二夫之不獲者、無二夫不

得此理也、只我能如此、而他人不能如此、此則是不平矣トアリ、是以君子必當因其所同、推以度物、使彼我之間各得一分願、

人心同ジキ故ニ推セバ、能ク通ズ【推以度物】トハ、我が心ヲ推シテ、人ノ心ヲ度ルヲ云フ、コノ句、絜矩ノ心ヲ云フ、物ハ人也ト註ス、物我ト常ニモ對ス、又矩ハ物ヲ度ル器ナレバ、物ト云フ字親切ナリ、或問ニモ、物我之間ト云ヘリ【各得分願】トハ、絜矩ノ政ヲ云フ●註釋云、分謂所當得也、願謂所欲得也【使】ノ字ハ、上ノ推以度物ノ句ノ絜矩ノ意ニ系ケテ見ルベシ、前ノ註ノ所以爲方ト云フニ相應ズ、絜矩ノ意ヲ以テセシムト云フ義ナリ、絜矩ノ意デ、彼我ノ間ガ平ニナルナリ【我】トハ、君子【彼】トハ、民ナリ【各】ノ字【分】ノ字モ、彼我ノ事ナリ、コノ絜矩ノ形ハ、我が身ヲ中ニ置イテ、上下四方ヘ曲尺ヲ振り替ヘ振り替ヘ當テタル物ナリ【分願】トハ、孝ノ分、弟ノ分、慈ノ分ト云フニハアラズ、天下ノ内ニ諸侯大夫士庶人等ノ上下貴賤大小アリ、ソノ分量相應ノ願ト云フ意ナリ、諸侯ハ天子ノ事ヲ願ヒ、大夫ハ諸侯ノ事ヲ願フノ類ハ、分願ニ非ズ、又貴賤大小ノ品モナク、一樣ニセント云ハバ、コレ理一分殊ニ非ズシテ、墨氏ガ兼愛、佛氏ノ平等ノ説トナラン、易ノ謙ノ卦ニ稱物平施ト云フハ、秤ニテ物ヲ稱ルニ權リヲ以テ、ソノ輕重ニ隨ヘバ、秤ノ背ガ平カニナルヲ云フ、コノ意ガコノ註ノ義ナリ、

則上下四旁均齊方正而天下平矣、

【上下四旁……】コノ句ハ、絜矩ノ形ヲ云フ、コノ形ヲ借りテ、ソノ意ハ、平ヲ取ル事ヲ云フ、絜矩ノ形ト絜矩ノ意トヲ雜ヘテ解ク【天下平……】ノ句ハ、又絜矩ノ意ヲ説キ入ル、上下四旁均齊方正ハ、絜矩ノ形ヲ外ヨリ見タル總體ヲ云フ、上ト下ト均齊方正ナリ、又前ト後ト均齊方正ナリ、又右ト左ト均齊方正ナリト云フ意ナリ均齊ハ出入モナキヲ云フ、方正ハ僻モナク、眞直ナルヲ云フ、サテ上下四旁均齊方正ノ句ハ、絜矩ノ形ヲ云フトイヘドモ、天下平矣ノ句ニ取り合セテ、ソノ意ヲ云ヘバ、我が心ヲ以テ、人ノ心ヲ推シ度リテ、ソノ政ヲ平ニスレバ、人々ソノ分願ヲ得テ、一夫タ

リトモ、コノ道ニテ通ゼズト云フコトナキ程ニ、上ヨリ下ヲ見テモ、下ヨリ上ヲ見テモ、又南ヨリ北ヲ見テモ、北ヨリ南ヲ見テモ、又東ヨリ西ヲ見テモ、西ヨリ東ヲ見テモ、有餘不足ナキ程ニ、天下平矣トハ云フ、何レノ國何レノ里ヘ用ヒテモ、通ゼズト云フコトハナキ道ナリ●按ズルニ大全、四旁即四方也、常ニハ四方ト書ク、コ、ハ、吾ガ身ヲ中央ニ立テテ云フニヨリテ、前後左右ハ傍ナリ、故ニ旁ノ字ヲ用フト見エタリ、又下句ノ方正ノ字ニモ障ルガ故ナリ、コノ章ニテハ、方ノ字上下ニモ通ズ、矩ノ形ヲケタニシテ、説キタレバ用ヒ難キトコロナリ、或問ニハ、上下四方トアレドモ、章句ニ旁ノ字ヲ用ヒ玉フハ、精密ナルトコロナリ●語類曰、老長長恤孤、方是就自家身上切近處●説●又曰、爲國絜矩之大事、又在於財用、所以後面只管說財、如今茶鹽之禁、乃是人生日用之常、却反禁之、這个都是不能絜矩●又曰、能使一人興起者、聖人之心也、能遂其人之興起者、聖人之政事也、

所惡於上母以使下。所惡於下母以事上。所惡於前母以先後。所惡於後母以從前。所惡於右母以交於左。所惡於左母以交於右。此之謂絜矩之道。

惡先竝去聲、

訓讀 上に惡むところ以て下を使ふこと母れ、下に惡むところ以て上に事ふこと母れ、前に惡むところ以て後に先んずること母れ、後に惡むところ以て前に從ふこと母れ、右に惡むところ以て左に交ふること母れ、左に惡むところ以て右に交ふこと母れ、これ之を絜矩の道といふ、

上ノ節ニハ、絜矩ノ名號ノミヲ云フトイヘドモ、絜矩ハ己ガ心ヲ矩トシテ、人ヲ推シ度ルト云フ意、二字ノ中ニ見エタレバ、孝弟慈ノ願ヲ人々ニ得セシムベキト云フハ、上節ノ中ニ見エタリ、然ルニ、コノ節ニ上下四旁ヘ系ケテ説クコトハ、詳ニ之ヲ言ヒテ絜矩ノ模様ヲ形容ス、又コノ章ハ、平天下ノトコロナレバ、上下ノ交バガリト心得レバ、絜矩ノ本意モ不足ナリ、故ニ絜矩ノ模様ヲ形容シテ、上文絜矩二字ノ義ヲ詳ニ説キ解キ玉ヘリ、サテ本文ノ意ハ、我

ガ身ヲ上下四方ノ中ニ置イテ説キ玉ヘリ、上タル人ノ我ニ無禮ナルコトヲ我欲セズンバ、人ノ心モ、我が心ノ如クナルベシト、我が心ヲ矩トナシテ、人ノ心ヲ推シ度リテ、下ヲ使フニ決シテ、コノ無禮ナルコトアルベカラズ、如何トナレバ、一人ノ心ハ千萬人ノ心ナレバナリ、又下タル者ガ我ニ不忠ナルコトヲ我欲セザレバ、人ノ心モカクノ如クナルベシト、必ズ推シ度リテ、上タル人ニ事フルニ、決シテ不忠ナルコトアルベカラズ、前ナル人ガ我ニ惡シクスルヲ我欲セズンバ、人ノ心モカクノ如クナルベシト、必ズ推シ度リテ、コノ惡シキ意ヲ以テ、後ナル人ニ先ツベカラズ、又後ナル人ガ我ニ惡クスルヲ、我欲セズンバ、人ノ心モカクノ如クナルベシト、必ズ推シ度リテ、前ナル人ニ從フニ、決シテ、惡クスベカラズ、右ナル人ガ、我ニ惡クスルヲ、我欲セズンバ、人ノ心モカクノ如クナルベシト、必ズ推シ度リテ、左ナル人ニ交ルニ、決シテ、惡クスベカラズ、又左ナル人ガ我ニ惡クスルヲ、我欲セズンバ、人ノ心モカクノ如クナルベシト、必ズ推シ度リテ、右ナル人ニ交ルニ、決シテ惡クスベカラズ、コレ我ガ身ヲ中央ニ置イテ、我が心ヲ矩トナシテ、上下ヘ矩ヲ當ツルニ、喻ヘバ上一尺ナレバ、下ヘモ一尺アリテ、上下ノ間ニ長短ノ易ハリガナキナリ、上タル人ノ無禮ナルヲ惡ミ思フトキニ、彼ハ惡シ、カクソ有リ度キモノト、ソノ心能ク行キ届キタルハ、上ヘハ長シト云フモノナリ、然レドモ、下タル者ヲ使フ時ニハ、ソノ心ノ行キ届カザルハ下ヘハ短シト云フベシ、然ルニ、四方ヘ、振り直シ振り直シ、矩ヲ當ツレバ、前後ノ間ニモ廣狹ナク、左右ノ間ニモ廣狹ナクシテ、上下四方一ノ如クニシテ、ソノ形、眞四角ニナルヲ矩ト云フ、上下ノ間ヘ、コノ矩ヲ當ツルモ、矩前後ノ間ヘ當ツルモ、矩左右ノ間ヘ當ツルモ、矩ナリ、然レドモ、矩ノ字ノ方ナリト有ル程ニ、ソノ形ノ四角四方ナルガ、先ヅ矩ノ體ナリ、コノ節ニハ、矩ヲ逐一ニ説クトイヘドモ、外ヨリ押シ廻シテ、見テ、矩ノ總體ヲ説ケリ、コレハ矩ト云フ喩ノ形ヲ説ケリ、必ズカクノ如クニ上下四方ノ真中ニ位シテ、居ル人アリト云フニアラズ、先ヅ喩ノ意ヲ得テ後ニ、矩ノ本意ヲ知ルベシ、若シコノ喩ヲソノ儘、コノ章ノ君子ニ當テ心得タラバ、コノ章ハ、平天下ノ條

目ニテ、天下ノ位ナリ、天子ニハ下ハアレドモ上ナク、又前後左右ノ同輩モナケレバ、上下四方ト云フベキヤウナシ、コノ節ハ、矩ノ模様ヲ形容シテ説キタルト心得ベシ●上ノ節トコノ節トノ本意ハ、化ト處ト云フ、化ト云フハ、齊家治國ノ章ニ云フ如ク、上タル人、ソノ身修マレバ、民ヲモ能ク教ヘ導ク、民モソノ教ニハ感ジ易クシテ、民ノ徳モ明カニナルヲ化ト云フ、處トハ、民ガ善心ヲ興起シタリトモ、上タル人ノ心不仁シテ、政煩シク賦重ク、父子兄弟妻子ヲ養フベキ様モナケレバ、孝弟慈等ノ心アリトハイヘドモ、産業ヲ失ヒ、困窮スレバ、ソノ善心モ廢レテ遂ゲザルモノナリ、故ニ上タル人、矩ノ道ヲ行ヒテ、政ヲ平ニシテ、民ノ安樂ナル様ニスレバ、民ノ徳、彌ヨ明カニナルヲ新民ト云フ、八條目ノ平天下ハ、新民ノ極ニシテ、至善ナリ、故ニコノ章ニ化ト處ト云フトイヘドモ、化ノ心ハ、齊家治國ノ意ニ承ケテ云ヒテ、コノ章ニハ處ノ意ヲ干要ニ云フ、然レバ、新民ハ化ト處トノ二ツ具ハラネバ成ラザルナリ、傳ノ一章ニ作^ス新^ニ民^トト云フハ、コノ意ナリ●按ズルニ、矩ノ道ト云フハ忠恕ノ別名ナリ、忠恕ヲ以テ、一貫ノ道ヲ孔子ヨリ曾子ノ傳ヘラル、大學ヲ讀ンデ、ソノ旨ヲ知ルベシ、大學一部ハ、忠恕ノ理ナリ、格物致知、誠意正心修身ハ忠ノ理ナリ、齊家治國平天下ハ恕ノ理ナリ、矩ヲ行フ人ハ、理明カニ、心正シク、身修マリテこそ、ソノ心ガ矩ニナリテ、違フマジ、理未ダ明カナラザレバ、天下ノ人ノ志ニ通ズルコトヲ知ラズシテ、惡ヲモ善ト、善ヲモ惡ト心得ベシ、然レバ、ソノ心ハ公ナリトモ、ソノ事ニナリテハ違フベシ、又心未ダ正シカラズ、身未ダ修マラザルハソノ理ヲ知ト云ヘドモ、心ニ私ガアツテ、ソレニ引カレテ加減ガ有ル程ニ、ココカシコヘツカヘテ又違フ、理未ダ明カナラズ、心未ダ正シカラザル人ハ、我が好ムトコロモ好ムベキ物ニアラズ、又我が惡ムトコロモ惡ムベキ物ニ非ザル程ニ、人ヲ用フルニ附ケ財ヲ理ムルニ附ク萬ノ事ガ違ヒテ、却ツテ民ノ煩トナル、此等ハ我が心ヲ矩トシテ、行フト思ヘドモ、世俗ニ云フ杓子定規ニテ、君子矩ノ道ト云フベカラズ、故ニ程子曰ク無^レ忠^レ恕^レ不^レ出^トトハ、コノ意ナリ●コノ節ニ惡ムトコロヲ云ヒテ、好ムトコロヲ云ハザルハ、矩二字ニ於テ親功ナル義アリ、矩ハ不平ヲ平ニ

スル物ナレバナリ、切磋琢磨ヲ以テ、先ヅソノ疵ヲ治ム、然レドモ、惡ムトコロヲ云フ中ニ好ムトコロヲ籠メタリ、故ニコレヨリ、下文ニハ、詩ヲ引イテ好惡ヲ云フ、大學一篇ノ中ヲ考フルニ、惡臭ト云フ、ソノ惡ト云ヒテ、皆惡ヲ先ニ云フハ、コノ意ナラン●愚按、中庸所求乎子以事父、未能、亦是絜矩之意也、但中庸是言其所好、此言其所惡也●燃犀解云、絜矩之義何如、天下之不平、自好惡始、好惡之不平、又自惡始、且不言所好、直言所惡●又云、好者積順、惡者積逆、順則安受而相忘、逆則不堪而易覺、故解絜矩獨就所惡處說●徐巖泉曰、所惡於上一節萬物一本也、

【惡】ハ、上ニ記ス【先】ハ、線韻ニ用フルコトヲ示ス、

【章句】此覆解上文絜矩二字之義、

朱子曰、將那頭折轉來、比這頭、又曰、三摺說、又曰、上下前後左右做九箇人看、又曰、自家在中央上面也、占許多地步、下面也占許多地步、便均平方正トアリ、コレ皆覆解ノ義ナリ【覆】ハ、カサネテト訓ズルハ非ナリ、反覆ノ義ニテ、喻ヘバ、一尺ノ曲尺ヲ正中ニ置イテ、上ヘ反覆シテ見レバ、上ニ一尺ノ地アリ、又正中ヨリ下ヘ反覆シテ見レバ、下ニ一尺ノ地アリ、前後左右ヘモ正中ヨリ反覆シテ見レバ、各一尺ノ地アリ、カクノ如ク一尺ノ曲尺ヲ上下四方ヘ振り替ヘ振り替ヘ、當テテ見レバ、四尺四方ノ物ナリ、上ノ節ニハ、絜矩ノ名號ヲ擧ゲテ、ソノ意ヲ云フ、コノ節ニハ、絜矩ノ體ヲ逐一ニ解スルナリ、上ト云ヒ下ト云ヒ、前ト云ヒ後ト云ヒ、右ト云ヒ左ト云ヒ、コレ覆解ナリ、或問ニ經文ノ中ニ八條目ヲ下ヨリ上ヘ說キ、又上ヨリ下ヘ說キタルヲ覆說ト云フ、覆ノ字ノ義同ジ【解】ノ字ハ、傳者ニ系ケテ見ルベシ、絜矩ノ形ハ喻ナリ、故ニ二字ノ義ト云フ、絜矩ノ意ハ上ノ人孝弟慈ヲ行ハ、下ノ人ニモ分々ニ應ジテ、ソノ願ヲ遂ゲシムルト云フノミナリ●如不欲上之無禮於我、則必以此度下之心、而亦

不致以此此無禮使也、不致欲下之不忠於我、則必以此度上之心、而亦不致以此此不忠事也、至於前後左右、無不皆然●或問云、一有私意、存乎其間、則一膜之外、便爲胡越、雖欲絜矩、亦將有所隔礙、而不能通矣、若下趨由之爲守、則易尉、而爲尉則陵、守、王肅之方、於事上而好人、倭己、推其所由、蓋出於此、而充其類、則雖桀紂盜跖之所爲、亦將何所不至哉●語類問、前後左右何指、曰、譬如交代官相似、前官之待我者既不善、吾母以下前官所以待我者、待後官也、左右如東隣西鄰、以鄰國爲壑、是所惡於左、而以交於右也、則身之所處、上下四旁長短廣狹、彼此如一、而無不方矣、

コレマデハ、絜矩ノ形ノ喻ニ就イテ、我が身ヲ上下四方ノ中央ニ置イテ云ヒタル文ナリ、平天下ノ意ハ、コレヨリ下ノ文ニ云フ●按ズルニ【長短廣狹】ハ、内ニテ、逐一ニ見タル體ナリ、又云フ、曲尺ヲ上下四旁ヘウチカヘシウチカヘシ使フテ見タル體ナリ●蔡清云、自古聖賢折理、未有如下如朱子之蠶絲牛毛者、且如長短廣狹彼此如一、此數字下得自不苟、蓋廣狹如一、而長短不如此、一非方、長短如一、而廣狹不如此、一亦非方也、其意義固周匝也、若周程張邵諸先生之解、經、則或未得如此之縝密●蠶絲牛毛トハ、明ノ吳草廬ガ朱子ノ像ノ贊ニ書キタリ、ソノ理ヲ解ク事ノ微細ナルヲ美メテ云フ、

彼同有此心、而興起焉者、又豈有二夫之不獲哉、

天下國家ヲ治ムル人ノ心ヲ用ヒ、事ヲ制スルニ、絜矩ノ心ヨリ出デテハ興起スル者モ、只ダ興起スルノミニ非ズ、ソノ興起ノ心ヲ人々遂グベシトナリ、コノ註ノ【又】ト云フ字、上節ノ註ニ一夫之不獲ニ對シテ見ルベシ、絜矩ノ心ヨリ政出テバ、一人ノ心トナリテ、國家天下、豈ニ治マラザランヤ、

所操者約而所及者廣、此平天下之要道也、

【所操……】トハ、矩ノ字ノ註ナリ、吾ガ一心ノ法度ニテ、方寸ノ地ヲ出デザレバ、執リ守ルトコロハ約ニ少シキナリ【所

及……トハ、絜ノ字ノ註ナリ、我ガ心ヲ以テ、人ヲ絜ル時ハ、何處マデモ及バズト云フコトナク廣キナリ、按ズルニ矩ハ體、絜ハ用ナリ、番匠ノ曲尺ヲ以テ如何ナル大厦高堂ヲモ積リ、數萬間ノ家ヲモ造ルガ如シ、故章内之意、皆自レ此推レ之、

治國平天下ノ事業多シトイヘドモ、絜矩ヲ以テ、好惡ヲ平カニスルノ一理ニテ決ス、人ヲ用ヒ財ヲ理ムモ、皆コノ理ヲ以テ推スノミ、語類、問章中所謂絜矩之道、是使レ之各得レ盡レ其心ニ而無レ不平也、如何、曰、此是推ニ本上老レ而民興レ孝、上長レ而民興レ弟、上恤レ孤而民不レ倍、須是留レ他地位上使レ人各得レ盡レ其孝弟不倍之心、如八十者其家不レ從レ政、廢疾非人不レ養者、一子不レ從レ政、是使レ其各得レ自盡也、又如生聚蕃息無レ令ニ父子兄弟離散之類、語類、陶安國問、絜矩之道、是廣レ其仁之用、否、曰、此乃求レ仁工夫、此處正要レ看レ力、若仁者、則是舉而措レ之、不レ待ニ絜矩ニ而自無レ不平者矣、銖曰、仁者則己欲レ立而立人、己欲レ達而達人、不レ待レ推矣、如絜矩、正恕者之事也、先生領レ之、按ズルニ大學ニ以三恕者之事ト云フハ學問シテ至ルトコロガ大學ナリ、恕者トイヘドモ、ソノ功ノ至ルニ及ビテハ、仁者ト一ナリ、コレ至善ノ極ニ至ルトコロナリ、慮而後得ト云フ者ナリ、

詩云。樂只君子。民之父母。民之所好好之。民之所惡惡之。此之謂民之父母。樂音洛、只音紙、好惡竝去聲、

竝去聲、

詩に云ふ、樂しいかな君子、民の父母なりと、民の好むところを好み、民の惡むところを惡む、これ之を民の父母といふ、

コノ一節ハ、詩ヲ引イテ之ヲ釋シテ、能ク絜矩スル者ノ福ヲ語ツテ人ノ勸トス、詩ニ民之父母トハ、如何トナレバ、上ノ節ニ云フ如ク、君子ニ絜矩ノ道アリ、故ニ己ガ好惡ノ心ヲ以テ民ノ好惡ノ心ヲ知ル理明カナレバナリ、又能ク民

ノ好惡ノ心ヲ以テ、己ガ好惡ノ心トス、意誠ニ心正シケレバナリ、然ルニ、民ノ好ムコトヲ好シテ之ヲ與ヘ之ヲ聚メ、民ノ惡ムコトヲ惡シテ施サザル時ハ、上ノ下ヲ愛スルコト、誠ニ父母ノ其子ヲ愛スルガ如シ、カクノ如クナル時ハ、彼ノ民ノソノ上ヲ親ムコト、又子ノソノ父母ヲ愛スル如シ、コレ理ノ必然ナルモノナリ、父母ト云フカラハ、子ノ親ムハ言ハズシテ知ルベシ、上下相親ムニ依ツテコソ、詩ノ詞ニモ、樂只トハ云ヘルナルベシ、我ハ父母ト思ヒテモ、民ガ思ハズンバ、父母トハ云ハレマジ、人ノ父母ノ子ヲ愛スルハ、氣同ジケレバナリ、人君ノ民ヲ愛セザレバ、氣異ナレバナリ、然ルニ能ク絜矩スルニ依ツテ、民ノ父母トナレバ、コノ節ノ好惡ノ字、萬事ニ廣ク繫レリ、按ズルニ、前ノ兩節ニハ、絜矩ノ形バカリヲ説イテ、政ヲ云ハズ、コノ節ニ至ツテ、詩ヲ引イテ好惡ヲ民ト同ジウスルノ義ヲ明白ニ説ク、前ノ兩章ニ道ノ字ニツアリ、後ノ道ノ字ノ中ニハ、政ヲ含マセタリ、小雅、南山有臺篇第三章曰、南山有レ杞、北山有レ李、樂只君子、民之父母、樂只君子、德音不レ已、詩傳曰、君子指レ賓客也、此亦燕饗通用之樂、然犀解云、此節根ニ絜矩ニ來、勿レ施レ所レ惡、則好在レ其中、故此條以レ好惡承【樂】ハ、是德可レ嘉樂、君子指レ在位者、明【父母】字最重、不可レ謂ニ民愛レ之如ニ父母、乃父母斯民之道也、著上之人ニ言脈、蒙引云、如各得レ遂ニ其孝弟慈之願者、民心所レ好也、君子則平レ其政ニ以處レ之、使レ得レ遂ニ其孝弟慈之願焉、是好レ民之所レ好也、不レ得レ遂ニ其孝弟慈之願者、民心之所レ惡也、君子則早爲レ之所、凡不レ便ニ於民者、悉觸レ除レ之、使レ不レ至於不レ得レ遂ニ其孝弟慈之願焉、是惡レ民之所レ惡也、

樂音洛、只音紙、好惡竝去聲、下竝同、

【樂音……】トハ、上ニ解ス【只音……】トハ、上聲紙韻ニ用フルコトヲ示ス【好惡……】トハ、上ニ記シ【下竝……】ハ、已下同ジトナリ、

【章句】詩小雅南山有臺之篇、只語助辭、言能絜矩而以民之心爲己心、則是愛レ民如レ子、而民愛レ之如ニ父母ニ矣、

【詩小……】トハ、詩經集傳卷四、小雅ノ部、南山有臺ノ篇【只語……】トハ、語ノ助ケ續リ合ノ辭ニシテ、タバト訓ズル

ニハアラズトナリ【言能……】トハ、上君子、能ク繁短ノ道ヲ行フテ、民ノ心ニ好シ惡ムトコロモ、我が心ノ如クニ思フテ、民ヲ愛スルコト子ノ如クニスル時ハ、下民モ亦タ上君子ヲ愛スルコト父母ノ如クノ思ヲナストナリ【民愛之如父……】ト云フ句ハ、朱子自ラ添ヘ足シタルニモアラズ、本文ヨリ呼ビ出シテ下文ノ得^ル衆則得^ル國ト云フノ意ニ相應セシメタリ、

詩云。節彼南山。維石巖巖。赫赫師尹。民具爾瞻。有國者不可以不慎。辟則爲天下

僂矣。

節讀爲^レ截、辟讀爲^レ僻、僂與^レ戮同、

訓讀 詩に云ふ、節たる彼の南山、これ石巖巖たり、赫赫たる師尹、民ともしかく瞻ると、國を有つものは以て慎まざるべからず、辟めるときは天下の僂となる、

コノ一節ハ、詩ヲ引イテ繁短セザル者ノ禍ヲ語ツテ人ノ戒トス、上節ノ反ナリ、コノ詩ハ、幽王ノ時ノ事ナリト、小序ニアレドモ、證據ナシ、又コノ詩ハ、家父ト云フ人ノ作ナレドモ、幽王ヨリ遙後ノ桓王ノ代ニ家父ト云フ人アルコト春秋ニ出デタレバ、ソノ時ノ家父ナラシカ、又幽王ノ時ニ家父ト云フ人別ニアルヤラン、知レズト、朱子ノ集傳ニ見エタリ、コノ詩ハ、本篇十章アリテ長シ、コ、ニ引キタルハ、本篇ノ首ノ八句アルヲ、四句截ツテ用ヒタリ、周ノ三公ノ一人ニ民ヲ尹ト云フ者が、天下ノ政ヲ執リ行ヒシガ、惡人ニテ我が儘ナル政ヲスル故ニ、民ガ刺レバ、曲事ニ逢ヒスル程ニ、ソノ暴虐ヲ畏レテ、民、胸ヲ焦セドモ、刺ル事ハ申スニ及バズ、戲談スル事モナラズ、然レドモ、コノ體ニテハ、國モ既ニ滅ビントスルヲ憂ヒテ、家父ガコノ詩ヲ作りテ、我ガ名ヲ詩中ニ著ハシテ、王ノ尹氏ヲ用ヒラル、ヲ刺レリ、家父モ、ソノ時ノ卿ニテ歷々ノ人ト見エタリ、又尹氏ハ宣王ノ時ノ賢臣ニ尹吉甫ト云フ人アリ、ソノ子孫ナリト云ヘリ、サテコ、ニ引ク詩ノ意ハ、彼ノ向フニ見エタル終南山ハ高大ニシテ、截リ立テタルガ如シ、如何トナ

レバ、石ガ多ク積ニ重ナル故ナリ、コノ山ハ、都ノ南ニ當リテアレバ、衆人ノ望ミ見ルトコロナリ、今コノ尹氏モ太師ノ位トナリテ、天下ノ政ヲ執リ行ヘバ、赫赫ト顯ハレ盛ニシテ、諸人カクノ如ク瞻仰グナリ、然ルニ、ソノ政平ナラズ、均シカラザルハ何ゾヤ【有國者】ト云フヨリ下ハ、傳者ノ辭ナリ、コレハ必ズ尹氏ノミヲ指シテ云フニモアラズ、彼ノ太師ノ官尹氏ハ、人臣ニシテタモ、天下ノ仰ギ望ムコトノ係ルコト、カクノ如シ、然ルニ、況ンヤ、國ヲ有ツテ、衆人ノ上ニ立ツ者ハ、位益ス高ケレバ、責益ス重キ程ニ、慎ムベキ事ナリ、慎トハ別ノ事ナシ、只ダ繁短ノ道ヲ能ク行フヲ云フ、然ルニ、己ガ好ムトコロアレバ、諸人ノ惡ムヲ顧ミズ、又己ガ惡ムトコロアレバ、諸人ノ好ムヲ顧ミズシテ、己ヲ恣ニシ、私ニ徇ツテ、天下ノ人ト好惡ヲ同ジウセズ、コノ心ヲ尋ヌルニ、己アルコトヲ知ツテ、人アルコトヲ知ラズ、勢アルコトヲ知ツテ、理アルコトヲ知ラザルガ故ナリ、コレ皆偏僻トテ、一向ニ私ナル事ナリ、カクノ如クナル者ハ、天下ガ背ク程ニ、終ニハ桀紂ガ如ク、幽王厲王ノ如ク、天下ノ人ニ見離サレテ、民ノ父母ト云ハレテ、親シマルベキニ、獨夫ト成ツテ、他人ハ申スニ及バズ、親戚マデモ心ガ離ル、程ニ、上句ニハ、天下ノ兵ガ動イテ、コノ獨夫ヲバ誅戮ス、然レバ、上ノ節ニ云フ樂只君子民之父母トアルニハ、雲泥萬里ノ差ナリ、天下ノ戮ト云フガ、上節ニ反シテ面白シ【爾瞻】ノ二字、ナンヂヲミルト調ズルハ不可ナリ、上句ノ師尹ト云フニモ重複ス、又古人ノ文ト云ヒナガラ、字法モ、ナンヂヲミルト直ニハ讀ミ難シ【爾】ヲバ、カクノ如トモ、シカクトモ讀ムベシ、爾トハ上句ノ南山ヲ一概ニ指スベカラズ、アノ如クコノ如クナドト云フ意ニテ、今日見ル如ク、人ノ崇敬シテ威勢アルヲ云フ●詩ノ本篇十章ヲ吟誦セバ、皆尹氏ガ政ノ平ナラズ均シカラザルヲ刺レリ、即チ師尹不^レ平ト云フ句モアリ、然ルニ、コノ詩ヲ繁短セザル者ニ用ヒタルハ、別シテ面白シ、繁短ハ平均ナル道ナリ、コ、ニテ天下モ平均ニナルナリ●按ズルニ、今ココニ引キタル詩ノ句ニ、本篇ノ意ヲ兼ネテ見ルベシ、他ノ詩ヲ引キタル例トハ別ナリ●詩註云、節高峻貌、巖巖積石、赫赫顯盛貌●輔慶源云、以^レ南山積石之高峻、與^レ師尹位望之尊崇、以^レ見^レ望既重則責亦深【南山】大明

一統志卷二十七云、終南山在_今西安府_也。●蒙引云、此詩家父所作刺_王用_尹氏_{以致}亂也、尹氏爲_{太師}、蓋吉甫之後、春秋書_尹氏卒_也、世卿也、民所瞻仰、或曰、望_其能推_己以及_人也、

留讀 節讀爲_截、辟讀爲_僻、僂與_戮同、

【節讀……】同音ナル故ニ、截ノ字ノ義ニ用フルトナリ【辟讀……】上ノ義ト同ジ【僂與戮……】トハ、字ハ別ナレドモ義ハ同ジトナリ、

【章句】詩小雅節南山之篇、節截然高大貌、

【詩小……】トハ、詩經集傳卷五、小雅ノ部、節南山ノ篇【節截……】トハ、截ハキルト訓ズ、截レ鋒エテ屏風ヲ建テタルガ如ク、ケハシク高大ナルヲ云フ、

師尹周太師尹氏也、

【太師】ハ、官ノ名、三公ノ一ツナリ、周ノ太師ハ、本朝ノ太政大臣ニ相當ス●事文類聚新集卷一云、太傅太保太師爲_一公ト【尹氏……】ハ、朱子集傳ニモ蓋シ尹吉甫ガ後ナラント云ヘリ、

具俱也、辟偏也、

【具俱……】トハ、トモニト訓ジサセン爲ナリ【辟偏……】トハ、偏僻ト熟シテ、倚リ僻ムノ義ナリ、言_在位_者、人_所瞻_仰不_可不_謹、若_不能_絜矩_而好_惡徇_於一_己之_偏、則_身弑_國亡_爲天下_之大_戮矣、

【言在……】トハ、本文ノ意ハ、上高キ位ニ在ル人ハ、諸人常ニ彼ノ終南山ノ如ク、瞻仰クコトナレバ、苟且ニモ謹マズシテ叶ハザルコトナリ、若シ絜矩スルコト成ラズシテ、本心正カラズ、好ムモ、惡ムモ、公ナラズ、一分自己ノ偏僻ニ徇ツテ、恣マ、ニスレバ、下ナル萬民ヨリ、怨ミ惡ミヲ受ケテ、ソノ身モ弑セラレ、ソノ國モ、亡ボサレ失セテ天下ノ大僂トナルトナリ【不可不謹】按_朱子_以謹_字換_慎字_蓋避_宋孝_宗廟_諱也、以下_做之【一己之偏】トハ、本心正

シカラズ、好ムモ、惡ムモ、公ナラズ、吾ガ私欲ヲ全ク立テ、己アルコトヲ知ツテ、人アルコトヲ知ラズ、聖人ノ法ニモ拘ラズ、我が儘ナル程ニ、下民ノ惡ミヲ受ケテ弑サレ亡ブルナリ●今按ズルニ【身弑國亡爲天下之大戮矣】コノ註ニ泥ンデカ、蔡虛齋ハ、莊子ヤ史記單ガ傳ナドヲ引イテ、戮ノ字ノ義ヲ辱ト見タレドモ、ソレハ不可ナリ、辱トバカリ云ヘバ、意モ輕シ、身弑國亡ノ句ハ、本文ノ戮ノ字ヲ解セリ、又一天下ノ者ガ見離シテ、誅スル程ニ、大戮ト大ノ字ヲ添ヘテ註シ玉ヘリ【身弑……】左傳宣公十二年、身弑國亡、爲天下之大戮矣●荀子卷三、非相篇_身死_國亡_爲天下_之大_戮●孟子離婁上篇云、暴_其民_甚則_身弑_國亡●正韻、戮_刑也、殺也、病也、辱也、亦作_僂或_鈔ニ云ク辱ノ義ニモ用フベキ歟、但シ大ノ字ヲ添フルコト、朱子筆ノ妙ナルベシ、ソノ心ハ、一天下コレヲ惡ンデ、寄り合セテ弑スル程ニ、サシモノ宗周モ滅ビタリ、コレ天下ノ大僂ナリト云フ愚意ニ叶ハズ【大戮】國語卷十三晉語_云、無_乃不_堪君_訓而_陷大_戮、以_煩刑_吏、

よおふ

卷之四終

重改大學章句俚諺鈔卷之五

詩云。殷之未喪^{ウシナハモロモロ}師。克配^{ヨロシク}上帝^{カンガミル}。儀監^{イフハ}于殷。峻命不易。道得^{イフハ}衆則得國。失^{イフハ}衆則失國。
喪去聲、儀詩作^レ宜、峻詩作^レ駿易去聲、

訓讀 詩に云ふ、殷の未だ師を喪はざる、克く上帝に配す、よろしく殷に監みるべし、峻命易からずと、道は衆を得れば國を得、衆を失へば國を失ふ、

コノ一節ハ、文王ノ詩ヲ引イテ、ソノ詩意ヲ釋シテ、サテ押シクルメテ、上文ノ南山有臺ヲ引キタル一節ト、節南山ヲ引キタル一節トヲ總ベテ結シタリ、妙ナル結文ニテ、ソノ味深シ、熟玩スベシ、先ヅ南山有臺ヲ引キタル一節ニハ、契矩ヲ能クスル者ノ福ヲ云ヒ、節南山ヲ引キタル一節ニハ、契矩セザル者ノ禍ヲ云フ、ソノ禍トソノ福トハ國ヲ得ルト國ヲ失フトニアリ、國ヲ得ルコトハ衆ヲ得レバナリ、國ヲ失フコトハ衆ヲ失ヘバナリ、衆ヲ得ルト衆ヲ失フトハ、契矩スルト契矩セザルトニアリ、契矩スル人ハ、一人ノ心ガ千萬人ノ心ナル故ニ、衆ヲ得ルト云フ、又契矩セザル人ハ、一人ノ心ガ千萬人ノ心合ハザル程ニ衆ヲ失フト云フ、故ニ南山有臺ノ節ハ、衆ヲ得テ國ヲ得ルモノナリ、節南山ノ節ハ、衆ヲ失フテ國ヲ失フモノナリ、コレ上文兩節ノ意ヲ結スルト云フ、凡ソ結文ハ詳ニ云ヒタルコトヲ約テ以テ契ルヲ結スルト云フ、兩節ヲコノ文ニテ結スルナリ、又上ノ兩節ニハ、得失ノ理ヲ各々ニ云ヒタルヲ、コノ節ニハ、文王ノ詩ヲ引イテ、殷ノ一代ノ内ニ得失ノアル實事ヲ云ヒテ、上ノ兩節ノ理ノ證據ニシタリ、コレモ亦タ結文ノ意ナリ、サ

テコノ節ニ引ク詩ノ意ハ、殷ノ先王達ノ聖賢ノ君六七代モ相繼イデ作り玉ヒテ、衆ノ心ヲ得テ、衆ガ歸服シタリシ時ハ、克ク天下ノ君トナリ玉ヒテ、目出度カリシガ、紂不徳ニシテ、既ニ衆ノ心ヲ失ヒタレバ、天下叛イテ、ソノ位ヲ有ツコトモナラザリシナリ【未喪】ト云フ中ニ、紂ガ失ヒタル意ハ、明白ニ見エタリ、殷一代ノ内ニテ、カクノ如クニソノ證據見エタリ、コノ詩ハ、殷亡ビテ後ニ、周公且ノ成王ヲ戒メテ作り玉フ詩ナリ、サテ下ノ二句ノ意ハ、殷ノ世ノミニモアラズ、今周ノ代トテモ、カクノ如クナルベシ、即チ殷ヲ監ニスベシ、國家ヲ有ツノ大命ハ、一旦我ニ歸シタリトモ、イツマデモ、カクノ如クナルベシトモ思ハレズ、衆ヲ得タラバ、國家ノ大命モ我ニアルベシ、若シ衆ヲ失フタラバ、國家ノ大命モ又何方ヘ歸スベキヤラン知レズトナリ、コレ又衆ヲ得ルトキハ國ヲ得、衆ヲ失フトキハ國ヲ失フナリ、道ト云フヨリ以下ハ、コノ詩ノ意ヲ發明シテ、上文兩節ヲ結シ玉ヘリ○大雅文王篇第六章曰、無念爾祖、幸修厥德、永言配命、自求多福、殷之未喪師、克配上帝、宜鑒於殷、峻命不易○蒙引云、此詩周公戒成王而作、其曰、克配上帝、元只主徳言、大學則主位言矣、然意亦相通○又云、只看「未字」、則今日之已喪師可見矣、

【喪去……】トハ、漢韻ニ用フルコトヲ示ス【儀詩……】詩經ニハ、宜ノ字ニ作りテアリ【峻詩……】詩經ニハ峻ノ字ニ作りテアリ【易去……】トハ、真韻ニ用フルコトヲ示ス、

【章句詩文王篇、師衆也、

【詩文……】トハ、詩經集傳卷六、大雅ノ部、文王ノ篇【師】ハ、天下ノ人民ヲ指ス、配對也、

對坐シテ竝ブノ義ナリ、

配上帝、言其爲天下君、而對乎上帝也、

詩ニ克配上帝トハ、徳ヲ主トシテ云フ、コレニ引ク時ハ、位ヲ主トシテ國ヲ得ルト云フニ當タリ、然レドモ、意ハ相通ズ【配上帝】トハ、天下ノ君トナリテ、天ニ繼イデ極ヲ立テ、衆民ノ上ニ居ル程ニ、天帝ニ對シテ竝ンデ居ルト云フ、鑒視也、峻大也、不易言難保也、

【鑒視……】トハ、ミルト訓ジサセン爲ナリ【峻大……】トハ、四海ノ廣キ、兆民ノ群レルヲ天ヨリ命セラレテ、天子トナルハ峻命ナリ、廣大ノ命ヲ受クルノ義ニシテ、天命ヲ峻命ト云フナリ【不易】トハ、天命ハ何迄モ保ツコトハ成リ難シトナリ、暫時ニテモ、間斷アレバ、ソノ儘、諸人ノ怨ミ惡ミヲ受ケテ紂ノ如クニナルトナリ、

【道言……】トハ、道ノ字ヲ言ノ字ノ意ニ見サセン爲ナリ、コレヨリ前ニ、詩ヲ引イテ、ソノ意ヲ釋スルニ、カクノ如クニ、道ノ字ヲ下スコトハナシ、然ルニ、コノ節ニ始メテ、道字ノ出デタルハ何ゾヤ、ソノ引クトコロノ詩ノミヲ釋スルニハ、道ト云フニ及バズ、コノ詩ハ、上文兩節、共ニ總ベテ釋シタルニ依ツテ、例ヲ變ジテ、道ト云フカト見エタリ、コレヨリ下ノ文ニ、康誥ヲ引イテ、釋スルニ道善則得之不善則失之矣トアルモ、コノ例ナリ、蒙引ニ、道ハ釋文ノ辭ニテ、コノ詩ノ本義ノミヲ釋シタリトアルハ、章句ノ意ニモ違フベキカ、コレハ愚見ナレバ、記シ置イテ、後賢ノ是正ヲ待ツノミ【引詩而……】トハ、得衆則得國失衆則失國ノ二句ヲ指ス【以上文兩……】トハ、樂只君子ノ節ト、節彼南山ノ節トナリ、契矩ヲ行ヘバ、衆ヲ得テ民ノ父母トナリ、契矩ヲ行ハザレバ、衆ヲ失フテ天下ノ僂ト爲ルト云フ、上ノ文ヲ結ビ斷レリトナリ、

有天下者、能存此心而不失、則所以契矩而與民同欲者、自不能已矣、

【有天下……】トハ、天下ヲ有ツテ治ムル者、コノ本心ヲ常住中ニ存在シテ、暫時モ間斷ナク、失ハザレバ、契矩ノ道ヲ行フテ、民ト欲ヲ同ジウスルトコロ、自然ニ何所マデモ己メテ己メテラレザル様ニナルトナリ【同欲】トハ、民ノ好ム

トコロヲ好ミ、民ノ惡ムトコロヲ惡ム等ノ事ヲ云フト、世上皆カクノ如ク辨ズ、然レドモ、コノ註ハ、朱子心ヲ以テシ玉フナルベシ、國ノ得失ハ、衆ノ得失ニ決ス、衆ハ衆ノ心ナリ、孟子曰、得_レ其民_レ有道_レ、得_レ其心_レ斯得_レ民矣ト云ヘルモコレナリ、衆ノ心ヲ得ルト衆ノ心ヲ失フトハ、人君ノ心ニアリ、正心修身ノ章ニ云フ如ク、偏僻ニ陥ルトキハ、ソノ一途ニノミ心ガ奪ハレテ、得失ノ幾ヲモ察セズ、存亡ノ著ヲモ辨マヘザル様ニナルナリ、コレ即チ放心ト云フモノナリ、イカナル惡人モ、暫ク本心ヘ立チ返リ見レバ、少シハ悟ルモノナリ、存心ト云フハ敬ナリ、敬スレバ德ガ聚マル故ニ、上節ニモ有_レ國者不_レ可_レ不_レ慎ト、慎マザルハ僻ナル意ヲ云フ、又コノ下文ニモ、是故君子先慎乎德トアレバ、コノ註ハ、結前生後ノ文ニテ、サテコノ本文ノ得_レ衆失_レ衆ノ二句ノ意ヲ推シ本ヅケテ云ヘリ、本來ノ人ノ心ト云フモノハ、一人ノ心ガ千萬人ノ心ナレバ、我が好ムコトハ人モ好ミ、我が惡ムコトハ人モ惡ムガ故ニ、一人ノ心ヲ以テ、千萬人ノ心ヲ推ス時ハ、誠ニ一人ノ心ハ千萬人ノ心ニテ違セズト云フコトナシ、一ツモ私意アリテ、ソノ間ニ存スル時ハ、己アルヲ知ツテ、人アルコトヲ知ラザル程ニ、身勝ニノミナリテ、一膜ノ外ハ、胡越程ノ隔テガ出來テ、ソノ上ニハ絜矩セント欲ストモ、彼方此方ヘ障リテ通ゼザルモノナリ、若シ偏僻ノ心ノミニテ絜矩ナキ人ハ、桀紂盜跖同前ニナルニモ間ナシ、故ニ國家ヲ有ツ人ハ、能ク毎事ニ慎ンデ、先ヅ我が本心ヲ存シテ失ハザル様ニスレバ、得失ノ幾モ察シ易シ、コノ註ノ【不失】ト云フ字ハ、本文ノ得失ニ當ル意アリ、衆ヲ失フハ我が心ヲ失フノ理ナリ、又衆ヲ失ハザレバ、我が心ヲ失ハザルノ理ナリ、我が本心存スル時ハ、明德ノ全體ヨリ惻隱羞惡等ノ四端ノ光ガ輝キ出ヅル程ニ絜矩シテ、民ト好惡ヲ同ジウスル心、自然ト己ムコト能ハザルナリ、ソノ心ノ體ガ立ツ時ハ、ソノ心ノ用モ自然ニ行ハレ易シ、周易ニ敬以直_レ内_レトハ、存心ナリ、義以方_レ外_レトハ、コノ段ニ云ヘル絜矩ナリ、欲ヲ同ジウストハ好惡ノ情ノ同ジキヲ云フ、去リ乍ラコノ下文ニ財用ノ事ヲ云フニ依ツテ、コレモ又下ノ文ヲ引起シタル文ナリ、末書トモニ、コノ註ヲ彙相ニ思ヒテ、文義ニ誤アル故ニ、今之ヲ詳ニス●漢晁錯所謂、人情莫_レ不_レ欲_レ壽_レ、三王生_レ之而不_レ傷_レ、人情莫_レ不_レ欲_レ富_レ、三王厚_レ之而不_レ困_レ、人情莫_レ不_レ欲_レ安_レ、三王扶_レ之而不_レ危_レ、人情莫_レ不_レ欲_レ逸_レ、三王節_レ其力_レ而不_レ盡_レト云フ語モ欲ヲ同ジウスルノ心ニ能ク合ヘリ、

是故君子先慎乎德。有德此有人。有人此有土。有土此有財。有財此有用。

訓讀 この故に君子は先づ徳を慎む、徳あれば、こゝに人あり、人あれば、こゝに土あり、土あれば、こゝに財あり、財あれば、こゝに用あり、

コノ節ヨリ、舅犯曰ト云フマデハ、國家天下ヲ治ムル人、金銀米錢ノ財ヲ聚メテ人心ヲ失フベカラズト云フコトヲ詳カニ述べ玉ヘリ、財ハ民ノ心トスル物ナレバ、君子ハ民ト好惡ヲ同ジウスベシ、民ト好惡ヲ同ジウスレバ、民ヲ養フモ財ニアリ、又己ガ欲ヲ恣ニスレバ、民ヲ殘フモ財ニアリ、然レバ財ハコレ絜矩ノ道ノ第一ナリ、故ニコレヨリ末ニハ、只管財ノ事ヲ説ケリ、サテコノ本文ハ、上文ニ有_レ國者不_レ可_レ不_レ謹ト云ヘリ、コレニハ、謹ンデ先ニスベキモノハ德ニアルコトヲ云フ、徳ハ明德ナリ【謹】トハ、格物致知誠意正心シテ、ソノ身ヲ修ムルコトナリ、明德ハ平天下ノ大本ナレバ、上ヲ承ケ下ヲ起スノ文章ノ中ニ、絜矩ヨリ一段高ク説キ出シテ、ソノ本ヲ示シ玉フ、經文ニ明_レ明德於天下ト云ヘリ、利欲ニ蔽ハルル人ハ、財ヲ一大事ト思ヒテ、德ヲバ粗略ニ思ヒナス、ソノ心ニ思フハ財ヲ聚メネバ、府庫ガ空シクナリテ、國用ガ足ラズトノミ思フ、最モ財ハ國ニ無クテ叶ハザル物ナレバ、ソレヲ一切ニ取ルベカラズト云フニハアラズ、國家天下ヲ治ムルニ、先後本末アリ、徳ハ治道ノ本ナレバ、先ニスベシ、徳アレバ、財用ニ患ハナキモノゾト、先ノ字ヲ以テ、本末先後ヲ分ツテ、利欲ニ迷フ君子ニ聞カセタリ、コノ故ニ、君子ハ先づ徳ヲ慎ム、明德ハ人々固有ノ重キ寶ナリ、故ニ有徳ノ君ニハ、衆人ガ思ヒ附ク、衆人ガ思ヒ附ケバ、即チ衆人ノ住スル國土トナレバ、國土モ我が物ニ自ラ成ルナリ、例セバ、殷ノ湯王、周ノ武王ノ如キヲ覽テ知ルベシ、又素ヨリ國家天下ヲ有テ來レル人モ、永クソレヲ保ツテ、子孫永々マデ傳フルモ土アルノ謂ナリ、土地ガ我が物ナレバ、ソノ土ヨリ生ズルトコロノ財寶ハ、餘

所ノ物ニハナラズ、四ツノ此ノ字ハ、コ、ニト訓ズベシ、斯ノ字ノ意ニテ、即チト云フ義、他ニ求ムルコトヲ待タズシテ附イテ廻ハルト云フ意ナリ、カクノ如クナレバ、國用ニ乏シキ事ハナシ、財ト用トチニツニ見ルニハ、用ハ器ヲ指シテ云フトアレドモ、ソノ説ハ不可ナリ、中庸蒙引ニ、蔡虛齋、能ク辨ジタリ、財用ハ二ツニアラズ、何様ノ物ニモ財ニハ用アリ、五穀ハ食シ、布帛ハ著ス、用ニ立タザル財ハナキモノナリ。●章圖云、財謂貨財、用謂器用。●講述云、自賦稅所入曰財、自府庫所出曰用。●蒙引云、財之與用要其分不不得、

【章句】先慎乎德、承上文不可不謹、而言德即所謂明德、有レ人謂レ得レ衆、有レ土謂レ得レ國、有レ國則不レ患レ無レ財用矣、

【德即……】トハ、大全新安陳氏曰、揭明德訓此德字、見明明德爲大學一書之綱領、此章言財用、始於此財用之有、本於慎德、而有レ之非私有一也【有人……】トハ、衆人ノ心ヲ懷ケ得テ、自然ト我ニ思ヒ附カシムルヲ云フ

【有土……】トハ、國ヲ我が物ニ有ツテ云フ、衆ヲ得レバ、自ラ國ヲ得ルノ理ナリ、大全小註ニモ應上文得衆則得國トアリ【有國……】トハ、國ダニ我が物ニ有ツ時ハ、國ニ生出スル程ノ財寶ハ、皆我が物ナリ、故ニ財寶用脚ナキ事ヲ患フルコトハ少シモナキナリ。●土ト財トハ、漸々次第アリテ至ル物ニアラザルガ故ニ、章句ニハ一括ニシ玉ヘリ、

德者本也。財者末也。

訓 德は本なり、財は末なり、

德ヲ財ノ本ト云フニハアラズ、國家天下ヲ治ムルノ本ト云フ義ナリ、又財ハ治道ノ末務ト云フ義ナリ、夫レ一ツニ德ヲ慎ンデ、人土財用相因リテ、カクノ如キノ驗ヲ致スルナレバ、德ハ衆務ノヨリテ出ヅルコトコトシテ、德ハ國ヲ治メ天下ヲ平ニスルノ本ナルコトヲ見ルベシ、當ニ重ンズベキコトニアラズヤ、財ハ有德ノ自ラ致ストコロナレバ、財ハ國ヲ治メ天下ヲ平ニスルノ末ナリ、當ニ輕ンズベキトコロナリ、コノ節ハ、上文ニ本ツイテ下節ノ意ヲ起ス、

【章句】本上文而言、

【上文】トハ、先慎乎德ト云フ文ヲ指ス。●按ニ結上文トモ云フベケレドモ、然レドモ、結ハ上ヲ括リ收ムル意ナラバ、結ト云フベケレドモ、コノ文ヲ味ウテ見レバ、文ノ勢モ義理モ上ヲ承ケナガラ、文ガ又コ、ニテ起ツテ、サテ下ノ文ヘ係リタリ、上文ニ詳ニ云ヒタルヲ約ニ云フハ、コレ結文ナリ、コノ文ノミニテハ結文トハ言フベカラズ、

外本内末。爭民施奪。

訓 本を外にし末を内にすれば、民を争はしめ奪ふことを施す、

然ルニ、人君本末ヲ知ラズ、絜矩ノ心ナクシテ、德ニハ疎ク外ノ字ヲ釋ス、財ニハ親シク内ノ字ヲ釋ススレバ、遂ニ亂トナル、民ニモ素ト爭奪ノ心ナケレドモ、上ニ暴征横斂セラレテ苦ム故ニ、堪ヘカネテ、上ヘモ逆フ心、自然ト出ヅルモノナリ、コレヲ爭鬪ノ心ト云フ、コノ分ニテハ、必ズ下カラ亂ガ起リテ、上位ノ人ヲモ却奪ス、然ルトキハ、民ニ爭鬪ノ心ガ出ヅルハ、コレ上ヨリシテ發起セシムル道理ナリ、畢竟ソノ理ヲ推シ窮ムルニ、コレ却奪ノ教ヲ施ス同前ナリ、人君ノ民ニ却奪ヲ教ヘントハ欲セザレドモ、絜矩ノ心ナキ故ニ、自ラ叛逆ヲ教フル同前ノ理ナリ、能ク絜矩スル人ハ、前ニ云フ如ク、我が身ニ行フトコロ善ヲ以テ、國人ニモ教ヘテ化セシメ、ソノ上ニ仁政ヲ以テ、民ノ願ヲ遂ゲシメテ、民ニ父母ノ如ク思ハル、ニ、絜矩セザル人ハ、是ニ反シテ、民ニ惡事ヲ教ヘテ、上句ニ謀叛サスルナリ。●按ズルニ、コノ本文ハ、大全或問、ソノ餘ノ末書等ニモ、註ガ分明ニナケレドモ、民ト民トガ爭奪スト講ズベカラズ、ソノ理モ勿論アルベキナレドモ、本文ノ正意ニハ相當スベカラズ、ソノ故ハ、下文ニモ民散ト云フハ、民心ノ離ル、ヲ云フ、貨悖而出ト云フモ、上下ノ間ヲ云フ、孟子梁惠篇、上下交征利而國危矣ト云フ意ト同ジカルベシ、

【章句】人君以レ德爲レ外、以レ財爲レ内、則是爭鬪其民、而施之、以レ却奪之教、

【人君……】有道ノ君トハ相反シテ、明德ハ固有ノ物ナルヲ外トシ、元來固有ノ物ニモアラザル財ヲ秘藏シテ、内ニスル時ハ、コレ又孝弟慈ノ和順ヲ以テ、民ヲ化シテ、民ヲモ仁讓ニナスベキニ、却ツテ之ヲ爭鬪シテ却奪ノ教ヲ施ス、民本ト明德ヲ具ヘタルモノヲ、新民ノ教ハ無クシテ、カクノ如クニシタルト云フモノナリ、蓋財者人之所同欲、不能_レ聚_レ矩_ニ而欲_レ專_レ之_ニ、則民亦起_テ而爭_ス矣、

【蓋財……】コノ註ヲ見テ、彌ヨ本文ノ正義ヲ知ルベシ、財ノ天地ノ間ニアルコトハ、大略定數アリテ、君モ之ヲ取ツテ用トナシ、民モ之ヲ以テ身ヲ養フニ人君聚斂シテ、上ニノミ取り舉グレバ、民困窮シ、出スベキ様ナケレバ、之ヲ專ニスル人ト、利ヲ爭ハヒデ叶ハザルコトナリ、又上タル人ノ財ヲ重ンジ、德ヲ輕ンズルヲ、民ガ見習ヒテ、爭ヒ奪フト云フニアラズ、コノ本文ノ正義ハ、前ニ云フガ如シ、能ク見分ケネバ、ソノ義ガ取りマゲテ弱クナルナリ、一人貪戻一國作_レ亂ト云フハコレナリ、

是故財聚則民散。財散則民聚。

この故に財聚まれば民散す、財散すれば民聚まる、

コノ一段、上文ト重複シテ、同意ノ如クニ見ユレドモ、意ハ別シテ親切ナリ、俗語ニ甘キ物ヲ兩ノ手ニ持ツ事ハナラズト、況ンヤ、義ト利トハ、兩立セズ、故ニ人君民ヲモ得、又財ヲモ得タク思ヒ玉フトモ、ソレハ叶ハザルコトナリ、然ルニ、上文ニ云フ如ク、本ヲ外ニシ末ヲ内ニスルニ依ツテ、最モ一往ハ財ガ聚マル、然レドモ、民ノ心ガ離レテ叛ク、コレ先ツ上文ヲ承ケタル正意ナリ、次ニソノ反ヲ云フ、民ニ取ルニ當然ヲ取ツテ、下ニモ財ヲ優ニ有ラシムレバ、民ノ心ガ離叛セズシテ、上ニ思ヒ附ク者ナリ、コレ聚斂ノ義ナリ、財散ト云フハ上ヨリ財ヲ取り出シテ、民ニアタフルニモアラズ、上ヘノミ多ク取レバ、下ニアル物少シ、故ニ上ヘ取ルニ制アレバ、下ニモ財ガ散在シテ、民ガ産業ヲ失

ハザルヲ云フ、民聚マルト云フモ、外國ヨリ來リ聚マルト云フニモ非ズ、民ノ心ガ離散セザルヲ云フ、大全通考ノ吳氏季子ガ説ニ、周ノ武王ノ殷ノ紂ヲ伐ツテ、鹿臺ノ財ヲ散ジ、鉅橋ノ粟ヲ發キ玉フトコトヲ引クハ、聚散二字ノ意ヲ推シ廣メテ云ヘリ、全クコノ本文ノ正意ニハ取り合セ難シ、

外_ニ本_内末_ニ、故_ニ財_聚、爭_レ民_施、奪_レ民_散、故_ニ民_散、コレマデハ、本文ノ上ノ一句ヲ解シタリ、蒙引ニ、コノ註ノ兩ツノ故ノ字ハ、本文ノ是故ノ字ニ應ズルト云フ、本文ノ是故ノ字モ、下句ニモ添ヘテ見タル義ナリ、ソレ故ニ註ニ兩ツアリ、

反_レ是_レ則_レ有_レ德_ニ而_レ有_レ人_矣、下ノ一句ヲバ、註ニカクノ如ク略シテ解シタレバ、コノ本文ハ上ヲ承ケテ、本ヲ外ニシ末ヲ内ニスルノ義ヲ正意ニ述ベタル程ニ、註ノ意モカクノ如シ、又下文ノ是故ト云フ一段モ、財聚民散スルノ意ナリ【有德而有……】トハ、聚斂スル故ニ、財散ズルナリ、財散ズレバ、人アリ、皆上ニ云ヒタル本文ノ語ヲ以テ引キ合セテ註スレバ、彌ヨ文義貫通シテ妙ナリ、

是故言悖而出者亦悖而入。貨悖而入者亦悖而出。

この故に、言悖つて出づるものは亦た悖つて入る、貨悖つて入るものは亦た悖つて出づ、

人心ノ好惡ハ不同ナシ、故ニ上下貴賤ノ差別遙ナリトイヘドモ、能ク聚斂スルニモ感應アリ、聚斂セザルニモ感應アリ、上文ニ云ヘル如ク、財聚_ニ於_レ上_ニ則_レ民_散於_レ下_ニ矣、財散_ニ於_レ下_ニ則_レ民_歸於_レ上_ニ矣、コレ善ニ附ケ、皆上下ニ感應アリ、コノ故ニ、先ツ言語ニ附ケテモ、ソノ理ヲ知ルベシ、人君ノ命ハ、上ヨリ下ヘ降りテ、嚴ナルモノナレドモ、非道ノ言ガ出ツレバ、下モ又非道ナル言ヲ以テ反スモノナリ、夏ノ桀ガ言ニ吾有_二天下_一、如_二天之有_レ日_一、日亡_レ吾乃_レ亡_レト云ヘバ、民ガ